

雄 弁 部

130 1890-2020
周年記念誌

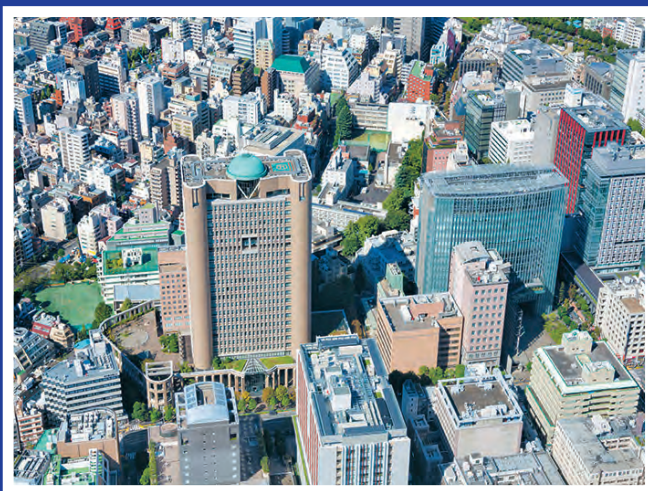




部章の今昔

130
1890-2020 明治大学雄弁部
周年記念誌

キャンパスの今昔



駿河台キャンパス

キャンパスの今昔



和泉キャンパス



生田キャンパス



中野キャンパス



明治大学雄弁部

一三〇周年記念誌

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を迎えて



明治大学雄弁部OB・OG会 会長

熊澤雄造

明治大学雄弁部は、令和二年、創立一三〇年を迎えました。

目下、全世界を覆うコロナウイルスは、日常に大きな影響を及ぼしております。オーラルコミュニケーションを旨とする私たち雄弁部のOB・OG、現役学生の活動には特に顕著といえるのではないのでしょうか。一二〇周年記念史が編纂されてから十年の間には、国難とさえいえる東日本大震災もありました。

この間に雄弁部のOB・OGたちはどのように過ごしてきたのか、また、雄弁部時代をどのように振り返るかをまとめたものが本誌となります。

昭和三〇年代の終わりころ、私の学生時代は、新橋駅前で街頭演説があり、ときの総理や野党党首が一堂に会して、大いに弁舌を振るったものでした。今では、選挙のときに小型バスの壇上に立って、マイクを持つ姿くらいしか見かけません。そのような中、雄弁部の現役学生は

先進的な研究会や関東一円の街頭演説を行っており逞しい限りです。

弁論大会についても大会こそ違えど、大勢で集まって討論しているとのことです。雄弁部が主催している紫紺杯に各大学からたくさんの学生が集まり激論が交わされることをOB・OG会として望んでいます。卒業した私たちも老若男女を問わず、聴衆として母校を訪れ、大いに応援しようではありませんか。

現役学生は、代表倉持太介君の報告で一年生が二〇名、二年生が一五名、三年生が八名、四年生が三名で合計四六名となっています。コロナ禍の中、大学でオンライン授業措置が取られているのにあわせて、新入生を勧誘したり歓迎する活動などが厳しい情勢であるにもかかわらず頼もしく思います。

雄弁部は、かねて内閣総理大臣をはじめ、各界に優れた人材を輩出してきました。私たちもOB・OGとして、夢と希望に燃えた部活動を過ごし、今なお雄弁道を歩み続ける仲間です。これからも雄弁部の現役学生とOB・OGは手を取り合って、ともに社会と世界に貢献していかなければいけません。

明治大学雄弁部OB・OG会は一三〇周年の記念すべき年に、あらためて雄弁部、雄弁部OB・OG会のあり方を確認し、更なる前進に向け決意いたします。

今後の雄弁部、雄弁部OB・OG会にご期待いただきますとともに、ご指導、ご鞭撻たまわりますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を迎えて



記念事業実行委員長

有 賀 隆 治

堂々たる歴史と伝統をもって雄弁部創立一二〇周年記念が成功裡に開催されて早や十年が経ち、本年一三〇周年を迎えました。今年は原爆投下、第二次世界大戦後七五年、二度目の東京五輪の年でもあります。この十年間には何と百年に一度という東日本大震災・原発事故そして今年一月以後先の見えない新型コロナウイルスによるパンデミックが地球上の全人類を襲いかかっております。全世界が一つになって一日も早い終息を願うばかりです。

一方、母校では平成二十四年四月に第十六代明治大学理事長に日高憲三先輩が就任され、「個」を強め、世界に発信する明治大学を目指してご尽力されました。私たちOB会にとっては欣喜雀躍の慶びと大変名誉なことでした。平成二十九年十一月の定時総会で熊澤雄造会長が選任され十八名での常任幹事会が発足し、百三十周年記念事業の準備開始。これは現役部員の一層の活躍とOB会の更なる結束、発展を願って、雄弁部魂を未来永劫に継続して頂きた

いたためです。そのために記念式典はもとより今後十年毎に記念誌を発行することを決めました。

今回の記念誌で特筆したいのは今年九六歳で矍鑠（かくしゃく）とされておられる第八十一代内閣総理大臣村山富市先生からご祝辞と学生時代の思い出のご寄稿を賜りました。九十一歳の明治大学名誉教授・弁護士鈴木俊光先生、九十歳の元参議院議員・弁護士の内藤功先生をはじめ全国から六十名の会員からご寄稿を頂き誠に有難うございました。併せて、前理事長日高憲三先生、学長大六野耕作先生からのご祝辞にも心から感謝申し上げます。また、この記念事業にあたり全国津々浦々から多くの温かい募金のご協力を頂きまして心から厚く御礼申し上げます。

明治大学も来年創立百四十周年を迎えます。日本はすでに人口減少化に入り、今後熾烈な大学間競争を勝ち抜いて行かねばなりません。私たち校友の力強いご支援、ご協力を雄弁部共々よろしくお願い申し上げます。

終りに、中国宋代、無錫に実在した学校「東林書院」の校訓は「風声、雨声、讀書声、声声入耳。家事、国事、天下事、事事關心。」とのこと。即ち、感度の良いアンテナで時代の変化を読みとろうとの姿勢で、雄弁道に通ずるモットーでもあると思います。混沌とした世界情勢、ニューノーマル（新常态・常識）の時代が来ると言われていますが、朝の来ない夜はない。春の来ない冬はない。と信じて、前への精神で一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

この記念すべき年に当たり、会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。深謝。

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を祝う



前理事長・雄弁部OB会名誉会長

日 高 憲 三

雄弁部創立一三〇周年を、心からお祝いします。

三木武夫総理をはじめ、幾多の俊英を輩出した雄弁部ですが、その間に総長と学長がいらっしゃいますが、理事長経験者は私が初めてだそうで一言お祝いを申し上げます。今、大学は時代の大きな変化の中にあり、その変化に対応できなければなりません。そのためには大学の質保証が厳しく要求されています。来年二四〇周年を迎える明治大学だからこそ、世界水準上位を目指さなければなりません。

そのためには大学は厳しい視点で構成されなければなりません。古い大学には、良き伝統と悪しき慣習があることを認め、その中で自ら望んだ理事長職ではありませんでしたが、経営の健全化を全力で努力してきたつもりです。特色と魅力ある大学にするためには、新しい研究に失敗を恐れず挑戦できる環境が必要です。そこで、本日は内輪の会ですので表に余り話題になりませんが、経営企画・理事長の八年在任中に明治大学の特色と魅力化したいと考えてきた二、三点を申し上げたいと思い

ます。教育採用についてですが、内外から優れた教育、研究者を求めることは当然ですが、一方で明治大学出身者が情熱を持って母校の教育にあたる人が、約半数になることを期待し、常に挑戦する明治大学であればと学長・教務理事等と協議、検討を重ねてきました。日本内外の優秀といわれる大学にはそれぞれの大学の卒業生が過半数と思われませんが、このシステムと現実には課題も多い事は事実です。

さらに明治大学の学生はみな起業家精神を持ち、将来どの職業にあってもその精神を持ち続け、その中で多くの企業人が生まれれば、時代の変化を先取りし、雇用を生み、より産業の発展に役立つからで、その上で母校にとつても大変有益になると信じてきました。さらに明治大学の魅力は国民によく知られ親しまれた特色を生かしたいと常に考えました。医学部と病院を持つことは明治大学の総合大学としての悲願ですが、医学部を作ることには大変困難を伴うことから、高度医療、介護の研究センターを設置するために厚労省や高名な医療研究者等と協議してきました。この会合は今でも続いています。このことが将来の医学部、病院設置につながればと望むからです。大学の組織は、権限と責任、それに対する厳しいチェック機能が規定され、それを健全で真に明治大学を愛する優秀な人によって運営されることが大切であると考えてきました。たとえば、グローバル時代を先がけた、今大会実行委員長の有賀君の登用もそのひとつでありました。当面の課題においても、相当長期的に未解決だった問題も思い切って決定や方向付けをしてきたつもりです。今も大きな課題があります。全学を挙げて解決しなければなりません。魅力ある大学であってほしいと強く願ってやみません。

最後に、雄弁部は常に時代を切り開く起業精神を持って学び、挑戦し、視野を広く優れた人材を永遠に輩出し続けなければなりません。それが三〇周年の誓いの日でありたいと念願します。雄弁部の益々の発展を願って私の祝辞とします。

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を祝す



元内閣総理大臣・雄弁部OB会最高顧問

村山 富 市

明治大学雄弁部が多くの雄弁部OBや在学生のご努力により創立一三〇周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。私も出席し、皆さんにお話をさせていただいた一〇年前の一三〇周年記念式典がついこの間のことのように思われますが、この度の一三〇周年をまたひとつの区切りとして、明大雄弁部のよりいっそうの活躍、発展を期待してやみません。

明大雄弁部は明治大学の前身である明治法律学校創設の九年後に創部されたもので、明治大学とともに、長き歴史を刻んできたと言っても過言ではないでしょう。その活動も明治大学の建学の精神である「権利自由、独立自治」をさらに発展させ、「世界平和と国際親善」をめざし、活動の輪を広げる中で、多くの人材を輩出してきたという輝かしい歴史があります。

わたしが、総理在任中に韓国に行った際、多くの明治大学韓国校友会の皆さんが集まって歓迎してくれたのですが、役員の方々は「日韓関係が難しい時期にあった戦時中でも、明治大学

は多くの韓国留学生を受け入れてくれた」と振り返り、また、当時の留学生の日記の中に明治大学を志望した理由として「明治大学には比較的自由があった。民主主義が明治大学の中には生きていた」と書いてあったということを聞きました。それを聞き「ああ、やっぱり明治じゃない」と、とてもうれしく思ったことが忘れられません。

明治大学建学の精神とともに、「世界平和と国際親善」という大きな目標を掲げ、欧米やアジア諸国に活動の場を広げていった雄弁部の姿勢が、雄弁部のみに止まらず明治大学の中で確実に育まれていったことを思わずにはいられません。雄弁部が創部一三〇周年を迎えるにあたり、脈々と受け継がれた情熱と努力の積み重ねに心から敬意を表し、校友となった多くの皆さんや、在校生の皆さんの今後ますますのご活躍を期待いたします。

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を祝う



明治大学学長

大 六 野 耕 作

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年四月一日付で明治大学長に就任致しました大六野耕作でございます。このたび明治大学雄弁部が創立一三〇周年を迎えられますこと、誠に慶賀の至りに存じます。本学を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。

この一三〇年の間、我が国は日露戦争から大正デモクラシー、昭和に入ってからの日中戦争、太平洋戦争、戦後の発展という激動の時代を経てきました。明治大学もまたそうした時代の荒波を潜り抜け、来年には一四〇周年を迎える誇るべき伝統を築きあげてきております。本学雄弁部は、一八九〇年（明治三三年）に雄弁会として活動を開始して以来、他大学に先駆けて「地方遊説」を展開するなど、一三〇年の長きにわたり、大学及び社会全体に大いなる寄与を果たしてまいりました。現在もなお、こうして部が継承されている背景には、幾多の先達によるご貢献、また校友の皆様の「雄弁への情熱」が存在するものと、学長として、この場をお借りし

て、心より深甚の敬意と謝意を表したいと存じます。

他方、昨年末から世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は、地球規模で深刻な影響を及ぼしています。本学においても今年度の春学期をすべてオンライン遠隔授業にするなど、学生・教職員の安全確保を最優先しつつも、高等教育機関として果たすべき教育・研究活動の継続に向け、本学の全関係者がその叡智を結集して様々な施策を実施しておりますが、今般のコロナ禍は、本学の二三〇有余年の歴史においても、未曾有の事態といえましょう。

このような逆境にあっても、現役部員の皆さんには、三木武夫先生や村山富市先生をはじめ、政界や法曹界など各分野で活躍する数多くの諸先輩方の存在や心温まる支援を励みに、夢の舞台で活躍してほしいと考えています。コロナ禍の終息は未だ見通せず、社会全体が先行き不透明な状況下にある中、若い皆さんに求められる使命とは、**「他者との共生」**の中で自らの役割や目標を見いだすことです。雄弁部の活動を通じて、自ら問題を発見し、自らの考えを自らの言葉で雄弁に**「他者」**に伝えるときにも**「他者」**の様々なものの見方や考え方に接することで、より広い視野をもって、自らの置かれている立場を考えられる人材になっていただきたいと切に願っております。

最後になりましたが、創立一三〇周年を節目に、雄弁部がさらなる発展を遂げられますとともに、皆様のご健勝で、益々ご活躍されますことを心からご祈念申し上げて、お祝いの言葉と致します。

理想を掲げつづけ



明治大学政治経済学部長・雄弁部長

小西 徳 應

明治大学雄弁部の皆様、創部一三〇年おめでとうございます。

雄弁部長として、また雄弁部一〇Bとして謹んでお祝い申し上げます。明治大学で最も永い歴史を持つ部にかかわらせていただいていることを誇りに、そして嬉しく思っています。

ご存知のように明治大学雄弁部は、一八九〇（明治二三）年に、前年の発布を受けて、大日本帝国憲法が施行されたことを契機として誕生しました。また、改めて言うまでもないことですが、明治大学前身である明治法律学校は二八二（明治四）年、つまり自由民権運動の真ただ中に誕生しました。その創立に際して出された「明治法律学校設立ノ趣旨」には、法学の対象を、「大ニシテハ社会ノ構成ナリ政府ノ組織ナリ之ヲ小ニシテハ人々各自ノ権利自由ナリ」と記し、「公衆共同シ大ニ法理ヲ講究シ其真諦ヲ拡張セントス」と述べられています。近代社会を正面からとらえ、その新社会に対処できる人材を輩出することが狙いだったことがわかります。そのように、社会が大きく変わりつつあるとき、法学と社会・個人の

関係を捉えて教育しようとしていたのですから、明治大学に独自の「気風」と「土壌」が醸成されることは自然であり、大日本帝国憲法の施行が待ちに待たれたであろうことは想像に難くありません。そのような気風や土壌を具現化した雄弁部は、爾来、足尾鉍毒問題や大正デモクラシー期の諸問題など、多くの社会問題、政治問題に積極的に関与し、リードしてきました。七五年前に始まった第二次大戦後の社会においても雄弁部はそのスタンスを保ち続け、多くの大学や高校等にも多大な影響を与えてきました。そうした活動を通して、雄弁部は多数のすぐれた卒業生を輩出してきました。法曹人、政治家、官僚、経済人はもちろん、良き社会人を社会に送り出してきたのです。OBの中には理事長、学長、総長、理事や監事として明治大学の運営に当たられた方もいらつしやいます。広く社会はもちろん、明治大学でもリーダーとして社会的使命を果たしてこられました。

ところで、明治維新から二五〇年余、戦後七五年が経過し、雄弁部創部三〇周年を迎える今年、新型コロナウイルス問題が全世界を襲うことになりました。明治維新後でも、第二次大戦後でも、日本社会も、世界も、価値観や慣習など多くの面で二大変革を遂げました。間もなく到来する、ポストコロナ社会でも同様のことが起こることでしょう。既存の秩序も常識も様変わりするでしょうし、ネット社会化がいつそう進むことは間違いありません。そうした社会だからこそ、雄弁部が続けてきた活動の意義が一段と大きくなります。「自らが信じる理想を掲げ、他者を説得する」、より良い人間社会の達成に不可欠な取り組みが不断に求められます。創部にかかわった先人たちが、単なる弁論ではなく、「雄弁」を選び取り、それを今日まで継続させてきた永き伝統がこれからの社会でいっそう重要になります。現代を生きる私たちが率先してその精神を体現していくべきだと確信しています。皆様とともに、この創部三〇周年を、新たな社会に向けたスタートラインにしたいと願っています。

明治大学雄弁部創立

一三〇周年を祝う



明治大学雄弁部現役代表

倉持 太介

この度、明治大学雄弁部は一三〇周年を迎えました。このことを考えるに当たって最初に思い浮かぶのは、この記念すべき年に雄弁部の代表をできて光栄だということです。そして一三〇年間、先輩方の努力によって紡がれてきた歴史の延長線上に立っていることへの重責を感じざるばかりです。

歴史を紐解けば、雄弁部は其中で幾度となく組織的危機を迎えています。自由民権運動が盛んな明治初期に誕生した我が部は、第二次世界大戦の終結を迎えるまで弾圧の下にあり続けました。関東大震災や空襲、学徒出陣などで部員同士がバラバラになった時期もありました。また、戦後も学園紛争などが巻き起こり、少なからず煽りを受けたこともあります。加えて外部要因だけに留まらず、「学生弁論」の価値低下等により、活動が難しい人数まで沈んだこともありました。そういった状況があったにも関わらず、今日まで雄弁部が存続できたのは、よ

り良い社会を目指し、夢と希望を実現するという崇高な理念のもと、問題に向き合い、解決してきたこれまでの先輩たちの歩みがあつたからこそだと思っています。

今、世界はコロナ禍という未曾有の事態にあります。その中で雄弁部もオンラインのみでの活動を余儀なくされるなど、大きな転換を求められています。国内を見ても、憲政史上最長政権の終焉や少子高齢化の進展など、重大な変化の時代にあります。このような難局に現状はありますが、一方で今のようないきさな情勢でこそ社会にとっても、部員にとっても雄弁部の価値はさらに高まるのではないかと私は考えています。雄弁部は、社会で問題が起きた時に行動を起こす団体でありました。それは主として言説を以って行われ、時には被災地に飛んでボランティアを行うという形もあります。こういった雄弁部のアイデンティティは社会の逆境において力を発揮してきました。またこの困難は部員にとっても力の見せどころと言えます。「艱難汝を玉にする」という諺がありますが、まさに我々はこの苦難を乗り越えることで玉のように磨かれ立派な人間として成長できると、私は信じております。

そういったより良い社会に向けて貢献し、部員自身の成長を促すことで、その夢と希望を実現するためのプラットフォームとしての役割を果たすために、我々も過去の先輩方のように問題に向き合い、その解決を目指していきたいと思っています。歴史を尊重した上で必要な改革を行い、さらなる雄弁部の発展を目指すことが、この一三〇年続いてきた組織の延長線上にいる我々の義務であります。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍のご祈念と、記念誌発行に際しご尽力いただいた方々への感謝を申し上げて、代表の挨拶とさせていただきます。

雄辯部の縁が私の母校愛を強くした

人、皆我が師	昭和三年農学部卒	小林 一光	37
雄弁部の絆は長くて強い！	昭和三年政治経済学部卒	日高 憲三	39
雄弁部全盛の一翼をになって	昭和三年法学部卒	前川 一郎	40
好漢金谷哲さんを偲んで	昭和三年政治経済学部卒	渡邊 嘉道	41
一三〇周年記念誌に寄せて	昭和三年法学部卒	中嶋 幸夫	42
白石島とカブト蟹	昭和三年法学部卒	伊藤 紀昭	43
核兵器の政治学 (Nuclear Politics)	昭和三年農学部	新田 貞章	44
雄弁部の「伝統弁論」の中に、欧米のスピーチを！	昭和四〇年法学部	伊藤 幸雄	45
雄弁部で培ったこと	昭和四〇年法学部卒	上岡 一雄	46
振り返り	昭和四〇年法学部卒	土井 由三	47
雄弁部創立一三〇年にあたって	昭和四〇年経営学部卒	水野 源吾	49
リーダーの心得	昭和四一年政治経済学部卒	小幡 正雄	50
雄弁部での出会い	昭和四一年政治経済学部卒	小瀬川明寛	51
「時代の鐘」は鳴るや！	昭和四一年法学部卒	田中 晴男	52
雄弁部と私	昭和四二年政治経済学部卒	小川 忠彦	54
地方遊説など部活動の思い出	昭和四二年商学部卒	蛭崎 正徳	55
雄弁と言論を想う	昭和四二年商学部卒	松原 輝夫	56
	昭和四七年法学部卒	岩崎 博	57

三〇頁二番目

学生の頃に寄せて あれから五十年 言葉の貯金 ラグビー観戦とギターの日々 雄弁部創立一三〇年記念誌発行に想う	昭和四八年政治経済学部卒 昭和四八年政治経済学部卒 昭和四九年法学部卒 昭和四九年政治経済学部卒 昭和五六年法学部卒	阿部 頼孝 59 五十嵐敏之 61 千熊 正憲 62 西沢 豊 63 森 義久 64
紫紺の風に志を乗せて 雄弁部のすばらしき仲間 日々勉強！結果に責任！	昭和五七年法学部卒 昭和六〇年政治経済学部卒 昭和六〇年政治経済学部卒 昭和六一年政治経済学部卒	鈴木 建志 65 小野澤健一 66 徳増 信哉 66 赤池 誠章 68

明治大学雄辯部一三〇年に寄せて

雄弁部と私	昭和六一年法学部卒	国松 誠	69
「女性活用」ということ	昭和六一年政治経済学部卒	茂木 浩之	70
あのころのこと	昭和六三年文学部卒	山川 かつおる	71
卒業から二十年	平成二年農学部卒	中山 潔	72
至誠が奔騰とする時	平成一年政治経済学部卒	内山 佳洋	73
雄弁部のような言葉のやりとりは続く	平成一年政治経済学部卒	宮本 朋和	73
卒業二〇年目の近況報告	平成一二年政治経済学部卒	半田 宏司	75
「お米たべてー！TEAM」の挑戦	平成一三年二部政治経済学部卒	荒井 正志	76
宗教などの精神的なものへの拒否反応がもたらすもの	平成一三年文学部卒	伊藤慎一郎	76
やっぱり 明治がNo.1！	平成一三年商学部卒	笠原 直人	78
ハロー。	平成一三年農学部卒	遠山 和宏	80
雄弁式リーダーシップ育成のすすめ	平成一四年経営学部卒	釘島 良蔵	81
入部二一年目の部員による祝辞「部は部員のためのもの」	平成一四年法学部卒	本庄 智忠	81
今こそ個人の時代	平成一五年政治経済学部卒	太田原崇宏	82
一大学教員が憂う専門教育の危機	平成一五年政治経済学部卒	小池 陽一	83
一三〇周年に寄せて	平成一五年法学部卒	山田真一郎	85
至誠にして動かざる者は未だ之れ有らざるなり	平成一六年政治経済学部卒	押条征一郎	87
真似てアレンジー独学力	平成一六年商学部卒	鈴木 大介	88
変わりゆく社会に	平成一六年政治経済学部卒	武田 正人	89
春の夜の夢	平成一六年文学部卒	菱沼 靖浩	90
道路のはなし	平成一七年文学部卒	堀之内 毅	91
今に繋がる	平成二〇年法学部卒	中田 裕	93
	平成二二年政治経済学部卒	田幸 瑛輔	94

辞達の嫁まで呼び寄せてくれた雄辯部

考『雄弁部の必要ない世界』	平成二一年政治経済学部卒	田高 直也	95
未来のキャンブに向けて	平成二二年政治経済学部卒	木下 高志	96
	平成二二年法学部卒	佐藤 尚孝	97

一二〇周年から早一〇年

雄弁部という経歴は社会に出てどう作用するか

言論を武器として	平成二三年政治経済学部卒	田仲 信康	101
私と雄弁部	平成二三年政治経済学部卒	三橋 和史	102
聴衆の前に語ること、今考えること	平成二四年法学部卒	眞崎 博瑛	103
雄辯部で思うこと、今考えること	平成二五年政治経済学部卒	福田 直人	103
政治は、遠い。	平成二六年法学部卒	倉林 正弥	104
雄弁部で学んだ事	平成二七年政治経済学部卒	峯森 徹	105
『二〇一二〜二〇一六』	平成二八年政治経済学部卒	桐生 常朗	106
仲間としての雄弁部	平成二八年政治経済学部卒	白木 晴夏	107
紫紺のノボリ翳し	平成二九年政治経済学部卒	金親 賢生	107
雄弁部員として生きる	平成二九年法学部卒	小野 竜大	108
人生の宝物	平成三〇年法学部卒	戸田幸一郎	110
雄辯部の思い出	平成三一年法学部卒	桐山 勝気	110
	平成三一年文学部卒	田沼浩太郎	111

雄弁部OB会報
資料 編

戦後雄弁部関係主要役職者一覧

明治大学雄弁部創立三三〇周年記念事業実行委員会
明治大学雄弁部創立三三〇周年記念事業寄付金のお礼とご報告

明治大学校歌	財務委員会委員長 富水流孝二	198
明治大学雄弁部部歌		200
編集後記	記念誌委員会委員長 南上清一郎	201
		202

明治大学 雄弁会の誕生

1881（明治14）年1月、若き法律家によって開学した明治法律学校。

早くも9年後には創立者たちとともに「雄弁会」が結成された。



創立者

宮城 浩蔵

一八五二（嘉永五）年四月一五日〜一八九三（明治二六）年二月一四日。明治法律学校初代教頭。天童藩士。司法省法学校卒業。パリ大学・リヨン大学卒業。法律学士。検事、司法省参事官等歴任。明治法律学校設立。衆議院議員。行年四一歳。



創立者

岸本 辰雄

一八五一（嘉永四）年一月八日〜一九一二（明治四五）年四月四日。明治法律学校初代校長。鳥取藩士。司法省法学校卒業後、パリ大学に留学し法律学士。司法省参事官、大審院判事歴任。明治法律学校設立。行年六一歳。



創立者

矢代 操

一八五二（嘉永五）年六月二〇日〜一八九一（明治二四）年四月二日。鯖江藩士。司法省法学校卒業。元老院書記官、貴族院書記官等歴任。明治法律学校設立。行年三九歳。

内閣総理大臣を 輩出した明治大学雄弁部

明治大学雄弁部は三木武夫をはじめ、
各界に数多くの有為な人材を輩出してきた。



(第81代) 内閣総理大臣
村山 富市



(第66代) 内閣総理大臣
三木 武夫

明治大学が輩出した内閣総理大臣
に雄弁部は深く関わっている。

一九三七年法学部を卒業した三木武夫は、若干三〇歳の若さで衆議院議員に初当選。戦後、片山哲内閣で通信大臣として初入閣すると、運輸大臣、外務大臣を歴任し、一九七四年、内閣総理大臣に就任。公職選挙法、政治資金規正法を改正し、「クリーン三木」と称された。

村山富市は、一九四六年専門部政治経済科を卒業し、大分市議会議員、県会議員として活躍。その後、国政に進出した。一九九四年、内閣総理大臣に指名されると、在任期間中は阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件等大事件が発生。戦後五〇年に発表した「村山談話」では、アジア・太平洋諸国に対する謝罪を明確にするなど、後世に繋ぐ大役を果たした。

明治大学雄弁部の部誌 『駿台雄辯の発行』

東京オリンピックを目前に控えた昭和38年に創刊された
『駿台雄辯』は現在も受け継がれている。



我が明治大学雄弁部は

雄弁道の研鑽練磨を通じて

こゝに人間の陶冶に向つて

邁進せんとするものであります

一三〇周年記念誌発行にあたり、『駿台雄辯』の創刊号から五号を松原輝夫様（昭和四二年 商学部卒）がご寄贈くださいました。創刊号は一二〇周年記念史に詳しく、また、誌面も許さないもので、当時の演題から雄弁部員が何を論じたか探ることをもって、お礼に代えさせていただきます。

【創刊号】（昭和三八年）

「死刑制度は妥当な刑罰か」（法学部四年 正木欽一郎）

「北方領土問題解決への道」（法学部三年 伊藤幸雄）

【第二号】（昭和三九年）

「憲法改正は是か非か」（法学部四年 土井由三）

「国際漁業における日本外交の活路を求めて」

（法学部四年 伊藤幸雄）

「新しい国際秩序の確立を願つて」（法学部四年 上岡一雄）

【第四号】（昭和四一年）

「教育の自立性確立を願つて」（経営学部二年 鹿野英雄）

「世界連邦制の確立を」（商学部四年 松岡貫治）

さらに、各所で行われた遊説が克明に記録されています。

筆者は、平成九年に入学して以降、卒業後も多くの弁論を見聞してきました。

このころは、東京オリンピックを挟んだ高度経済成長期です。演題は経済に関するものが中心だろうとページを繰っていたら、現在にも通じるテーマが多いので率直なところ驚きました。雄弁部員は時代に流されず、社会と世界の本質を見極めようと努力してきた証ではないでしょうか。

文責 南上清一郎 平成一三年 法学部卒



Circle Story of Meiji University

明大
サークル
物語

雄弁部

創立一二〇周年を祝う

～新たな飛躍を誓って～



雄弁部 創立120周年記念史
(総ページ数 478頁)

文・有賀隆治 雄弁部OB会副会長

一・記念式典を開催

雄弁部創立一二〇周年の記念式典および祝賀会が、去る二〇一〇年一月二〇日にアカデミーコモンで開催されました。出席者はご来賓、雄弁部OB・OG、現役学生を合わせて二六〇名を数え、大盛会となりました。

第一部の記念式典では、主催者側から鈴木俊光一二〇周年記念事業実行委員長が明治大学でいちばん長い歴史を持つ部であること、日高憲三雄弁部OB会長から島原藩邸跡の演説会場を使って明治法律学校が誕生したこと、明治大学は演説会場の中から生まれた大学であること、今後はこの堂々たる伝統をいっそう発展させたいとの挨拶があった後、長堀守弘理事長、納谷廣美学長からご祝辞を頂戴しました。お二人からは、今日における弁論の重要性をはじめ、雄弁部がこれまで多くの政治家や社会的指導者を輩出してきたこと、そして今後いっそう多くの人材を輩出するよう期待が寄せられるとともに、大学としてバックアップしていきたいというお話がありました。

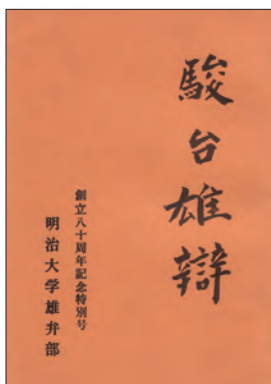
また雄弁部の戦前史を、限られた時間でしたが、渡辺隆喜名誉教授にお願いいただきました。渡辺先生には、こ

雄辯部創立120周年記念の集い

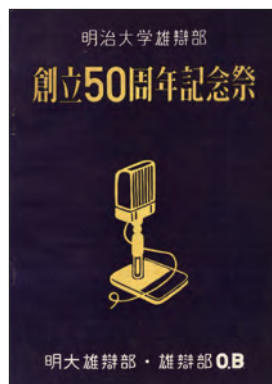


祝辞を述べる納谷廣美学長と
長堀守弘理事長

雄辯部創立120周年記念の集い



80周年記念誌



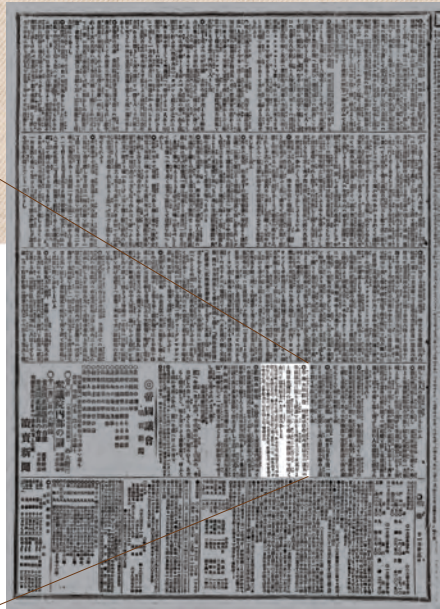
50周年記念祭パンフレット



大日本雄弁会発行「雄弁」(明治43年)

のたびに編纂された創立一二〇周年記念史『和而不同』に「明治大学雄弁部史序説」と題して一大論文を纏めていただくとともに、それを踏まえて雄弁部の特徴をお話していただきました。それによると、雄弁部OBの多くが有名教授や実力職員となつて明治大学運営に尽力したこと、雄弁部には3回の「創立」期があること、他大学の多くが「弁論部」を名乗るに対して明治大学では「雄弁」の名前がいち早く採用され、東京大学、早稲田大学とともに学生弁論界の三大勢力の一角を担ったこと、さらには第二次大戦中の短期間であったが「講演部」と名前を変えさせられたことなどが紹介されました(詳細は「和而不同」を参照してください)。

そうした歴史を踏まえ、小西徳應雄弁部長と現役学生(福田直人代表)が「課題と誓い」を述べた後、雄弁部最高顧問でもある村山富市元首相による「今の政治を思う」と題した記念講演を実施しました。村山元総理は、昨今の混迷する日本政治を、小選挙区制論やリーダー論を柱としてユーモアを交えお話しされ、「あの人は明治大学雄弁部出身だから、すごい!」といわれる人材を輩出してほしいと激励がなされました。



1890年11月26日の読売新聞に
学術大演説会に関する記事が掲載された。

○学術大演説会 明治法律学校内雄弁会の諸氏の
帝國議會に對する祝意と表とる爲来る三十日正午より
後草須賀町の鷹遊館に於て学術大演説会と聞く
由にて出席辯士の左の諸氏ありと
宮城浩藏、山崎虎三、横入太輔、河原元之助、井本常治、末松三郎、平松
三郎、高橋庄之助、桑田房吉、豊田鑑三郎、富田太一、田島義友、平
井恒之助、和田守善二郎、野口本之助、小笠原久吉、佐藤公治、有賀長文
小林鉄之助、吉井繁太郎、宇川盛三郎、齋藤孝治

第二部では笹川亮前衆議院議員の
ご発声で乾杯の後、OB・OGが旧
交を温めました。席上、日高OB会
長から今回集まった寄付金を生かし
て、明治からリーダーを育てる、そ
の一端に雄弁部が加わりたいとの話
も披露されました。

二・三回にわたる雄弁会「結成」 と創立年の確定

二〇一〇年に一二〇周年を祝うと
いうことは、一八九〇（明治二三）
年に雄弁部の前身ができたこと
となります。二〇〇二年一月に発
行された『明治』（二三号）に、当時
OB会長であった山下英幸弁護士が
「光輝ある伝統、雄弁部九八年のあゆ
み」を執筆させていただきました。
そのさい雄弁部の創立には諸説ある
ことを記しております。代表的なも
のは、足尾鉍毒事件の盛り上がり
背景とした明治三三六年説、大学の「大
衆化」が始まる明治四〇年代年説で
す。サブタイトルの「九八年」は明
治三三六年説にもつくものでした。

このたびは明治二三年を創立年と
したことともない、記念式典をお
こなったのでした。それは同年一一
月二六日付の『読売新聞』（『国民新聞』

『朝野新聞』にも）に掲載された、「明
治法律学校内雄弁会」が帝國議會開
会に對する祝意を表するために、浅
草の鷹遊館で同月三〇日に学術大演
説会を開催するとの記事を根拠にし
ています。つまり国会開設を求める
自由民権運動が盛り上がり、それに
合わせて「明治一四年の政変」が起
こった年に設立された明治法律学校
の面々が開校から九年がたち、いよ
いよ一月二九日に帝國議會が召集
されることになったことから、その
翌日、三〇日に演説会を開くとい
うものでした。創立者の一人である宮
城浩藏先生をはじめとして、教員と
校友ら二一名が出場弁士として紹介
されています。

二〇〇四年七月に雄弁部創立期確
定委員会はこの事実を確認し、この
一八九〇年一月段階には雄弁部の
前身が作られたと全員そろって定め
たのでした。

なお雄弁会がそのまま順調に発展
したわけではなく、その後は沈滞期、
復興期を迎えたことは渡辺隆喜先生
が研究によって明らかにされた通り
です。足尾鉍毒事件が田中正造の天
皇への直訴によって世論の関心を集
めていた頃、同事件で凶徒囂集罪に
問われた被害民たちを多くの明治法



Circle Story of Meiji University



最後は肩を組んで校歌を斉唱



再会を楽しむ OB・OG

律学校関係者が弁護人として支援する一方で、学生の大亦楠太郎が訴えた路傍演説会開催の方針が支持され、学生鉦毒救済会が活動を始めました。明治三六年に明治法律学校は専門学校のまま「明治大学」へと改称します。同じ年に、岸本辰雄校長を顧問、鶴沢総明先生を会長に雄弁会は「再」結成されています（第二次雄弁会）。大亦も幹事の一人に加わっています。さらに四一年にも「再々」結成されました（第三次雄弁会）。これが今まで続く原点となっています。

三・今後の発展「課題と誓い」

このたびの記念史編纂過程で、また渡辺先生の研究によって、雄弁部（雄弁会）が社会や明治大学に対し、発言し、主体的に行動してきたことが改めて明らかにされました。それは、内にあつては「和而不同」精神の体現であり、外に対しては「社会正義の実現」でした。自ら信ずるところを説き、その信に基づいて行動するものに他なりません。単にテクニクとしての弁論ではなく、社会改革をめざす「雄弁」の道でした。

現役部員の代表を務める福田直人（政治経済学部二年）が記念式典の席

上で「誓い」を述べさせていたように、今日までの技術の進歩にあわせて雄弁も、弁論も、古臭い技術のようには見られてきました。かつて華やかだった学生弁論界も下火になり、廃部になったところもいくつかあります。しかし近年では、いくつかの大学で復活の兆しがみられ、中でも最大の人数を誇る明治大学雄弁部では四二名の現役学生を抱えるにいたっています。

現在は、技術の進歩とは別に、人を説得する力、自ら発信する力、その前提である人間陶冶がいつそう求められています。雄弁部をそうした力を磨く場であらしめ、今後も引き続き人材を輩出して飛躍していくことを現役と卒業生が改めて誓い合った一日となりました。

“課題と誓い”を述べる小西部長と現役部員たち



明治大学雄弁部 130 周年記念事業

雄弁部ホームページリニューアル OB会ページ新設

明治大学雄弁部 130 周年記念事業の一環として、現役学生と若手OB会員の協同により「雄弁部ホームページ」の改修、ならびに、OB会ページの新規開設をいたしました。

現役学生の活動状況はもちろんのこと、OB会ページではお知らせや会報などを掲載しております。パソコンやスマートフォンからは是非ご覧ください。



<http://meiji-yuben.net>

明治大学雄弁部
トップページ

[http://meiji-yuben.net/
index.php/ob/](http://meiji-yuben.net/index.php/ob/)

明治大学雄弁部OB会ページ

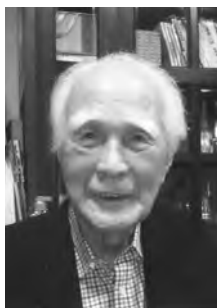


QRコードからアクセス または  明治大学雄弁部 と検索

雄弁部員として

明治大学時代の思い出

昭和二年専門部政治経済科卒 村山 富市



私の学生生活は、戦中、戦後とまさに激動の時代の中になりました。十四才で高等小学校を卒業後、知人のつてで東京の鉄工所に就職するため大分から上京、その後、印刷

会社で働きながら水天宮にあった東京市立商業高校で学びました。太平洋戦争勃発の翌年に東京市立商業高校を卒業、その一年後の昭和十八年に明治大学へと進学しました。当時の社会状況は戦争一色に染まり、大学でも連日の軍事教練など、落ち着いて勉強する雰囲気はなく、二年生になると明治大学の学生は佃島の石川島造船所に勤労働員でかり出されました。そうこうしているところ昭和十九年八月には召集令状が来て徴兵検査で甲種合格、宮崎県の都城の部隊に入隊、その後、鹿児島、熊本へと異動し、熊本で終戦を迎えました。

終戦後、ふたたび上京し明治大学に復学したのですが、半年ほどで大学卒業ということになったため、学生時代の思い出といってもそう多くはありません。明治大学在学中は、丸谷金保

さんという先輩に誘われて、哲学研究部に所属しました。丸谷さんは後に北海道十勝の池田町の町長になり、十勝ワインを開発し「ワイン町長」として有名になった方です。振り返れば、丸谷金保さんとの出会いが、私の学生時代の最も大きな出来事だったように思われます。丸谷さんを通じて、私の恩師とも言える一人に出会うことが出来ました。一人は哲学研究部の顧問だった大島豊先生、そしてもう一人は、丸谷さんに勧められて入った「至軒寮」で寮長をしていた穂積五一さんでした。穂積さんは求道者とも言うべき立派な人で、「至軒寮」は、穂積さんを慕って右翼から左翼まで多士済々の面々が集まり、戦後は各方面に多くの人材を輩出しました。大島豊先生、穂積五一さん、お二人の思想をどれほど理解できたか分かりませんが、その後の私の生き方に少なからぬ影響があったと思います。

戦争が終わり、戦死して大学に戻れない学生も多い中、復学して哲学研究部の活動も再開しました。当時、哲学研究部の部屋は記念館の地下のせまい、薄暗いところにあつたのですが、スポーツだけでなく学問や文化にもっと力を入れてほしいと大学の理事に掛け合い、上の階に移ることが出来ました。新しい部屋は新聞部や雄弁部などと近く、お互いに刺激を受けながら活動を続けました。そこが私と雄弁部との出会いであり、各部の論客が集まり、熱弁を振るっていました。

大学に通った期間も短く、勉学に勤しんだ記憶もない大学時代ではありましたが、混乱の時代の中で、多くの先輩諸氏、友人に恵まれ、数々の貴重な、人生の糧となる経験が得られた四年間ではなかったかと思っています。

雄弁部と友人

昭和二六年法学部卒 鈴木 俊光

私には生涯の友と呼べる（呼べた）友人が六名いる。一人は司法試験の勉強の時から合格が同時で、二十九年間検事をした後で弁護士となり、現在私の事務所在籍している椎名君で、あとの五人は雄弁部で知り合い、生涯を通して友情の厚い関係で生涯を送ってきた者であるが現在は四人欠けて（死亡して）二人だけ残っている。弁護士高野君と私だけである。

昭和二十三年四月私達は法学部に進学したのであるが、当時の学制から前歴はマチマチで、最初に旅立った橋本君（卒後自営業）は明大専門部から、次に旅立った岡田君（卒後東京靴組合理事）も同専門部、次に旅立った阿部君（卒後産経新聞社）は目黒高等無線から、次の荒川君（卒後神奈川新聞社）は法政大学専門部からの入学であった。

私は、明大予科の時に雄弁部らしいものを作ったのか定かで

はないが、一級下の内藤功君（後に国会議員、共産党）から、先輩の進学祝いということで、ジョン・バンヤンの天路歷程という本を恵与されたこともあり、学部進学と同時に旧校舍記念館四階にあつた雄弁部部室を訪ね、戸田久雄幹事長と面接し入部を許可された。そのすぐ後に椎名君を除く、前記五人が入部して友人となつた。この友人達とは屋上で発声練習をしたり、校友の選挙の折りに地方へ出かけたりし、そのうちに私の司法試験合格を契機として、法学部に「法律問題研究部」という文連所属の一部を創立して、昼夜を問わない交流をし、生涯の友となつた。大学卒業後も折りに触れては集つて飲食などしていたが、後に結婚してからは家族共々の旅行などしていた。そのうち、欠けた者がでた後は未亡人も仲間にして一泊旅行などして生前の友人の想い出など語り合う仲であつた。荒川君は後に神奈川新聞旅行社社長となつた関係で、酒は全く飲まないが世話役に徹し、毎年旅行の世話役をして下さっていた。同人亡き後は、集まることも無くなつてしまった。卒後の集まりは、雄弁部の集まりというより、法律問題研究部の創立仲間としての集まりが多くなつてきたが、この仲間の結束は雄弁部で種が蒔かれたものである。現在、残された私は、亡き友人達の墓を訪ね、墓前で読経、想い出を語ることなどを体調と相談しながら行っている。雄弁部在部は、私の生涯を決定したものといつてよい。

明治大学予科弁論部（一九四七・四八年）

昭和二八年法学部卒 内藤 功



私は、一九四七年に、明治大学予科に入学しました。当時の明治大学は、和泉の予科三年、駿河台の学部三年でした。当時、駿河台には、明治時代からの歴史と伝統ある雄弁部が活動していました。和泉校舎の予科には雄弁部はありませんでした。予科校舎は、玉川上水のほとりの、静かな環境で、駿河台とは違った一種独特の雰囲気がありました

一九四七年といえは、戦後二年。戦争と軍国主義から解放された直後で、自由な雰囲気社会に溢れていた時代です。「これからの日本はどうなるのか？」各政党の街頭演説を日比谷公園へききにいたり、明治大学記念館講堂や共立講堂などへ、講演会・演説会をききに出かけたり、ラジオの政党討論会をきいたりしていました。私は、これからの日本は、言論の時代だと思いました。弁論とペンによる論戦が、国家・社会の方向を決する世の中になると思うようになりました。各個人が、それ

ぞれ、どういう思想、識見をもっている、それを正確に、感動的に表現し、相手方を説得しまたは論破できるような「弁論術」を学ぶことが「武術」に代わって、絶対必要だと思っていました。

そこで、同好の士を勧誘することにしました。私の相談相手として助けてくれた方はたくさんいましたが、中でも、金谷栄一氏（のちに、駿河台の明治大学雄弁部幹事長）は、中心になって、奮闘していただきました。金谷氏は、私と、小学校、中学校（明治大学付属・明治中学校）とも一緒に、家も小岩でした。通学の行き帰りの電車でも一緒にすることが多く、そのときは、京王線明大前駅から新宿を経て、国鉄（JR）小岩駅まで約一時間、ずっといろいろな話をしていました。そこで、まず、かれに同意してもらって、かれとふたりで創立準備活動を始めました。まず、明治中学出身者を中心に次々に部員を勧誘しました。休憩時間中、よその教室へ乗り込んで、勧誘演説をやりました。そして、一九四七年十一月、一年生を中心に、明治大学予科弁論部を創設し、文化団体連合会の承認を得て、部員募集の揭示をしました。弁論部の予算も学校から年額千円（当時）をいただきました。事業の手始めとして、十二月に和泉の予科講堂で「創立記念弁論大会」をやって氣勢を上げました。

次に、当時、朝日新聞社主催の「全国大学・高等専門学校・

朝日討論会」が毎年開催されました。ぜひこれに出場しようという準備に入りました。翌年一九四八年の東京大会（トーナメント式）に初出場し、東京鉄道専門学校、東大、慶大の三校を、次々破って、優勝しました。大阪での全国大会に遠征したのですが、第一戦は勝ちましたが第二戦で敗れました。この朝日討論会は、三人で一チーム。選択した或るテーマ、たとえば、「世界連邦制は可能か」で、肯定・否定の両側に分かれ、持ち時間内で討論するやりかた（ディベート方式）です。明大予科チームは、「世界連邦制は可能か」というテーマで、あえて、可能（肯定）を選択しました。不可能（否定）を選択する他校が多かったのも、これで対戦できる確率が多いのです。

私たちの論法は単純です。世界も日本も、政治経済の単位は小さい単位からだんだん拡大してきている。日本は明治維新で幕藩体制から統一国家になった。ヨーロッパでは、第一次大戦後にはヨーロッパ連邦結成の提案と動きがあった。かならずヨーロッパ、アジア連邦を経て、最後は世界連邦になるのが世界の大きな流れだ。世界は統一の方向に向かっていることを認めるか認めないか、イエスかノーかと畳み掛けると、意外にも相手は、答に窮するのです。そこで何回も確答の出るまで質問を集中する。結局時間切れになる。審査委員の判定も明大予科の勝ちとなって、勝ち進んだのです。翌日、朝日新聞で明大予

科の優勝が報道されました。優勝カップを教員室に持っていったら、先生方が集まってきて喜んでくれました。

この準備のためには、前から「授業そつちのけ」で準備を進めていました。まず、一九四七年十一月中央大学講堂で行なわれた朝日討論会の全国大会の決勝戦を観戦しました。第一高等学校（今の東大）対静岡高等学校（今の静岡大学）です。まもなく、その速記録が朝日新聞社から発行されたので、それを熟読して非常に参考になりました。部員どうして肯定側と否定側に分かれて討論会の実戦的な練習もやりました。その時は、予科の先生方において、審査委員になつてもらって批評してもらいました。資料をできるだけ集め、各政党、国会事務局、新聞社、関係の官庁などへも出向いてテーマについて教えてもらいました。そういう約一年間の準備が実ったことはひそかな喜びでした。

弁論というものは、聴衆の方がたに対して訴えかける「演説」と、論点について切り結んでいく「討論」と、両方訓練し学ぶこと大事だということを学びました。学制改革で、大学は四年制に変わり、明治大学予科はなくなりました。予科弁論部の活動は、短い期間でしたが、予科弁論部の時代につちかわれた友情、演説の練習、討論の準備でつくられた度胸、資料の集め方、物事の調査研究、討論での切り結び、切り返しの論法は、その

後社会に出てからも、ひとつの力になっていのように思います。
明治大学でのなつかしい思い出のひとつです。

明治大学雄弁部を愛していた父

昭和三二年商学部卒 高橋 孝一 内

ご家族様

雄弁部の皆様、一三〇周年おめでとうございます。父も喜んでいと思います。

父は病床中ペースト食を摂取していたころ、母が雄弁部の話をする、学生時代に明治大学の講堂（祖父は畳卸屋を営んでいて多忙だった為、一度だけ父の演説を聞きに来てくれた事があつたらしく、とても嬉しかったと満面の笑みで話してくれました）・新橋駅前・NHKテレビ他での演説をした時の事を思い出し、普段一人では立ち上がるのが大変ですが、この時は一人でベッドからスーッと立ち上がり、「只今御紹介に預かりました高橋孝一です」とはつきりした口調で自己紹介をしました。その後暫くし、誤嚥が酷くなり、胃瘻造設をして頂き、一切口から摂取出来なくなり、胃瘻からの栄養補給となり、声も出なくなりましたが、それでも雄弁部の方々、その当時を思い出し、何かを訴えていた様なので「雄弁部から手紙が届いていな

いか？」と聞くと頷いていました。その当時が本当に宝物の様でした。又「リハビリし元気になって、雄弁部の会合に出席したい。百歳まで生きたい」と、必死に病氣と闘い続けましたが力尽き、平成三十一年四月三十日（平成最後の日です）八五歳で旅立ちました。

父は生前、明治大学雄弁部に寄稿する為、下書きしていた時もあり（多忙で実現出来ませんでした）雄弁部を愛していましたし、「世界平和」を願っていました。今回、娘の私に一三〇周年記念誌の機会を下さった副会長さんに感謝を致します。お話を頂いた時、父に報告しました。この記念誌をお供えさせて頂きます。父も大変喜んでいと思いますし、闘病中一切口から摂取出来なくなった上、吸引もしなくてはならず、拒否することもあり、父が以前教えてくれた明治大学の校歌・大好きだった歌を母と歌ってあげると、一生懸命に身振り手振りをしながら口ずさみ、吸引をしていました。（現在は、毎日母と御仏前に座り、四十分歌っています）又、「痛い・苦しい・辛い」と、一度も訴えなかった我慢強かった父に、最高のプレゼント（供養）になります。本当にありがとうございました。

雄弁部の皆様、お身体大切になさって、これからも末永くの御盛会を心よりお祈り致します。父も見守っていると思います。

一三〇周年記念、誠におめでとうございます。

雄弁部と私の人生

昭和三三年経営学部卒 関口 雅史

私が雄弁部に入部した昭和三十年（一九五五）当時は雄弁部活動が非常に活発でありました。創立二二〇周年記念史には、先輩、後輩の方々の寄稿が多く私の写真も二枚載っております。

私は、当時生田校舎の二年生から駿河台校舎の三年生になっておりました。高校時代、経営学部の一、二年生時代とも雄弁部の経験は皆無でした。雄弁部には恐る恐るの途中入部でした。にもかかわらず、先輩・同期・後輩の方たちからよく面倒を見ていただきました。昭和三十年六月十日「学内新人雄弁大会」（赤倉武 雄弁部長）に出場させていただき、石野先輩からの推奨もあり、お陰様で努力賞（題名 経営参加について）をいただきました。

その後遠藤先輩から庶務幹事を引き受けてほしいと依頼されましたが、当時妻沼から生田迄往復約七時間四十五分、駿河台迄往復約五時間の通学時間だったので残念ながらお受け出来ませんでした。これが人生のターニングポイントだったかもしれません。遊説や合宿にも参加しませんでした。楽しい青春時

代の二年間でした。この時受けた雄弁部魂と技は今でも健在です。

経営学部のゼミは学部長の佐々木吉郎先生、英語のゼミは佐藤浩先生（英語のテキスト作成のため夏休手中伝いました）でした。

就職難の時代に、一旦合格した地方銀行を辞退したため、就職課長から大目玉をもらい、経営学部在学中は二度と推薦出来ないといわれ、卒業後政治経済学部に入学（三年編入）しました。政経学部では、ゼミは関末代策先生でした。講義が



非常に上手でしたが、雄弁部の部長や幹事長をされたとは全くしりませんでした。卒業の時、浦和か与野のご自宅に挨拶に伺ったことがあります。『ボーナスを貯金するようでは大物にはなれない』とよく言っておられました。私も一〇〇%実行は出来ませんでしたが大変参考になりました。



OB三氏を悼む

昭和三三年法学部卒 山下 英幸

私は最終的には、埼玉県深谷市の古郡建設（フルゴオリ）（株）の取締役経理部長でした。財務面ではゼネコンでも抜群の会社です。平成十年に退職しました。

私は現在八五才です。社会から見捨てられないよう、時代の流れに残されないよう頑張っております。一日八〇〇〇歩は退職後の日課です。パソコンはサラリーマン時代にはありませんでした。最初は Windows Vista をパソコン教室等で学びました。これも時代に合わなくなり、現在は Windows 10 を学習中です。

最後に明大雄弁部創立一三〇周年記念事業の成功と皆様方のご活躍を心より祈念致します。

（二）八倉巻忠夫氏

彼は富山県滑川市出身で、私とは同年齢だが、私が定時制高校であったので、彼の方が一学年上の商学部であった。

彼と知り合ったのは、明大雄弁部である。彼は二年生で入部したので同期であった。和泉支部で毎日のように会っていたが、特に親しくなったのは、雄弁部の合宿が佐渡島で行われた時であった。このとき合宿に参加した一年生は私一人だったので、二年生で入部した彼とは行動を共にすることが多かった。合宿の最終日の観光で、漁船のような小さな船で尖閣湾に行ったとき、波が荒くて船が大揺れとなり、彼が酔って吐き、海のない山梨県で育った私には、富山県の人も船で酔うのかと思ったことが第一印象である。

彼の特技は巧みな話術であった。初対面の人ともすぐに親しくなり、相手が何人いてもその場の雰囲気盛り上げ、常にその中心にいて、相手を喜ばせることができた。このことは、同期の石山政治氏（昭和三三年度幹事長）が香港に転勤していた当時、訪ねて来て、初対面の人たちとすぐに親しくなって歓談していたことに驚いたと言っていた。雄弁部においても、部内では勿論のこと、文連や他大学との関係でも、その特技は発揮され、三年生、四年生と渉外幹事を担当し、二年生入部のハンを全く感じさせなかった。

卒業後は郷里に戻り、実家の建設業に携わりながら地方自治に活躍の場を求め、私は司法試験を目指していて、なかなか会う機会がなかった。私が弁護士になつてから、彼の奥様が大妻女子大学に奉職されていた関係で、学内の人事のことで相談を受け、上司の河野教授が私と同じ山梨県出身ということもあり、自宅を訪ねて話を聞いたことがあった。

昭和五十年頃、彼が富山県会議員選挙に立候補するについて決起集会を開くので、その会場で何か話して欲しいとの依頼を受ける。集会の前日の夕方に滑川市に着く予定であったが、事故で電車が大幅に遅れ、真夜中の到着となる。六時頃からの開会であったが、会場には超満員の聴衆が集まり、熱気が溢れていた。私も些か怖じ気づき、この聴衆の関心を集めるにはどうしたら良いか考える。そこで、墜としてから褒める方法をとることにする。昨日の電車の遅れを話題として、開口一番「富山へ来るのは大変なことで、二度と来るのは考えてしまう」と切り出し、続いて「しかし、この会場に入った途端、このような大勢の皆さんとお会い出来て感動し、考えが一気に変わり、人情味のある素晴らしい所です」と話し、静まり返った会場から拍手を貰ったことを覚えている。

彼は県会議員に見事当選し、その後も常にトップ当選し、議長を何期も務めた。平成一七年には地方自治に貢献したことで

叙勲の栄に浴し、私も一緒に雄弁部の総会で花束を貰ってお祝いして戴く。

私が雄弁部OB会の会長を引き受ける際には、全面的に協力するからと言って後押しもして呉れた。雄弁部創立一二〇周年記念の際には、財務委員長として絶大な力を発揮して、予定額を大幅に超える資金を集め、同会が予定通り無事に挙行できたのは、彼の努力によるものといっても過言ではない。

その後、数年後にお会いした時、人工透析を週に三回していると打ち明けられ心配していたところ、平成二八年三月七日奥様から、電話でお亡くなりになったことを知らされ、愕然として暫く言葉を失った。本当に大切な友を失い残念でならない。

彼は常に「友情」を大切にし、手紙や葉書には「友情に感謝する」と記してあった。心からご冥福をお祈りします。先日自宅の机の引き出しを整理すると、昭和二九年に佐渡で合宿が行われた直後、富山から私の帰省先に送ってくれた手紙が出てきて、当時を懐かしく思い出し、彼を偲ぶ。

(二) 内藤甫氏

彼は愛知県一宮市の出身で、私と同じ法学部であった。私等の時から法学部も一、二年は和泉校舎となったが、それまでは駿河台校舎であったため、彼とは殆ど会うことはなかった。彼

も歳は私と同じであつたが、一学年上であつた。一年生の終わり頃、彼の下宿へ遊びに行つたとき、同じ法学部という事で種々アドバイスをして呉れたうえに、学部で使う我妻栄氏の民法の総則や、物権法の教科書を何冊も呉れて、重い思いをして持ち帰つたことを憶えている。後輩思いで、自分は諦めているが是非司法試験を狙うようにも言われる。

私が弁護士になつてから、名古屋市にあつた株式会社中東本店の整理を埼玉県春日部市在住のオーナーから依頼される。その為、名古屋へは債権者対策や手形訴訟等に出張する。その中の何回か彼とお会いし、酒を飲んだことがあつた。ある時は、お寺が経営していて、その当時名古屋で一番高い雲龍ビルの最上階にあつたクラブに連れて行つて貰い、ご馳走になる。その時彼から、一、二年アメリカに留学してみたらどうかと言われる。これからは弁護士も英語を話し、仕事も国際化するからと勧められる。費用は全部出すからとも言われる。私も少し気持ちが動いたが、弁護士になつて数年しかたつていないことと、妻子もいて、突然のことだったので、お礼だけ述べるに留める。今にして思えば、勿体ないことをしたとの思いもある。彼も雄弁部OB会の総会に必ずといつていい程出席されていた。東京に來ると決まつて、お茶の水近くの神田淡路町にある「ホテル聚楽」を常宿のようにして使つていた。懇親会後の二

次会でホテルに連れて行かれてそのバーで飲んだのも一、二度ではなかつた。彼は酒が非常に強くて、体型もメタボそのものであつた。

ある時私の事務所に電話があつて、娘が東京に出て行くことになつたので、品川近辺で手頃なマンションを探して欲しいとの依頼を受ける。そこで品川にある知り合いの不動産屋を紹介してあげたこともあつた。彼からも私がOB会会長を引き受ける際、八倉巻氏同様に全面的に協力するから引き受けるようにと説得され、事実、集会の度に一宮から参加して呉れた。

毎年季節の挨拶状を出していたところ、平成二五年頃に娘さんの千津子さんからの葉書で、父は入院中でおそらく長男である兄が亡くなつたことも分かつていないのではないかと書いてあつて、それ以来どのような状態なのか心配であつた。近ければお見舞いに行きたいと思ひながら年月が経過する。

娘さんから、喪中の挨拶状が届き、平成三一年四月三〇日に八四歳で永眠したとの知らせを受ける。「谷建」という会社を設立し、生コンの製造販売等で業績をあげていたとのことであり、故人も無念の思いであつたと思う。また一人、友人を失うことになり、人生の無情と悲哀を感じる。安らかにお休みください。

(三) 石山政治氏

彼も雄弁部を通じて知り合いとなる。彼は東京生まれの東京育ちであつた。実家は北区滝野川で理髪店を営んでいて、一度お邪魔したことがあり、彼も私の山梨の実家を訪ねてくれた。彼は文学部であつたから、一年生の時から駿河台校舎であつたため、同学年同期入部ではあつたが、三年生になるまでは部の行事で会う位で、殆ど会う機会はなかつた。一年生の時の合宿にも彼は参加していなかつたので、会うこともなかつた。

彼は典型的な江戸っ子で、言葉も歯切れが良かったが、「ひ」の発音が苦手で、「しがしの空からし行機がしくく飛んできた」という調子であつた。一緒に食事をしても漬物は一切口にせず、私が二人前を食べることが出来た。

三年生になると、彼が遊説幹事、私は研究幹事となつたので、幹事会等で良く会うようになる。ある時、東日本高等学校弁論大会の北海道予選の実施のため、彼と二人で札幌へ行くことになる。これは、この年の遊説を四年生のみで行い、三年生の二人を外した見返りのようなものであつた。遊説に遊説幹事が同行しないのは極めて異例のことであつた。予選といつても北海道は広いので、当然参加校も多く、北海道出身の若手部員にも手伝つて貰つて、無事に終了することが出来る。帰りは観光をして、大沼公園までは彼と一緒にであつたが、彼は友人の所を訪

ねるとのこと、その後は別々の行動をとることとし、いろいろな経験をした。

昭和三二年に四年生になつてからは、私は部室の隣りに出来た司法研究室に入室して、司法試験の勉強をすることにしたので、雄弁部のことは彼に任せることとする。四年生で活躍している者は少なく、石山氏が幹事長となり、私は彼を支える副幹事長となる。そこで二人で相談して部の活動資金を確保する方策を検討する。智恵と言つても知れていて、雄弁部のOBに頼るしかなかつたので、どうしたら多くの寄附を受け易いと言うことに尽きた。

当時、雄弁部にはOB名簿らしいものではなく、赤い罫紙に手書きしたものを紐で綴じたものがあるのみであつた。そこで、OB名簿を作り、その中にOBの人達から部活動のこと等、想い出を書いて貰い、それを載せたら寄附が受け易くなるだろうという結論になり、この担当を私がすることにする。石山氏は文学部であるから、雄弁部の部歌を作ることとして、これを担当することにする。

名簿に載せる原稿の依頼を、手紙や電話でお願いするのは失礼になるので、ご本人にお会いして依頼の理由等も直接説明することとする。多くの時間を要したが、その甲斐あつてメンバー二〇名の方々から原稿を頂戴し、昭和三二年六月に無事発行す

ることが出来る。寄附金も予定額を超え、部の活動のために役立てることが出来た。

石山氏が担当した部歌は、彼の友人である文学部の伊藤龍太氏に歌詞を、そして作曲は部員であった山口みつ子さんの友人である伊藤栄依子さんにそれぞれ依頼する。同年の秋には部歌も完成する。そして、作曲した伊藤栄依子さんに部室に来て貰って練習する。残念なことにこの時の幹事で残っているのは、私と山口みつ子さんぐらいとなっている。部歌は、現在に至るまで受け継がれていて、誠に感無量である。少々残念なのは、楽譜がなく歌い継がれたためか、若干編曲されている気がしてならない。

石山氏は明治大学卒業、亜細亜大学に学士入学して中国語を勉強する。同校卒業後は、ライオン株式会社に入社し、香港が勤務先となる。得意の中国語に更に磨きを掛け、数年後に日本に戻って来たとのことである。その後は雄弁部のOBの集まりで会う程度であったが、八倉巻、内藤両氏らと共に二次会まで付き合つて、常に再会を楽しみにしていた。

ところが、平成二八年九月に突然訃報に接することになる。直ぐに電話をして奥様に経緯を尋ねると、同年七月七日胃癌が発見され、既に肝臓にまで転移していて、二か月後の九月二二日帰らぬ人となったとのことである。彼はそれまで定期的に健

康診断を受けていなかったそうである。私もその後であるが、平成二九年一月に同じ胃癌で妻を亡くしているので、癌の怖さを身をもつて体験していて、改めて癌の恐ろしさを感じる時、他人事とは思えない心境である。どうか安らかにとお祈りいたします。

雄辯部の縁が私の母校愛を強くした

昭和三五年農学部卒 小林 一光



昭和三十一年、入学と同時に生田キャンパスの雄辯部に入部しました。のどかな田園風景の中で発声練習をしたことが懐かしく思い出されます。

生田の雄辯部の合宿は新潟県佐渡島が印象に残っております。本部との合同合宿では那須高原の合宿で、日高憲三前大学理事長や前川一郎評議員と集合写真で一緒に写っていました。が、同学年でありながらキャンパスが違ふ為、私が昭和三五年卒の雄辯部の同期とわかったのは評議員に就任してからでした。特に私が理事に就任し大学の経営に携わってからは、日高氏はじめ多くの大学関係者と明治大学

の更なる発展を願い議論を重ねましたが、オーナー企業の経営と異なり、大学経営の難しさを体験しました。

さて、学生時代に話を戻しますが、生田キャンパスでの雄辯部三年の時に農学部学生会委員長に選ばれ就任しました。生田キャンパスは川崎市生田の元第九陸軍技術研究所跡地の払い下げを受けて開設されたのが一九五〇（昭和二五）年五月。木造の兵舎をそのまま教室として利用していましたので、夏は風の強い日は畑の土ぼこりで机や椅子が覆われ、冬はストーブが焚かれていましたが、教室に空つ風が吹き込み、高齢の教授が鼻水を垂らしながら講義をされていた姿を思い出します。



この頃、農学部が廃止される噂が入り、助教授の平木龍雄先生に真偽を確かめたところ事実であり、理事者側に反対の上申をしている話をお聞きし驚きと同時に怒りを感じました。こんな時に、明治大学学生会の中央執行委員長から安保砂川闘争に農学部も参加するよう要請が有りましたが断りました。再度名目上の参加要請に対

し、全学部学生会の要求として農学部の存続と生田キャンパスの校舎を建て替えるの共同戦線を張る条件で大学理事者側と深夜まで団交、また生田キャンパスの学生に向けては状況を伝えるストライキも辞さない決意表明した檄文を発表しました。大学側からも個人的に聴取を受けましたが、良い方向に理解を得られ生田校舎第一校舎の一号館が昭和三五年に竣工しました。新校舎の完成を待たずに卒業しましたが、雄辯部の縁でこの体験が私の人生に多くの教訓を与えてくれました。その後、平木先生は農学部長となられ、多くの功績を残されております。

六一年前の出来事で私の記憶の誤りがあつてはと、令和二年新年早々に明治大学水車の会（平木ゼミOB）隠居として毎年総会に出席されている平木先生ご夫妻を自宅に訪ね、当時の話を伺いました。当時、農学部は新設学部の為、東京大学や京都大学等の教授を採用し、人件費や諸経費が多額になり、受験生の応募数も現在のように多くなかったので、農学部単独での財政は赤字が続く、理事会で廃止が決まっていたそうです。平木先生が廃止に抵抗した為、上司から他大学への移籍を打診されたり、大学を辞めるよう圧力を掛けられたりし、奥様も失職を覚悟で先生を支えられたそうです。

農業は、将来世界の食料不足、環境問題、健康問題等々、多くの課題を克服しなければなりません。農学部の存在意義が

益々高まっております、人類に貢献する成果を期待しております。
本年、雄辯部が創部一三〇周年を期に一層の活躍をされますよう
祈念申し上げます。

金印株式会社 代表取締役会長 小林 一光

校友会 愛知県支部 顧問

名古屋地域支部 顧問

人、皆我が師

昭和三五年政治経済学部卒 日高 憲三



自分の人生を振り返ると多く
の人に恵まれ「人、皆我が師な
り」そのものであったと思っ
ています。特に、中学・高校とス
ポーツを本格的にやってきた自
分が明治大学に入学し、雄弁部
に入ったことは自分自身の生き方を決めたと思います。三木武
夫（元総理）先輩との出会いをはじめ、多くの先輩・同期生・
後輩、さらに他大学生との学びあい、政治経済等幅広く議論を
していた中で、交友を深めていた四年間でした。

その中で、思えば多くの深い縁ある先輩が亡くなりました。

この三、四年を見ても戸田、藤沢、八倉巻、後藤、石山さんと
文字通り多くの指導や交誼をいただいた方々で、他にも多く
の友人同僚が亡くなり私自身もその仲間入りが近い事を感じま
す。雄弁部時代、特徴的な事があります。政財界等で活躍され
ている方に、多くの方を訪問しご挨拶、ご報告をいたしました
が、先輩の方々が共通して自分の熱き学生時代を思い出し、そ
の頃の楽しい逸話や、社会に出てからの自慢話も失敗談もいつ
ぱい聞かせていただきました。その意味で、後輩が先輩を訪ね
ていく当時の慣習に近い関係が、今はずいぶん希薄になってい
ると感じます。これは雄弁部だけではなく社会の変化の一つで
あると言えますが、「人、皆師」という思いからすれば、懐か
しくもほほえましくもあり、教えられた事柄は数えきれない程
あります。自分が鮮明に思い出すのは、三木先輩を日曜日に訪
問し、先輩が着物姿で約一時間半お話しして、別れ際に玄関で、
「苦勞さん」と見送って頂いた事が深く心に刻まれています。
後年私も後輩が来てくれた時は出来るだけよく話を聞き、よく
来てくれたとの思いを込めて見送るように、今日までしてきた
つもりです。

クラブ活動はその意味でも、多くの思い出と社会を学ぶ機会
があることをしみじみと感じます。遊説には毎年参加しました。
新潟県佐渡合宿、富山県、栃木県での那須合宿、特に私の故郷

雄弁部の絆は長くて強い！

昭和三五年法学部卒 前川 一郎

広島県大和町での遊説弁論会では、深い山村の中「天皇制は是非か」の演題で語り、村の古老の人々はびっくりされたのではないかと思ひ出します。衆参議員選挙を始め幾多の選挙に行き、特に三木武夫先輩の選挙に参加し、今日まで徳島の人の交流が続いています。他の地方でも長くお付き合いを重ねてきました。雄弁部での活動は政治経済等を学ぶ事はもちろん、組織運営、視野等の人生の在り方を学ぶ場所でもあります。良い青春の１ページとして貴重な期間でもありました。一三〇年の間に雄弁部も盛況な時と衰退した時が幾度かあったのですが、近年では、大学に入り込んだ極左暴力集団が大学のクラブ活動さえも支配し、雄弁部も廃部の危機の中で、現杉並区長の田中良君がリーダーとなって、大学自治を守る活動をし、この危機をしのいだと自他ともに認められています。そんな時代の変化を経て今日の雄弁部があることを知る機会でもあります。

後年、明大内部から学生を見、どう学生生活を送っているか、学びも遊びも、豊かな将来につながるものであつて欲しいと願つてきました。その意味で私はあらゆる人が、私の師である事をしみじみと思っています。良い一生であつたと感謝し、雄弁部の一層の発展を祈ります。

昭和三一年法学部（英法学科）二組に入学しクラス代表として学生会（自治会）委員に選ばれ二日後に雄弁部に入部して和泉校舎に二年間通学した。和泉には法・商・政三学部 to 各々学生委員会があり和泉委員長が居りました。二年生の秋にオール法学部委員長に選任され母校と長い熱い熱い係わりがスタートした。三年生から駿河台校舎となり学生会中央執行委員（中執）に就任した。組織の構成内容は七学部・女子短大・文連・理科連・体連・応援団の各組織から代表が選ばれ中央執行委員会（中執）が運営されていた。会議では、先輩・後輩のメンバーと連日熱心に議論し衝突したり握手したりを繰り返す中で多くの友人知人と出会う事が出来た。

「友達の友は我が友」と云う事で交友の輪は加速度的に拡大した。小生意気な可愛げの無い学生（若造）でしたが、母校愛、前へ進むバイタリティ、筋を通す正義感等を評価して頂き多くの先輩に可愛がられ意気揚々の毎日だった。雄弁部の我が同期生（三五年卒）は人材の宝庫でした。雄弁部幹事長の日高（岡田）憲三君（元明治大学理事長）を始めとして明大雄弁部

代表で全関東雄弁連盟委員長日高一郎君（NHK勤務後大学教授）。雄弁部代表で文連委員長津田賀一郎君（大阪在住）。遊説幹事森高良樹君（元山陽新聞専務・校友会岡山県支部長）。雄弁部「生田校舎」委員長小林一光君（元明治大学理事・校友会愛知県支部長・金印わさびオーナー会長）等等、一騎当千の猛者が勢揃いでした。私は二十歳代に校友会本部役員を仰せつかり六十余年校友会・大学に携わつて来ました。校友会では青木信樹会長の下幹事長・副会長として二〇〇三年の「終身会費予約制の復活」・「組織大改革」が力仕事まさに大仕事でした。新生校友会の礎が築けたと確信して居ります。長吉泉理事長・山田雄一学長・納谷廣美学長の暖かいご理解とご支援ご指導の賜物であり感謝の念で一杯であります。卒業して東京トヨペット（現トヨタモビリティ東京）に入社しました。「東京を制するものは日本を制する」と云うトヨタのポリシイの基に設立されたディラーで第八期生でした。上司・先輩から見ると大へんな変り種・異色の新入社員だったようです。「雄弁部時代に鍛えられた諸々の勉強」は貴重な体験で効力を発揮しました。学生時代に蒔いた種は、あちらこちらで芽生え素晴らしい人脈でした。営業実績は常にトップクラスを維持しました。

私の人生の二本柱は故郷滋賀県愛・明治大学愛です。滋賀県立虎姫高校（長浜市）の東京同窓会長として後輩を支援してお

ります。

田舎の高校ですが「SSH」及び「IB」の認定校で一人でも明大に入学して欲しいと思っております。人生は出会いの連続で「縁」が生まれます。縁に従いこの縁を大切に育てて行くなかで人生は豊かで楽しくなります。

雄弁部の仲間（先輩・後輩）と云うだけで、親近感が盛り上がり打ち解けます。

「先輩は文句なく可愛い！理屈抜きで応援したい！」これが先輩です。最近是小粒と云われる雄弁部ですが長い歴史と輝かしい伝統があります。雄弁部の絆は太くて強い信義の絆です。誇りと自信を持つて明治大学の牽引車でありたいと思います。

雄弁部全盛の一翼をになつて

昭和三五年政治経済学部卒 渡邊 嘉道

想い起こせば六十余年前、私が入学した頃（昭和三十一年和泉校舎）の雄弁部は、和泉支部の活動は別にして、本校に於ける当時の上級生の部活は全く停滞そのもので、部内の派閥抗争に明け暮れていた状態で、私は明大雄弁部へ入部した事への失望を感じていました。

このような雰囲気吹き飛ばしたのが原田清雄（三十四年商

卒)さんの花井卓蔵杯の入賞と、翌年の金谷哲(三十四年商卒)さんの優勝という二年連続の成果でした。

それで、この灯を消すまいと意気に燃えた私は翌三十四年の花井杯に出場し、中大の弁士と同点準優勝となりました。この同点準優勝という決定に対し、大会後の反省会は大いにもめ、同店に主催校が優勝杯をとるのはおかしいではないか。主催校は招待校の明大・渡邊君に優勝を譲るべきではないかと大いに異論が出たのを私は今でも強烈に記憶しております。

それ程に花井杯の権威は高く、主催校の中大辞達学会さえも、手離せたくないものでした。私はこの名誉と屈辱を打破する為に、翌三十五年に再度出場し、前年の別の中大弁士を破り優勝する事ができました。

これらの成果は当時、毎年開催されていた全関学生模擬国会の人選にも好影響をもたらし、私は希望通り、野党革新党委員長に、花井杯で同点優勝した中大の青木君は保守党総裁の内閣総理大臣になり、わが同僚の日高憲三君は外務大臣になりました。ついでに、元自民党の総理大臣、早大の雄弁会の森喜郎さんは文部大臣に、その下の文部政務次官は現在の私の妻(國學院大學・佐藤美智子)ということになりました。青春の楽しいひとこまでした。

当時の雄弁部はほかにも対外的な大会でそこその成果をあ

げていましたが、私の印象に残るのは明大雄弁部主催の初の質問付弁論大会の開催でした。

当時の幹事長野村英治さん、そして山口みつ子さん、金谷哲さん、原田清雄さん、鈴木浩平さん達の熱意と結束力が当時の雄弁部の一時代を築いたものと思います。

この先輩たちと切磋琢磨した日高憲三君をはじめとする我等の同輩、そして、後輩達の当時の友情には快地よい思い出と感謝でいっぱいです。六十年余りの昔の青春時代を想いつつ、先輩、同輩、後輩の健康を祈りつつ、故人となられた方々のご冥福を祈りながら筆をおきます。

好漢金谷哲さんを偲んで

昭和三十七年法学部卒 中嶋 幸夫



私が入部したときの四年生は野村栄治さん、原田清雄さん、金谷哲さん、山口みつ子さん、鈴木浩平さん、三年には岡田(日高)憲三さん、渡辺嘉道さん、前川一郎さん、津田賀一郎さん等錚々たるメンバーが在席していた。

前年日高一郎(故人)さんが全日本学生雄弁連盟の委員長、

津田賀さんが文連の委員長に就き明大雄弁部の存在を内外にわたり高めた。この年、中央大学の花井杯全国学生雄弁大会で金谷さんが明治としてはじめて優勝された。後日この大会の様子を先輩方に聴き演題は『現代思潮の動向をもとめて』とゆう、実に大きなタイトルであった事を知った。鈴木先輩の言によれば〔弁論開始三分間で優勝金谷を確信した〕又一二〇周年記念誌で山口みつ子さんは〔今後二度と出ない弁士だ〕と同級生金谷さんを賞賛している。中央の花井杯は明治大正に活躍した花井卓蔵を冠した大会で辞達学会はこのステイタスでこの大会を全国一と喧伝したために学生雄弁家の羨望の的となりこの大会出場が一つの目標となっていたが明治の金谷優勝で中央独走に歯止がかかった。

翌年法政の春秋杯に金谷さんの出場が決定したので金森恵三氏と激励の為世田谷の松陰寮を訪ねたが原稿は未完であった。帰り道金森氏が一言「へ次の大会は勝てないな」は今でも耳に残っている。この大会はあらかじめテーマが決められており『日中貿易促進の現実的解決策』であった。大会当日金谷さんは白紙の原稿用紙一枚持参で登壇、開口一番〔日中貿易促進の現実的解決策は無い〕と起承転結に拘らない結論から論陣を張り堂々の弁論を展開した。結果慶応の安弘欣記氏（前年尾崎杯優勝者）を僅差で破り優勝となった。審査委員長が講評で『明治

の金谷君は青年代議士を彷彿させる弁論だった』といわせる程の出来であった。

この夜は部員全員で新宿にくり出し金谷さんを囲み祝杯をあげた。本人は語らなかつたが花井杯の優勝原稿参考文献は岩波書店発行の『現代思想』全十二巻（一卷五〇〇P）の膨大なものでありこれを軸に構成した弁論を展開した訳で後輩に与えた影響は大きいものであった。金谷さんは富山新湊の出身で後年新湊高校が甲子園出場一回戦を勝つて校歌が流れた時TVの前で校歌を唱つたと嬉しそうに語つた姿は好漢そのものであった。

一二〇周年記念誌に寄せて

昭和三八年法学部卒 伊藤 紀昭

揺れ動く八〇歳代を迎える年月、令和元年秋には満七九歳となり、持病はなく体力には絶対自信はあるものの、最近受けた後期高齢者の免許更新で認知症の検査を受け適応能力の悪化をつくづく思い知らされ、ある時期運転免許の返上を考えなければと思う昨今です。断捨離と思い少しずつ整理しつつも特に思ひ出の多い写真等となると難しい。

明治大学に十八歳で入学し、四年間の学生生活で雄弁部の



昭和34年8月夏合宿 於：千葉県銚子市
当時1年生で初々しい思い出があります

思い出は青春だったと懐かしさが込み上げる。入部後の活動は発声練習を和泉校舎隣の墓地で先輩の指導で「我が明治大学雄弁部は…」と度胸付け&腹から声を出す練習が懐かしく思いだされる。別添に昭和三四年八月千葉県銚子市での夏合宿の一年生～四年生参加者の写真を添付します。上級生

は立派な大人に思えました。度々三～四年生の先輩の指導を受ける為に、京王線明大前から新宿駅経由でお茶の水駅の駿河台本校に行くのも楽しみの一つだった。部活では弁論大会に参加し、又運営にも積極的に協力した。昭和三四年に岐阜の小さな田舎から東京六大学の雄明治大学に入学出来、雄弁部での活動は私の人生の誇りです。雄弁部一三〇周年をお祝い申しあげるとともに末永き発展をお祈りします。

白石島とカブト蟹

昭和三九年農学部 新田 貞章

われわれが学生時代に合宿地としたのは瀬戸内海に浮かぶ白石島という島であった。岡山県笠岡市に属し、面積二・八平方キロメートルという小島である。この海岸の砂浜を走ることから合宿訓練は始まるが、この砂浜には今から言えば、中世代に栄えたカブト蟹という節足動物がウジャウジャと波に打ち上げられていた。われわれが走る足の踏み場もないほどであった。

佐賀県伊万里市にも繁殖地があり、現代では天然記念物になっている、という。白石島での合宿というところ、このカブト蟹を想い出すのである。

発声練習から始まって、早口言葉、口調練習へと進むのであるが、今でもこのよ



〈かぶとがに〉

うな練習を行っているのであろか。私が部長の時代に、その練習状況を見に行ったら、ろ、訓練の順序や練習方法に若干の違いがあ

るように思われた。特に、口調練習などでは、その伝統は引き継がれていないように思われた。「いろはにほへと、ちりぬるを……」や「われわれは……デモステネスが如きを……」という口調は今でも忘れられない。伝統は維持しつつ、且つ新しい時代に合った口調が考えられるべきであろう。

部の幹事長・副幹事長……という名称も、代表制とし、内部組織も大部改編されているようであるが、あくまでも大学内でのクラブ活動の一部なのであるから、大統領・首相・首席・書記長などとたとえ名称は変わっても活発な活動が望まれるのはいうまでもない。

諸先輩方も現役部員との接触を密にし、常に暖かい眼を以って見守ってほしいものである。

核兵器の政治学 (Nuclear Politics)

昭和四〇年法学部 伊藤 幸雄

先般訪日した、フランシスコ教皇は被爆地長崎を訪れ、「核兵器は、安全を守らない云々」と説教しました。これは、宗教指導者の信仰に基づく発言として当然でしょう。信仰の対極にあるものが政治です。政治は、人間の内なる信仰や来世の問題を取り扱うのではなく、利害が複雑に錯綜する現世の問題と取

り組み、現実と理想へのヴィジョンを包摂した決断をしていかなければならないのです。現実から目をそらし、政治から力の要素（物理的強制力）を抜いてしまうと、宗教の祈りと同じになってしまふでしょう。

ここで、日本が直面する安全保障環境の悪化の原因の一つ、北朝鮮（以下北）の核戦力の保有から導き出される、核兵器保有の意義について考えてみたいと思います。世界最貧国の一つといわれる北が、半世紀以上にわたって宿願であった核兵器を手にし、それを搭載する弾道弾の開発に血道をあげています。トランプ米国大統領との交渉で、たとえ全面的かつ検証可能な核廃棄の合意に達したとしても、北が文字通り核を放棄することは、十中八九まずありません（検証可能な査察の困難さによつて）。

北が核を保有した結果、国際政治にどのような影響力を与えたかは、周知のとおりです。

(一) 韓国（以下南）と日本をその射程に収めた（人質を得た）ことで、北の金正恩の専制独裁体制維持の保障を獲得したこと。
(二) 叔父や異母兄を殺害した、国内的にはただの殺人犯が、国際的に一国の指導者として、世界最強国のアメリカの大統領と対等に交渉しうる立場を獲得したこと。

(三) 南に対してかつてなかったほど強力な政治的影響力を持つにいたったこと(朝鮮民族に大きな自信を与え、南の親北勢力を勢い付けた)、南の文在寅政権の対北、米国、日本に対する政策を見れば明らかです。おそらく南の半数近くの国民は、北が核兵器を保有した形での南北統一を望んでいるのではないでしょう。

(四) 仮説ですが、核を持った統一朝鮮は、歴史上なかった、隣接大国からの独立も視野に入るのではないのでしょうか? 朝鮮国家の核は、北京やウラジオストクをも標的にできるわけですから(事大主義の朝鮮民族にヴェトナム民族の気概があればの話ですが)。

これを要するに、たしかに核兵器は、人道的に言っても、理性的な政策手段としても、通常兵器のようにには使えません。核保有国に対して核を先制使用しても、自国も核の反撃を受け確実に壊滅的被害を受けることになるからです。それでは、非保有国が、核保有国の核によって脅された場合は、どうでしょう。日本が、シナ、ロシア、北の核で脅された場合、アメリカがニューヨークを犠牲にしてまで守ってくれるのでしょうか? 自国ファーストの国やシナ、ロシア、北の善意に日本の運命をゆだねるほかに、われわれは「諸国民の公正と信義に信頼して(日本国憲

法前文より抜粋)」もよいのでしょうか。答えはおのずと明らかです。

核兵器は、国家が国際社会で究極的独立を担保するための政治的手段としての意味を持っているのです。しかも核兵器を持てば核戦争が起きるとは限りません。核兵器が、開発されてから七五年になりますが、核兵器保有国同士の核を使った戦争は起こっておりませんから、アメリカのケネス・ウォルツのように、核兵器保有国が増えれば増えるほど世界は平和になると論じる国際政治学者もいるくらいです。とまれ、十八世紀に「武力なき外交は、楽器なき音楽に等しい」と喝破したフリードリッヒ大王の言葉が、二一世紀の国際社会で今なお妥当性を持つと思うと、AI(人工知能)の劇的進歩に比べ、人間性の進歩に対しては、いささか悲観的にならざるを得ません。

雄弁部の「伝統弁論」の中に、欧米のスピーチを!

昭和四〇年法学部卒 上岡 一雄

リンカーン米大統領はゲティスバーグ戦の勝利式典において「人民の、人民による、人民のための政治」と演説し、民主主義の根幹を示した。ケネディ米大統領は大統領就任演説において、「諸君は政府が何をなしてくれるかより、諸君が国に対し

て何をなし得るかを考えてほしい」と演説し、国民と政府の関係を示した。

政治家に限らず、実業家でも教育者でも、欧米の人たちのスピーチは素晴らしい。それは小学、中学、高校の時から授業の中に、スピーチやディベートの科目が正式に取り入れられ、重要な科目として勉強しているからという。小さな頃から、訓練しているのである。

わが雄弁部でも欧米の学校から教科書を取り寄せ、研究・調査してみたらどうだろう。参考になる事が沢山あり、日本独特の「壇上弁論」を母体にする雄弁術と、欧米のスピーチのソフトな語り口とユーモアとが融合し、新しい話し方が生まれるかもしれない。

私達雄弁部員は先輩の方々から、沢山の雄弁術を教わってきた。

(一) 雄弁・弁論と講演とは違うこと。

講演は知的面で理解してもらえば、それで役割は終えるが、演説は内容を理解し納得して頂き、更に感情面を喚起して行動を起こさせるまで、感動を与えなければならない。感情を揺り動かして行動にまで至らせる。それが雄弁である。

(二) 演説の技術より、話の内容が大切である。

(三) 話し方にリズムが必要である。

強調したいところは、大きな声でゆつくりと。場合によっては甲高い一オクターブ高い声を使う。聞いてもらいたい所では、小さな静かな声で、会場を見渡しながら話す。一本調子ではない。

(四) 季語や自然の移ろいの様子、格言や人生教訓の言葉などを入れると格調高くなる。

(五) 演説の冒頭二分間に内容の凝縮文言と感情を煽る言葉を言い、聴衆の心を一気に掴む。

等々種々の技術を教わってきたが、それに加えて欧米のテクニックを融合した新しい雄弁の創造を強く望んで止まない。雄弁も時代と共に、姿を変え、時代に合ったものにしなければならないと思う昨今である。

雄弁部で培ったこと

昭和四〇年法学部卒 土井 由三



雄弁部での活動経験は、卒業後のすべての場面で、役に立ちました。卒業後に就職した地元の新聞社で、途中転身した町長職で、公職後の大学の教鞭で、

そして今、市民活動で、大いに役に立っています。感謝でいっぱいです。

二年生までの和泉校舎での日々は、近くの墓場での発声練習、時折の雄弁大会、都外での各大学交歓弁論大会などに出場する仲間の駅頭での見送り、夏の合宿など魅力に満ちたもので、支部長も経験しました。新宿西口の焼き鳥屋などでビールを飲み交わし、翌朝、質屋へ飛び込んで、生活資金を用立てするなど、まさに青春そのものの日々でした。三年生の時、幹事長となり、「憲法改正は是か非か」の六大学学生弁論大会で優勝したのが、大学雄弁の勲章です。

一九六五年四月、地元富山の北日本新聞社に入社、記者活動を経て、論説委員長に。新聞記事は、取材・データ集めも含め雄弁部での原稿づくりで培いました。

論説委員長在職中の五八歳、求めがあり、地元の小杉町の町長選に無所属・無党派で立候補。「公正・公平」をモットーに、「子どもの権利条約に基づく子どもの権利条約をつくります」との公約を掲げて、自民党候補を破って当選（一九九九年十月）しました。四年をかけ子どもも加わった住民参画で「子どもの権利条約」を策定。当時の北陸線・小杉駅前に学校に行けない子どもたちの居場所としての子どもの権利支援センター「ほっとスマイル」を公設民営で開設しました。折からの市町村合併の

動きの中で、二度にわたる住民投票を経て、その二年後、周辺四市町村と合併、射水市になり町長職を終え（二〇〇五年十月）ました。

町長職を終えた翌年の二〇〇六年四月から、地元の富山国際大学で、「情報メディア論」の講師となり、翌年二〇〇七年からは、同大学の就職支援のためのキャリア支援センター参事に。履歴書の書き方、面接の仕方などを指導しました。二〇〇九年からは、同大学で新しく発足した「子ども育成学部」で、「日本の動き」を担当、二〇一五年三月まで務め、同大学に通算九年間、務めました。

この間、地元民放のラジオにも、週一回私の名前を冠した「由三のこれを言わなきゃ」にも出演、別の文化講座にも、月一回の割で「ニュースを読み解く！日本編」の講義も担当しました。

二〇〇八年からは、富山福祉教育・ボランティア学習会会長、二〇一二年から、とやま子どもの権利条約ネット副代表など、複数の市民活動グループに入り、それまでの経験・体験を生かしています。根っこに、雄弁部活動の経験があることは言うまでもありません。

振り返り

昭和四〇年経営学部卒 水野 源吾

わたくしは昭和三六年（一九六一年）、明治大学に入学しました。岐阜県の東部、陶磁器生産日本一で志野・織部焼きの多治見市に生まれ、高校まで地元の学校に通いました。近い都会は名古屋で、単線・蒸気機関車で一時間十分。東京へは修学旅行に來ただけ。それが和泉に通うことになり、学校の紹介で和泉校舎に歩いて十五分の松原に下宿しました。

当時、世界は米ソ二つの東西陣営に分かれ、冷戦、軍拡の真っ最中。日本は日米新安保条約締結問題で国論が分かれ、明治大学も駿河台・和泉校門に立看板が隙間なく並び、スピーカーから演説が流れ、騒がしい状況でした。これらを見ていましたが行動するわけではなく、ノンポリでした。当時のベストセラーは、小田実著「何でもみてやろう」。一般人は海外旅行が出来ない時代、単身世界を旅した本に、夢をふくらませました。

何もしないうちに一年が経過。このままではまずい！と考えていたころ、和泉で当時若手だった中曽根康弘代議士の『首相公選論』講演会があり、雄弁部に気づき、部室の扉を叩きました。入部したら、いろんな意見の人がいて、侃々諤々、考えをぶつ

けあっていました。摩擦があっても、意見を言う。相手の話に耳を傾ける。あたり前のことが、新鮮で、刺激的でした。隣りの墓地で大声の発声練習をし、白石島の夏合宿に行き、原稿を書き、大会にも出ました。いま思い返すと、中身ははずかしいレベルですが、部の活動を通じて殻を破れたと思います。

その後、民間会社で三七年、いろんなことを教えられました。いまでも頭に残っている三ツを上げると、

・自分の目で現場を見ろ（聞いた話を鵜呑みするな、自分の目で見よ）。

・仕事は自分の頭で考え、納得してやれ（納得できない仕事は、やらなくてよい）。

・呼び名は、『さん』づけで（仕事の責任は社長も社員も同じ。上下はない）。話がすんなり頭に入り、納得できました。

社会人になって外国に行く機会を得ました。四十年前は鄧小平が改革開放宣言した中国・広州に行きました。いま人口一〇〇〇万超の深圳は、牛が青々とした田んぼを耕していました。三〇年前は壁崩壊直後の東ベルリンでは、東独自慢の国産車・トラバントが白い排気ガスを出して走っていました。新聞やテレビで知ってはいましたが、現地で自分の目で見るとの差はとて大きいと改めて気付きました。外に出て、日本を振

り返って知ることができました。仕事を終えたいまも、「何でも見てやろう」をできるだけしたいと思っています。

雄弁部創立一三〇年にあたって

昭和四一年政治経済学部卒 小幡 正雄



私は、昭和三七（一九六二）年に明大に入学と同時に雄弁部に入部しました。雄弁部の先輩・同輩・後輩の方々には大変お世話になりました。数々の思い出があり、私を育ていただきました。心

より感謝しております。顧問の岡野加穂留教授からは日本の政治を国際感覚をもった政治に軌道修正し正常化しなければならぬとの教えを受けました。また、三年から入った吉田忠雄ゼミでは統計学・人口論・社会福祉論を学び、特に、人口論では統計上、当時から日本は将来、少子化という国難に遭遇するので、国の人口政策と社会福祉政策が重要であることを学びました。そこで、卒業と同時に、混乱していた日本の政治を正常にしたいと考え、民社党本部（西尾末広委員長）に奉職し、機関紙の取材や編集に加わり、その後、政策審議会・国会対策委員

会の一員として様々な勉強をしました。その後、地方自治体の発展が何より必要と考え、出身地の横浜市を発展させたいの思いから横浜市会議員選挙に立候補し、三度目の挑戦で、昭和五四（一九七九）年に横浜市会議委員に当選。以後、十一期連続当選し、現在、保守系・無所属議員として四二年目の地方議員としての活動を行っています。これまでの議員活動の経験を通じて、

（一）日本の教育政策の誤りを正す（文科省が未だに、極東裁判史観をもった左翼偏向思想から脱していない）。

（二）国は少子化が進む最大の原因を理解せずに、ついに出生数が八六万四千人まで減少しているが、子どもが生まれる国にするための政策を行う。

（三）憲法改正し、自衛隊の地位を憲法に明記し、日本の自立を実現する。

（四）日本のデフレを脱却するために、国のデフレ政策から脱却する政策を行う。

等々が必要だと痛感しています。

特に、平成時代の日本の国際的な地位の低下と国民の貧困化について、政府はアベノミクスでデフレ脱却を目指しながらも

緊縮財政、規制緩和、消費増税などの対策を行ってしまった。その結果、二十年以上にわたって国民の 実質賃金が下がり、非正規雇用者が三〇%以上に上り、若い世代が結婚できず、子供の生まれる数が低下し続けている。それでいて、移民政策や I R（カジノ）法案、水民営化、TPP……と日本の富を外国に売り渡すような法案ばかりがまかり通っています。

一昨年まで六年間内閣官房参与を務めた藤井聡京都大学大学院教授は、このままでは、日本は「年収二五〇万円」の「衰退途上国に堕ちる!!」と警告し、「令和の政策転換（ピポット）以外に日本復活の道はない」と警告しています。「デフレからの脱却しなければ、日本は中国の属国になってしまう。日本人が、中国に出稼ぎに行くようになるこのことを考えたことがあるのか」という警告です。これらの政策を正すためには、国会議員が、緊急に各種の法律を制定しなければなりません。与党も野党も含め現状では国会は正常に機能していません。国会議員の意識を変えるために、国民の世論喚起が必要です。

そこで、一昨年、「横浜正論の会」を立ち上げ、世論喚起の講演会を行っています。戦後七四年目を迎える今日、世界は大きく変動していますが、米国頼りで日本の自立に対する議論が十分に行われていません。今後も、「日本の『自立』のために、

- (一) 子供がふえる国に
- (二) 子供たちが誇りを持てる教育の実現
- (三) 「横浜から日本を創る！」取組に全力投球で取り組んでいきます。

明大雄弁部創立一三〇年にあたって、雄弁部に関わった方々が、日本再生のために立ち上がっていただくことを期待しています。

小幡正雄 横浜市会議員事務所

〒二三六・〇〇一六 横浜市金沢区谷津町三三二

電話 〇四五（七八三）七八六九

メール obatamasao17@gmail.com

リーダーの心得

昭和四一年政治経済学部卒 小瀬川 明寛



仁、義、礼、智、信とは確かに儒教の教えだったと思う。人として生きるための徳について論じたものだっと思う。今日のあたりほとりを見回してみる

と、特に「上に立つ人」の心配りはこの五徳とはかけ離れた人が多い様な気がする。何故だろうか。

私の古里八戸には百年ほど前、西有穆山という偉い和尚様がありました。曹洞宗総本山永平寺の管主にまでのぼり積めた高僧です。廃仏毀釈の時世に反旗を翻し仏教の守護のために大いに活躍なさった人物です。さらにそのお方の遺訓を少しご紹介すると、その中に「…らしく」「…ぶるな」という諺が伝わっております。この簡単なことの様だが実行すると難しいことかもしれません。一旦人の前に立つことになったからには当然この二つぐらいは責任をもって実行してもらいたい。

混沌とした今の時代にこそこの人生訓を思い出して頑張ってもらいたいものだ。もしこのままで何の変化も無いとしたら下々の者にとってはなんともどかしい悲惨なことになってしまふのではないだろうか。日常茶飯事のように少数派や弱いものにしわ寄せの毎日、思いやりのある老人をターゲットにした特殊詐欺の恒常化にもううんざりしている。現代社会はもうそろそろ従来の資本主義、自由主義から脱却して新しい時代を模索してもいいのではないだろうか、古来の儒教の教えとまで言わないけれど輝かしい未来に向かって前進しなければならなと思う。

雄弁部での出会い

昭和四一年法学部卒 田中 晴男



私は、群馬の人口一人にも満たない小さな農村から、星雲の志を抱くと共に個性派俳優になることを夢見て、上京した。

私は、個性派俳優への夢が脳裏からどうしても消えないために、

大学入學と同時に演劇部に入部することを試みた。そして、演劇部の部室の前を何回か往復した。しかし、私には、部室内に入る勇気がなく、実行できなかつた。それは、個性派俳優になることに自信がなく、将来への展望が見えなかつたからである。そこで、演劇部と同じ並びにあった雄弁部の部室に入った。昭和三七年四月下旬のことである。私は、高校の三年間、弁論部に属していたので、弁論部の活動内容等はある程度予測が出来た。そのため、入部後の活動等には、不安がなかつた。入部を契機として、雄弁部の同輩はもとより、先輩、後輩等多くの部員との出会いがあつた。その誰もが個性が強く、向上心に溢れていた。そして、皆将来への希望を持ち、真面目に真剣に生き

ていた。

昭和三七年入部の同輩は約二〇名おり、その出会いの中から多くの刺激や影響を受けた。その中からは、政治の道に三名が進んだ。県会議員になった後藤源さんは、それまでの人生経験が醸し出す独特の雰囲気を持った山形弁で他の部員を納得させいつも中心的存在であった。市会議員に進んだ鎌倉三郎君は、常に達観した雰囲気で、飄々としていた。そして、いつも食べ物に飢えている様であった。同じく市会議員になった小幡正雄君は、いつも小回りの利いた立ち振る舞いで、争いを避ける都会派の人であった。しかし、自分の成果を力説することは忘れなかった。

税理士になった武田俊一君は、分をわきまえた都会人である。鮎釣りを好むと言うことで、私と趣味が同じで、自然と人柄が浮かぶ。同じく税理士になった下元充宏君は、自制心のきく、学業優秀な人であった。

座間由夫君、松岡貫治君の両君は、いつも温厚で敵を作らない人で、誰からも信頼されていた。松岡貫治君は、残念ながら既に亡くなってしまったが、亡くなる前に、座間君と一緒に私の家を訪ねて来てくれ、歓談したことから思い出が殊更深い。得意なことを深く学び、その成果を他の部員に力説する松崎秀治君は、私はその人柄が好きだ。物静かであるが、いつも闘志

を持つている小瀬川明寛君、都会派の安達義章君、同じく都会派の三枝秀之君。三枝秀之君は、いつも事務局的存在で、他の部員は、いまでも大変助かっている。韓国問題を力説していた本村晋昭君。他にも何人かの同輩、先輩にとの出会いから、多くの影響を受けた。

忘れてならないのは、福島啓氏君である。福島君とは入部以来今日まで交際が続いており、この間良き友、良きライバルとして過ごして来た。と言うのは、二人とも弁護士を目指し、暗く辛い司法試験の受験生活を送ったからである。幸い、二人とも司法試験に合格し、福島君は名古屋でブル弁として出発し、私は東京で労弁として門出をした。二人は、弁護士としてのスタイルは違うが雄弁部員であったことが共通の経歴であり、互いに信頼できる仲間である。私達部員は、昭和四十一年三月に大学を卒業した。そして、卒業を迎えるに当たり、箱根湯本に一泊した。その卒業旅行の際、後藤源さんから全員に「八輝会」と刻印されたプレートが配られた。私たち同輩に、これから全国どこに住もうとも「輝いて」欲しいとの思いを込めたものであった。私は、雄弁部で出会った多くの人たちを今でも忘れることなく、深く感謝している。

「時代の鐘」は鳴るや！

昭和四二年政治経済学部卒 小川 忠彦

六十年安保当時は高校二年だった。私は親が不在な家庭の子供のボランティア活動をしていたが、「世の中の不幸を生む原因を無くさなければ不幸は無くならない。家のない人のための住宅よりロッキードを優先する政治は変えなければならない」とした共産主義の訴えに参つてしまい、「反安保」の高校生運動に参加するようになった。ある日のデモで大学生集団が交通整理の警官を襲い暴力をふるった。デモ後の総括集会で私はその「不当性」を訴えた。学生リーダーは「平和を求めるデモを邪魔する奴は敵」と言うので納得がいかず目的と手段の「道徳論争」となった。私は共産主義が描く社会像に憧れたが、「道徳思想の欠如」を覚え、この日を境に戦列を離れた。この時、恩師の薦める河合栄次郎の「自由主義の擁護」や阿部次郎の「人格主義」等々を読み自由主義や理想主義を学んだ。

入学後、学生課に自由で公正な社会を研究するクラブはないかと尋ねると紹介されたのが雄弁部だった。部室を訪れると個性豊かなメンバーが歓迎してくれた。そこには私を鍛えるに十分な人と場と機会があった。部活外だが、反共で自由主義を柱

とする学生運動にも参加した。他大学の仲間とも連帯・交流するところとなって私の視野は大きく広められた。

良き仲間恵まれ思う存分に振る舞った学生時代であったが、今日まで影響を与え続けてくれたものの一つに「雄弁道」と呼んだ「道の思想」がある。「道」は道徳であり人間性であり人道主義である。しかし、今や世の中は「新自由主義」で「カネになるかどうか」で価値判断される時代である。人間は目的格を滑り落ち、いつしか「金銭の下僕」になってしまった感さえある。

「道」を信ずる者としては「人間性」を再び価値観の首位の座に上がらせねばならないと微力を顧みず活動が続けている次第である。人道主義を生かすために理想主義や助け合う共同体主義の復権も提唱している。が、理想はますます遠ざかるごとくに見え、疲労感、無力感に陥る。そんな時に思い出されるのがみんなで歌った軍歌顔負けの「おゝお 明治！」である。それぞれの道で普遍の理想に向かって進んでいると思えばこそ「おゝお明治！」である。老いたる仲間にも若き仲間にも今一度「時代の鐘」を高らかに鳴らしていただきたいと願う。そして悠久の百三十周年を祝いたいと思う。

雄弁部と私

昭和四二年商学部卒 蛭崎 正徳

人生の第四コーナーにかかり、雄弁部への感謝を込めて、寄稿させていただきます。雄弁部活動を中心で得た学生生活の財産は、生涯を通じ核となる信念として、節目々で沸々と湧き出し燃え活力をあたえてくれました。ただ、晩年に至るまで、雄弁部での部活は秘していました。大会の優勝とか誇れる実績もなく、優れた人材を輩出した伝統ある雄弁部卒業生に値するかと思つたからです。

入部動機は、勧誘の田中先輩の第一声です。わざわざしていた教室が一瞬静寂に、この光景に感動して部室を訪ね。即、裏手の墓地での発声練習、部員生活の始まりでした。すぐ、新入大会で商学部先輩の後藤さんの指導を受け間に合わせましたが、この時、基本的な字間・教養の大切さと文案の「起承転結」を意識させられた貴重な体験をしました。

夏合宿は岡山県笠岡市の白石島でした。三年生の先輩の指導で、早朝から浜辺を走り海に向かつての発声練習。翌日は、皆、喉を潰しての会話は方言を気にすることなく手振りでわめき声。記憶に深く残るこの風景は、三年次に幹事会として合宿地

を、宮本先輩の縁で再び思い出深い白石島で実施致しました。

二年次東北遊説は、今も深く記憶に残る思い出です。「北方領土返還」を訴える、伊藤先輩の街頭演説は、駅頭の大群衆の動きが一瞬ピタリと止まり、顔を向けて聞き入る風景は脳裏に深く刻まれています。夕刻の屋内会場での熱弁は、さらに迫力を増し聴衆の心を掴み、目を輝かせ感動を呼んでいました。終了後、演台を拭きに行くと、油汗の塊が一面に飛び散り滲っており、見た瞬間、目頭が熱くなったのを今も忘れることがあります。

職業として、地方行政職員を選択。福岡県採用（行上）試験を東京で受験し、帰郷、県庁職員として三五年間勤務。退職後は、水道企業団・全旅協・JA代表理事組合長。何度か誘われながらも、政治の世界を避け、側面に関わりながらの生涯をおくってきました。

この間、県知事や部長の挨拶文の起案を多く手がけ、秘書室長から褒められた経験は部活の賜ものでした。また、自らが挨拶をする立場になって、文案を打ち・推敲しての挨拶も賞賛をいただき、これも部活での文案作り・発声練習のお陰です。

また、部活や研究会で多くの政治家に接し、信条・信念・人徳・生き様等から多くを学びました。実利的には、県議会対応や国会陳情要請活動でしたが、精神的には、「人生訓」として、「座

右の銘」として、多くの先人・先輩の言葉を常に心の芯にしておきました。

その言葉や教訓です。「我が明治大学雄弁部は、人格の陶冶に向かつて、邁進するものであります。」「雄弁は、人格の発露であります。」「ペンは、剣よりも強よし、だがペンは、ペンの生きる世界があつてこそ、初めてペンは、剣よりも強いのであります。」「樽の話」口舌の雄たるべからず。読書、体験、汗、喜怒哀楽、全てを樽に詰め込み、溢れ出るキラキラ輝くものが、自分の人格である。

「職業としての政治家の三要素」「情熱」「責任」「見識」、「振りの理論」、「人間疎外」「自らを計らわす」、「不味因果」、「忘己利他」、「兼愛」、「自由主義は歴史主義」「資本主義・社会主義・民主主義」、「外部経済」特に、今も残る、勉強会での源田実議員の「絶対、戦争をしてはいけない、特に（AS）とは」は、私の質問への睨まれての答えでした。

結びに、数年前、日豊路を南下ドライブ中、偶然、案内板に導かれ「一松定吉」翁の邸宅に廻り着き、胸に熱いものがこみ上げ、大先輩の遺徳を偲ばせていただきました。ここに、雄弁部のさらなる発展と、多くの先輩部員の皆様のご健勝を祈念致します。

地方遊説など部活動の思い出

昭和四二年商学部卒 松原 輝夫

四年間の部活動の最大の思い出は、一、二、三年次に参加した合宿・遊説であり、特に三年次に遊説を企画運営したことは強く印象に残っている。とは言っても五、五、五年前のことであり詳細を忘れていたが、幸いなことに部誌「駿台雄辯」第三号で報告してあった。

幹事長は坪川君、合宿担当は蛭崎君だった。私は、一年次の合宿地でもあった瀬戸内の美しい島である岡山県笠岡市の「白石島」での合宿と「香川県」「徳島県」での遊説を提案した。幹事諸君に異論がなかったため、私が現地での下見・交渉に行くことになった。香川県、徳島県の明治大学校友会に趣旨・日程・希望等を前もって手紙で伝えたが、訪問した時には非常に好意的に素晴らしい準備をしていた。

時代の変遷もあり、後年の部員諸君は実施が難しくなったと思うので、当時の遊説を紹介しておく。のちに明大学長となつた雄弁部部長代理の岡野加穂留政経学部助教教授、新田貞章（のちに明大教授）、伊藤幸雄の雄弁部OB三氏、部員五名が参加し、七月十四日から八日間実施した。一般人対象演説会を公民

館・高校講堂など五か所、高校生対象演説会を坂出商高など三校の体育館、街頭演説会を丸亀駅前など四か所、懇談会を自民党徳島県連学生部有志、徳島県民社党青年連合、徳島市の青年会、公民館聴衆の有志などと五回、と夜まで連日休みなく活動した。

二年次の十二月に、同学年の坪川、米田両君と共に、三人一組のオレゴン討論方式ディベートの日本版として新たに実施された「全関東学生テレビ討論会」に参加し、準優勝したことも思い出に残ることである。これは「駿台雄辯」第三号の巻頭言でも高橋雄弁部部長に紹介いただいた。明大雄弁部は出場十六大学の予選を勝ち抜き、決勝の対慶応大学戦が読売テレビホールで行われて録画され、後日に討論会の様子がそのまま約一時間放映されるという画期的なものだった。

三年次の夏休み後に坪川幹事長が辞任し総会で私が幹事長に選任されたが、他はほぼ同じメンバーで幹事会を構成した。年度途中での幹事長交代ではあったが、明大雄弁部の大きな行事である「学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会」を全部員の協力で無事に開催できた。更に、秋以降の二十を超える弁論大会に出場した各部員が大いに活躍し、明大雄弁部の名を高めることができた。

のちに明大教授となった比護君の尽力で一年間に「駿台雄辯」

三号、四号を発行した。入学時は二十数名の同期部員も卒業時は十二名であった。部活動では厳しく議論し衝突もあったが、すべては明治大学、そして明治大学雄弁部の名を高めた一心であり、遺恨など残るはずもなく、今でも連絡を取り合っている大切な仲間、友人である。十二名は、衆議院議員、北海道議会議員、広島県議会議員、明大教授、岩手県庁、福岡県庁、一級建築士、一流民間企業等で明大雄弁部卒業後も各人が大いに活躍したことを申し添えたい。

雄弁と言論を想う

昭和四七年法学部卒 岩崎 博

明治大学雄弁部は、一三〇周年を迎え、近代日本の言論形成発展に大いに貢献してきたと感慨深く想うこの頃です。然るに自らが先輩諸氏に足るかと言うと、未だに至らぬ現状は覆うべくもありません。以下、私の過ぎ越しを振り返りつつ、私を含め後輩諸君の一層の奮起を願うものです。

私は、大学入学と同時に雄弁部に入りました。法律家を目指していたので、法廷弁論に役立つだろうという実に浅薄な功利的な考えからです。当時の和泉校舎の部室は敷地奥の古いプレハブ長屋の一角にありました。隣が詩吟部で、いつも唸る声が

聞こえていました。新入部員の当初の日常活動は、発声練習と新入部員勧誘でした。まず昼休みに校舎屋上に集合し、大きな声を出す訓練と例文を用いての滑舌訓練です。その後授業前の教室に飛び込んで、短い時間の勧誘演説を行います。まだ地に足が着かない状態ですので、必死に喋っても借り物の言葉が続くだけです。授業目前の学生諸君には雑音に聞こえたことでしょう。「弁論なんか時代遅れで無意味だ」など否定的な野次も飛んできます。当時は大学紛争が各大学で吹き荒れ、明治大学の学内にも扇動的な立て看板が多数あり、活動家が拡声器で独特のイントネーションの演説をがなり立てていました。活動家の諸君も借り物の言葉でした。しかも自己満足的な物言いので聞き手のことなどお構いなしです。一般学生の中には言葉の空疎さを感じる者も多かったでしょう。これが弁論や言論に対する不信感に繋がったのかも知れません。その後、学内外の弁論大会や討論会などで早慶を始め東大などの弁論同志と交流を得たことは懐かしく思い出されます。しかし、いずれの場面でも満足感は得られず、雄弁の道の遠さを感じずにはいられませんでした。

雄弁とは何か。これが問題意識の出発点です。弁論は声を使いますから肉体的な側面は否めません。声の強弱や論理の展開方法など技術的なものも大事です。それにも増して伝える内容

が身の内に血肉となっていてるかどうかがです。学生時代は、どうしても実体験に基づく知見などが足りません。その分書物など他からの知識で補わざるを得ません。書物を読んで分かった気分になり、一文を引用したりして得意になりがちです。ですが聞き手は厳しいものです。その人の言葉に力があるか、納得するか、或いは正直であるかという人間性まで感じてしまっています。「表面は滑らかに見えるが何だか嘘っぽいね」これです。常に全人格が試されているのです。身の丈以上にどんなに装飾しても虚飾にならざるを得ません。今ある自分をどう素直に表現できるか、難しい作業です。

大学卒業後、私は放送の世界へ身を投じました。そこは日々視聴者に評価される世界です。しかもメディアの信頼感も背負っています。壇上弁論とはステージこそ違え、基本は同じです。人間性や人格が日々試されます。苦い経験も多々あります。鍛えられたところもあります。しかし未だ至らぬ自分があります。

翻って、昨今の弁論や言論状況を鑑みるに、その空疎さに危惧を感じます。かつての学内の立て看板やアジ演説がダブります。報道番組に人気アイドルを起用したり、SNSの利己的な発信、政治家を含めた自己保身の論理を無視した強弁などが溢れています。これは、受け手側の批評力が弱くなっているのか、

言論に対する期待が薄まっているのか、他人のことに関心が無くなっているのか、言論の漂流が始まっているのかも知れませんが。

神田駿河台の旧記念館にあった部室の壁に次の言葉が刻まれていました。「我以勇猛果敢欲進」我、勇猛果敢を以て進まんと欲す。今一度、荒海に雄弁と言論の旗を高く掲げて行く意気や如何に。進め駿台健児!!

三木武夫先生のご縁が結ぶ徳島と明治大学

昭和四八年政治経済学部卒 阿部 頼孝

徳島と明治大学を結ぶものとして、三木武夫先生の存在は非常に大きい。三木武夫先生の足跡を訪ねることは、今日、明大関係者の共通の「思い」となっている。その一つのきっかけとなったのは、村山富市元総理が二〇一〇年八月十四日、三木武夫先生の墓参りのため初来県され、土成町にある菩提寺を訪れたことである。明治大学出身の総理大臣は、三木武夫先生と村山富市先生のお二人である。大学の後輩である村山富市先生が三木武夫先生のお墓参りをされたことは、明治大学にとって「歴史的意義のあること」(同行された日高憲三前理事長の言葉)である。というのは、二人とも党派こそ違え、「権利自由 独

立自治」という明治大学の建学精神を議会制民主主義の理念の中で貫かれてきたところに共通点があるからである。なお、これまでにも最も数多く三木武夫先生の墓参に來られたのは、他ならぬ日高憲三前理事長であったことは言うまでもない。

さて、明治大学と徳島県との連携関係が公的に始まったのは、「明治大学・徳島大学・徳島県協定書調印式」(二〇一三年十一月三日)が行われてからである。これは、当時新たに「生物資源産業学部」を新設し農業分野への進出を志向していた徳島大学と、いわゆる「六次産業化」を目玉の政策として模索していた徳島県、そして特にバイオ等で評価の高い農学部を有する明治大学との間で結ばれた「包括協定」である。その結果は、徳島県南部総合県民局等の「きゅうりタウン構想」として生かされることになる。「きゅうりタウン構想」とは、海部町での促成きゅうり栽培に着目し、移住就農者募集で産地拡大による地域活性化を図ろうとするものである。そこで求められたのが、明治大学黒川農場で開発された実践的な「ノー・ハウ」であった。そこに、「全国きゅうり溶液栽培サミット」(二〇一七年十一月十五日、牟岐町海の総合文化センター)に、針谷敏夫農学部長(当時)をはじめ明大関係者が多数招待された理由がある。ちなみに、農業関係でいえば、竹本多持農学部長が県西部で、また橋口卓也准教授が佐那河内村で定期的に実施している学生に

よる「農業体験実習」も、地元では大変歓迎されており、着実に活動実績を上げていることも付言しておきたい。

また、恒例の「徳島マラソン」では、明治大学体育会競争部の選手が大活躍している。というのは、二〇一三年四月二一日、県から正式に招待された二名の選手が、交互にペースメーカー（ラビット）役として先頭を走ったからである。これは、松本稜商学部教授・競争部部長（当時）のご尽力によるものである。その後、早稲田大学（二〇一五年）、法政大学（二〇一六年）、東京大学（二〇一七年）、慶應大学、立教大学（二〇一八年）と参加大学が増え、二〇一八年三月二四日には「とくしまマラソン東京六大学競争部歓迎会」を催し、全国で初めて六大学が揃ってマラソンに参加することになった。その先駆けとなったのが、わが明治大学の「紫紺のタスキ」である。

文化、芸術方面に目を転じてみよう。「徳島の春はマンドリンの音色とともにやって来る」。明治大学マンドリン倶楽部徳島チャリティ演奏会は、二〇一九年で実に連続三五回を数える（二〇二〇年はコロナのため、中止）。近年は甲斐靖文先生の指揮により、徳島市以外にも活動の場を広げており、直近の演奏会は三木武夫先生の地元である阿波市で行った。なお、甲斐靖文先生に作曲していただいた「海部みそ音頭」は、JAかいふ女性部の作詞によるものであり、地元の人たちにも大変喜ばれ

ている。また、北野大明治大学校友会会長にも、徳島の各地で講演を行っていただいている。北野大会長のお人柄もあり、徳島では特に「北野家の訓え」が好評である。NHKの番組「ファミリー・ヒストリー」で北野家のルーツが徳島市通町であつたことが紹介されたこともあり、今後北野大会長と徳島とのご縁は益々広がりそうである。

研究の分野では、いかがであろうか。明治大学三木武夫研究会の会長は、小西徳應政経学部長（雄弁部部長）である。本研究会の研究成果は、明治大学資料センター監修、小西徳應編著『三木武夫研究』（二〇一一年、日本経済評論社）、として出版されている。また、この研究会のメンバーの中に、若手研究者で竹内桂助教がいることを紹介しておきたい。竹内桂助教は、小西教授の指導を受けながら「三木武夫研究」に取り組んでおり、このところ三木武夫研究では第一人者の呼び声も高い。最近では、岩野美代治『三木武夫秘書回顧録―三角大福中時代を語る―』の聞き書き、編集を行い、吉田書店から出版している。今後益々のご活躍を期待したい。

最後に、私のことにも触れておきたい。昭和四四年、政経学部政治学科入学。地元の大先輩の後を慕って、なんの迷いも無く雄弁部に入部する。そのような私にとって最も名誉なことは、明治大学創立一三〇周年記念シンポジウム「無信不立―い

ま、三木武夫を問い直す」(二〇一一年十一月四日、明大リバティタワー)、に校友会徳島県支部支部長として登壇させていただいたこと。海部俊樹元総理、村山富市元総理と肩を並べて、発言の機会を与えられたことは望外の喜びとするところである。さらに、幸運なことに二〇一六年十一月、「藍綬褒章」(県明るい選挙推進協議会連合会会長)、また、二〇一八年六月、「内閣総理大臣表彰」(県男女共同参画会議会長)の榮譽に浴することができた。これも、元をたどればいずれも「明治大学雄弁部」でお世話になったことに帰着する。今後も、雄弁部の益々のご発展を祈念しながら、徳島の地で「地域貢献・社会貢献」に微力ながら取り組みたいと考えている。

学生の頃に寄せて

昭和四八年政治経済学部卒 五十嵐 敏之

令和元年の今年、古稀を迎えました。学生の頃は半世紀前のことで、記憶も曖昧、懐旧談になってしまいうことをお断りしておきます。

私は山形県新庄市の小さな田舎町出身です。昭和四三年高校を卒業して東京に就職しました。当時、急行列車でも八時間はかかる上野駅は憧れの大都会の代名詞でした。翌年一年で会

社を辞め大学に入りました。東大安田講堂での全共闘と警視庁の攻防戦があった直後の事で、大学の構内は行き交うヘルメット姿の学生の姿や林立するアジ看板で何か騒然とした雰囲気が漂っていました。仕送りもない学生だったので入学早々、勉強はそっちのけでアルバイトの掛け持ち、昼夜兼行で働きました。たまに学校に行っても大教室の後の席でうたた寝ばかりしていました。成績の全くふるわない不良学生でした。

入部は早い方だったと思います。動機は不明、たぶん当時の境遇を脱して自分を変えたいとの思いが強かったのかも知れません。青年の主張が根底にあったと思います。同期入部は大勢おりました。皆、結構優秀な連中が多く、中に入って引け目を感じていたものです。当時日本の社会情勢は力強い経済成長の下に大きな変革を求めて流動化しており、経倫を抱負する者にも弁論の核心である「ペン」は剣よりも強し」の主張が時代錯誤のように受け留められたのか、その多くが退部、残されたのは徳島出身の阿部幹事長と私だけという惨状でした。そんな訳で部の灯をかりうじて絶やすことなく申し送った阿部君の功績は大きかったと思います。

雄弁部活動で得た仲間との交流は、今振り返ってみてもとても大切なものだと思えます。引つ込み思案で視野・料簡の狭い私にとり前後に居る先輩、後輩諸氏との交りは人を識る良い

機会でした。前後の学年の方々は夫々に人を得てよくまとまって活動をしていたように思います。強いて自分達の事を弁護するとすれば、昔、足抜けをした仲間達と今も交流・懐旧談に花を咲かせていることでしょうか。弁論に魅力を感じている人は大勢います。最近では前オバマ米大統領がそのよい例証でしょう。情報通信の飛躍的發展で仕事や生活が大きく向上する反面、匿名性の強い社会が増幅することは個人の自負や倫理の確立に大きな脅威となることを危惧します。

雄弁部が言論の自由の旗を高く掲げ、自らの責任において社会に対し発言していくことは健全な社会をつくりあげる上で大切な役割と考えます。これからも伝統の土壌に培った社会的使命を果し、有為な人材を育てていかれますことを心から期待します。



第20回全明治新人雄辯大会 (S45)



第12回全日本大学部門別雄弁大会 (S45)

あれから五十年

昭和四十九年法学部卒 千熊 正憲

星雲の志を抱き明治大学雄弁部の門を叩いたのは昭和四五年、あれから五十年である。前年の東大入試中止など激烈を極めた学園紛争のピークは過ぎていたが、日米安保条約期限の年でもあり火種は燦り続けており学生雄弁界も時代の荒波に翻弄されていた。

他大学では活動停止や休眠状態に陥っているところも多々あったが、我が雄弁部はそんな時代環境に抗いながら幹事会の強い指導力の下で日々雄弁部活動に励んでいた。四月多摩川での新入部員歓迎強化訓練、夏季合宿などでは雄弁部魂を徹底的に叩き込まれた。

「我が明治大学雄弁部は雄弁道の研鑽錬磨を通じてここに人間の陶冶に向かって邁進せんとするものであります」幾度となく繰り返し、振り返れば今に至る人生のバックボーンに昇華している。

多摩川での強化訓練二日目が終了した後の新入部員歓迎コンパでは、時にビール・日本酒などを同時に注ぎ「清濁併せ飲む」こともあったが酔っ払いの後始末が大変であった。



渥美半島伊良湖岬(S47)

夏季合宿は朝六時半から夜九時半まで研究会四時間、発声練習六時間、計十時間のスケジュールでまさしく地獄の八日間。限界への挑戦、自分との闘いであった。

駿台祭に参加し公害問題をテーマにした「部門別雄弁大会」では小山環境庁長官の講演予定を聞きつけた全共闘が角材・鉄パイプを持ち集結している、との情報が前日の夕方になり警視庁、環境庁から大学に入った。その年2月には、あさま山荘事件が起きていた。

大学当局から状況によっては機動隊を導入するとの通告もあり、学内封鎖による駿台祭中止という最悪の事態も危惧された。当日は会場内外で体育会など関係方面の全面的な協力を得て鉄壁の警護を実施、張りつめた緊張感が漂うなか大会は無事終了した。前日からの緊迫した重圧感は今も鮮明に蘇ってくる。

当時は授業料値上げに絡む微妙な時期でもあり実際に大会二週間後には学内封鎖され解除されたのは翌年春であった。

雄弁部の伝統に思いを致しOB名簿の原稿整理を腿鞘炎に罹りながらも一人で仕上げてくれた江戸っ子の小池洋二君、夏季合宿納会で「涙の訴え」生真面目な内村浅雄君。急ぎ冥界に旅立った好漢両君への想いは尽きない。いずれの折には彼らと再び一緒に「我がく陶冶に向かって邁進」と青春を絶叫したい。

言葉の貯金

昭和四九年政治経済学部卒 西沢 豊



「お金はいくら貯めても使えばなくなるが、一度身に着けた知識は一生なくなるらない」。今年九八歳になった母から幼少のころ聞かされた言葉の一つである。単に「勉強なさい」と

尻を叩かれるより、こんな言葉の方が記憶に残っている。

「実るほど首を垂れる稲穂かな」「鶏口となるも牛後となるなかれ」「緇言汗のごとし（一度口を出した言葉は戻ってこない）」も母から聞かされた。最近、施設に入った母を見舞った折に「誰

から教わったの。おばあちゃんから？」と尋ねてみたら、「女学校の先生」だという。戦前の教育も捨てたものではない。名セリフや名文の引用の妙、豊富なボキャブラリーで評判が高かった読売新聞の朝刊コラム「編集手帳」。二〇〇一年から一六年間担当した竹内政明さんが四年前、日本記者クラブ賞を受賞した。竹内さんは読んだ本や人から聞いた話で「これは」と思うフレーズを分野ごとにファイルに整理し、その膨大な引出しから材料を選んで原稿を紡いでいた。自らを「文章芸人」という。竹内さんを真似たわけではないが、私は編集現場を離れて管理職になったところから、パソコンに「備忘録」と題したファイルを作って、これと思った言葉やフレーズを記録している。かれこれ十数年になるが、社内の訓示や様々な場所での挨拶、そして手紙や頼まれ原稿を書く際にずいぶんと役に立った。読書の際には付箋を用意しておく。

本学出身の名優・高倉健さん（故人）がテレビで「プロとは」とは問われ、一言「生業（なりわい）」と答えたことも備忘録に残っている。俺はこれでめしを食っている、という矜持。それにプロフェッショナルを重ねる、高倉さんらしいセリフだ。これは入社式の訓示で一度使わせてもらった。

二〇二〇年には古稀を迎えるが、まだ本を読む意欲は旺盛である。身体の栄養剤はノムものだが、頭の栄養剤はヨムもの、

というのが私のモットー。読書を通じてこれからも備忘録に「言葉の貯金」をこつこつと続けたい。知識はどんなに使ってもなくならないから。

ラグビー観戦とギターの日々

昭和五六年法学部卒 森 義久

一九七七年四月に入学し、雄弁部で出会った同級生の中に佐藤君と長谷川君という二人がいました。入部してからクラスにお互いの顔を見つけたので、誘い合って入部したわけではありません。それからの四年間、最も長い時間を共に過ごしたのはこの二人だったと思います。

定年退職を前に二〇一二年たまたまテレビで明早戦を見て、学生時代チケットの入手方法がわからなくて一度も見ないまま卒業したことを思い出しました。今こそと思い、二〇一三年最後の国立の明早戦を見に出かけました。翌年秩父宮に移ってからは、毎年佐藤君や学生時代の友人に会って、勝つても負けても試合後新幹線の時間まで飲んでから帰ってくることにしています。

もう一つやり残していたのが、すっかりご無沙汰していたギターです。入学して早々の五月の連休に帰省した私は、ギター

とアンプを抱えて新幹線で東京に戻りましたが、東京駅まで迎えに来てくれて、当時住んでいた西永福の下宿まで運んでくれたのもこの二人でした。

このままでは今後十年ぐらいのうちにこのギターを手放すことになると思います、二〇一八年三月に定年退職となった一年後の今年五月末から、きちんと習うことを決心し、五歳年下のプロギタリストに週一回習っています。なかなか指は動かず記憶力も怪しいのですが、半年ほど続けるうちに、我流で弾いていた高校大学時代はできなかったこともできるようになってきました。ギターのために指先を使うことで、高齢化による衰えを少しでも遅らせることができるならと毎日ギターに触っている今日この頃です。

今や、佐藤君との話題も半分ぐらいはラグビーのことですが、佐藤君たちはあのギターとアンプの重さ覚えていますか。当時はギターだけでも四kgあったのですよ。

雄弁部創立一三〇年記念誌発行に想う

昭和五七年法学部卒 鈴木 建志

雄弁部創立一三〇年おめでとうございます。歴史的事例が蓄積されるということは重要なことで、節目で歴史や出来事など

をまとめることは部活動にも貴重なもの。今後の活躍を祈念したい。

日本武道館での入学式を終えたばかりの七八年四月、当時の人気アイドルグループキャンディーズの突然の解散は、社会現象として話題となっていた。米国の社会学者、エズラ・ヴォーゲルが「ジャパン・アズ・ナンバーワン」で高度経済成長の要因を分析、海外から日本的経営が評価された。巷では「読んでから見るか、見てから読むか」の宣伝先行の豪華作品や、「いい日旅たち」「君の瞳は一万ボルト」など魅惑的な宣伝コピーに彩られ商品開発が展開された。

さらにスペースインベーダーに代表される次世代ゲームの開発と、世界に誇れる多様な日本文化だったが、今になって振り返ると八〇年代のバブルがはじけた悪夢の時代に向けた、上辺だけ華やかな浮かれた雰囲気の中だった気がする。私の大学での生活も地に足がつかない浮ついたものではあったが、「社会のさまざまな職種や経歴を持つ人々と出会い、そこから知恵や人生を学んでいく」というロシアの作家ゴリキー「私の大学」に感銘し、雄弁部の活動でも意識していたことだ。同じ部室の空気を吸った仲間たちにも学んだことは多かった。

今まで流され続けて還暦が過ぎた。今回の記念誌発刊を機に、過去を顧みながら、今後の「学び」にもつなげていきたい。

紫紺の風に志を乗せて

昭和六〇年政治経済学部卒 小野澤 健一

先ず以て、明治大学雄辯部の創立一三〇周年、誠におめでとうございます。諸先輩方と現役後輩のみなさまの、ご尽力に敬意を表する次第です。

私が明大生の頃は、まだ明治短大があり、バンカラ臭の漂うキャンパスで、今の現役生は想像出来ないでしょう。建物は「原爆ドーム」と言われた、明治大学のシンボルの記念館があり、その最上階の四階に部室がありました。歴史と雄辯部の偉業を感じる空間でした。

余談ですが、校舎の解体工事の時に、職場の後輩（明大卒）がたまたま東京に行くと言ったので、工事業者に頼み込んで、記念館の破片を貰って来てくれとお願ひし、持ち帰ってもらい、今でも保管しています。部位は記念館の石階段の一部、このこと。「甲子園の砂」と同じく、青春の思い出です。

さて、私はまじめな部員ではありませんでしたが、諸先輩のオーラ、同期の問題意識の高さ、全てに圧倒され、自分の至らなさを痛感致しました。正直言って、ヤバイ部に入ってしまった、と後悔しきりでした、当初は。今は全く反対の思いで、雄

辯部のお陰で素晴らしい学生生活を送る事が出来たと、感謝しています。

新入生歓迎会の時に介護して下さい、それ以降も面倒を見て頂いた、当時四年生の長野県ご出身のI先輩ありがとうございました。ひとつ先輩の某区長のT先輩、ありがとうございました。また、同期のみんな、ありがとう。議論で涙ながらに同期部員の融和を訴えた友よ、今でも付き合ひのある山形出身の友よ、苦学生だった福岡出身の友よ、本当にありがとう。厳つい感じの部ではありましたが、今思えばとても人間臭い、素晴らしい部でした。不真面目部員ながらも、雄辯部OBは誇りです。

私は、昨年（平成三〇年）、地元的地銀を早期退職し、今では地元の小さな自治体の議員をしております。政治に対しての興味や政治に対する真摯な姿勢等を教えてくれたのは、間違いなく雄辯部でした。明治魂、雄辯部魂に恥じぬよう、精進して行きたいと思っております。明治大学の、雄辯部の益々のご発展を、新潟より祈念しています。

雄弁部のすばらしき仲間

昭和六〇年政治経済学部卒 徳増 信哉

明治大学雄弁部創部一三〇周年、おめでとうございます。



徳勝龍関に授与 写真＝（日本相撲協会提供）

私が雄弁部の門をたたいたのは一九八一年四月、入学式の翌日でした。当時二年で和泉支部長の田中良さん（現東京都杉並区長）から勧誘され、即断で八一年度の入部第一号になることを決めました。

田中先輩は雄弁部を行動的な組織にまとめるため、「政治倫理の確立」をテーマに遊説を約一年がかりで準備。政界ではロッキード事件で逮捕された田中角栄元首相が閣將軍として君臨したのに対し、雄弁部OBの三木武夫元首相は反角栄、反金権を唱え、多くの部員も三木氏に共感を覚えたのです。田中元首相逮捕から六年の八二年七月二七日、「ストップ・ザ・構造

汚職・金権政治」をスローガンに、東京・数寄屋橋で遊説を開始し約二〇日間、首都圏約六〇カ所を行脚。私は休まず参加し、毎日夕方、渋谷駅ハチ公前ではマイクを握り続けました。

毎日新聞コラムニストの故岩見隆夫さんが「ノンポリ、無気力ときめてかかつてはいけない。行動派の学生も

いた」と同紙一面ひと欄で、田中先輩を取り上げてくれたことが励みになりました。同じ頃、汚職議員の居座りをきつかけに、大阪府堺市の住民が直接請求し、政治倫理条例制定の運動を展開中でした。雄弁部有志もこの運動に参加し、翌八三年に全国初の政治倫理条例が制定された時には私たちの遊説も力になったと自負しました。

二年の後半から私はルールのある知的論争術のディベートに取り組み、第一回東西学生ディベートコンテストでは三位。ディベートの先達である英語サークルESSの強豪チームに勝つため、論理・情報収集力・発表能力を鍛えました。一方通行の弁論から双方方向の討論へと進化させるため、ディベート大会やその意義を広める企画も開催。第二回東西学生ディベートコンテストは『オリンピックにプロ選手の出場を認めるべきである』は是か非か』を論題に、ESSを破り優勝しました。この立証責任に基づく論争術は後の取材活動にも役立ったのです。

卒業後は世の中を俯瞰し、是々非々で対応できるジャーナリズムを選択。毎日新聞社に入社し、政治記者など二三年間新聞記者を務め、現在は文化、スポーツなどの新聞事業を担当しています。ライフワークはより良い政治の実現とともに、幼少の頃から親しんだ国技大相撲の発展です。今年の大相撲九月場所千秋楽で私が毎日新聞社の優勝額を正代関に授与した際、雄

弁部の前川一郎大先輩にNHKテレビで見届けていただきました。

相撲流で言えばガチンコの人生を貫徹できたのは学生時代のすばらしき仲間との出会いがあったからです。そんな扉を開いてくれた雄弁部に感謝致します。

日々勉強！結果に責任！

昭和六一年政治経済学部卒 赤池 誠章



明治大学雄弁部創立一三〇周年にあたり、心よりお慶び申し上げます。

私が明治大学に入学したのは、昭和五六（一九八一）年です。当

時は、大平正芳総理の急死を受け、初の衆参同時選挙で自民党が大勝し、鈴木善幸総理が内閣を組織していた一方、その裏では、ロッキード事件で逮捕された田中角栄元総理が「目白の闇將軍」「キングメーカー」として君臨していた頃です。国際情勢においては、米ソ冷戦体制にあり、レーガン米大統領の強い指導力の下、日米は同盟関係へと深化しようとしていました。そのような状況の中、政治に強い

興味を持ち、明治大学の政治経済学部政治学科へ進むことにしたのです。

入学後、新入生対象の各部の勧誘集会に出席し、そこで、雄弁部の存在を初めて知りました。当時、雄弁部の新入生歓迎行事は、自民党本部の訪問でした。理論の勉強は大学の講義やゼミでできますが、せっかく政治の中心地である東京にいたので、雄弁部の活動を通じて政治の現場を肌で知ることができるのであれば、ぜひ学んでみたいと思い、入部を決めました。

雄弁部では、部員は昼に和泉校舎の屋上に集合し、腕立て伏せや腹筋運動をして体幹を鍛え、発声や口調練習を毎日のように行いました。そして、正課の勉強はほどほどに、放課後、時事問題等の自主勉強会が開かれたりしていました。さらに、夜な夜な酒を飲みつつ、朝まで口角泡飛ばして議論したものです。二年次には、国内政治において田中支配が深まる中、部全体で「政治倫理の確立」を掲げ、勉強した成果を街頭に出て訴えたりもしました。新聞各紙に取り上げられ、注目を集めました。が、学生とはいえ、社会に向けて政治活動を行うことの責任を強く自覚させられました。三年次、私は、全関東学生雄弁連盟（略称…全関）の執行委員長になりました。全関の活動を行うとともに、新聞社主催の日本語ディベート（討論）大会にも参加し、三年目でようやく団体優勝して、仲間と喜びを分かちあったこ

とが今でも記憶に残っています。

改めて振り返ってみると、一学生だった自分が、自民党の参議院議員として仕事をする事になるとは、当時まったくもって思いも寄らぬことでした。現在、私は国会議員として、早朝から夜まで慌ただしく活動する日々を過ごしています。「日々勉強！結果に責任！」の姿勢が私のスローガンですが、その最初は、大学時代の雄弁部の活動にあつたのだらうと思っています。

明治大学雄弁部創立一三〇周年にあたり、私自身、改めて明治大学雄弁部という原点を再認識し、引き続き国政に邁進してまいる所存です。明治大学雄弁部におかれましても、今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

明治大学雄辯部二三〇年に寄せて

昭和六一年法学部卒 国松 誠

長い歴史の中の記念の年を迎えたことをお慶び申し上げます。私自身にとっての明治大学雄辯部は、籍を置かせていただいただけというような感じでした。大学一年生。それまで続けてきたラグビーがやりたくて体同連ラグビー部で汗を流していました。怪我で休部をしていた時に仲間から誘われ二年生の時

に入部させて頂きました。そしてその仲間であります、時得君、長尾君、阿部君たちをはじめほかの大学の学生とともに自民党学生部の活動に没頭していったのであります。

家に帰るたびに労働組合の幹部を経験した父親と対立するようになったことは懐かしい思い出であります。三〇歳までに議員にならなければ、政治を諦めろという父親との約束があり、二九歳で出馬した市議選に初当選をさせて頂きました。考えてみれば、私の人生は、自分の強い意志ではなく、ある程度の意志の中で、周りの環境によって、人生が築きあげられてきた気がします。自分の意志で県議選に出馬しようとしたら後援会幹部からこぞって反対を受け、泣く泣く市議会議員選挙に出たのが四期目の市議選でした。その期は、藤沢市議会では異例の四年間議長を務めさせて頂き、最後の二年は、全国市議会議長会会長という到底自分の力だけではなれない役を頂きました。

さらに、その期が終わりに近づくに現職の県議が、私に地盤を受け継いでほしいとの申し出がありました。全国市議会議長会会長、神奈川県議会議員とまるで地方議会のフルコースのような歩みであり、支えて頂いている皆様方に対しては、感謝に堪えません。

考えてみれば私の政治生活の原点は、明治大学の雄辯部であり、ここに所属していなければ今の自分はありません。間もな

く還暦を迎えようとしています。大学時代は振り返れば懐かしくもあり、未だ道半ばである現在は、大なる励みにもしています。志、仲間、大事なことを学ばせていただきました。感謝。

雄弁部と私

昭和六一年政治経済学部卒 茂木 浩之



この度は、雄弁部が創立一三〇周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私は昭和六一年四月、明治大学政治経済学部を卒業後、NHKに記者として採用されました。その四年

前、和泉キャンパスの部室を訪ねたのが雄弁部との出会いです。

当時の部室には学生服や、学生運動の活動家のような服装の先輩が数人いて、外見からだけでも、多様な個性を発揮していました。私が、社会科学の研究会に関心がある旨を話すと、先輩が「雄弁部に入った方がいいと思うよ。君が考えているような研究会は、実体としては左翼セクトのフラクションだからね。ここはイデオロギーの共存が共通認識で、活動は自由だから勉強になるよ」と教えてくれました。それを聞いて私は入部を決

断しました。

その背景には自分の生育環境もあったと考えています。私は、太平洋戦争中に母方の祖父が南方戦線で戦死して遺骨も帰ってこなかったため、平和への思いを強く持つ一方、本家の伯父が十五歳で予科練（海軍飛行予科練習生）に志願し、国のために死ぬ覚悟を持っていたことを誇りに思い、自分以外のものに身をささげられるような人になりたいという願望も持っていました。また、高校時代の世界史の教師から授業でフランス革命ばかり教えられたこともあって、左右両極の政治がもたらす弊害が嫌いでした。

かくして私は雄弁部に入り、国や社会の在り方も含め、多様なテーマについて仲間たちと夜を徹して議論して自己研鑽に励みました。更にディベート大会や全関（全関東学生雄弁連盟）の活動にも取り組み、事実に基づく理論や行動の大切さを学びます。雄弁部の部長を務めておられた岡野加穂留教授の薫陶を受けて比較政治学や弁証法、スウェーデンの政治に関心を持ち、マックス・ウェーバーの著作も乱読しました。その結果、「自分の目で実際に見ること、思い込みを可能な限り排除して是々非々で議論し、改善していくことが大切」という強い信念を抱くようになり、報道の仕事に就こうと決めたのです。

雄弁部での経験は、私の人格形成に大きな影響を与えました。

雄弁部で鍛えられたおかげで赴任地では、雲仙普賢岳の災害取材や、沖縄サミットのデスク業務の他、報道局では、国政選挙の開票速報のプログラム作りや、番組の制作等、数多くの修羅場を乗り越えることができました。そして今も当時の仲間とは、電話やSNSでつながり、気兼ねなく何でも語り合える関係が続いています。NHKにも同期、同僚に他大学の弁論部出身者が多くいて話が盛り上がることもあります。未筆ながら、雄弁部の一層のご発展と現役学生の皆さんのご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「女性活用」ということ

昭和六三年文学部卒 山川 かおる

昭和最後の年に、私は社会人になった。入社当時は、男女雇用機会均等法が施行されて間もなく、「一般職」「総合職」という呼び名もまだあった頃。幸い、以前から女性活用があたりまえの会社だったこともあり、平成を越え、令和になってもまだ勤続中。産休育休も二回取り、あたりまえのように復帰、普通に管理職も経験し、処遇・昇進において、女性だからと悔しい思いをしたことが、実はない。昨今の、女性活用に力を入れよう、女性管理職を三割以上に、等のかけ声が、少々古くさく思

えるほど。確かに、この歳で女性の同期社員が今でも十名以上いるのは、珍しいことのように。なので、まだまだ女性だからと苦労している年下の他社社員の話を聞いて驚くことがある。

近年は、当社でも男性が育休を普通にとるようになった。世間では、まだまだ一般的ではなく、男性上司が良い顔をしない、という話も聞く。当社は、自身が育休をとった経験のある女性の多い職場だからかもしれないが、普通のこととして受け止められている。一方で、育休復帰後、あたりまえのように時短勤務を長期間利用する女性社員に対し、厳しい目を向けるのは、子どもを持って働く女性社員だったりする。三十代、子育て期間中の制限のある働き方がその後のキャリアに影響し、四十代、五十代でスキルが積み上がっていない事例を複数目にしてしまったからかもしれない。本当に女性活用を目指すのであれば、育児中の優遇だけではなく、勤務の柔軟性とキャリア双方の支援が必要だと考える。

私よりも上の世代の働く女性は、限られた人々だった。時の経過とともに、女性が社会で働くことは当たり前になっている。まだまだ実態には課題も多いが、近い将来、「女性活用」と敢えて言わなくても良い世の中になることを、願う。

あのころのふた

平成二年農学部卒 中山 潔

何処にでもいる学生だった。雄弁部に在籍していたのは昭和六一年から平成元年でした。何故入部したのか、実は今もってわからない。野心があつたわけでもない。大きな目標があつたわけでもない。大学入学寸前に読んだ新書「大学で何を学ぶか」（隅谷三喜男著）の中で「二橋は一橋、明治は明治、立教は立教、まだ残っている、それぞれの大学の個性をよく見て、自分の個性にあっていると思われるところに挑戦すべきである」という文章が目にとまったがそれでもない。何かあると思つて入部した。

その時代はわりと豊かだった。学生運動は存在していたが、昔日の勢いはなく、テニス、スキー等スポーツサークル全盛の時代であった。

当時の雄弁部は、岡野加穂留教授（後の学長）を部長に約百名在籍していた。代表制による組織、定例部会、合宿、活動は有志、研究会単位で行っていた。生田からの参加であつたため、明大前や駿河台まで出向いた。入部当初は、沖縄問題研究会、デイベート研究会に参加した。まず驚かされたのは、先輩方の

読書量、知識量、行動力、表現力の豊かさ。時にはやっていけるかと思うこともあつたが、何とかついていった。三年生からは各大学が主催する弁論大会に出場、自分の思うところを主張した。

雄弁部は、今もそうであろうが、研究会や部の仲間と話しているうちに、知識が増え、視野が広がる。それは成長の証であるが、一方で矛盾も見えてくる。人、社会、世界。自分の問題としてとらえ、それなりの答え、方向性をみつけようとあせるがあまり、その難しさ、奥の深さ、自分の能力の限界、自分の存在の小ささを思い知らされる。何とか課題に挑戦しようと試みるも、悩み、苦しみ、挫折、若くして命を落とす人もいた。そうこうしている間に、気がつけば卒業を迎えていた。

部を離れて三十年近くになつた。雄弁部時代を振り返り、あの頃は何だったのかと思うに答えは、今もつてない。ただ新聞等で報じられる政治、経済、生命、技術、地域社会、日常生活の小さなことまで、これはと思うテーマがあつた時は、主体的に考えてみよう、追及してみようとするが、この姿勢はあのころ、即ち雄弁部に在籍していたことで無意識のうちに身につけていたものなのかもしれないと思つている。

卒業から二十年

平成一二年政治経済学部卒 内山 佳洋

神田駿河台を訪れると、懐かしさと、心の奥底にある気恥ずかしさのような、独特の感情が湧いてくる。錦華公園で校歌を歌い上げていた過去の自分に、誇れる姿でいるのだろうか。

現在四三歳。

振り返ると、決して順調ではなかった経済に、逆らえなかったことがよく分かる。小さな夢を追いかけてながら、流行りの仕事に就いたり、辞めざるをえなかったり。右往左往してきた。ようやく落ち着いて仕事に打ち込める環境になったのは、四〇も近づいた頃。随分と時間をかけてしまった気もする。

さらに振り返って一八歳。

地方から上京してすぐ、一人心細い和泉キャンパスにて。何故か強烈に惹かれた雄弁部の勧誘卓に出会えたことは、人生最高の幸運の一つと言いつける。部室に放り込まれた瞬間から情け容赦無い先輩、人間味溢れる同期、個性が強すぎる後輩。取りつかれたように語り合った日々は輝いて、心に刻まれて消えない。その宝石のような日々に恥じない自分でありたい。自分にも、先輩にも後輩にも。だからこそ時折、気恥ずかしく、情け

ない気持ちにもなったりもしていた。

三八歳。

自身の結婚式に、たくさん雄弁部の先輩・同期・後輩が来てくれた。十数年会っていなかった顔・顔。それぞれに、それぞれの事情があるはずだけど、皆笑顔で校歌を歌い上げてくれた。列席者、皆庄倒されていた。時間が経ってから、雄弁部の迫力は素晴らしかったと言われる。

今がどうか、気恥ずかしさなんてどうでも良いことなのかもしれない。本物の友情と記憶を持てた、誇らしさがあるのだから。

戻って現在。

これから一〇年、二〇年。遅ればせながら、社会人として責任を果たしていけるスタートラインぐらいには立ったのだろうか。人生で輝く雄弁部の記憶。その誇りと友情を胸にすれば、乗り切っていけるはず。

時には、思い出を肴に杯を重ねて。

至誠が奔騰とする時

平成一二年政治経済学部卒 宮本 朋和

「…雄弁は至誠が奔騰する時、さん然としてその光を放つも

のであります。よって、口舌の雄を以てしては、真に人を感じせしめることは出来得ないのであります。」学生時代、何百回となく、口調練習文として唱えていた一節である。もう既に、当時の雄弁部員が普段行う口調分としては存在しなかったが、当時、機関支局長をやっている、「駿台雄辯創立八十周年記念号」に口調練習文があり、復活して口調練習をしていた。何度も何度も繰り返し、入社しても、たまに口ずさみまだ空で言えていた。

社会人三年目のことである。仕事で疲れ、ヘトヘトになっていた。そんな時、自社の採用イベントにて一〇〇人ほどの学生を前に一〇分間、「自分がどんな就職活動をしていたのか」「自分がどうしてこの会社を選んだのか」を語る時間を人事から与えられた。話し始めて一分、気持ちが入ってきた。自分が超氷河期の中、部活動に明け暮れ、就職活動に一步遅れ、悩み悩み三月初めに二週間台湾へ逃避行の旅に出て、

(一) 自分にピンときた会社

(二) 海外関係に関われる会社

(三) 自分が強みの挑戦意欲を活かしてチャレンジする場のあ
ると思えた会社…

その話を学生に話し、目を輝かせて学生が聞いてくれている

とき、なぜか「…雄弁は至誠が奔騰する時…」というフレーズが頭によぎった。その(一)(二)(三)の軸で二〇社ほど探して回っていたら、自分の名前トモカズ同じ友和という会社にあい、仕事のやりがい聞いてピンときた。自己実現ができそうだと思ったという話。入社から海外出張や営業での失敗、成功で一喜一憂した話。興奮しながら、二〇分間話し終えた時、学生たちから万雷の拍手と、スタンディングオベーション。採用担当からもこんなこと初めてだと驚かされました。

大学雄弁の時に感じたものより、共感としてとても手応えがあるものでした。「至誠が奔騰」という感じが学生時代と違う質で感じ、何かコツを掴んだように感じました。その後、何年に一度、口調文を発声、抑揚、間などを意識して練習するようになりました。以来、その成功経験から、いろいろなところでプレゼンをする機会が増え、三〇代後半から採用及び教育担当として、様々な機会を得るようになりました。プレゼン練習を五〇回、一〇〇回しても、わたしよりも上手な人は残念ながら多いですが、心に伝わる場所ではわたしも勝るとも劣らないと思える自信を得たものでした。

本年、雄弁部は創部一三〇周年を迎えます。脈々として受け継がれる「雄弁道の研鑽錬磨」「人間の陶冶」「和して同ぜず」「イデオロギーの共存」といった考えは、自分の心にも深く刻まれ

ています。人の話を聞く力、人の心を震わせる話術の基礎は雄弁部で培われたと思います。人生一〇〇年時代、私たちの年代は多くが一〇〇歳まで生きるそうです。生涯現役、生涯雄弁部OBとして、雄弁道を研鑽していきたいと思っています。

雄弁部に出会えて、また、大切な同期や仲間たちに出会えて、本当に幸せだと思っています。雄弁部のますますの発展とOB諸兄のご健勝を願って止みません。

雄弁部のような言葉のやりとりは続く

平成一二年政治経済学部卒 半田 宏司

私は、現在とある有料老人ホームのケアマネージャーとして、仕事をしております。ケアマネージャーとは、介護を必要とする方にケアプランを立て、サービスの調整を行い、きちんとサービスが実行されているか、サービスを行うことにより、状態が改善しているか効果のチェックを行う仕事であります。

このケアプランは、介護を受ける本人と家族の意向を尊重しながら作成します。家族の意向は、すでに本人が意思を明確に伝えられない場合、特に重要となり、本人が意思を伝えられる場合も、生活歴や最近の本人の状態について、本人以上に正確に理解していたり、情報量を多く持っていることがあります。

プラン作成を行う点で難しいのは、本人の意向と家族の意向が異なる場合であり、家族の意向も、親族が複数いる場合、意見が別れるケースがよくある点です。最終的には、一つの方向性にまとめ、本人と家族の同意を得る必要があります。

意見の相違は、かつて雄弁部に所属している時は、日々感じるものがありました。伝える事の困難さを実感することも多くございました。今考えると貴重な機会であったと思います。

現在はかつて以上に情報量を得やすい環境となったため、家族も介護や医療にかかわる事について主張する事が増えてまいりました。

家族の持っている知識は、必ずしも正確ではなく、知識の内容に偏りがあり、捉え方が断片的で、体系的な捉え方ではなくても、その知識で主張してくるケースもあります。そのような家族に対しても、理解をして頂くために、かつて雄弁部で、自分の意見をいかに伝えるが悩んでいたことを思い出す事もあります。

私が雄弁部で活動していたころは、将来介護の職に就き、介護の職場で頻繁に、言葉のやりとりをする事は、想像もしていませんでした。ある意味、雄弁部での活動が形を変えて、今も続いていると言っても、過言では無いように感じております。

介護というと、身体的な大変さを想像される方もいらっしゃる

るかもしれませんが、例えば現場の介護職員も、職員同士、看護師、医師との連携、ご利用者様への声掛け等、言葉のやりとりが多くあります。

これからも、雄弁部での経験を土台とし、日々、言葉のやりとりを続けていきたいと思っています。

卒業二〇年目の近況報告

平成一三年二部政治経済学部卒 荒井 正志

一三〇周年おめでとうございます。

大学を卒業してから早二〇年近くの年月が経ちました。人生紆余曲折はありましたが、現在はプラスチックリサイクル会社の会社員と行政書士の二足のわらじを履いています。

役所の許可や法人設立、外国人ビザの書類の作成し、役所と向き合う毎日です。

許可可では建設業・産廃業・古物商・宅建業・自動車登録・車庫証明を、法人設立では株式会社・合同会社・NPO法人・一般社団法人を取り扱っています。外国人ビザは、日本で起業するための「経営・管理」、就労するための「技術・人文知識・国際業務」「企業内転勤」を取り扱うことが多いです。「技能実習生」にも対応しています。

役所と向き合う仕事なので、時には激しく言い合うこともあります。雄弁部での経験が活きてるな、と感じることがあります。今の自分は学生時代に描いていたものと異なる仕事をしておりますが、言葉と向き合う仕事といえるので半分夢は叶ったと言えるかもしれません。

インターネットのおかげでO G O Bの活躍や近況を知ることができるので、自分も頑張ろうという気持ちが湧いてきます。今年、自分の新たな挑戦として宅地建物取引士の受験を予定しています。

現役の皆様、O G O Bの皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

「お米たべてー！TEAM」の挑戦

平成一三年文学部卒 伊藤 慎一郎

あれは今から三年前の冬。トラクターなど農業機械を趣味的に紹介しているサイト、「撮りトラ」を運営する服部泰さんに興味を持ち、私は水戸市にある服部さんのご自宅を訪ねていた。ひとしきり農機具の楽しいお話で盛り上がり、すっかり日も暮れてしまった。「今日は泊っていくといいよ」服部さんには同居のお父さんや、奥さま、娘さんたちがいるにもかかわら

ず、初対面でしかも家族五人で押しかけている私に、あっさりと泊って行けという。あまりの度量の深さに驚くとともに、私はすっかり服部さんの魅力のとりことなり、後年の激闘のレースへの参戦はこのとき決定づけられたのかもしれない。

それから一年以上たった二〇一七年の十月、私は東京都港区の「赤坂サカス」にいた。飲料メーカーのレッドブルの主催する、「RED BULL BOX CART RACE」に参戦するためだ。レースは、参加するチームが手作りのボックスカートに乗って、タイムやパフォーマンスを競う。私たちのチーム名は、「お米たべてー! TEAM」、田舎でよく見る三〇kg入りのおコメ袋を巨大化したデザインのカートで、都心の急坂を疾走するのだ。思えば奇妙な取り合わせのコンビだったと思う。チームリーダーでドライバーも務める服部さんは、大の農機具好きだが農家ではない。サラリーマン家庭出身のイラストレーターだ。

一方、スポンサーとして、資材提供・アドバイスなどの裏方を務める私は、農機具屋の四代目ではあるが、天才的なメカニックというわけではない。器用で人望もある服部さんにリードされながら、「伊藤産機」のロゴステッカー付の素晴らしいカート、「お米たべてー!号」は完成した。そのカートにはお米への熱い思いが込められている。

日本人のお米の消費量は年々少なくなっていて、すでに生産

量の五%以上が牛などの飼料用米になってしまっている。青々と育つ田んぼの稲も、実はニンゲンの食べるお米が作られなくなっているわけだ。この調子だと、将来に食糧の輸入が難しくなつて、国産のお米が必要になった時に、牛とのお米の奪い合いにもなりかねない。そんなことつて、悲しくないか？だから、もう少しお米を食べようよ。輸入しなくとも国内で生産できるお米を。一日一食でも食べてくれたらいいな。おいしいしね。それをあえて都心の赤坂で叫びたい！農業用の一輪車を利用したチープなカートだけど、そんな熱い思いが込められている。

レース当日は台風直撃の大雨の中、大学生・ヤンマーなどのメーカー・日光江戸村など六〇チームがひしめく中、見事に三位に入賞した。そして今年、二〇二〇年の秋に、日本では二年



力を合わせてカートを押し出しました！



嵐の中、疾走する
お米食べてー! TEAM のカート

ぶりに「RED BULL BOX CART RACE」は開催される。「お米たべてー! TEAM」はおにぎりのカートを作って再び参戦する。挑戦はまだまだ続くのである。

宗教などの精神的なものへの

拒否反応がもたらすもの

平成二三年商学部卒 笠原 直人

あの衝撃的な二〇〇一年九月十一日のグランウンド・ゼロまでネットの世界は、世界が繋がることへの希望が溢れていたように思います。「テロとの戦い」という今では欺瞞に思えるお題目である日から世界は管理監視社会の道のりを歩むことになり、一九九〇年代後半にLOHASというマーケティングコンセプトが流行し、一九六〇年代からのニューエイジムーブメントの後継であるスピリチュアルムーブメントも日本に定着しそうになく流行しましたが、そういった精神的なムーブメントも下火になってしまいました。

あれから日本社会に適応が難しいと感じていた私は海外に出ることを希望として、日本と海外を転々としそろそろ二十年になります。そんな私がもし日本社会の中で一番何が問題なのだろうかと聞かれたらこう答えます。「宗教生活や精神生活への

アレルギー反応的拒否感」が問題であると。

もちろん現代はもはや宗教的価値観に盲従すべきではないし、オウム真理教のようなカルト宗教には拒否感があつて然るべきだと思います。とはいえ日本は戦後個人を抑圧する国家主義は国家神道に原因があるとして政教分離の徹底を図りましたが、その結果「科学万能主義」とでもいえるイデオロギーが台頭し、「目に見えないものに対する畏敬の念」が徐々に失われてきました。

「科学万能主義」は一見科学的に見えても実際は目に見えないものに対するただの拒否反応であり、その根源には人間は神に到達できないとする「不可知論」に端を発します。日本では自身を無宗教と捉える人たちが多く、自分の存在さえも脳の電気信号の結果に過ぎないという唯脳論とでもいう世界観を信じている人もいますし、死後自身の存在はなくなるという唯物論的世界観に生きている人も多くいます。はつきり言えば、それが彼らのいうところの『宗教』で、こういった人たちは少しでも宗教という名のついた世界観を拒否するだけで特に知ろうとも思わないのが大半です。そして、そういった世界観に生きる人が隣人にいるという事実にも目を向けようとは思えないようです。令和元年六月には既に在留外国人は二八二万九四一六人になっており、実質的に日本は移民社会を迎えています。イン

バウンド観光でも日本は宗教的世界観と共に生きている人達を無視できないという現実があるのにも関わらずです。

また目に見えないこと、五感で捉えられないものを全て否定しようとする人に「生命は大切だ」というお題目をいくら説いても無駄でしょう。なぜならその根底には、究極的には自身さえも意味のない存在であるという『虚無的世界観』の中に生きているからです。

こういった自身の存在についての精神的支えを持たない世界観は非常に危ういバランスの中に立っています。自分自身の価値が社会を通して相対的にしか見つけられないのなら、経済的な困難や周囲からパワハラやセクハラを受けたり、解雇といった社会から否定されていると感じられるような体験を重ねたとき、安易に自殺にも他殺にも走り得ます。自身に価値を見出すことができるかどうかは別に宗教的世界観によるものではありませんが、「社会に有用である」「社会に迷惑をかけない」「自己責任論」というそんな個人が社会の為に生きるためにあるような社会では「虚無感」が底辺に蔓延するのが当然でしょう。相模原事件では一九人が刺殺され、二六人が重軽傷を負っています。その背景には「優性思想」があったと言われていますが、「弱者」を社会や国家の敵とみなす優性思想は教育の現場やあらゆる企業社会で刷り込まれており、「自己責任論」の根

源につながっているのは明白です。

更にその根元を掘り進めれば、『人間はどこから来てどこへ行くのか』という生命の尊厳に直結するこの哲学的な問いを殆どの人は考えようとせず、現実の生活には全く役に立たないガラクタのようにこの問いに目を背けるばかりです。自身の価値を世界の根源から直観できないのなら、他者が同じように価値ある存在なのだとどうして思えるでしょう。

「働かざるもの食うべからず」レーニンが引用したこの言葉の元々の出典は、キリスト教の「パウロによるテサロニケ人への第二の手紙」にあります。レーニンはこの「働く」を「労働」と結びつけましたが、本来はまったく現実的な労働を意味しないはずで、キリストは「弱者」を決して見捨てず、「働く」とは決して労働することを意味しません。

ここである「働く」とは「キリスト」を迎える内的な準備を行うことであり、「食う」とはキリストの一部を受け入れることであり、「彼」もまた私たちが食うことで、私たちの一部を、私たちの運命、私たちの負債の一部を受け入れます。そういった神と人の内的な交流を指し示し、労働しない者は食べる権利がないということではないのです。

障害を負っていたらそれは社会の負担に過ぎないから死ぬべきなのでしょうか。重い病気にかかったら死ぬべきなのでは

うか。生活に困窮したら野垂れ死ぬべきなのでしょう。

そんなことはあつてはいけないのです。赤ん坊や知的障害を持つ方の眼を見るとき、私たちはその眼の純粹さにおののくことではないでしょうか。それは彼らの中に善にも悪にも染まらな
い「神性」や「仏性」を見つけ、自分の心が自然とそれらに開いていくからではないでしょうか。彼らは経済的に役に立つということはできないのかもしれませんが、もしかしたら人の内面に問いかけ、人間が新たな形態の共同体を形成する鍵になる存在なのかもしれません。道家思想でいう「無用の用」のように、一見役に立たないように見えるものは、違う視点から見ると役に立っているのです。新型コロナウイルスという戦後最大の危機の中で、私たちは今一度精神を研ぎ澄ます必要があるのです。

やっぱり 明治がNo.1！

平成二三年農学部卒 遠山 和宏

雄弁部創立一三〇年周年、おめでとうございます。

私ごとですが、明治大学在学中に某大学柔道部の先輩から教えて頂いた座右の銘を守るようにしています。その座右の銘とは、『俺はバカだけど、嘔吐きじやない。バカで嘔吐きなら

最低だから』というものです。在学中はこの言葉を額面通りに受け取り、嘔吐は吐かないようにしようと思いました。そして、社会人として仕事をしているとこの言葉の持つ意味の重みが身に染みるようになりました。

三〇代になり、校友会地域支部のイベントに参加するようになりました。そして、四〇代になり、明大の諸先輩には物心ともに助けて頂くことが多くなりました。

人生、困難に直面することが多々あります。そんな毎日ではありますが、過日、同期の南上君、荒井君、伊藤君や他大の弁論部の同期と会う機会が有り、非常に楽しい時間を持てました。このような時間が持てたのも、雄弁部の活動を通じて出会った仲間や経験した共通の体験があつてのことだと思っています。

明治大学で学び、出会ったことが現在の自分の土台になっていると実感しております。年に一度は神宮球場に行き、大きな声でハイパーユニオンを歌います。やっぱり 明治がNo.1！

やっぱり 明治がNo.1！

明治大学雄弁部の益々の発展をご祈念申し上げます。

ハロ。

平成一四年経営学部卒 釘島 良蔵

皆さまこんにちは。釘島でございます。明大雄弁部一三〇周年のおめでたい文集が発行されるということで、そぞろ出てきました。春ですね。桜と呼ばれコロナも花粉も恐れず彷徨っております。熊本弁で言いますと、さるきよりまずばい。

さて、私こと。東京を離れて早五年。在京の折は明大雄弁部OB会の幹事を拝命しておりましたもので、明大雄弁部一三〇年の歴史の中で、多くの方よりちよつと深めに雄弁部と関わってきました。右脳の片隅で覚えていらつしやる方には、目を閉じ、当時より若干ガタイが良くなった私の姿を想像してください。筋肉は裏切らない。

SNSなどが発達したとはいえ、流石にそうそう東京に行くものではないため、雄弁部も遠くなりました。なかなか行事に出席できなく無沙汰なのは元氣な証拠としてくださいと、勝手なことを申し上げる次第。しかしながら、そこはかとなく置いてけぼり感を覚えるのも事実。我が郷里熊本は住み良いところですよ。たまにデカい地震や台風が来ますがそれなりに楽しめるところですよ。なので、東京に戻るつてのは今更ジローです

が、地方にいるデメリットの 하나가、東京からの置いてけぼり感でしょうね。

天台宗に「一隅を照らす」という言葉があります。自分がいる場所ですっかりやりなさい、青い鳥より身近ないいところを探しなさい、という意味と私は理解しています。自分の足元を固め、自分が主体的に動けば新たなムーブメントだつて起こせるもの。そう、私がいる場所がセンターオブユニバース。それだけの話です。熊本には私があります。九州には他にも多くの先輩・後輩達がいいます。九州で置いてけぼり感を覚えるなら、九州が突き抜けて進めばいいだけのこと。面白いことは九州から。いつか、明大雄弁部九州の集いをやりたいなと思っております。皆さま、その時は肝臓腐らす覚悟でご参集ください♪

雄弁式リーダーシップ育成のすすめ

平成一四年法学部卒 本庄 智忠

最近、「リーダーシップ」という用語を目にする。定義は様々あるが、私は自身の考える「社会正義の実現」をロジカルに提案・説明する弁論の作成プロセスが、実はリーダーシップを発揮するコンピテンシー育成に寄与すると考える。以下、詳述する。弁論は、(一) 政治・経済・社会問題に関し弁士が独自の

視点で問題点・課題を抽出・分析↓(二) あるべき理想の社会・方向性を提示↓(三) 理想の社会・方向性を実現するための具体的施策を提示↓(四) 施策のメリットを聴衆に説明、というプロセスで聴衆の共感を得る行為と考える。この(一)～(四)のプロセスのうち、特に、

(二) あるべき理想の社会・方向性を提示

(三) 理想の社会・方向性を実現するための具体的施策を提示

の実行が、対象となる社会(国、地方公共団体、民間企業、部、課、グループ等)を変革するために必要となり、この(二)・(三)を具現化できる能力がリーダーシップであると考える。

これを企業に当てはめると、

・中期経営計画の策定…(二) 経営ビジョン・戦略策定↓(三) 事業部別・機能別施策への落とし込み・QCサークル等の部課別改善活動…(二) 目標数値の設定↓(三) 改善施策への落とし込み等となる。

中期経営計画の策定、部課別改善活動は、企業利益を最大化する最重要な業務の一つであるが、これを確実かつ効果的に実行できている企業は少ない印象である。では何故企業は前記の実現に骨を折っているのか。私の仮説は、社員が上記(二)、(三)

のプロセスをOJT反復的に実践しスキルを高める機会にほとんど恵まれないからである。一方、雄弁部は、弁論を通じ、上記(二)～(四)のプロセスを反復的に実行しており、社会人になる前にリーダーシップの素養(コンピテンシー)を高めることができているのではと考える。よって、企業であつても、行政機関であつても、議会であつても、雄弁部出身者は、自身が所属した組織でリーダーシップを発揮できる稀有な存在として活躍できる素地が十分あると考える。

弁論を通じた雄弁式リーダーシップ育成。この雄弁部が一三〇年間かけ醸成した弁論という根源的活動が、リーダーシップのコンピテンシー育成という形で、次世代のリーダーとなる後輩たちへの魅力的なプレゼントとなることに期待したい。そして、この魅力的なプレゼントを遺贈し続けることで、雄弁部が将来五〇年、一〇〇年と永続する組織であり続けることを希求する。

入部二二年目の部員による祝辞

「部は部員のためのもの」

平成一五年政治経済学部卒 太田原 崇宏

明治大学雄辯部の現役、OB、OGの皆様、私は一九九九(平

成一一）年に入部し、二〇〇三（平成一五）年に卒部した者です。昨年二〇一九年は、丁度、雄弁部の門を叩いてから二〇年目の節目に当たった年でした。私は、明治大学入学当初は、別な団体に所属していましたが、故あってその団体を辞し、まさに意を決して一九九九年の七月に雄辯部に入部しました。

一年目は、ゼロからやり直すつもりで、色々な活動に積極的に取り組みました。当時、全関東学生雄弁連盟が健在であり、中央執行委員会の委員長が南上清一郎先輩（平成一三年法卒）、事務局長が釘島良蔵先輩（平成一四年営卒）、会計監査人が荒井正志先輩（平成一三年政卒）、遊説委員が小野田喬先輩（平成一四年商卒）という顔ぶれで、夏の全国遊説や、秋の討論会、冬の弁論大会など幅広く活動への参加の機会を得ました。

翌年、二〇〇〇年には、藤岡正裕先輩（国士舘大学、平成一四年卒）の下、全関東学生雄弁連盟の藤岡中執に企画局長として入って頂きました。この年は特に、中央大学辞達学会、拓殖大学雄弁会、日本大学雄弁会、第一高等学校・東京大学弁論部等の皆様と深く交流させて頂き、その後の私の考え方にとって大きな影響を頂きました。そして二〇〇一年、田中啓史委員長（中央大学、平成一五年卒）の下、副委員長として全関東学生雄弁連盟に残り、連盟の最後を見届けました。連盟がなくなつた後、一時、雄辯部における存在意義を見失い、つらい時期を

過ごしましたが、たまたま明治大学の学内のイベントで桑原潔先輩（平成一二年政卒）と知見を得、大学院進学という新たな目標を見つけることが出来ました。私の明治大学での学生生活は、まさに雄辯部あつてのものでした。

しかし、当時からその雄辯部は、活動の基準が曖昧である、などの問題点を抱え、部内に様々な論争が巻き起こっていました。私は、自身の部における経験を通じて、雄辯部とは「言葉の部」であり、基調文に見られるように「雄辯道の研鑽錬磨」こそ、部員が邁進すべき指針であると思っています。雄辯道の研鑽とは、弁論の上達のみを示すものではないと思いますし、色々な活動の形態があつて然るべきでしょう。皆様で知恵を出し合つて、活動を豊かなものにし、益々の部の隆盛を図られることを祈念いたします。

今こそ個人の時代

平成一五年政治経済学部卒 小池 陽一

明治大学雄辯部が創立一三〇年を迎えるという。実にめでたい。長く続く組織にはそれだけの価値がある……と、ここまで書いてふと思ったのだが、はたして雄辯部は組織だったのであるうか。役職や予算管理、部会（全会一致制だった）といった組

織の要素や形式、規則はしつかりしていたし、酒席での先輩は絶対であったという点で、上意下達もしつかりしていた。学ランを着る場面もまだあったし、校歌も叩き込まれた。しかし、思い返しても「組織に所属していた」という実感がまるでない。

記憶の中の雄辯部は、自由な個人が集う「場」だった。思想、信条、目的、興味さえ異なるバラバラな個人が、集い、語り、議論する「場」。議論においては先輩・後輩は関係なく、是々非々が貫徹されており、自由に意見を言うことができた。自分は政治や言論の世界には進まなかったけれども、大学の四年間そういった「場」に身を置き、発言と思考を自由にさせてもらった経験は、ホンモノの組織に所属するようになって「貴重な経験だったのだな」と気付いた一方、自分が組織の中で生きていくために充分役に立っている。「本当の責任者」を相手にするときには、むしろ忖度など必要ないからだ。

自身が自由な個人であることは、同調圧力が強まりつつある現代の日本を生きる上で、最も重要な資質と言っている。社会には「スクールカースト」「いじめ」「ブラック企業」等々、組織や集団の中で個人が理不尽に苦しむ問題が多々ある。自身が当事者として戦い、あるいは離脱するために、また、第三者や政策当局者として手をさしのべ、あるいは問題を解決するためには、組織や集団の論理を離れ、自由に思考しなければ、正し

く判断することはできない。雄辯部はこれからも社会を生き抜き、社会の課題を解決に資する自由な個人を輩出する集いとして在り続けることを願ってやまない。

昨年「天気の子」(新海誠監督)という長編アニメーション映画を見た。素晴らしいエンターテインメント作品であると同時に、個人と社会のあり方に対して、大きな問題提起をした作品だと感じた。ストーリーの概要だけというと、「主人公の少年が、東京を救うために犠牲になる運命を強いられたヒロインを救い出してしまうことで、東京は壊滅してしまう」というものだが、ハッピーエンドの作品だった(なぜハッピーエンドなのかは実際に映画を見て欲しい)。自分が受け取ったメッセージは以下のとおり。

「『大きな物語』を守るために個人が理不尽に犠牲を強いられるのは間違っている。人には大きな不幸を皆で少しずつ分かち合い、粛々と背負って生きていける強さがある。だから後ろめたいかもしれないけど、自分と愛する者のために服従を拒絶し、抗っても大丈夫。」

国家社会は個人の自由と幸福のためにある。現代日本には、この作品くらいのカウンターが必要だ。

一 大学教員が憂う専門教育の危機

平成一五年法学部卒 山田 真一郎

私は現在、埼玉の私立大学法学部に准教授として籍を置く大学教員である。大学教員というものは研究者である一方、教育者でもあり、また大学運営を司る組織人でもある。私は大学の運営において、キャリアセンター運営委員を務め、中でも公務員プログラム委員会の副委員長として、公務員合格支援のための各種企画の計画実施や対外・対内折衝、教育カリキュラムの見直しや面接指導等の教育指導を担ってきた。

今日の就職活動や公務員試験では、コンピテンシー型評価が主流だ。過去の行動特性から明らかとなるポテンシャルを客観的に評価するというもので、大学時代に何をなしたか、そこから何を学んだかが重視される。ゼミなどの大学教育、運動部やサークル、アルバイトなどで研鑽を積んできた経験を持たねば、どれほど己を飾り立ててもすぐに中身のなさが露呈してしまう。

専門教育に携わる教員としては、他の教員と共にゼミ教育を豊かにすることに腐心してきた。毎週行うゼミ教育を常に見直してみたり、ゼミ対抗の合同発表会に参加したり、学祭の出店

企画、地元の市議会との意見交換会に参加したり、教え上げたらきりがない。

さて、二〇一八年一〇月の経団連の就職協定廃止の発表には驚かされた。就職協定がほぼ名ばかりになっている現実、さらに通年採用を実施する他の国に対して日本の各企業が遅れをとり、優秀な人材の漏出が止まらぬ現状に鑑みてのことだという。経済界の提案に対して大学関係者らの多くが反対の声をあげた。これによって何が起きるか想像に難くないからだ。

企業が学生に手を伸ばす最初の機会がインターンシップだが、近年その実態はますます名ばかりとなっている。本来の趣旨通りにインターンシップを熱心に行ってくれる企業や役所も多くあるが、優秀な人材を早期に囲い込みたいという思惑のみに忠実な企業も多くある。インターンを通じて内定を与えれば、次には就職までアルバイトとして拘束してみたり、他の企業をみる機会を与えなかつたり、終いには大学教育の機会を実質奪つたりと、やりたい放題だ。

就職協定があつた時代から既にこのような片鱗はみえていたわけであるから、大学関係者らの主張が際立って古いということでもない。今後は、大学一年生、二年生までもが「通年採用」なるものに始終煩わされ、大学教育はより一層困難に直面するだろう。大学の「ハロワ化」がとことん捗るわけだ。

こうした中、大学の専門教育がそもそも時代に合わぬものと論ずる大学関係者が現れていることに私は驚いている。専門教育の価値をあまりに低く見ているが故の暴論である。

専門教育は専門知識を詰め込むためのものでは決してない。卑近な例で恐縮だが、一例を私のゼミにとる。私のゼミでは世の多くのトピックを法的に分析し、考察し、あるべき解決策について学生に集団ディスカッションを行わせている。

今日、情報発信媒体やSNSの急速な普及に伴い、多くの情報が飛び交っている。社会のトピックについても多くの語り手がいる。いわゆる知識階級が、その地位や経歴で、あるいは賢そうな言葉で飾り立てつつ、もっともらしい主張をしている。しかし、それらが、実は論理破綻していたり、前提を違えていたりすることも多くある。

これら数多の情報を批判的に吟味し、取捨選択する姿勢がこれからの若者には必要だ。もしも学生が無批判にインターネット上の記事をエビデンスとしようものならば私は徹底的に質問を浴びせ、自ら考えることの重要性を説く。また、学生には最新の学問の理論状況にも触れさせる。

私が教える行政法は、端的に言えば行政と私人との諸関係を分類・整理し、そこに適用されるべき法原理を探索するといふものである。国家権力の侵害からいかに国民の権利利益を擁

護するかという問題関心の下、国民に対して（外部的に）行使される権力的法行為形式を念頭に法的コントロールの枠組みを考えるとところから発展してきた。そのモデルから外れる「給付行政（福祉や「生存配慮」）などの行政領域が登場してすでに久しいのであるが、現代の行政法学はさらに、「行政の民間化」や「計画行政」と言われる事象などの難しい課題に直面している。このような事態を前に、行政法学で論じられてきた枠組みを抜本的に見直すことが求められている。そのためには、外国における法学の議論の蓄積に学び、また、公共経営学など他の学問分野の議論の蓄積に学ぶ必要がある。もちろん古典的な体系を押さえ、再評価することも重要だ。

これらの理論状況に、例えば「TSUTAYA図書館は是非か」などのお題を通して具体的にイメージしながら触れてもらい、じっくりと考察してもらうこともできる。ある課題を一定の理論的な観点から見つめ、課題の背景を探り、既存の手法では対処できないかを考える。もし既存の手法で対処できないとすればそれはなぜかを考え、比較分析等も交え、何が最適な解であるかを導く。

このような論理的思考の鍛錬は、法学のみならず、他の学問領域においても可能であるが、学生らはその訓練を行うべき時期にある。それら論理的思考の訓練を繰り返すことが、自らの

論理的思考の回路や取り組む姿勢を形成し、いずれ各々の活躍する領域において必ず役に立つ。これらは大学の専門教育がなければ果しえないか、あるいは代替が難しいことだ。

通年採用を実施する米国などは、新卒などではなく、学生らは在学中ひたすら大学の課題や研究に取り組むなどして己の力を磨く。企業は学生時代に彼、彼女らが何に取り組んだかを重視してじっくりと採用活動を行う。

日本の経済界が諸外国に倣いたいというのであれば、自分たちにとって都合の良いように形ばかりを真似るのではなく、その本質に学ぶべきだ。

日本の経済界が大学教育に価値を見出さず、種もまかず、育つてもない芽をただ摘むことだけに心血を注ぐのであれば、日本の国力を必ずや削ぐことになる。日本は経済界の識見の低さゆえに早晚他国に蹂躪されつくすだろう。

一三〇周年に寄せて

平成一六年政治経済学部卒 押条 征一郎

私が大学入学つまり雄弁部に入部したのは二〇〇〇年になりますので今から二〇年前ですが、二〇年と言いますとちよつとした歴史です。

二〇〇〇年から二〇年をさかのぼれば一九八〇年ということになりますが、二〇〇〇年を境にして二〇〇〇年から二〇〇一年までの二〇年間は二度の政権交代、リーマンショック、東日本大震災と激動の時期でした。また一九八〇年から一九九九年までの二〇年も、激動という点ではそれと変わらないぐらいの激動の時期でした。日本では「五五年体制」の崩壊、バブル経済の崩壊、阪神・淡路大震災と挙げ始めますとキリがありません。

ただ世界全体について言えばその二〇年間は日本以上に激動と言えたかもしれません。いうまでもなく、ソ連邦が一九九一年に崩壊してしまい、それとあい前後して、米ソ二大陣営のあいだの冷戦構造も消滅してしまつたからであります。

しかし、ロシア人から見れば二〇〇〇年をはさんで、世の中がひっくりかえつてしまつたという意味で、前の二〇年の方が急変の二〇年であつたと思いますが、例えばイラク人の目で見れば、後の二〇年のあいだに起こつた事態のほうがより重大でしょう。イラン・イラク戦争（一九八〇年～一九八八年）や湾岸戦争（一九九一年）はあつたもののバース党政権による体制は続き、それが名実ともに崩壊したのはイラク戦争（二〇〇三年）でありました。

こう見ますと日本は前後の二〇年合わせて四〇年間にいくつかの政権交代こそありましたが、国家体制の変更・崩壊はあり

ません。よく世界からは日本のことを「平和ボケ」とも揶揄されますが、ただ上述の通り歴史を見ればいつ体制崩壊が起こらないとも限らず、次の二〇〇年がそうなのかもしれません。雄弁部出身だからとは言いませんが、私たちはいついかなる変事が起ころうとも、常にそれに対処してゆけるように、かねて平時から備えておく心構えが肝要と考えます。

冒頭に戻りますが、私は二〇〇〇年四月二日に入学の為に上京したのですが、実はこの日に当時の首相小渕恵三氏が脳梗塞で入院、さらに四月五日に国会見学に行きましたら森喜朗内閣が成立と、田舎から出てきた若造にとって政治的には驚くような出来事ばかりが続きました。その後雄弁部には入ったのは自分の意思ですが、元々政治に関心があり、上記のことについて新歓などで色々と先輩方と話させて頂き、それが面白かったこともあります。今振り返りますとやはり縁ということもあったのかなと思います。

明治から令和まで激動の時代を経て雄弁部が今なお続いているということは本当に凄いことだと思います。ただお世辞にも雄弁部で大した活動もしていなかった私がこのように文章を書いていきますのは立派な先輩方からの温かいご連絡のほかありません。僥倖ながらこの場を借りて創立一三〇周年をお祝いさせて頂きますと共に二〇年後の一五〇周年を無事迎えられますこ

とを願って止みません。

至誠にして動かざる者は未だ之れ有らざるなり

平成一六年商学部卒 鈴木 大介

多くの得難い経験をさせて頂きましたが、特に印象に残っているのは紫紺杯争奪全国学生雄弁大会の実行委員長を務めたときでしょうか。

弁士が演壇に立ち聴衆に訴える通常の形式ではなく、演台を中心に置き三六〇度聴衆に対して弁士が訴えるスタイルで行おうという新たな取り組みに対して、部員からも賛否共に多くのご意見を頂きました。

しかし、同期、先輩たちと共に一致団結して新しいスタイルでの大会を決行。最終的には大成功した経験は、社会に出た後も活かされていると思います。「至誠にして動かざる者は未だ之れ有らざるなり」これは多くの維新の志士たちを育てた吉田松陰が、その私塾である松下村塾の師弟たちに事あるごとに伝えていた言葉だそうです。誠意をもって語り、信念を持って動けば、人は動き社会は必ず変わる。

雄弁部で得た経験を活かし、地方議員として、さらには障害者の就労施設を運営する経営者として、誠意をもって語り、信

念を持って動き、地域の多くの人たちに笑顔で「ありがとう」を言っていただけのような社会に貢献をしていきたいと思えます。

真似てアレンジ―独学力

平成一六年政治経済学部卒 武田 正人

この度は、明治大学雄弁部創立一三〇周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また、諸先輩方、同輩、後輩の皆様のため努力と、関係各位より賜りましたご支援ご協力に対して、心より敬意を表し感謝申し上げます。

私は大学生活を八年過ごし現在、資格試験の予備校で合格率三%前後の「司法書士」講座を担当しております。そこで日々、受講生からの問い合わせ対応や合格者との会話で感じた資格試験に受かる人・落ちる人の特徴をこっそり教えたいと思います。

まず、受かる人の特徴として一点目は、その資格を取得したい「目的」がはっきりしている人です。なぜならば、「目的」がはっきりしていないと途中で挫折してしまう蓋然性が高いからです。司法書士試験は難関資格ですが地道な努力をコツコツ積み上げた人が合格できる試験です。「目的」がはっきりせず気軽に受験して合格できる試験ではありません。

二点目の特徴として、講師・アドバイザーの指示通りに学習する人です。学習の初期段階では試験範囲の全体像を掴むため一通り学習するまで多少わかりづらい部分や苦手な部分があっても立ち止まらないことが重要です。指示に従わず、完璧に理解できるまで先へ進まない学習方法では中々先へ進まず、やはりドロップアウトしてしまう蓋然性が高いです。

三点目の特徴として、自身のライフスタイルに合わせて学習計画をアレンジできる人です。司法書士試験の受験生は普段、仕事をお持ちの兼業受験生が多くを占め、学習時間の捻出が一つの課題でもあります。「忙しくて中々、学習が進まない」という相談をよく受けますが、細切れの時間、隙間時間を活用すれば、場所を選ばずに学習できます。フルタイムの仕事で子育てしても合格しています。時間捻出する努力怠る人は合格できません。

最後は、試験に合格できない人の特徴を一つだけ紹介します。「質問魔」の方は合格可能性が低いと考えます。それは、質問する前に自身で調べ、考えたりせず自身で解答を導きだそうとしないからです。

私は、雄弁部に所属し自分で考える力、独学する力を学ばせていただいたと思っています。これは生きていく上で必要な力であり、私の財産です。末筆ではございますが、明治大学雄

弁部の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈りいたしております。

変わりゆく社会に

平成一六年法学部卒 菱沼 靖浩

明治大学雄弁部一三〇周年おめでとうございます。このような長きにわたり活動が続いてこれたのも諸先輩方はもちろん、今も現役で活躍してくれている学生の方々のおかげだと思っています。ありがとうございます。また私もその礎の一つとなっていることに誇りを感じております。

私が雄弁部の門を叩いたのは、平成十二年になります。その頃はマクドナルドのハンバーガーが一つ八〇円、吉野家の牛丼も今より安かったと記憶しております。お金のない私たち学生からすると非常に助かる料金でした。御茶ノ水の一〇号館のボックスで、ハンバーガーをツマミにして酒を飲みながら夜通し語り合ったことも一度や二度ではありません。良き思い出の一つとなっております。

しかし徐々にセキュリティが厳しくなりボックスに泊まるなんて言うこともできなくなりました。その頃、千代田区では全国で初めて路上喫煙が禁止になり、飲酒運転も厳罰化が徐々

に進んでいき、世の中が窮屈になっていくことを感じておりました。当然、雄弁部でも議論の対象となったのを記憶しております。

そして二〇年後の現在、路上喫煙、飲酒運転どちらも議論にならないほど一般社会に受け入れられており、普通になりつつあります。路上喫煙の議論は飲食店での原則禁煙化という形に姿を変え、飲酒運転は自動車だけでなく自転車にも同様の考え方がすすみ、東京都では自転車の保険加入が義務付けられるなどそれに向けた布石が打たれていると感じております。そしてこの考え方も既に社会のコンセンサスを得られている状態ではないでしょうか。

このように今考えられている普通や当たり前と知っていることはテクノロジーの発展も手助けとなり刻々と変化していくのだと考えております。確かにこれによって住みよい社会が実現されていくと思います。しかし私が雄弁部で学んだのは今ある常識、それが必ず正しいとは限らない、そこには反対意見があり、きちんとした議論をすることが大切だということです。私は社会に出てからは先の時代を見据え、それらの変化に順応していくという考え方になってきており、それが正しいのかというところは考えなくなってきましたと感じております。

南上先輩より本寄稿文の依頼を頂戴したことは、同時に今一

度、雄弁部で学んだことを生かす機会を頂戴したのだと思っております。また皆さんと語り合えれば幸いです。勿論、飲食店で酒を酌み交わしながら。

春の夜の夢

平成一七年文学部卒 堀之内 毅

宇多田ヒカルのtravelingが勢いよく流れる深夜のドンキホーテ、新大久保。なぜか雄弁部を思い出すといつもその風景が蘇る。二〇〇一年、二〇歳の自分。漠然とした希望や不安、願望。未熟と成熟の間の青春の地点、その中心は私にとって雄弁部でした。

私は二〇〇一年入学、二〇〇四年度卒業。同期には川村裕美さんや小野雄太くんたちがいます。雄弁部に入学してすぐに、先輩と週七日のうち六日!?新宿思い出横丁の「鳥園」で夕方から泥酔する生活になり、誕生日に尋ねてくれた別の先輩のご滞在が一週間になるということもありました。オーバーナイトハイクで鬼ごろしを頂いたことや、泥酔して起きたら911だったということもありました。もちろん弁論大会のために演練をしたり研究会で発表したり、遊説したりディベートしたりという活動もありましたが、私にとって雄弁部は「活動」ではなく「生



広島での展示でのアーティストトーク



2019年に刊行した二冊目の写真集「指と星」
(リプロアルテ刊)

活」だったのだと思います。それは今でも私にとり掛け替えないものです。

通常は三年くらいで事実上引退のはずですが、私の場合四年生の最後まで雄弁部が生活であることは変わりませんでした。(他の人が書くと思いますが、まあ色々ありまして)最後の四年生の時も一年生との間は近いものでしたが、そのおかげで村松さんや鈴木くん、中田くん達との時間を持てたのも大切な思い出です。

そんな私は今、澄毅(Takeshi SUMI)という作家の名前を使い、写真を通して美術作品をつくる人間になっています。芸術家



京都伊勢丹の20周年リニューアル記念の
ビジュアルイメージを作成しました

や写真家といわれる
ものです。二〇一二
年の初めての写真集
「空に泳ぐ」を出し
たことをきっかけに
行ったパリでの展示で
agnes b.の創業者に
作品を購入され、それ
を契機にパリに移住。

二〇一九年には二冊目

の写真集「指と星」を刊行し、それがご縁で京都伊勢丹二〇周年記念のヴィジュアルに起用していただいたりしています。最近はその表紙に作品を起用していただいたことも嬉しかったです。

なぜこの方向に行ったのかといえば、もともと美術が好きだったこともありすが、何か自分の手で人生の時間を超えるものをつくりたいという気持ちがあったからです。明大を卒業し、就職もしましたが、その気持ちに逆らい難く、また行動するなら早めの方が良いと半年で辞め、目白の美術予備校で毎日石膏デッサンをする日々に入塾、翌二〇〇六年に多摩美術大学に入学しました。美術的な素養は多摩美や、一年ほど働かせて

頂いた村上隆氏の工房(Kaikai Kiki)身につけました。しかし、もつと根本的な「自分が何者で、何を成したいのか」という部分は紛れもなく雄弁部で培ったものです。そしてそれはどんな美術教育より強く私を支えているように感じます。あの泥酔しながら喧嘩したり議論した日々、不条理を楽しんでいた日々、演練や研究会、選挙の手伝い、遊説、そんな日々の中で私は何者で、何をなすべきなのかという思索をずつととしていたように思います。

それはあの新大久保腕で流れていたtravelingの歌詞が象徴するような、目まぐるしく進んで行く世界のように、それが許された雄弁部という場所は私の青春だと感じています。

作品とは何か？それはオリジナリティーの発露です。その意味で、弁論や研究発表は美術作品づくりと同じものだと私は考えています。雄弁部の卒業後のルートとして私はイレギュラーな存在だと思っています。しかしどんな場所であろうとオリジナリティーを持つことは大切だと思います。雄弁がなかったら美術家の私いませんでした。これからも前に進むために、私はあの雄弁部の日々を大切にしていきたいと思っています。

道路のはなし

平成二〇年法学部卒 中田 裕

我が母校、明治大学の和泉キャンパスは、明大前駅を出ると甲州街道の向こう側にあります。横断歩道がないため、ほとんどの学生は明大前駅から歩道橋で渡ることになりますが、これが面倒なために大学から足が遠のいた方も多かったのではないのでしょうか。この和泉キャンパスの場所は、甲州街道の側からみると環状七号線、井之頭通りと二連続の立体交差から、環状八号線との立体交差までのあいだの区間にあたります。この、いわゆる環七と環八は、都内を自動車で移動される方にとって是非常によく聞く、よく使用する道路かと思えます。そして、この道路に関しては昔から、環一から六はどうした、ということがよく言われます。東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた基盤整備に関連して、環状二号線の一部区間がまだ未整備だったとのニュースもありました。

もちろん、一から六までの環状線もあります。これらはもともと、都市計画道路としての名称で、環八であれば正式には「東京都市計画道路幹線街路環状八号線」となります。東京の都市計画道路は、放射線と環状線が骨格となり、この間を補助線が

結ぶ構造になっており、和泉キャンパスの南側を走る甲州街道は、地図上では国道二〇号と表記されますが、都市計画上では放射五号線にあたります。同じく井ノ頭通りは、都道四一三号線、補助第五三号といった具合です。道路には「甲州街道」や「井ノ頭通り」のように愛称がつく場合がありますが、環七、環八は都市計画道路名称がそのまま愛称として残ったものなのです。

もともと、関東大震災後の一九二七年に、将来の交通需要増大に備えるため、東京駅を中心として半径約一〇マイル（≒十六km）の区間に八本の環状道路を配する計画が立てられ、一九四六年の戦災復興都市計画に引き継がれました。環状一号線は、概ね皇居外周を走る道路で、一部を除き完成しています。環状二号線は、概ね外堀通りと重なり、御茶ノ水駅の対岸の道路がそれにあたります。つまり、駿河台キャンパスは、環一と二のあいだに位置することになります。環三から環六までも言い通り、不忍通り、明治通り、山手通りなどを地図で確認することができます。

しかしながら、環一から八までを現在の地図の中に見つけるのは難しいかもしれません。環状八号線は、概ね羽田空港の付近から二三区西側を縦断して赤羽まで至るところで終わり、二三区の東側では、環七が最外周を走っています。また、環五、

六も同じように概ね西側のみとなっていることから、地図の上ですべてを探そうとしても東側から数えるが見つけることはできないでしょう。

私が大学三年生になった二〇〇六年五月、環状八号線全線開通のニュースが流れました。このなかで、当時の石原都知事は完成まで五〇年かかったと発言しています。一九六四年の東京オリンピックに向けて整備が進められた環七に比べて整備が遅れていた環八ですが、一九二七年の当初の計画から七九年を経たの開通というのは、確かに遅いと感じられるかもしれません。ですが、この環状八号線は、八本の環状線のうち三番目に早く開通した路線になったのです。環状二号線の新橋から虎ノ門が二〇一四年に、築地市場の隣を通り豊洲に至る区間は二〇一八年に暫定開通し、全線開通は二〇二二年度を目指すと言われていきます。そして、環三、四、五、六に至っては、開通のめどは立っておらず、少なくとも二〇二六年までは開通しないことが決まっています。いずれの道路も、一部区間で開通していますが、まったく現道がなく住宅が密集するエリアに計画線が引かれている箇所も残っています。そのため、地図上では途中で途切れたり細くなったりしているため、やはり探すのは難しくなっています。

ですが、一九二七年、関東大震災からの復興に向けて立てら

れた計画は、いつの日かの完成に向けて、今日も進められているのです。

丸ノ内線茗荷谷駅を出て春日通りを南下すると、播磨坂という広い並木通りがあります。南北に走る春日通りから東に下る播磨坂は、片側二車線で道路中央に遊歩道が整備されている非常に広い道路です。この道路は、実は環状三号線として整備された道路なのですが、春日通りの西側に広がっている住宅街を横切る形で計画線が伸びており、この春日通り西側の区間はまったくの手つかずとなっています。このような個所では、都市計画道路にかかる建築制限のため周囲の建物に比べて不自然に低かったり、逆に交通量の割に不自然に幅員が広がったりといった特徴が見られます。はるか昔に立てられた計画に思いを馳せながら、東京の街を歩いてみてはいかがでしょうか。

今に繋がる

平成二二年政治経済学部卒 田幸 瑛輔

雄弁部、と聞くと私は煙草の香りを思い浮かべます。私が在籍していたころの雄弁部は喫煙者の比率が世間の平均と比べて異常に高く（九〇％くらいでしょうか）、部室が真っ白になっていたことがよく有ったためです。今となつては会社の飲み会

でも煙草の匂いがする機会がほぼ無くなったため、その香りがすると一〇数年前の演練や他愛のない話をしていた日々が懐かしくなります。

私が入部した二〇〇五年度は先輩方の人数が計五名と新入部員の方が多いという状況でしたが、弁論指導やSPD、夏・冬の合宿などのイベントを通じ、我々を大事に育てて下さいました。先輩方は人数が少ない分、色々な役職を掛け持ちされており、今思うと多大なご苦勞があつたものと思います。本当に感謝をしております。

また部の華である弁論大会について言うと、一年目に私は中大の新人弁論大会に出場させて頂きました。テーマは悩んだ挙句、当時から興味のあつた金融市場の活性化の必要性を選んだのですが、内容は今思えば浅い分析で少し恥ずかしくもあります。しかし、直近まで大学受験の勉強ばかりしてきた自分にとって、興味のあるテーマを見つけて分析・発表し、そして質疑を受けるという経験は実に得難いものでした。そのような経緯もあつたためか、社会人となつた今も金融市場関連の仕事に携わっています。このように、社会に対する自分の興味の在りかについて能動的に考える機会を持てるのも、この部の良いところだと思っています。

最近では部員数も我々が現役の頃より相当増えたと聞いており

ます。デジタルネイティブという言葉すら使い古されている感のある今、あえて雄弁部に入ってくる学生が絶えないことに、母校の頼もしさを感じています。一〇Bとして、今後の雄弁部と現役部員各位の益々の活躍を心から願つて已みません。

辞達の嫁まで呼び寄せてくれた雄辯部

平成二二年政治経済学部卒 田高 直也

この度は、雄辯部創部一三〇周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私が雄辯部に在部したのは二〇〇五年から四年間になります。在部中は二、三年生時に代表を務めさせて頂きました。現在は某建設会社で会社員として働いており、妻（中大辞達学会・元幹事長）と娘と暮らしております。

記念誌に寄稿させていただくにあたり、妻と在部中の思い出話をしました。曰く、「当時、明大雄辯はバンカラで、弁論大会でのヤジに非常に勢いがあり、タバコ・お酒をよく嗜んでおり、ちょっと怖かった」とのこと。（※注・当時在部していた元部員の名譽のために注釈するが、「野蠻で五月蠅い上にタバコ臭くて大酒飲み」という意味では決して無い）

当方としては、極めて紳士的かつ知的で清潔な部員が多かつ

たと記憶しておりますが、極めて遺憾ながら家庭内での意見の一致は見ませんでした。私が入部した二〇〇五年は、部員は多いとは言えませんでした（全員で一〇名）、厳しくも和氣藹藹とした雰囲気でした。ほぼ毎日部室に出入りし、タバコを吸いながら、真面目な話もくだらない話もたくさんしたことが良い思い出です。

また当時は、部員が少ないことを心配いただいたからか、合宿や懇親会等にはOBの諸先輩方が相当の頻度で参加（かつ御馳走）いただいております。その際には、部員各自のポリシーや哲学等の議論を行い、お酒の注ぎ方・飲み方・飲まれ方についてもご指導いただきました。二〇〇六年には、暫し中断されていた「紫紺杯」復活プロジェクトを目標として代表に選任されました。当時三年生の中田先輩に実行委員長に就任いただき、皆で手探り状態の中、なんとか無事開催することができたと記憶しております。

思い出話ばかりとなつてしまいましたが、一度きりの人生で、大学四年間を雄辯部員として当時のメンバーで過ごしたことは、自分自身の誇りです。また、それがきっかけで、妻と出逢えたことにも感謝して過しております。

末筆ながら、雄辯部の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

考『雄弁部の必要ない世界』

平成二二年政治経済学部卒 木下 高志

皆さんは、足尾銅山に行かれた事はあるだろうか。本冊子をご覧になられている方の大半は明大雄弁部の関係者だと思うので、詳述は控えるが、ご承知の通り、当部は当時鉱毒公害が発生していた足尾銅山への学生視察団にその発足の起源を持つ。その「問題意識」と「行動」が、大先輩を雄弁部設立に駆り立てたのであろう。では、大先輩は雄弁部設立やその後の活動により、その目的を達したと言えるのだろうか？確かに「足尾銅山の現状を見聞し、その状況を東京市中に伝える」という当初の目的はある程度実現できたのかもしれない。

では、なぜ雄弁部は一三〇年経った今も存続しているのか。それは勿論、一三〇年前の大先輩と同様、現在の明大生にも「問題意識」と「行動」が受継がれているからであろう。

しかし、本当にこれで良いのだろうか？我々は自らが抱く「問題意識」を解決する為、「行動」してきたのではなからうか？つまるところ、『雄弁部が必要ない世界』を目指したのではなからうか？

勿論、『雄弁部が必要ない世界』には二種類あるだろう。一

つは、為政者は善政を敷き、人々にはあらゆる機会が平等であり、AIや電子通信技術の発達により大半の労働は不要になり、人々は異文化や多様な価値観を受け入れ、健康で長寿で幸福で満たされた、我々が多希求する「社会正義」が実現された世界。

もう一つは、人々は政治や他者の境遇に無関心であり、自らの価値観のみが正しいと感じ、他者や自己の困窮に際しても、「それは仕方ないこと」として、他の価値観を持つ人や集団と交わる行動は不要なものとして扱われる世界。

どちらが良いか問うまでもない。しかし、今の世界はどちらの世界にも向かう素地がある事を我々は常に肝に銘じ、行動しなければならぬ。その第一歩は他者への「関心」であり、「価値観の受け入れ」という行動であろう。

心配なのは昨今の情勢である。私も福島での事故に係る仕事に携わっていたが、多様な考え方をまとめていくには膨大な時間と労力が必要となる。一方、メディア（マス・ソーシャル問わず）では、分かり易い端的な言動が人気を博し、共感される傾向がある。伝える側が分かり易くする努力は勿論必要であるが、受け手も自らが見聞した情報は事象のほんの一断面であると常々意識する必要がある。（そういう意味で、環境活動家のグレッタさんは、発展途上国の貧困層にとってはどう見えるのだろうか？）

またコロナの広がりも気がかりである。ご承知の通り、主要なイベントやスポーツ大会は中止となり、大学も休校が続いている。リアルな接触は他者に関心を持ち、相手の価値観を受け入れる第一歩であるが、それを避けざるを得ない情勢である。現役部員も日々の活動や大会をどうやって乗り切るのか頭を悩ませている事であろう。大会もネット弁論大会や青空弁論大会を考えるのか、この冊子が表に出る頃にはある程度結果が出ているであろう。現役諸君の行動を見守りたい。

最後に現役向け。野次は「寸鉄人を刺す」。長い野次は妨害行為として厳しく対処しても良いのではなからうか。他者の言動に問題意識を持つことは必要だが、『和而不同』の精神は受け継いで頂きたい。

未来のキャンプに向けて

平成三二年法学部卒 佐藤 尚孝

一〇周年記念式典に参加したときは社会人一年目でしたので、今は社会人十一年目。もはや「若手OB」といつていいかわからない年齢になりました。OB会の常任幹事に就いてからは六年が経ち、現在は現役生との窓口を担当しています。

現役担当幹事の役目は「OBと現役生の橋渡し」「古い世代（怒

らないでください」と新しい世代の溝を埋めること」だと思っています。

いつの時代も学生は、ろくな社会経験もないくせに新しいことをやりたがり、上にたてつく厄介な存在です。一方、OB側も学生の顔を見れば「俺らの頃は」「学生たるもの」と説教したがる、これまた厄介な存在です（怒らないでください）。現役担当幹事は、この二つの厄介な存在の板挟みなので、なかなか大変ですが、雄弁部ならではの醍醐味を感じることがができます。それは、大先輩とも学生とも接する機会が多いので、雄弁部の過去、現在、未来を肌身で実感できることです。

私の敬愛する本学前学長の土屋恵一郎先生は、一八世紀イギリスの哲学者デイビット・ヒュームの言を引き合いに、折に触れてこう仰います。「大学は、様々な国や地域から集まったバックグラウンドの異なる学生たちが、同じ時間と空間を共有しながら学びあう『キャンプ』である」。我々雄弁部というキャンプの場合は、この「時間と空間の共有」に加えて、「過去と未来」という時間軸の共有も加わるのではないのでしょうか。その共有する時間軸は一三〇年の長きにわたるものです。

雄弁部が長い時間を経て現在も存在しているのは、歴代の先輩方が若い世代へ繋いでくれたおかげです。そして、今の現役生が一生懸命に活動しているからです。先輩と後輩のどちらが

かけても雄弁部はありません。十一年前、私と同期の仲間たちは、先輩から託されたバトンをなんとか後輩に渡せました。そのバトンはさらに後代へと引き継がれ、今は現役生がその手に握って懸命に走っています。現役生にお願いしたいのは、どうかそのバトンを落とさないように。そして、いつかあなた達がOBになったときは、まだ見ぬ未来の現役生のキャンプを我々OBと一緒に見守ってほしいということです。

一一〇周年から早一〇年

ゝ二〇一一年以降の卒業生たちゝ

雄弁部という経歴は社会に出てどう作用するか

平成二三年政治経済学部卒 田仲 信康

表題について実体験を基に述べたい。早速であるが、以下の文章を見てほしい。

「基礎自治体が管理する道路一路線あたりの延長は、A国では五〇～一〇〇km（注）のものが最も多く（四〇％）、B国では〇～一〇kmのものが最も多い（四〇％）ことから、A国の基礎自治体が管理する道路はB国のものと比べ延長が長い傾向にある」

（注一） 区分は、〇～一〇、一一～五〇、五一～一〇〇、一〇一～一五〇（km（単位））の五区分である。

（注二） 割合は、全路線に占める当該区分に属する路線数の割合である。

前記は、後輩職員作成の書類の一文である。一見するとそれほどそのような結論に見えるが、仮にB国の残りの六〇％が五一km以上などの上位の区分に属し、A国が逆ならば、この結論とはならない。「それって本当に言える？」と考える癖がついている

のは、仕事において、随所で役に立っている。一方、口うるさいと人に煙たがられるというデメリットを感じる。人を選ばないで議論をした結果、上司・後輩に嫌われるということもあり、一年目の上司からは、「口答えが多い」と言われた。このような事態を避けるには、「何を言うか」より「どんな場面でどう言うか」を意識する、端的に行って「普段から話しやすい関係をつくって、ソフトな語り口を心がける」ことで解決するものであり、今後の私の課題でもある。

以上のように、私の性格もあるが、いわゆる「雄弁は銀、沈黙は金」と感じることは雄弁経験者として、多くが通る道ではないだろうか。しかしながら、それでも黙する必要はないと私は考える。なぜなら、我々は雄弁人である。社会に出て、建前を優先したり、大人の対応が必要な場面でも、自分の信じる社会正義を主張するという姿勢は大切にしなければならないと思う。「若いうちは尖り続けて、年を経て丸くなればいい」とは、私の尊敬する上司の言であり、その言葉を信じて、私は今日も職場で吠えている。

言論を武器として

平成二三年政治経済学部卒 三橋 和史

雄弁部に所属していた当時、私が最も楽しみにしていたのは弁論大会でした。あらゆる弁論大会において、いつも真っ先に挙手して聴衆席から質疑を繰り返すような学生でした。弁論における質疑応答は、聴衆が単に自身の持たない知識を補完するために質問する場ではなく、弁士が披露した弁論中に含まれる疑義を質す機会だと考えています。質疑する側にとつては、自身が過去に触れたことのない分野に接することも多く、その状況においていかに寸鉄人を刺すような質疑をすることができるといふことが、その能力を測る指標となるでしょう。質疑応答は、あらかじめ準備した原稿が読まれるのではなく、その場で初めて発せられる質疑とそれに対する答弁を受けて、百家争鳴溢れる議論が展開され、弁士と質疑者双方についてその真価が問われる緊張感の漂う時間であり、まさに弁論の醍醐味でした。

ところで、政界やその隣接業界には、明大雄弁だけでなく、他大学弁論部の出身者も多くいます。私が今までに全国報道でも取り上げられ解決に至った事案の一つは、早稲田大学雄弁会

出身の同世代の報道記者とともに協力して問題を追及してきたものでした。彼が奈良支局に勤務していた頃は、私も彼も阿吽の呼吸で各役割を果たしていました。私の発言は、重要部分が的確に取り上げられてニュースになる。雄弁部で磨いた社会の様々な分野における問題の発見能力と解決能力を駆使して、弁論界の友人とともにこの国のニュースを作り上げていく。そんな楽しい経験が東京から離れた奈良の政治の舞台でできることは、在学中には予想もしませんでした。

私は、卒業後一〇年近くが経過した今もなお、雄弁をしています。自身の議席を持つ奈良市議会では、言論を武器に闘っているところです。市長等が述べる説明に疑義を見出し、それを質し、よりよい政策を実現させていく。雄弁部に所属していなかったら、政治家になる道も拓かれていなかっただろうし、もし政治家になつていたらとしても、言論という武器も持たず、役に立たないお飾り議員に収まつていたことでしょう。

私は待っています。より多くの若手雄弁人が政界に進出し、もつと張り合いのある審議討論ができる時代を。

私と雄弁部

平成二四年法学部卒 眞崎 博瑛

卒業して九年が経った。結婚し、子供もできた。同期、先輩後輩も似たようなファミリー世帯が徐々に増えているし、職場で役職がついたり、仕事の重要性が増していると偶に会うと話していて気付く。家庭や職場での責任感が増したり、何より一〇年前後も働く人間性も丸みが帯びてくる。馬鹿話をしていても見えないストッパーがかかっているのがわかる。それが悪いことだとは思わない。ただ、最初から現実や自分の能力に見切りをつけ、何を話していても言い訳をしたり、どうせ何も変わらないからと、やさぐれているような方々もいる。時に夜を徹して青臭く理想や夢を語っていたあの時間は嘘だったのだろうか。それとも、卒部・卒業をしたらもう雄弁部の理念や精神は関係ないのだろうか。

各々が置かれている立場や働く場所は異なるが、その立ち位置立ち位置で感じることや、抱いた課題感に「こうあるべきではないだろうか」と常に健全な猜疑心を抱き、時に同期や先輩後輩と議論し、可能ならば実行に移す。そういった社会人になることを、雄弁部OBとして求められているのではないかと考

える。何かを為す、何者かになるのは難しい。時運もある。

しかし、何かを為すためには日頃の意識や行動が重要だ。雄弁部で身についたと思っていた、論理的思考能力だとか、人前で物怖じせず話す能力だとか、そういった物は正直大したことではなかった。よつぽど会社で働いた方がそういった力が鍛えられた。ただ、忙しく理不尽も多い日々にはただ流されるだけでなく、小さなことでも構わないから「こうあるべきではないだろうか」と常に思考し、時に行動に移せたその姿勢そのものは、私が雄弁部から学んだことだと思う。

聴衆の前に語ること

平成二五年政治経済学部卒 福田 直人

この度は雄弁部創立一三〇周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。私が在籍していた当時を思い起こすと、防衛大学校主催の弁論大会「雄叫杯」への出場と新入生勧誘の実行委員長を務めたことが印象に残っています。未熟で拙い私を支えてくださった同期、諸先輩方とは、今も変わらず交流させてもらっています。かけがえのない友人との出会いを与えてくれた雄弁部には感謝しかありません。

現在、私はインターネットを活用したマーケティングに携

わっており、パソコンやスマートフォンを通じて数万人の顧客に情報発信をしています。デジタルなツールは極度に効率的です。しかし、弁士が聴衆を前に説得する「弁論」が持つ重みをデジタルではまだまだ実現できないと感じています。生身の人間が、人間に訴えかけることで生まれる力は必ず有り、その熱が雄弁部、ひいては弁論が長きにわたり続いた源泉なのだろうと思います。

デジタルな世界では、時に人間を相手にしていることを忘れてしまいます。しかし、人間が人間に伝えることに変わりはありません。情報発信に携わる者として、真摯な姿勢で言葉を伝えた弁論の経験はとても貴重でした。時にはこの経験に立ち返り、弁論が持つ熱を少しでもデジタルで表現できるよう向き合っていきたいと思っています。

雄辯部で思うこと、今考えること

平成二六年法学部卒 倉林 正弥

未だ平成の頃、現役雄辯部員の時分。論理的な文章構成や伝わり易い声調について学んだり、様々な見識を深める為に先輩諸兄に教えを請うたりし、「説得力」ある言葉こそ相手の心に響き行動を促すものであると考え日々研鑽錬磨していました。

現在私は証券会社で働いています。個人法人を問わず、各種金融商品の提案・販売・仲介を行い、関連する情報を提供する業務に携わっています。雄辯部で培った、収集した情報を論理的に伝えるノウハウは、現在の業務にも様々な場面で役に立っていると思います。仕事で様々な人と接し話す中で、雄辯部現役当時では気付けなかったことも解る様になりました。多数ある中でも特に重要であると私が思うことをこの場をお借りして記そうと思います。

それは「説得力」だけでは人の心を動かし行動を促すには不十分であり、さらに言えば「納得」しても心や行動を変えるには到らない、ということです。当然と思われるかもしれませんが、老若問わず伝える側、聞く側に理解されている方は少ないのが実情です。勿論、何かを伝え行動してもらおうとするとき、前提として「説得力」は必要不可欠です。それに加え、相手や状況次第で「情動」に訴えたり「共感」を求めたりすることが必要となります。それを理解せず「真理」や己の「正義」を論理的に構成し「説得力」充分に言葉を振りかざす暴力的な方も少なくありません。暴力的で強固な説得力を持つ言葉は時に強い反発を生みます。互いにとって良い結果になるはずがありません。

「説得力」に加える要素は様々ですが、相手のことをよく知り、

「慮る」ことが最も重要であると思います。己の論を通そうとして相手が見えなくなることはままありますが、相手を観る余裕を持たなければなりません。自戒も含め書き記す次第です。

雄辯部は創立一三〇周年を迎えます。この様な視点を与えてくれたのも雄辯部であり、現役時代のみならず卒業してからも変わらずご指導ご鞭撻を賜る先輩諸兄の御陰です。令和の時代、雄辯部が優秀な後輩により末永く益々発展することを祈念いたします。

政治は、遠い。

平成二十七年政治経済学部卒 峯森 徹

私は、平成二十七年に大学を卒業し、雄弁部を卒部した。今では結婚し、二児の父となっている。選挙区の選出議員も、衆院は流石に分かるが参院になると自信がない。ましてや、都議会、区議会になると投票した相手を思い出すのも一苦労だ。その名前を意識するのは、投票直前に選挙公報に目を通すときか、あるいは当日の投票所。その上、気がついたら投票した議員が週刊誌に叩かれ、大臣を辞職していたりする。

それでも、政治はそこにある。国交省が消費促進策を打ち出せば、職場ではその申請に関する顧客対応に迫られる。子供が

生まれれば、自治体の待機児童数を気につけて、役所の書類に目を通し、保活に励む。最近では、コロナウィルスに対する政府方針を受け、イベントの中止や各種対応に迫られている。

雄弁部を卒部して五年。仕事と家庭の往復の日々を送る私にも、政治は何らかの形で影響を及ぼしてくる。きつと、政治に「近づこう」としていたあの頃以上に。

雄弁部の卒部生には、政治家、官僚、公務員、団体職員、その周辺など、いわゆる「政治」に近い職に就いている人も多い。しかし、比率としてみれば、大多数は民間企業に籍を置く「民間人」であろう。私も、その一人だ。

社会に出て、「民間人」として過ごす中で、政治を意識する機会は少なくなつた。少なくとも、雄弁部の現役部員であつた頃には及ばない。しかし、社会に出たことによつて、実際に受ける影響はより現実的なものになる。今、政治に遠さを感じているのは、危機感を感じるほどのネガティブな影響を受けていないからだろう。意識は遠のいていく。しかし、距離は確実に近づいてくる。私が意識を遠ざけていられるのは、ただの幸運なのかもしれない。しかし、この幸運が崩れ去つたら。政治が、望まぬ形で向こうから「近づいて」きたら。自らや、周囲の人間の平穏を脅かし、害悪をもたらすようになったら。その時には、雄弁部を通し、政治に、社会に向き合つた経験が生きるの

だろう。議論を交わし、弁舌を磨き、ときには酒を酌み交わしながら語りあった日々。その中で培ったものが本当の「武器」となるのは、望まれざる有事なかもしれない。そして、それは各地で自身の持ち場を守り、日々を戦い続ける卒部生たちも同様だろう。長い歴史の中で、各地に多くの卒部生を輩出してきた意味は、そこにあるのかもしれない。

雄弁部の卒部生が、自身の、周囲の望まれざる有事に「武器」を手にする日。今はただ、そんな日が訪れないことを切に願う。

雄弁部で学んだ事

平成二八年政治経済学部卒 桐生 常朗

私が雄弁部で学んだ事は、弁論の技術や論理的な思考力だけでない。それらを用いて、個性の強いメンバーと共に目的を共有し行動する事こそ、雄弁部でしか学びえない経験だったと感じる。

平成三十一年の春、初めての選挙に臨んだ私は、人の優しい面に触れた一方で、人と共に行動することの難しさを感じた。特に、自分の親や祖父母くらいの年齢の人と共に行動し、時には意見を戦わせる事は非常に苦勞をした。その中で、一番活きた経験は雄弁部での経験であった。雄弁部では、政治闘争的な側

面が未だあり、議論が相手を倒すまで終わらないといった終着を見る事もあった。

卒業して、しばしば非対称な関係での議論が行われるが、雄弁部ほどの個性には出会うことは未だなく、当時の議論の流れを思い浮かべながら行動することも多い。また、在学中、弁論が得意ではなかった自分だが、人前で話す機会が増えるにつけ、「雄弁たること」の大切さを実感している。特に選挙区が地方都市であることも関係すると思うが、選挙前後に毎日演説会を行う中で、聴衆の雰囲気が少しずつ変わっていき、最も重要な手法は弁論であり演説なのだと改めて実感した。ネット選挙等叫ばれる現代においても、最後は人の顔を見て説得する以外に方法はない。演説が言霊を持ち会場内に発散し、聴衆に降り注ぐという感覚は、在学中には感じたことがなかったが、今になると解る気がする。

最後に、無限に思われるほどの時間を持っていた大学時代は、自分に思考を促し、自分がどのように生きるべきか、社会がどうあるべきかを考える時間を与えてくれた。その時間は自分の一番の財産であり、その財産の大部分は雄弁部によって形作られた。数少ない武器の一つとして雄弁部での経験を活かし、各所で活躍されている諸先輩方に続けるように今後も努力していきたい。

『1911-1916』

平成二八年法学部卒 白木 晴夏

この度、明治大学雄辯部が創部一三〇周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。社会人としての期間が部に在籍していた期間を超えた今、雄辯部が自分にどのような影響を与えたかを考えながら当時を振り返っています。

入部した当時のことは本当に鮮明に覚えています。新歓ブースにいた風変わりな先輩方、案内された薄暗い部室、程なくして社会問題に対する意見を求められた時の戸惑い、初めて「同期」に出会った時の安心感、そして初めて弁論をみた時の高揚感、当時の情景全てを懐かしく思います。

それからの四年間、他の方々と違って部を引っ張ることはできませんでしたが、今でも政治や社会問題について理路整然と語れるかと言われると自信はありません。ただ、自分の頭で考え意見を持つことの大切さや、偏見や先入観に囚われることなく情報を得ることの難しさ、意図を正確に発信することの大変さ、そして環境に合わせ柔軟に変化していく必要性など生きていく上で大切なことを教えてくれたのは雄辯部です。

明大マート前の掲示板でポスターに目を止めたあの時の小さ

な好奇心が、離れて数年が経った今でも日常の出来事や感情を共有したいと思えるような温かい仲間達に導いてくれました。これは結果的に私にとってひとつの成功体験となりました。これから年を重ねる中で自分の可能性を狭めることなく、自分の好奇心に蓋をせずに挑んでいきたいと感じます。そして雄辯部のOGとして、自らの想いを自らの言葉で語りながらも相手の発言に耳を傾ける柔軟性を持った人間でありたいです。

社会に採まれ少しずつ形を変えながらこんなにも長い間部の存続に関わられたたくさんのOB・OGの皆様、そしていまこの大変な世の中で部を守ろうとしている現役の皆様に感謝申し上げます。私の大好きな雄辯部が学生や社会に良い影響を与えながら、この先も末長く発展されることを心よりお祈りいたします。

仲間としての雄弁部

平成二九年政治経済学部卒 金親 賢生

昨年、私は初めて「燃え尽き症候群」に陥った。新卒で入社した会社を辞め、昨秋から憧れていた業界で働き始めた。都心ど真ん中に引っ越し、靴もスーツも靴も全て新調した。後輩と女性の扱いは全部持ち、タクシーで見送った。語学留学のつも

りで行ったセブ島では、ビーチにクラブにと大騒ぎした。そんな毎日に、どこか満足していたのかもしれない。改めて言葉にすると本当に格好悪いと思う。だが、それまでの環境から抜け出すことだけが私の目標だった。

新卒就職から二年間半、平日は飲み会を断って資格学校へ通い、土日は遊びの誘いに嘘をつきビジネススクールへ通った。キャリアについての本を読み漁り人生について考えていたら長期休暇なんてすぐに過ぎ去っていった。転職活動が始まってからの半年間は、間違いなく人生で一番必死だった。様々な人間関係を犠牲にしまったが、どうにかして脱出してやろうと頭がいつぱいだった。

そんな、常に自分を支配していて、来る日も来る日も追い続けてきた目標が現実になり、いつの間にか心が空っぽになったような感覚に陥った。せつかく手に入れた仕事にも手がつかず、休日にも漫然と過ごすようになっていった。見栄にお金を使い、闇雲に大口を叩いた。周囲の人に横柄な態度をとってしまうこともあったように思う。そんな自分に足りなきを教えてくれたのが雄弁部の仲間だった。詳細は胸の中にしまっておくとして、まだまだ勉強すべき知識、見るべき世界、なすべき行動があることを痛感した。大切にすべきものをもっと大切にできるようになりたいと強く思った。自分なんてまだまだと実感できたお

かげで、今は心躍るような気分である。心から感謝している。言い換えると、自分にとって幸せとは「何かが欠けていること」なのかもしれない。足りないからこそ努力でき、未熟だからこそ成長でき、完成していないからこそ変われる。欠けているから可能性があり、同時に、今ある大切なものに目を向けられるのだと思う。そして自分にとって雄弁部とは、振り返るべき思い出だけではなく、自分の今と共に歩み、時に自分の知らない世界を見せてくれるながら、互いにありたい未来をつくる仲間のことである。私はこれからもそんな仲間を大切にしていきたい。最後に、寄稿すべきテーマとは大きく異なるものとなってしまったが、こんな自分を赤裸々に言語化する場をいただけたことに感謝したい。これからも大切なものを大切にできるよう、身の引き締まる思いである。

紫紺のノボリ翳し

平成二九年法学部卒 小野 竜大

春の日差し麗かな和泉キャンパスで、紫紺地に雄辯部と白抜きされた胡散臭いノボリを見つけたとき、元来より人前で話すことが苦手だった私は思わず先輩に声を掛けていました。ほんの好奇心から発した一言が、私の大学生活を、いえ人生そのも

のを大きく変えることになるとは、そのとき思いもしませんでした。

新歓企画のSPDでは個性豊かな先輩方の豊富な知識と緻密な論理に圧倒され、その夜開かれた懇親会では依然として続く愉快的同期達との繋がりができました。新弁選考会で落選したときの悔しさ、初めて弁論大会に登壇したときの高揚感、文科学杯出場のため後輩とふたり高野山まで揺られた旅路など、忘れがたい思い出を書き起こすとき際限がありません。先輩方に振り回され、同期達と肩を組んで飲み明かし、後輩達を引き摺り回した日々が今もなお鮮やかに蘇ります。

部内では和泉支部長と駿河台本部長の任を受けた一方、部外では雄辯部で出会った仲間と会社を経営していたため、両者の相反する理想や業務の板挟みとなりました。私たちの世代は、物心ついた頃にはインターネットが普及しており、必要に応じて集合知にアクセスし、コミュニケーションはもっぱらSNSを用いる、という環境で生きてきました。特にベンチャー企業では、過程よりも結果を重視し、知識よりもアイデアを重視する傾向があります。そのため、議論を重ねて問題意識を深め、弁舌をもって聴衆に社会正義を訴えるという弁論活動は、あまりに前時代的なもののように感じられました。

しかし、雄辯部で知らぬうちに培われた経験を大いに活かす

ことができたのは、他でもないベンチャー企業においてでした。皆が納得するまで熟議しなければ、組織をまとめることはできません。深い見識に基づかなければ、浅いアイデアしか浮かびません。チャットや電話では、熱意を伝えることはできません。人と人とのコミュニケーションが希薄化している今だからこそ、弁論活動はむしろその価値を増しているのだと気付きました。

雄辯部での思い出、出会った方々、得られた経験、その全てが、かけがえない私の財産です。やがて私は、学問的な知見をより深めるとともに、その知見をベンチャー企業の発展に活かす、よって社会の発展に貢献したいと考えるようになり、現在は明治大学大学院で法律の勉強をしております。高校卒業後ふらふらとしたのち、とりあえず進学して大手企業に就職しようと考えていた頃とは全く違います。振り返ってみると、私の人生を大きく変えたのは紛れもなくあのノボリでした。

一三〇年の長い歴史の中でもそうであったように、弁論活動や雄辯部の存在意義は、これからも時代の潮流の中で変化しつづけていくのでしょう。眉秀でたる若人が築く、雄辯部の更なる発展を願って止みません。

雄弁部員として生きる

平成三〇年法学部卒 戸田 幸一郎

平成三〇年度法学部卒の戸田幸一郎と申します。創部一三〇周年、誠にめでとうございます。

私は高校生の時から弁論大会に出ておりまして、大学でも弁論について勉強したいと思い入部しました。現役学生時代には代表をやらせていただきまして、弁論活動はもちろん、部の運営にも携わることができました。皆様と同じように大学時代の思い出は雄弁部であります。雄弁部という一生懸命になることのできる環境を見つけられたことは私にとっても幸せなことでした。また、雄弁部の活動から、各学術分野、人間関係など様々なことを教えて下さった先輩方、切磋琢磨し支え合った同期、忌憚なく意見を言ってくれた後輩達など魅力的な方々と出会うことができたことは私にとって宝物です。

雄弁部を離れて二年が経ちました。いま思うことは、「雄弁部員としての矜持」です。私は大学を卒業しましたが、雄弁部を卒業したとは思っておりません。「雄弁部は社会にとって有為な人材を輩出する機関であって欲しい」という代表をやらせていただいた時の理念はいまでも大切になっています。社会の事

象を多角的に検証しながら、自らの志(夢)を果たす。そうした使命の実践が、私にとって雄弁部員としての矜持です。まだまだ若輩者ではございますが、この矜持を胸に社会へ貢献したいと思います。

雄弁部の活動は、青春を謳歌するようなキャンパスライフとは程遠いものかと思えます。男臭い部室、弁論や研究の原稿の前での苦悶、野次の飛ぶ合宿、「ご馳走様でした」と店の前で絶叫する任侠映画のような光景。どれもが懐かしくて濃い。あの光景が愛おしい。そして楽しかった。こうやって雄弁部を思い出すと、明るく前向きな気持ちになることができます。社会人になったいまも、心の故郷である雄弁部があることはとても嬉しいです。雄弁部OB会事務局の皆様、そして現役学生の皆様のご尽力のおかげです。心から感謝申し上げます。雄弁部員としての矜持を胸に、これからも生きていきます。

人生の宝物

平成三二年法学部卒 桐山 勝気

この度は、明治大学雄弁部の創立一三〇周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私が雄弁部に在籍いたしましたのは二〇一五年から、

二〇一九年の四年間になります。神戸から上京して、友人はおろか知り合いと呼べる人すらいらない東京生活のスタートでした。ですがその孤独は、雄弁部のおかげで長くは続きませんでした。生まれも育ちも性別も価値観も違う者たちの集まりでしたが、決して誰も他者の考えを嘯うことなく、聞き流すこともありませんでした。私はすぐに先輩方や同期に心を許すことができました。相手に真正面から向き合い、理解しようとする。そこが雄弁部の最も良いところだと思っています。

四年間の雄弁部生活で最も印象深いのは、ある後輩の姿です。彼は私の一つ下の代で、福島県出身の部員です。彼は東日本大震災の経験を踏まえた上で、「被災地・被災者を救いたい。」という理念を持っておりました。当時演練担当補佐を務めていた私は演練担当とともに彼の弁論指導を行っておりました。弁論大会の二週間前くらいになり、原稿がほとんど完成しかけていた時、彼が悩み始めました。「自分が福島にいたのは一年前まで、被災地の今の、生の姿を知らないというのに自信をもつてこの弁論をすることはできない。」彼はそう言い、その週末福島に赴き実際に被災者にインタビューをしました。大会本番の彼の弁論は事実・経験に裏打ちされた素晴らしいもので、見事入賞を果たしました。

私は今でも彼の姿を思い出します。「知ったつもりになって

いないか?」「この前提はそもそも正しいのか?」当たり前を疑い、問題に対して真正面に向き合うあの姿はまさに雄弁部員の模範たる姿であつたと思います。雄弁部に在籍し、彼のように人に向き合う姿勢をもった方々と過ごした四年間は、間違いなく私の人生の宝物になりました。

末筆ながら、皆様とともに創立一三〇周年を迎えられたことをお祝い申し上げ、明治大学雄弁部の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

雄辯部の思い出

平成三二年文学部卒 田沼 浩太郎

新歓合宿で初めて野次を受けたあの衝撃を忘れることはないだろう。合宿所の広間は横長で、演台の前に座る先輩方が異常に近く感じられた。それまでの人生で、あれほどの近さで、面と向かって言葉をぶつけられた経験はなかった。

入部後は、先輩方の企画や弁論を見て学びながらも、苦しい思いをしていた。口下手で人前に立つのが不得意な自分は、なかなか大会に出られなかったからだ。同期が大会で活躍する中で、鬱々とした日々を過ごしていた。

秋から冬にかけての大会シーズンが終わり、いよいよ一つの

のような環境に身を置けた幸運を嘯みしめる。

弁論大会にも出ずじまいで二年生になってしまおうという頃、転機が訪れる。ある先輩の家で鍋を囲んでいる時、部屋の端で暗い顔をして座っていた自分に声をかけてくれた先輩がいた。その先輩が、イレギュラーで開催される大会に一緒に出ようと誘ってくれたのだ。お世話になった先輩は数え切れないが、特にK先輩にはどれだけ感謝しても仕切れない。

初めての弁論大会は、格別だった。講堂に響く自分の声、鋭い質問、そして演壇から見える景色。その全てが、その後の雄辯生活の糧となった。京都開催の大会だったにも関わらず多くの先輩・同期が応援に駆けつけてくれ、弁論後、会場を抜け出して先輩方と金閣寺を見に行ったこともいい思い出だ。

大学四年間で二度弁論大会に参加し、数多くの勉強会をおこなってきたが、入学当初の自分には信じられないだろう。雄辯生活を振り返り、自分と向き合い真剣に言葉をぶつけてくれた全ての人たちのおかげで、今の自分があることを実感する。SNSが発達し、面と向かって対話をする必要がないこの時代だからこそ、雄辯部の活動は大きな価値を持つだろう。時代に即して形は変わりながらも、その本質は変わることはないと信じていたい。

雄辯部は知識を溜め込むばかりのお勉強サークルではない。未熟ながらも、真剣に対話を重ねる学生のたまり場である。そ

道を歩みて

平成二七年政治経済学部卒 飯倉 一樹

明治大学雄辯部の創部一三〇年を祝し、衷心よりお慶び申し上げます。また僭越ではございますが記念誌の発刊にあたり寄稿の機会を得ました誉、その歡びを囁み縮めております。

今日に至るまで振り返ってみますと、様々な節目において雄辯部の先輩後輩そして同期諸氏に助けていただきました。「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」に飲み込まれて虎になることなく人の道を歩めているのも、偏に皆様のお陰であります。雄辯部に育てられ、今の身がある一人として今後自らの職務と職域を以って、現役生や後輩諸氏、お世話になりました皆様に還元できればと日々精進を重ねております。

さて「我が明治大学雄辯部は雄辯道の研鑽錬磨を通じてここに人間の陶冶に向かつて邁進せんとするものであります」何度となく口にした言葉です。私たちが歩んだ雄辯道の行き着く先、人間の陶冶とはなんなのでしょうか。怒号と野次の応酬の演練、幾度となく目を跨いだ議論、なかなか上がらない原稿、過熱のあまり取っ組み合いになった日々が我々に何をもたらしてくれたのでしょうか。

まだ自分の中で答えは出ていません。きつと一生をかけて陶冶していく中で、求め続けていくしかないと感じています。た

だ、これまでの歩みで考える雄辯たることは、他者を論破することではなく、共感と連帯を生み出すことではないかと私は考えます。階級や性差、宗教、人種が入り乱れる現代社会において、対立は常に付き纏う宿命です。こと政治の世界においては対立の連続です。一得一失の選択をしていく中で、様々な立場、主張、信念がぶつかり合う場面によく遭います。相手を説得して着地点を見出し、人と人をつなぐ架け橋たらんと辯の限りを尽くすことが雄辯ではないでしょうか。

言葉が人を傷つけ、断絶と争いをもたらすことがあれど、人を癒し、和解と調和をもたらすのもまた言葉であります。政治の世界の片隅に身をおく者として雄辯たらんと試行錯誤と奮励努力の日々であります。一〇年、二〇年後、もしくはその先の時代に再び寄稿の機会に恵まれたら、この答えをしつかりと書けるようこれからも研鑽錬磨を重ねてまいります。「人生の本舞台は常に将来に在り」、憲政の神様と名高い尾崎行雄翁は齡七十五歳で病床に伏す中でこの言葉を発しました。たとえば今がどんなに苦しい逆境だとしても、輝かしい将来を見据えていたその姿勢を私淑しています。三木武夫先輩と尾崎翁が見守る国会議事堂の傍でこれからも汗をかき続けます。

結びに雄辯部のますますのご発展と皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、誠に簡単ではありますがお祝いの寄稿文とさせていただきます。

雄辯部との出会い

平成二九年

情報コミュニケーション学部卒 橋本 修平

お疲れ様です。明治大学雄辯部一二四期、二〇一七年情報コミュニケーション学部卒業の橋本修平です。この度は明治大学雄辯部創部一三〇周年おめでとうございます。いちOBとして、在学当時を思い起こしながら、一三〇周年記念誌へ一文寄稿させていただきます。

歩いていたらいきなり新歓ブースに連れていかれ、何の脈絡もなく「君、TPPについてどう思う?」。そう聞かれたのが雄辯部との出会いでした。その頃の大学に入ったばかりの自分は、何をやりたいのか、どう過ごしたいのかが、漠然としていました。中学まで野球をやっていたから、野球のサークルにでも入ろうかなとか、アニメやゲームが好きだったから、オタク系のサークルに入って趣味に浸ろうかなとか。これから始まる大学生生活に胸を膨らませながらも、どこか空虚で掴みどころのない様な気持ちが自分自身を支配していました。

そんな時、たまたま通りかかった新歓ブースで先述の話をされました。TPPについてどう思うと聞かれ、自分が何と答えたのかははつきりとは覚えていません。ただ、その時自分の中で何かがパッと拓けた様な、とてつもなく大きな気持ちの高鳴

りを感じたのを覚えています。大学なんて遊んで暮らすものだ、そう思っていた自分の前に、熱く、そして高らかに、社会問題を語る人がいる。その光景に心を惹かれ、雄辯部への入部を決意しました。

今思い返してみれば、あの時、あの場所を通っていなかったら、僕は雄辯部に入っていなかったかも知れません。全く違う道を歩み、全く違う人生を過ごしていたかも知れません。ただ、雄辯部に入っていない自分なんて想像も出来ませんし、雄辯部に入ってからこそ今の自分があるのだと思っています。他では決して出会えないかけがえのない仲間にも出会えました。月並みな言葉ですが、あの時、たまたまあの場所を歩いて雄辯部の人に話しかけられたことが、僕の人生を大きく変えてくれた、そう思っています。

「君、TPPについてどう思う?」 この言葉をくれた雄辯部との出会いに、心から感謝しています。

飯倉一樹様、橋本修平様からは当初よりご寄稿いただいております。確認不足により、このような形になりましたことを深くお詫び申し上げます。

記念誌委員会委員長 南上清一郎

雄弁部OB会報

明治大学

雄弁部OB会報

第2号
発行
平成15年4月
印刷
(有)ナベ印刷出版社

新会長に日高憲三氏就任



日高 憲三
(S35政経卒)
広島県出身65歳
(旧姓岡田)
明治大学連合駿台会
専務理事
日本リック株式会社
代表取締役社長

に日高氏の第5代雄弁部OB会会長が誕生した。
任期は平成18年11月までの4年となる。

新会長の挨拶

《全員参加で楽しいOB会に》

昨年11月に任期満了になった役員改選のための本会臨時総会が去る3月7日、母校リバティタワー23階（サロン燦）において、開催された。

山下会長による議長のもと、役員選挙委員会の後藤清委員長（s31法）から新会長の選挙基準と経過が説明され、日高憲三氏（s35政経）が全員一致で推挙された事が報告された。本総会でも出席者全員の賛成となり、ここ

内閣総理大臣まで輩出した輝かしい伝統を誇る、明治大学雄弁部のOB会会長をお引き受けする事にあり、身が引き締まる思いがする。山下前会長をはじめ歴代OB会会長が築いてこられた良き伝統を受けつぎ、更に魅力溢れるOB会を目指し、微力ではあるがお役に立ちたい。
1. OB会の幹事会を一部改編し、12、13名の『常任幹事会』を設けアクティブな活動を目指し、行動を開始させたい。

2. 現在、昭和42年卒以後のOB参加が極端に少なく危機感を抱いている。その対策として年度別に幹事長又は代表経験者にその年度のまとめ役をやって貰うよう、積極的に働きかけていきたい。

3. OB会活動は、あくまで会員相互の親睦が中心であるが、明治大学及び現役部員への賛助も又規約の定める所であり、この件に対し具体的にご意見を戴きたい。又、副会長の選出は『会長の代行が務まる人』という会則に則り3、4名を構想している。更に年功OBの方々から、出席頻度の高い方、社会的貢献のある方等を中心に顧問会を構成させていただき、OB会活性化の為、大所高所からご助言を賜りたい。

人選は秋の定時総会で発表したい。
4. 常任幹事会のメンバーは別記11名を任命した。



藤原 内藤 山下

明治大学

雄弁部OB会報

第3号
発行
平成15年9月
明治大学雄弁部OB会
印刷
(有)ナベ印刷出版社

十二月の定時総会開催へ向け 「楽しく活気のある」活動を

三月に開催された臨時総会での役員改選から、早半年。来る十一月には新執行部による初の定時総会が予定されています。これを機にこの半年間を振り返り、また今後の抱負について、日高憲三会長からの活動報告をお送りします。



会長・日高憲三
S35政経卒
日本リック園社長

ごあいさつと活動報告

近年の活動状況について

皆様、如何お過ごしでしょうか。お見舞いを申し上げます。

会長をお受けして以来、若い卒業生を中心に話し合い、OB会に対する気持ち

ち、近年の部活の状況、考え方等、少しずつ理解が出来るようになってきました。

しかし現状は、昔からは想像もできない程の隔世の感があり、多少の長所はあるのでしたが、組織運営の上でグループとしての体をなしていない状況です。

私は現在、若い社員を一千名近く有しており、若者の気持ちに少しは理解できていると思っています。それにしては思想的荒廃を経て、混乱のまま、指導理念も目

的意識もなく一〇〜二〇年と経過し、OB会そのものも、その反映があり無関心と無気力が現状です。

全員が参加意識の持てる運営を

しかし、数多くの立派なOBを輩出している雄弁部OB会です。

先ず、部の再建を部長や関係者にお願いと同時に、OB会自身を楽しく活気のあるものにしてほしい。そして全員が参加意識の持てる組織運営をしたいと思えます。そのために長老・壮・青に個別的にも働きかけている最中です。現役諸君には、徹底した民主的基盤のもとに、夢の

もてる研鑽を積み、力を結集できる組織を勉強し作ること、そしてそれを実行してくることを働きかけています。

リーダーとそれを支える精神、義務と責任のあり方をお互いに学ばなければ、部活の成果はないと思っています。そこで、いろいろな面で再生をはかるべく、現部長・幹事の方と協議を続けています。

常任幹事制を設けて以来、常に会合をもち大変な努力をしていただいています。心から感謝すると同時に、皆様にもご協力とご鞭撻をお願い申し上げます。総会では、皆さんと楽しくお会いしたいと願っています。ご健勝をお祈りし、ご報告と致します。(会長・日高憲三)

- 1 OB会活動報告
- 定時総会案内
- 2 アンケート結果報告
- 3 雄弁部現役活動報告
- 4 平成14年度会計報告
- 平成15年度予算案
- 会費納入のお願い

平成15年度定時総会&懇親会のお知らせ

日時：11月22日(土)

総会 15:30~17:00

ゲスト：宝井馬琴

懇親会 17:00~18:30

会場：東京プリンスホテル(15:30受付開始)
(都営地下鉄御成門駅下車・徒歩3分)



宝井馬琴師匠

◎計報
左記のOB会員がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。
竹井博友(S一八卒)

(1) 平成16年3月発行(第4号)

平成十五年度定時総会盛大に開催



出席者全員による記念撮影も行われ、参加者に好評を博した

明治大学

雄辯部OB会報

平成16年3月
第4号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成十五年度の定時総会は、去る十一月二二日、東京プリンスホテルを会場に行われた。当日は九〇名を超える出席者となり、総会、懇親会とも大いににぎわいを見せた。

満場一致で各議案を可決

第一部・定時総会は、熊澤雄造さん(S三九政経卒)の司会で進められ、物故者に黙祷ののち議事に移り、議長に選出された日高会長からは、副会長、会計監事の選任、併せて顧問、相談役委嘱の提案がなされた。

次いで常任幹事三氏から議案説明があり、常任幹事会の活動報告・計画は中嶋幸夫さん(S三七法卒)、決算・予算は松浦章浩さん(S六三政経卒)、会計監査は平塚治さん(S三七法卒)、またOB会会則の一部改定については五十嵐邦男さん(S三八法卒)、最後に日高会長より雄弁部創立時期確定のため『検討委員会』を設置したいと提案がなされ、これら七項目にわたる議案はいずれも満場一致で可決された。

続いて講談協会副会長の宝井馬琴師匠(S三四文卒)による講演が行われたが、師匠の巧みな話術、その熱演に皆引き込まれ、アツと言う間の五〇分であった。(馬琴師匠には懇親会終了まで参加していただき、会員各位と親しく歓談、友好を深めて下さいました)

地方からも多数の参加

懇親会は定刻通りにスタート。司会には岩本健二さん(S三九法卒)が務めた。後藤清

副会長(S三一法卒)の開宴の辞、日高憲三会長の「楽しいくやりました」のあいさつで始まり、出席者最年長の藤沢邦利さん(S二六政経卒)と、若手を代表した本庄智忠さん(H一四法卒)のお二人の発声で乾杯が行われた。司会者より出席者の点呼があり、馬琴師匠の講演にあつた『成功者の秘訣』である大きな声で、一人一人「ハイ」と応酬。これで会場は一気に盛り上がりつた。

この総会のため、わざわざ地方から駆けつけてくれた会員一七名に登壇いただき、OB会への思いや自己アピール等、ひと言スピーチをしていただいた。なかでも北海道から出席いただいた伊藤幹男さん(S三七政経卒)、小原卓治さん(S四九政経卒)、こころうさまでした。

大いに盛り上がった懇親会

スピーチで元気が良かった(「声がデカかった?」)のが、山形県議の後藤源さん(S四一法卒)、宇都宮市議の鎌倉三郎さん(S四一法卒)、佐賀県議の伊東猛彦さん(S六一政経卒)。日頃の議員活動が垣間見えたことでした。東京都議の田中良副会長(S五九政経卒)も途中から参加。また、公務のため欠席を余儀なくされた富山県小杉町町長

の土井由三さん(S四〇法卒)の祝電が披露されるなど、雄弁部OB会にふさわしい熱気につつまれた。

なお、会半ば、雄弁部長の新田真章さん(S三九農卒)から部長交替の報告があり、新たに就任する小西徳應さん(S五六政経卒)から決意表明のあいさつがなされた。今回は女性会員から山野敏子さん(S三五政経卒)、山口方子さん(S四三法卒)、そして榎本紀代子さん(S五一法卒)、桐生雪絵さん(H一四法卒)が参加され、代表して山口さんが「卒業以来初めて出席したが、とても懐かしう楽しい会で、来年も是非出席したい」とスピーチ。来場者の拍手を浴びました。

大いに盛り上がった懇親会の中締めとして、鈴木俊光元OB会会長(S二六法卒)、渡部哲寛さん(S二八商卒)から激励のあいさつをいただき、続いて上岡一雄さん(S四〇法卒)の指揮で、全員が肩を組み、声高らかに明治大学校歌を斉唱、その歌声はプリンスホテルを揺るがすほどであった。

最後に、八倉泰忠副会長(S三二法卒)から、「若いも若きも一つになった素晴らしいOB会だった。来年もまた、お互い元気でおいしませよう」とあいさつがあり、盛会の懇親会は幕を閉じた。

創部は1890年(明治23年)11月に確定!!



明治大学

雄辯部OB会報

平成16年9月
第5号発行
明治大学雄辯部
OB会

前回の定時総会において承認された明治大学雄弁部創立時期確定委員会は、去る七月一五日リパティタワー二階の『サロン・ド・パリ』を会場に開かれた。出席者による慎重な検討の結果、明治大学雄弁部の創立時期は、明治二十三年一月に読売新聞に掲載された広告記事から、同年同月とすることが決まった。

委員会のメンバーは、OB会顧問から永野徳光氏(S24卒)、戸田久雄氏(S25卒)、鈴木俊光氏(S26卒)、藤沢邦利氏(S26卒)、渡部哲寛氏(S28卒)、前会長の山下英幸氏(S33卒)の六氏、OB会相談役から後藤清氏(S31卒)、石山政治氏(S33卒)、前川一郎氏(S35卒)の三氏、またOB会執行部から会長の日高憲三氏(S35卒)、副会長の八倉巻忠夫氏(S32卒)、

7月15日に開かれた創立時期確定委員会(上)と、根拠に採用された明治23年11月26日付読売新聞(下)に掲載された「学術大演説会」の記事(囲みの部分)

常任幹事の中嶋幸夫氏(S37卒)、熊澤雄造氏(S39卒)、丹羽純一氏(S40卒)、藤吉孝二氏(S62卒)の六氏、さらに雄弁部部長の小西徳應氏(S56卒)を加えた十六名。会議にあたり日高会長より、委員会議決主旨の説明があり、参考資料として(一)山下前OB会会長がまとめた季刊「明治」第一三三号(二〇〇二年一月一五日発行)、寄稿の「明治大学雄弁部物語」の創立時期に関する記事、(二)雄弁部創立八十年行事での雄弁部長高橋義臣氏の寄稿文、大幹事長松本和彦氏の挨拶文、大会役員一覧(注・昭和四三年実施)、(三)明治法律学校雄弁会学術大演説会の読売新聞広告記事(明治二十三年一月二六日掲載)が配布され、座長に渡部哲寛氏を選び検討会が開始された。

諸々議論が出された中で、昭和五二年発行の「明治大学百年の顔」に寄稿された「雄弁部の歴史について」のなかで明治四四年説を出された永野氏、八十年行事の大会役員に列せられた鈴木氏、多面的に資料を分析され明治三六年説にまとめられた山下氏、これぞこれからの「必ずしもこれにこだわるものでない」との意見が出され、加えて「学内のみならず学外に告知した演説会開催記事はそれなりに評価すべきである」との戸田氏の

明治二十三年アラカルト

明治一八年伊東博文による内閣が発足、明治二十二年大日本帝国憲法公布、明治二十三年七月第一回衆議院議員総選挙(投票率93%)。同年一月帝国議院開院式(明治天皇臨席)。同年二月山縣有朋施政方針演説、明治二十四年大津事件、明治二七年日清戦争、国家が近代化に向けて胎動している時期であり、この時局をとらえて明治大学雄弁部が「学術大演説会」と銘打って議院開院に祝意を表した様子を鑑み、まさに往時の先輩たちが「眉秀で、時代の暁の鐘を撞く」姿を彷彿させるものである。

発言も出され、渡部座長が出席者各位の意見をまとめた結果、資料(三)の読売新聞掲載の明治二十三年一月を明治大学雄弁部の創立とすることに満場一致で決定した。

この結果、平成一六年一月は、雄弁部創立一四四年となり、伝統ある雄弁部は一世にわたる年月を数え今日に至っていることになる。検討委員の皆様、大変ご苦勞様でした。

(1) 平成17年4月発行 (第6号)

平成16年度定時総会を開催



日高憲三会長のあいさつで開会した定時総会(左)に続き、笹川堯代議士による講演(右)も好評だった。



平成十六年度の定時総会は、去る十一月六日、日本工業倶楽部で開かれた。各議案の審議、採択に続き、明治大学OBの笹川堯衆議院議員による講演、続いて懇親会と盛会の内に幕を閉じた。

明治大学

雄辯部OB会報

平成17年4月
第6号発行
明治大学雄辯部
OB会

総会議事

第一部、定時総会は、熊沢常任幹事の司会で始まり、後藤副会長の開会の辞、物故者に黙祷、日高会長の挨拶の後、来賓の納谷廣美明治大学総長兼学長から「大学は、二十一世紀に対応するべく、施設の拡充、新学部の創設等大きな改革に取り組んでいる、雄弁部OBの評議員の方にも沢山いるので、共に明治大学発展に向けて努力していきたい。」という励ましの祝辞を頂いた。

議事は、日高議長のもと、中島筆頭常任幹事から平成十六年度の活動報告、十七年度の活動方針の説明、松浦会計幹事より決算予算報告、平塚会計監事より会計監査報告、五十嵐常任幹事よりOB会会則の一部改訂説明があり、いづれも満場一致で可決された。



納谷廣美学長も総会に出席

最後に、小西新雄雄弁部々長から、部活動の近況報告と、故三木武夫氏蔵書の第一弾六百点が大学図書館に寄贈された等の話があり第一部は終了した。

引続き第二部の講演に入り、自民党衆議院議員で明大OBの乾杯の音頭は、出席者最長老の永野徳光さん(S24政経卒)が務めた。永野さんは、明大の就職部長、理事を歴任した大先輩であり昭和三十年次降の雄弁部隆盛を支えた大恩人でもあります。「OB会には初めて出席したい、久しぶりに会ったOBと乾杯となった。」と挨拶され、前同同様、出席者全員の点呼

笹川堯先生より、郵政民営化を控えての政局について、議員ならではの秘話を交え、真摯に話をされた。また国会議員の日常活動や政治に取り組み姿勢などを熱弁され、質疑応答も交えて、会場は一気に盛り上がった。

講演終了後、後藤源山形県会議員をはじめ、出席地方議員の方々に登壇してもらい、一人一人先生とガッチリ握手し、政治浄化とお互いの健闘を誓い合った。

ゲストと共に盛会の懇親会

眩いばかりのシャネルア、金屏風の飾られたメインステージ、天井からは、紫紺の雄弁部の大旗が下り、入った瞬間ドキッとする位立派な会場に、身が引き締まる。懇親会の始まりだ。

司会の岩本健二さん(S39法卒)の開宴宣言に続き、日高OB会長から、新潟の地震のため来れないOBもいるが、講演をお願いした笹川堯先生も出席されているので、集まった皆さんで、ぜひ会を盛り上げて欲しい。また会場に中越地震支援の募金箱を用意してあるので、こちらもご協力をお願いしたい。と挨拶があった。

乾杯の音頭は、出席者最長老の永野徳光さん(S24政経卒)が務めた。永野さんは、明大の就職部長、理事を歴任した大先輩であり昭和三十年次降の雄弁部隆盛を支えた大恩人でもあります。「OB会には初めて出席したい、久しぶりに会ったOBと乾杯となった。」と挨拶され、前同同様、出席者全員の点呼が行われ、初参加の戸田久雄さん(S26政経卒)はじめ、若い方も若きも、雄弁部らしい、力強い「ハイ」というひき締った声が、会場にこだました。

八十余名が集う懇親会会場は、テーブルをはさんで大きな輪がいくつも出来、皆学生時代に戻った顔や声で、あの時、あそこ……という思い出話に花を咲かせていた。

地方からも多くの会員が参加、初めて参加した地方会員から、一人づつ自己紹介と雄弁部時代の思い出が語られた。

青森から参加した、前青森県副知事の山口(旧姓木村)征義さん(S37政経卒)、小瀬川明寛さん(S41政経卒)、宮城県から、渡辺信一さん(S43商卒)、高橋幸男さん(S49政経卒)他、皆さん遠路ご苦労さまでした。

特に、静岡から参加の工藤多栄子さん(S43短法卒)は、学生時代、北陸に旅行した折、富山で八倉巻先輩(S32商卒)を訪ねたところ、とても親切にしてもらい、忘れたい思い出の時のお礼を言いたい、と、照れながら登壇してもらい、ガッチリ握手し、さながら、うるるん、滞在記の再会篇という一幕もあり、大いに盛り上がった。

フィナーレは、上岡一雄さん(S40法卒)指揮による、明大校歌、部歌の斉唱による、みんなの声が揃うのか不思議な位、一条乱れぬ歌声が会場に響きわたった。

八倉巻副会長の閉会の辞で、楽しく充実した懇親会は、大盛会のうちに幕を閉じた。

雄弁部創部120周年まで5年 記念事業の成功に向け始動!!



明治大学

雄辯部OB会報

平成17年9月
第7号発行
明治大学雄辯部
OB会

当日の出席者は、OB会顧問会から永野徳光氏 (S24年) 藤沢邦利氏 (S26年) 渡部哲寛氏 (S28年) 山下英幸氏 (S33年) 新田貞章氏 (S39年)、OB会相談役から後藤清氏 (S31年) 石山政治氏 (S33年) 前川一郎氏 (S35年)、OB会執行部から会長の日高憲三氏 (S35年) 副会長の八倉巻忠氏 (S32年) 山崎国光氏 (S40年) 田中良氏 (S50年)、常任幹事から、中嶋幸夫氏 (S37年) 五十嵐邦男氏 (S38年) 熊澤雄造氏 (S39年) 岩本健二氏 (S39年) 有賀隆治氏 (S40年) 丹羽純一氏 (S40年) 千熊正憲氏 (S49年) 藤吉孝二氏 (S62年)、さらに雄弁部部長の小西徳應氏 (S55年) を加えた21名。

雄弁部創立一二〇周年記念事業の企画、構想検討のため、去る七月二一日リバイタウィー二階「サロン様」で雄弁部OB会顧問会が開かれた。出席者による活発な討議の結果、来たる二〇一〇年の明治大学雄弁部創立一二〇周年記念事業成功に向けて全国のOB会員皆で力を結集し、役割分担を決めて今から始動する事が、出席者全員の総意で決まった。

当日の議題

一 創立一二〇周年記念誌の刊行
二 創立一二〇周年記念式典
及び講演会

三 事業推進の財源確保
四 推進委員会の構成メンバー

冒頭、日高会長より明治大学史資料センター長の渡辺教授に雄弁部一二〇周年記念事業について協力を依頼した。全面的に「全面的に」の心強い回答があったと報告され、次いで中嶋常任幹事より議題について補足説明があり、討議開始となった。顧問、相談役からは積極的な発言がなされた。その主な内容は、次の様なものである。

× × ×
▼ 記念事業は実質的には雄弁部OB会が事業推進をする事になるが、主体は現役雄弁部として相互の補完体制で取り組む事。

▼ 記念事業は何をするにしても人、モノ、カネが必要となる。全国にいるOB会員に広く喧伝し、力を結集する事。

▼ 各OBが手持ちの現役時代の資料(原稿、写真、学内外活動資料等)を提供。これの収集の為、年度別に担当者を決めてやる事。

▼ 記念事業はどれだけ金を集められるかによって中味がきまらる。事業推進予算を策定し財

★★★資料と原稿を募集しています★★★

雄弁部創部120周年記念誌の刊行にあたり、掲載する資料と原稿を募集しています。現役時代の写真、弁論大会をはじめとする活動の資料、記録など、往年の活動を伝える様々な資料をお送りください。また、かつての雄弁部の姿を伝える貴重な証言を、原稿にまとめてお送りください。

送付先: 郵便番号169-0075

東京都新宿区高田馬場2-14-2 原田ビル 日本リック株式会社社長室 気付
明治大学雄弁部OB会事務局

源確保の体制づくりを急ぐ事。
十一月の定時総会において記念事業推進に伴う組織、費用の内容を提案し、同時に推進委員メンバーを発表する事。
× × ×
以上の様な顧問会の要請、提案を受けて、執行部が更なる検討を加え一二〇周年記念事業を企画する事となった。

(1) 平成18年3月発行 (第8号)

平成17年度定時総会を開催



村山富市元首相による熱のこもった講演は好評を博した

平成十七年度の雄弁部OB会定時総会が、七十八名のOB出席のもと、昨年十一月十九日、東京・新宿の京王プラザホテルで開催された。各議案の審議、採択に続き、明治大学OBの村山富市元首相による講演、そして続いて行われた懇親会と、盛会の内に幕を閉じた。

明治大学

雄辯部OB会報

平成18年3月
第8号発行
明治大学雄辯部
OB会

総会では、日高会長のあいさつの後、平成十七年度の活動報告と決算報告、平成十八年度の予算案が担当幹事より報告、提案され、全会一致で承認された。また、会長より創部二〇周年に向けての決意と全会員の協力を要請された後、二〇周年実行委員長として、永野徳光さん(S24政経卒)が推挙された。これからは永野委員長のもと、二〇周年を成功させるべく、種々のプロジェクトがスタートすることになった。

引き続き今回のゲスト、元首相・明大OBの村山富市先生が登場された。戦後政治と日本という演題で首相当時のエピソードを交え、靖国問題を中心に、先生の信条を椅子にも座らず四〇分以上にわたり熱弁された。とても八〇歳とは思えない、かくしゃくたる態度に会員は魅了された。最後に会長より、今回講演された村山先生と前回のゲスト笹川堯先生を雄弁部OB会の特別会員として推薦したい旨提案があり、満場の拍手をもって承認された。

会場を移して行われた懇親会は、恒例の出席会員の点呼の後、永野さんの乾杯の音頭で幕を開けた。今回は、京王プラザの渡辺社長が明大出身ということもあり、すばらしい料理が次から次へと出され、会員はニコニコ顔で舌鼓を打った。また平成十七年度の顕彰者として、旭日小経章を授与された片倉常夫さん(S31法卒)、「八

な、今年度の総会会場も京王プラザで、十一月十八日(土)午後一時から決定している。会員の皆様には、同期等をお誘い合わせのうえ、明大雄弁部OB会パワーを、全明治大学へ発信すべく出席者確保にご協力よろしくお願いいたします。



二〇周年記念事業 実行委員長に

永野氏を選任

今次定時総会に於いて二〇周年記念事業推進の実行委員長に永野徳光氏(S24政経卒)が満場一致で選任された。現在、明治大学雄弁部のOB会員は約五五〇名(推定)を擁しているが、永野氏は文字通り会員最古参であり、わけでも戦後の明治大学雄弁部史を熟知するお一人である事からも、そのご就任は的を得たものである。

記念事業推進の組織体制はまもなくまとめられる事になるが、その組織がどのような形になろうとも現在雄弁部OB会員として全国に散在する各位が、それぞれの立場で積極的な協力を寄せる事が二〇周年記念事業成功の鍵である。

メモリアルの二〇一〇年まで五年間、とりあえず、現在お手持の各種資料、写真はもとより記念誌に掲載する諸々の投稿を幅広く呼びかけたい。

明大雄弁部主催 紫紺杯(旧部門別)復活開催!



「紫紺杯」は、今回の開催で11回目を数える。写真左は、冒頭開会の辞を述べる法学部3年の中田裕

明治大学

雄辯部OB会報

平成18年9月
第9号発行
明治大学雄辯部
OB会



最終弁論に立つ政経学部3年村松美穂。演題は「タバコのすずめ」

伝統の紫紺杯(第十一回)が七月一日、リバティ・タワーで、六年振りに復活した。弁士は明大をはじめ東大、早大、中大、帝京大の五大学六名で、テーマは経済協力から地方、地域振興、愛国心まで幅広いものであった。質疑応答時間も約三十分あり、一方的な演説でなく、問題提起から解決策まで討議し、言葉遣いや発声、立ち居振る舞いも評価の対象とした総合的な弁論の力を競うオーソドックスな大会であった。栄冠は故郷を愛することから愛国心を育み、世界との共生という難しい問題に真正面から取り組んだ東大の伊藤宏樹君に輝いた。準優勝は経済協力における教育・人材育成の重要性を強調した早大の鶴岡鉄平君であった。大会の運営・ロジスティクスも良く配慮され、わが雄弁部と、そこに学ぶ後輩の未来に希望を見た大会であった。(同大会には日高会長と山崎副会長が審査員として参加した)

岡野加穂留

元雄弁部部長逝去

去る七月二十日、東京プリンスホテルに於いて岡野加穂留(元明治大学長)氏の「お別れの会」が開かれた。教子や学者仲間、交じり海部俊樹元首相、森喜朗前首相、土井たか子元衆議議長他多くの大物政治家が足を運ぶ等、会場はあふれんばかりの参会者となった。雄弁部OB会からも日高会長他三十名が参列。それぞれの想いを胸に献花に臨んだ。

弔辞は故三木武夫元首相夫人睦子さんを筆頭に、綿貫民輔前衆議議長、納谷廣美明大学長、長吉泉明大理事長が立ち、更に村山元首相も弔辞を寄せる等、幅広い顔ぶれによるありし日の「臨床政治学者」を偲ぶ会となった。

岡野教授を偲ぶ



明治大学雄弁部
OB会長
日高 憲三

岡野教授が、昨年夏明治大学政経学部同窓会で、「日高君お互い時間をゆつくりとて話そう」と言われ、後程電話をしますと言った別れた。あつという間に半年が過ぎ、電話をすると入院

と聞いた。それから病状が悲観的な状況になり、ついに訃報を聞かなければならなかった。先生とは長いご縁であった。意見はよく対立した。失意にも先生は反対意見を述べ失望させた。近年では、小泉政権に対する政治を打破する為、賛意を示す私に対し厳しくお叱りを受けた。私は先生も正しい自分も正しいのだと思っていた。……こんなことが正直に言えるほど先生に強い親しみを抱えてきた。岡野先生は新聞が書いたように、明治大学至上主義者であった。明大の建学の精神と理念こそが日本を救うのだと言われ続けた。母校の学長、雄弁部部長としてこのことを常に説かれ続けた。正直に言って妥協を許さぬ信念と行動が人に敬遠された面もあったと思う。しかしそれでもみな先生を心底尊敬した。先生は正毒の毒を絶対に飲まぬ高潔な人格と生活態度を貫かれた。明治大学人こそが日本を救うという信念を行動で示された一生であった。この精神は我々は常に持たなければならぬと思う。大切にしたい。そして、先生の願いであった、我々が社会で一層挑戦し活躍することを誓いたいと思う。氣にかけられ続けた母校雄弁部は、再生の緒につき力強く歩み始めている。我々は遺徳を偲び永遠に忘れることはないと思います。ご冥福を心よりお祈りします。

(1) 平成19年4月発行(第10号)

創立120周年へ向けて 日高会長 続投!

平成18年度 明治大学雄辯部OB会



明治大学

雄辯部OB会報

平成19年4月
第10号
明治大学雄辯部
OB会

雄弁部OB会平成十八年度定時総会が、昨年十一月十八日、新宿の京王プラザホテルで開催され、各議案の審議・採択が行われた。総会後、森田実氏と渡辺隆喜教授の講演後、懇親会が盛会に行われた。

総会は、日高会長の挨拶の後、議事に入り、平成十八年度の活動と決算、平成十九年度の活動計画案と予算案、そして会計監査が担当幹事より報告され満場一致で了承された。ひき続き、永野百二十周年記念事業実行委員長より記念事業推進のため、OB全員の協力をお願いしたいとの要請が行われた。

また、OB会役員の改選期にあたるため、八倉巻推薦委員長より委員会一致で、日高現会長の再選で一致した旨報告があり、総会でも、全員の拍手で続投が了承された。

この後、講演の部に移り、「日本政治の現状と未来」と題して、政治評論家、森田実先生が登壇され、日米安保条約の密約や政界の裏側等、マスメディアには出ない興味深い話をじっくりと

総会前に 顧問会を開催

定時総会に先立ち、顧問会が開かれた。来たる百二十周年に向けて永野実行委員長、日高OB会会長を軸に十名の顧問会メンバーの他、現役・OBの連携を見据えて小西雄弁部部長も加わり熱心な討議がなされた。

記念事業の内容をどうするか、それに伴って財源確保は……、組織の役割分担等幅広い意見交換がなされ、これをベースにしてガイドラインを組立てる事となった。

(十五名出席)



話された。また余談として先生が雄弁部主催の和泉祭で講演された折、現役学生の礼儀正しさに感服したとお誉めの言葉をいただいた。我々OBとしても、大変うれしいことであり、現役部員の益々の活躍を期待したいものである。

続いて「明治大学雄弁部の歴史」と題して、文学部教授、雄

弁部の推薦OBでもある渡辺隆喜先生が登壇され、雄弁部誕生の明治二十三年から大正・昭和・平成と百十七年間も続いてきた部の歴史を綿密な資料を通して話された。その歴史の重みに、今さらながら、大きな使命と責任を痛感したのである。

懇親会は、会場を移し午後三時二十分に開宴された。会長の

明治大学

雄辯部OB会報

平成19年9月
第11号発行
明治大学雄辯部
OB会

明治大学雄辯部 120周年記念事業について



実行委員長

永野 徳光

(S 24年卒)

わが国が近代国家となる明治10年(1877年)より20年代には、哲問「討論会、弁論会、法論会、講論会、修弁会、講談会」等いわゆる演説会が広く行われ、それはこのころに設立の学校(後の大学)でも「論講会、討論会、演説会、雄辯会」等が活発に行われていた。

明治23年(1890年)11月の読売新聞に次のような記事が掲載されている。

『學術大講演会：明治法律学校内雄辯会の諸氏は、帝國議會に対する祝意を表するため来る30日正午より……浅草須賀町の鷗遊館に於いて、學術大講演会開く由にて……』とある。それ以後、時代と時局の変遷とともに講演部などと呼称の変化が見られたものの、本学においての「雄

辯部」は、このときをルーツとして現在に至っております。

よって我々は、OB会顧問会並びに幹事会において、この明治23年(1890年)を明治大学雄辯部発祥の時として、120年目に当たる平成22年(2010年)に「雄辯部発祥120周年記念」行事を挙げて、過ぎし歴史のあゆみを偲び、更に将来への飛躍を期する機会にしたいと考え、実行委員会を立ち上げ記念行事に向けて着手いたしました。

OB会員各位のご理解とご協力をお願いする次第であります。



総務企画式典担当委員長

後藤 清

(S 31年卒)

○記念行事計画

- 1 記念誌・雄辯部史の発刊
- 2 記念式典祝賀会の開催
- ・期日 平成22年11月30日前後
- ・会場 明治大学リパティタワー
- ・又はアカデミーコモン
- ・参加者・招待者



財務委員長

八倉 孝 忠夫

(S 32年卒)

○実行予算計画

- 1 事務費 300,000円
- 通信、案内募金依頼などの印刷発行等
- 2 会場費、講演会等の開催、謝礼費 700,000円
- 3 記念祝賀パーティ、記念品(記念誌、菓子) @3,000×200名 600,000円
- 料理 @7,000×200名 1,400,000円
- 4 記念誌 製作、編集、謝礼 4,000,000円

(1) 平成20年3月発行(第12号)

平成19年度 定時総会を開催

雄辯部OB会総会



平成十九年度の定時総会は、昨年十一月十八日新設の明大校友会館「紫紺館」で開かれた。当日は現役部員を加え八十名を超える出席者となり、総会、懇親会とも大いに盛り上りをみせた。

明治大学

雄辯部OB会報

平成20年3月
第12号発行
明治大学雄辯部
OB会

第一部の総会は、熊澤常任幹事(S39卒)の司会で始まり、田中(良)副会長(S59卒)の開会の辞、物故者に黙祷、日高会長の挨拶に続き議事に入った。規約に則つとり日高議長のもと、中嶋常任幹事(S37卒)から平成十九年度の活動報告・平成二十年年度の活動計画の説明、松浦常任幹事(S63卒)より決算・予算の説明、萩田会計監事(H1卒)が監査報告を行い全会一致で承認された。

続いて百二十周年記念事業推進に関し、総務・企画・式典担当の後藤委員長(S31卒)、記念誌編集担当の小西委員長(S55卒)、財務担当の八倉巻委員長(S32卒)それぞれから二年後に迫った記念事業の具体的な内容説明がなされ、出席会員の理解を得た。引き続き今回のゲスト、講談協会会長の宝井馬琴師匠(S34文卒)が登場。「戦国武将に学ぶリーダーシップ」と題して五十分の熱演となった。講談界の頂点に立つ師匠の硬軟折り交ぜた巧みな話術に皆引き込まれた。講演終了後、日高会長から馬琴師匠をOB会の会員に推薦したい旨の発言があり満場一致で賛同された。(これによって村山富市元総理(S21卒)、笹川堯衆議院議員(S31卒)、渡邊隆喜明大文学部教授(S34卒)に次いで四人目の推薦会員が誕生したことになる。)

明治大学雄辯部OB会総会



会場を移し定刻通り懇親会が始まった。今回の司会は岩崎博(S47卒・NHK)さんが司り、恒例となった全員点呼が行われ最古参OBの斉藤義夫(S25卒)さんから若手OBの本庄(H14卒)さん、釘島(H14卒)さん迄、「ハイ」と言う力強い声が会場に響きわたった。一気に盛り上った所で乾杯の音頭に立ったのが鈴木俊光(S26卒)さん。戸田久雄(S25卒)さんと並び百二十周年事業の最高顧問として尽力されており、その成功に向けての挨拶をされ乾杯となった。宴なかば、田中耕太郎(H13卒・中央区議会議員初当選)さん、後藤源(S41卒・山形県議最古参)さん、土井由三(S40卒・富山国際大学教授)さん、國松誠(S61卒・神奈川県議会議員)さんそれぞれか

120周年へ向け着々と!

雄辯部OB会報

平成20年9月
第13号発行
明治大学権務部
OB会

記念史編纂委員会報告



記念史編纂委員会
委員長 小西

本委員会では、昨年秋に開催された総会で委員長が交代して以降、本年8月末までに5回の委員会を開催しました。その中で、記念誌編纂委員会であった名称を記念史編纂委員会に改めるとともに、1月に実施したアンケート

尚、資料・写真の貸出しをお願いしたところ、多くのO Bの方からお送り頂きました。厚く御礼申し上げます。

しかし、まだまだ資料が不足しておりますので、更に多くの資料をお送り頂けますよう、度々で恐縮ですがお願い申し上げます。

編集委員会が責任を持って保管し、作業終了後にお返しいたします。

I. 編集理念

「世論ではなく、雄弁でなくてはならない」を旨として歴史を刻んできた明治大学雄弁部の、学生雄弁界のリーダーとしての自覚とその歩みを明らかにする。

II. 体裁(案)

具体的には、学生の地位や意味が社会的に变革しても、普遍的に流れる明治大学雄弁部のリベラルな空気と、あくまで言論で時代を先駆けてきた歴史的価値を物語る。

(7)

1 タイトル 和而不同

—明治大学雄弁部120年の歩み—

2 版型 B5判 横組み 上製本 40

3
5
0
0
0
0

Ⅲ. 目次(案) ※骨格部分のみ

第一部 通史

I
戰前編

日高OB会会長

大学常勤理事に就任

学校に人明治大学は本年3月末に評議員会を開催し、理事長に校友の長堀守弘氏（昭21年文学卒、㈱ナガホリ代表取締役社長、学長に納谷廣美法文学部教授（再任）の就任を決定。理事九名も選任され、4月1日付けで新理事会が発足した。（任期は4年間）

そのなかに、雄弁部OB会会長日高憲三氏が常勤理事として選任され、校友会・広報戦略・ヒューマンネットワークを担当し、大学経営の重責を担う事となった。今後一層の活躍が期待される。

昭和35年政経学部卒業、日本リツク（株）代表取締役会長、平成16年2月評議員（現在）。



三 高 日

常勤理事就任にあたって

本書の直面している多くの課題は百二十七年の歴史上最大と思えます。この時にあたり学長方針「トップ・スタール」を強力に進めなくてはなりません。叙智を集め「集中と分散」優先順位を決定し、断行することになっています。

今、大学間は激しい競争を展開していますが、その一つが大学のブランド力を高めることがあり、ブランド力を世に発信し、

内外に良質な繋がりを構築し、展開することは最重要課題の一つです。

教員の質等ソフト・ハードの学
内の充実と、卒業生の社会的貢
献・学生父母の大学への認識等
であり、校友会、父母会（特
に卒業生が活躍している各
企業、団体等）とのヒューマン
ネットワークを新しい視点から
構築することが広報戦略の中心
課題と考えます。起業・共同
研究、人材育成、地域連携等、
多く提案を相互に行い、新時
代に対応した関係とシステムを
構築しなければなりません。

教育、研究者が広く学外に発
信し、行動していくことが大学
の発展に不可欠であり、明治大
学人すべてが、明大の広報人であ
ることが広報戦略上の最大の
戦力であることは言うまでもあ
りません。そのための努力をし
てゆくつもりです。皆さんの御
理解をお願い致します。

(1) 平成21年3月発行(第14号)

平成20年度定時総会を開催

明治大学

雄辯部OB会報

平成21年3月
第14号発行
明治大学雄辯部
OB会

3年明治大学雄辯部OB会総会



平成20年度の雄弁部OB会定時総会は、昨年11月16日明大校友会館「紫紺館」で開催された。当日はOB・現役併せて70名の出席のもと各議案の審議、採択に続き、政治アナリスト伊藤淳夫氏による講演、続いて懇親会と盛会の内に幕を閉じた。

政経2年
事になり、
論を聴く
現役部員
環として
交流の一
現役との



第一部の総会は熊澤常任幹事(S39年卒)の司会により田中(良)副会長(S59年卒)の開会の辞、物故者への黙祷、日高会長の挨拶に続き議事に移った。規約に則つとり日高議長のもと、中嶋常任幹事(S37年卒)が平成20年度の活動報告・平成21年度の活動計画の説明、会計担当の松浦、監事の平塚・萩田欠席により丹羽事務局長(S40年卒)が代行して決算・予算の説明、並びに監査報告を行い、全会一致で承認された。



部に移し第三
部の懇親
会場を
あつた。
50分に亘
る熱演で
使しての
経験を駆
な知識・

成田萬憲君が「地方自治体の監査・行政指導について」と題し弁論を展開した。終始真摯な弁論はそれなりに新鮮で出席者から好感を持たれ、今後も続ける事になった。(成田君は拓大総長杯争奪弁論大会の優勝者) 第二部の特別講演は「流動化する日本政治の行方」と題し、政治アナリスト伊藤淳夫氏が登壇。政権交代か、政権再編か、今最も関心の高いテーマについて永田町の裏から表からの豊富



会が始まった。今回の司会は田中耕太郎(日13年卒、中央区区会議員)さんが司り、冒頭全員立呼による「ハイ」と言う力強い声で会場が一気に盛り上った。参加者を代表しての乾杯の発声は藤澤邦利(S26年卒)さん。OB会の重鎮として常に存在感を示しており、会場を揺がす一発声であった。宴なれば、次期衆院選立候補予定の森山浩行(日7年卒)さんが挨拶。アチコチから「頑張れ」の激励が飛んだ。山形県議の後藤源(41年卒)さんから「来年の校友会全国大会は山形開催である。万全の体制で準備中」との挨拶あり。

総会初参加・大阪の津田

明治大学

雄辯部OB会報

平成21年9月
第15号発行
明治大学雄辯部
OB会

新実行委員長に

鈴木俊光さんご就任

プロフィール



山梨県出身。昭和二十六年明治大学法学部卒業。二十歳で司法試験合格。昭和二十八年弁護士登録、明大法学部長、東京地裁民事調停委員、協会幹事、日本賠償科学会理事長等を歴任。平成十三年最高裁判所長官賞受賞。現在、弁護士、長泉院住職(都留市)、都留文科大監事など。教授時代は人情味と卓越した講義(民法)に定評があった。司法試験の受験指導にも尽力され多くの学生を法曹界に送ってこられた。

去る3月、永野徳光さん(S24政経卒)が逝去された。平成17年に雄弁部創立120周年記念事業実行委員会発足と同時に実行委員長に就任、雄弁部の将来展望を見据えた記念事業成功に向けて、現役OBを開かず雄弁部関係者のリーダーとして牽引の最中であつた。

(永野さんのプロフィールは「雄弁部OB会報第9号OBの横顔」同じく第11号に於ける「120周年記念事業について」の一文を再読の上、ありし日の永野さんをお偲び下さい) 記念事業の開催も後1年を残すだけとなり、5月21日

明治大学リパティタワー23Fサロンの際にて実行委員長就任を主たる議題とした顧問会が開催された。当日の出席者は、OB会顧問の鈴木俊光(S26法卒)、渡部哲寛(S28商卒)、斎藤直(S28政経卒)、山下英幸(S33法卒)、OB会相談役の後藤清(S31法卒)、片倉常夫(S31法卒)



石山政治(S33文卒)、山口みつ子(S34法卒)の8氏、執行部から日高憲三OB会長(S35政経卒)、八倉巻忠夫副会長(S32商卒)、田中良副会長(S59政経卒)、常任幹事から中嶋幸夫(S37法卒)、熊澤雄造(S39政経卒)、丹羽純一(S40商卒)の他雄弁部部長小西徳應(S55政経卒)の各氏。

日高会長より人選方法について語ったところ、出席者から「会長一任」の意見が出され、改めて日高会長より現実行委員会最高顧問の任にある鈴木俊光さんをお願いしたい旨の提案が出され協議の結果出席者全員の賛同を得て新委員長に鈴木俊光さんの就任が決定した。

併せて実行委員会もメンバーの入替等を行い、来年度に迫った各種記念事業成功に向けて活動に邁進する事となった。

更に、これ迄の記念事業推進状況について総務・企画・式典委員会の後藤委員長、財務委員会の八倉巻委員長、記念史編集委員会の小西委員長それぞれから説明があり顧問会を終了した。

永野徳光先輩を偲ぶ

鈴木俊光

永野先輩は、徳光さんと呼ばれていたが、正式には徳光先輩とお呼びするのである。

雄弁部の古い先輩で、大学の理事をしておられた千葉県那古船形出身の石井林之助氏の関係で明大の職員になられたとうかがっている。昭和二十一年に大学の職員となられたと同時に政経学部専門部から学部に進まれて昭和二十四年三月政経学部を卒業された。翌月には大学の職員で書記に就職され、以来平成四年に定年退職されるまで一筋に明大のため働いてこられた。

この間、総務、就職、広報、学生の各課の課長、生田校舎事務長、生田校舎事務部長を務められ、昭和六三年から平成二年までは理事として、また、その間には評議員も務められた。

日高憲三雄弁部OB会長が五十六年前に最高意思決定機関として顧問会議を発案、設置され、平成十七年に雄弁部創立一二〇周年記念事業実行委員会が発足するや、最長老であり、大学の内部に通じておられるということから実行委員長をお引き受け下さり、ご活動下さっていたが本年三月二〇日午前三時三十分病氣のためその生涯を了えられた。行年八十四歳であられた。

先輩は、真面目な、遠慮深い、おとなしい性格で、ご自分から名乗り出て役職に就こうというようなことは決してなさらないお方であった。

私が昭和二十三年四月に和泉から神田の方へ進学し、記念館四階の部室へ入部の挨拶に伺った時は、幹事長は二十五年卒の戸田久雄先輩であられ、永野先輩は最上級生であられた。したがって、雄弁部でのご指導を受けるより、卒後、私も大学に就職したことから学内での先輩後輩としての御交際を頂いた方がはるかに多年であった。今も先輩のかすかに笑みを含んだお顔が偲ばれる次第である。心からご冥福を祈念申し上げます。

合掌

(1) 平成22年3月発行(第16号)

平成21年度 定時総会を開催

子雄辯部OB会総会



長堀守弘明治大学理事長の講演

明治大学

雄辯部OB会報

平成22年3月
第16号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成21年度の雄弁部OB会定時総会は、昨年11月21日に明大校友会館『紫紺館』で開催された。当日はOB・現役併せて80名の出席となり、各議案の審議・採択に続き、学校法人明治大学理事長の長堀守弘氏による講演、続いて懇親会へと移り、盛会の内に幕を閉じた。

第一部の総会は熊澤常任幹事(S39卒)の司会により田中良副会長(S59卒)の開会の辞、物故者への黙禱、日高会長の挨拶に続き議事に移った。規約に則つたり日高議長のもと中嶋常任幹事(S37卒)が平成21年度の活動報告・平成22年度の活動計画の説明。松浦常任幹事(S63卒)が平成21年度の決算報告・平成22年度の予算説明。平塚監事(S37卒)が会計監査報告を行い、採択の結果全会一致で承認された。

続いて一年後に迫った120周年記念事業に関し、鈴木俊光実行委員長(S26卒)が挨拶に立ち、次に総務・企画・式典担当の後藤委員長(S31卒)、記念史編集担当の小西委員長(S55卒)、財務担当の八倉委員長(S32卒)がそれぞれから推進状況の説明、併せてOB会員各位への力強い協力要請が出され理解を得た。

前年に続き現役部員による弁論は、『創造的な世界へ』と題し真崎博英君(法2)が登場。「更なる研鑽が望まれる」とはOBからの感想であった。



鈴木俊光実行委員長の挨拶



斎藤直氏の乾杯発声

頼れるOBである。懇親の輪がたちまちで出来たところで、最古参の戸田久雄さん(S25卒)から最若手の村松穂美さん(H20卒)まで全員点呼となり、一気に盛上ったところで衆院初当選の森山浩行さん(H7卒)が挨拶。祝意の激励がとんだ。

小西雄弁部部長の挨拶に続き20名の現役部員が自己紹介。会場のアチコチから叱咤・激励が飛んだ。続いて久しぶりに参加の伊東猛彦さん(佐賀県会議員・S61卒)が出て、『明大節』の熱演となり出席者の大合唱となった。

フィナーレは上岡一雄さん(S40卒)が、心のこもった挨拶で会場を束ね、全員が輪となって校歌・部歌の斉唱となった。

最後に有賀隆治副会長(S

明治大学雄弁部創立120周年記念の集い開催

明治大学

雄辯部OB会報

平成 23 年 2 月
第 17 号発行
明治大学雄辯部
OB会



昨年十一月二十日明治大学アカデミーコモンに於て『雄弁部創立120周年記念の集い』が開催された。当日は全国から馳せ参じたOB会員百六十名、現役部員四十名、更には大学関係者、校友会、評議員会、連合駿台会等の来賓三十名併せて二百三十名の出席となり、記念式典の後、雄弁部OB会最高顧問・村山富市元首相による記念講演が行われた。続いて祝賀会となり百二十周年の集いに相応しい大変な盛り上がりとなり幕を閉じた。

記念式典



グリークラブによる校歌独唱

第一部記念式典は熊澤雄造常任幹事(S39卒)の司会で開始された。冒頭明治大学グリークラブ残間賢人君による明治大学校歌独唱、次いでこの集い直前に逝去された渡部哲寛さん(S28卒)安田正幸さん(S37卒)をはじめ物故会員に対し全員で黙祷した。



鈴木俊光実行委員長

続いて長堀守弘理事長、納谷廣美学長より祝辞を戴いた。「本学は明年創立130周年を迎えるが雄弁部が120周年というのは大学



後藤清式典委員長

れた。

次いで日高憲三OB会会長(S35卒)が「幾多の優れた人材を輩出してきた明治大学雄弁部の伝統を更に

確かなものにすべく現役・OBを問わずしつかりしたプレゼンテーションを磨き挑戦する雄弁部として前進・発展を誓う」との挨拶があった。

が建学して十年足らずで雄弁部が発足しており文字通り雄弁部は本学と共に時代を築いてきたものである。本学は今まで以上に国際化政策を強化し、世界に通用する人材の育成に努めるべく施設の整備の渦中であり、雄弁道に在る皆様にはその尖兵として活躍願いたい」旨の話があった。

引き続き、一八九〇年の創立としてその創成期から「雄弁部史」を纏められた渡邊隆喜明治大学名誉教授に「雄弁部の歴史を辿る」と題



司会の熊澤雄造常任幹事



日高憲三OB会会長

平成23年度 臨時総会 山上新会長 就任!



山上新会長の就任挨拶

平成二十三年年度の雄弁部OB会臨時総会は、本年八月二十日(土)に明大校友会館「紫紺館」で開催された。昨年十一月に雄弁部創立120周年記念大会が開催されたので、今回は臨時総会として、創立120周年記念事業会計報告と昨年できなかった平成二十二年年度決算報告と二十三年年度予算の件および新会長選任の件、合わせて雄弁部現役部員の優勝弁論を実施、宝井馬琴師匠の講演会と懇親会が持たれ、盛会の内に終了することが出来た。

明治大学

雄辯部OB会報

平成23年11月
第18号発行
明治大学雄辯部
OB会

第一部の総会は田中耕太郎幹事(日13卒)の司会により、物故会員への黙祷のあと八倉巻忠夫副会長(S32卒)の開会の辞のあと日高憲三会長の次のような挨拶があった。

「暑い中をこ多用の折、お越し頂きましてありがとうございます。三木武夫先生の墓参りがら現地であ波踊りを長時間やらされ、大分上手になりましたが、もう三日経つのにまだ疲労が抜けません。明治大学130周年を迎え大きな行事をやることになっています。11月4日三木武夫シンポジウムが開催されます。小西雄弁部部長が司会責任者で実施されます。」

当初、臨時総会開催は4月頃の予定でしたが、東日本大震災があり、やむなく延期され会長の任期も切れていた訳で遅くなりました。申し訳なく思っております。昨年11月の120周年記念大会でも確認しましたように、雄弁部の人材を輩出して、大学理事長・学長からも大きな期待がかかっています。皆さんと共に明るい未来に向けて邁進して参りますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りたい。」

引き続き議事に移り、規約に則り日高議長のものと松浦章浩会計幹事から平成22年度の決算報告と23年度予算案の説明があり、萩田真己会計監事が会計監査報告

22年度及び120周年
記念事業決算報告

引き続き新会長の挨拶があり「私が重責を果せるか心もなと思います。明大雄弁部に対する情熱や愛着心は誰れにも決して負けない自信があります。OB会員の相互交流促進と現役部員へのサポート活動を強化し

告を行い採決の結果全会一致で承認された。



八倉巻忠副会長



鈴木俊光実行委員長

特別講演と学生優勝弁論
講師は当雄弁部OB会の推薦会員でもあるおなじみの宝井馬琴師匠。今回は「戦国武将とその女たち」と題し、師匠の講談界に入つたいきさつや苦学話、講談の特長やハリ届の使い方なども詳細に説明された。お江は3回目の結婚で將軍秀忠は側室を持ったなかった。「よほど怖かったのかも」あるいは「やきもち焼きたったのかも」との話あり、最後は山内一豊とその妻、出世の馬揃いの本調子が聞けた。



宝井馬琴師匠

第三部懇親会では釘島良藏幹事(日14卒)の司会で、いつも眞田出席者全員の点呼で始まり眞田隆、森隆一、宮本勝利、後藤源各氏から挨拶あり、上岡一雄氏の指揮で部歌・校歌斉唱、最後に有賀隆治副会長が閉会の辞を述べ、滞りなく全てを終了した。

(3・4面に写真)

明治大学

雄辯部OB会報

平成24年4月
第19号発行
明治大学雄辯部
OB会

新春のつどい開催

講演 笹川 堯 先生

二月十八日(土) 午後二時から紫紺館五階にて、雄弁部OB会「新春のつどい」が開催された。

開会の言葉が実行委員長飯田雅一氏からあり、山上雅隆会長の挨拶があった。

「本日は、見識のある、長い政治経験に基づく洞察力の深い発



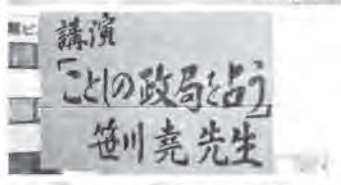
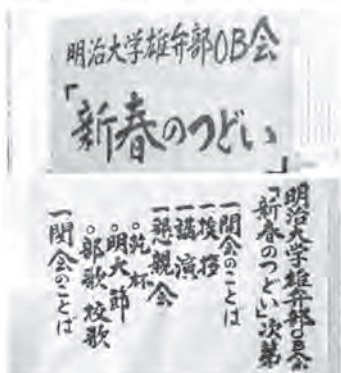
笹川 堯先生

言でマスコミの注目を集め、国務大臣・科学技術庁長官、自民党総務会長を歴任され、政界で重きをなしています。笹川堯先生を迎え、今年の政局を占うという演題で、お話を伺うことになりました。

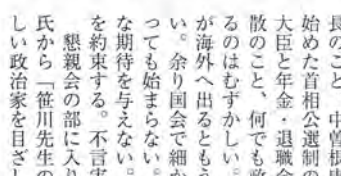
講演の部に入り、笹川先生から概略次のようなお話を頂いた。「沈黙は金、雄弁は銀」と言われている。余り早口でしゃべ



山上雅隆OB会長



戸田久雄氏 日高憲三前OB会長 飯田雅一実行委員長



伊東猛彦氏 後藤 源氏 小林一光氏

大学の役員決定 日高憲三氏

(前雄弁部OB会長) 新理事長に



日高憲三氏

三月二十九日学校法人明治大学は、評議員会を開催し、理事長に雄弁部OB会前会長の日高憲三氏(昭和三十五年政経卒、前経営企画担当常勤理事)、学長に福宮賢一(商学部教授の就

任を決定。理事九人も選任され、四月一日付けで新理事会が発足した。監事にはOB会副会長の有賀隆治氏が選任された(六月一日付)。任期はいづれも四年間。



も日本の指導者の一人であるように、皆さんで頑張ってください。その後、懇談に入り、戸田久雄氏から「声かけして若い人に伝えていって皆さんで集まってほしい」。又佐賀県議員で校友会副会長になった伊東猛彦氏、

(1) 平成25年4月発行(第20号)

明治大学

雄辯部OB会報

平成25年4月
第20号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成24年度 定時総会を開催



日高憲三 明治大学理事長の講演

平成24年度の雄弁部OB会定時総会は、去る11月10日(土)に明大校友会館「紫紺館」で開催された。各議案の審議・採択に先がけて、学校法人明治大学理事長の日高憲三氏による講演が行なわれ、続いて議案審議、懇親会へと移行し、盛会の内に幕を閉じた。

第一部の総会は岩本健二統括幹事(S39卒)の司会により15時30分から始まり、開会の辞をOB会会長山上雅隆氏より次の通りあった。

「私たちの明治大学雄弁部は、一昨年の創部120周年を経て早や2年、こしは創部122年目になります。本日、平成24年度の定時総会は、村山富市元内閣総理大臣、日高憲三明治大学理事長をはじめ、多くの皆さんをお迎えしてこのように盛大に開催されることとなり、感懐この上なく、厚く御礼申し上げます。さて、私たちは、かつて学生時代に雄弁部活動に励んだ者として、家庭・会社・社会その他いろいろな集団の中で、コミュニケーションの手段としての雄弁術はいかにあるべきかについて、これまで絶えず考えてまいりました。

雄弁術とは、「公衆の前で、明確かつ論理的に自分の意見を開陳して人々の心をとらえ、意図する方向に駆り立てる技術」ということができるでしょう。しかし、私たちは口先だけのいわゆる「口舌の徒」であってはなりません。真の雄弁家は、深い教養と徳性に裏打ちされています。

「理事長になって笑顔が少なくなりました。厳しい顔つきで元気がない」と言われることがあります。立场上そうせざるを得ない面もあり、ご理解願いたい。八幡山グラウンドの売却に関しての東京都環境アセスメント対応の結論がまだ出ていないので、今後の方針・計画がまだ未確定な部分があつて、もう暫らく時間がかかると思われる。田中真紀子大臣が発言したが「大学の経営も少子化時代を迎え、数年の内には吸収、合併をふくめ半数に減るとの話は、まづ間違いないことと思われる。明治大学は将来とも発展しなければならぬが、現在どうしても取り組まないといけない課題もあり、研究と経営方針も明確化していかねばならぬ。職員へのアンケートの結果、70%を超える人が「高給で優遇されている」と感じている。皆んな一生懸命頑張っているが、貢献していない人もいるのは問題である。大



山上雅隆会長の開会の辞



司会の岩本健二統括幹事

「理事長になって笑顔が少なくなりました。厳しい顔つきで元気がない」と言われることがあります。立场上そうせざるを得ない面もあり、ご理解願いたい。八幡山グラウンドの売却に関しての東京都環境アセスメント対応の結論がまだ出ていないので、今後の方針・計画がまだ未確定な部分があつて、もう暫らく時間がかかると思われる。田中真紀子大臣が発言したが「大学の経営も少子化時代を迎え、数年の内には吸収、合併をふくめ半数に減るとの話は、まづ間違いないことと思われる。明治大学は将来とも発展しなければならぬが、現在どうしても取り組まないといけない課題もあり、研究と経営方針も明確化していかねばならぬ。職員へのアンケートの結果、70%を超える人が「高給で優遇されている」と感じている。皆んな一生懸命頑張っているが、貢献していない人もいるのは問題である。大

明治大学

雄辯部OB会報

平成 25 年 10 月
第 21 号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成 25 年度

定時総会のご案内

11月24日(日)午後2時30分から紫紺館3階にて、雄弁部OB会・定時総会を開催致します。

かつての「雄弁部魂」を想い起こし、日高理事長を囲んで、旧交を温めましょう。

いま、私たち明治大学雄弁部OB会は、学校法人明治大学のトップに日高憲三理事長(前雄弁部OB会長)をいただき、創部120数年の歴史の中でも、燦然と輝くこの上ない誇り高き時代にあります。私たち雄弁部OB会が目的とする会員相互の親睦を図るためには、「多くの会員が一

明治大学雄弁部OB会会長 山上 雅隆

日時 平成25年11月24日(日) 受付開始 午後2時

定時総会・講演 午後2時30分～3時30分
懇親会 午後3時40分～5時30分

会場 明治大学紫紺館 3F・4F
講演 「雄弁部あつてのわが人生」

会費 六千円

山形県議会議員 後藤 源氏 (S41年法卒)

顧問・相談役会を開催



「深緑のつどい」に先立ち、顧問・相談役会が開催されました。OB会の直面する諸問題に、多岐にわたる貴重なご意見を戴きました。

事務局から

OB会名簿を更新します。OB会名簿を更新するため、今年5月に、各年度別幹事宛てに情報提供・異動の確認をお願いしました。今回から、「勤務先」欄を削除しました。また、m3の連絡欄を新設しましたので、皆様各自登録下さい。尚、会員の皆様から直接事

務局宛にメールを送信頂く時、「雄弁部」の表記を必ずお願い致します。
uchimura@bh.wakwak.com

宛て

駿台政経塾立上げの件

常任幹事会の議題として取り上げられた。準備会を一回、幹事会で二回打合わせが行なわれた。

「深緑のつどい」開催される

6月8日(土)午後3時から紫紺館6階にて、ゲストに鈴木俊光先生をお招きして、雄弁部OB会「深緑のつどい」が開催された。

開会の言葉が実行委員長星善徳氏からあり「会話のタブラに、1宗教2政治3応援する野球チームがある」と言われるが、「世の中のことを色々意見交換して旧交を温めてほしい」と挨拶。

次に山上雅隆会長から「多くの方々からご参加頂き、こうして楽しく会を催すことが出来てありがとうございます。学生時代に和泉で発声練習のとき「そもそも雄弁の古き歴史をたずねれば、古代ギリシアにおけるデモステネスの如きを、追想することが出

来るのであります」の言葉をなつかしく思い出します。」講演の部に入り、名誉教授・弁護士の鈴木先生から概略次

和永一幸広恵二男平雄徳二之誠微己行彦和彦太郎志蔵大介

石川田松並崎千富水橋内村星中村板垣國松小池萩田森山中村南上清荒井釘島鈴木

S43 法 元久雄 S44 経営 藤沢 邦利 S47 政経 鈴木 俊光 S49 法 高野 敬一 S50 文 山下 眞田 S51 産 S52 政経 S60 工 小林 憲三 S61 法 佐久間新吾 S62 法 新田 貞雄 S63 法 熊澤 雄造 S64 法 有賀 隆之 S65 法 橋本 徹雄 S66 法 嶋本 勝治 S67 法 飯田 安江 S68 法 山田 多栄子 S69 法 山口 雅隆 S70 法 山口 方子

「深緑のつどい」参加者

S25 政経 岡田 宏久 S26 政経 藤沢 邦利 S27 法 鈴木 俊光 S28 政経 高野 敬一 S29 政経 高野 敬一 S30 法 八倉 忠夫 S31 法 山下 英幸 S32 法 眞田 眞田 S33 法 眞田 眞田 S34 法 眞田 眞田 S35 政経 眞田 眞田 S36 法 眞田 眞田 S37 法 眞田 眞田 S38 法 眞田 眞田 S39 政経 眞田 眞田 S40 政経 眞田 眞田 S41 法 眞田 眞田 S42 政経 眞田 眞田 S43 法 眞田 眞田 S44 法 眞田 眞田 S45 法 眞田 眞田 S46 法 眞田 眞田 S47 政経 眞田 眞田 S48 法 眞田 眞田 S49 法 眞田 眞田 S50 文 眞田 眞田 S51 産 眞田 眞田 S52 政経 眞田 眞田 S53 政経 眞田 眞田 S54 法 眞田 眞田 S55 政経 眞田 眞田 S56 法 眞田 眞田 S57 法 眞田 眞田 S58 法 眞田 眞田 S59 政経 眞田 眞田 S60 工 眞田 眞田 S61 法 眞田 眞田 S62 法 眞田 眞田 S63 法 眞田 眞田 S64 法 眞田 眞田 S65 法 眞田 眞田 S66 法 眞田 眞田 S67 法 眞田 眞田 S68 法 眞田 眞田 S69 政経 眞田 眞田 S70 法 眞田 眞田

(2013.6.8 於 紫紺館)

(1) 平成26年5月発行(第22号)

2014年6月7日

「深緑のつどい」にご参集を!!

明治大学

雄辯部OB会報

平成26年5月
第22号発行
明治大学雄辯部
OB会

本々の緑がまばゆい季節となりましたが、皆さんご健勝でお過ごしのことと思います。

さて、このたび恒例の「深緑のつどい」を左記の通り開催する運びとなりました。会場は、旧島原藩邸あとで明治大学発祥の地・記念碑が、近くにあるところです。

かつての「雄弁部魂」を思い起こし、日高理事長を囲んで、旧交を温めましょう。

○日時 平成26年6月7日(土)

受付開始 午後4時

講演・懇親会

午後4時30分～7時

○会場 スキヤ橋ニュー・トーキョー

本店9F「ラ・ステラ」

○講演 「高見沢町長から国政へ」

参議院議員

高橋克法氏(S54法卒)

○会費 七千円

平成25年度

定時総会開催される

平成25年度の雄弁部OB会定時総会は、去る11月24日(日)に明大校友会館「紫紺館」で開催された。各議案の審議・採択に先がけて、山形県議会議員の後藤源氏による講演が行なわれ、続いて議案審議、懇親会へと移行し、盛会の内に幕を閉じた。

第一部の総会は飯田雅一常任幹事(S43法卒)の司会により14時30分から始まり、開



JR有楽町駅から徒歩5分 地下鉄銀座駅から徒歩0分



は、先般の創部120周年を経て早や3年、ことしは創部123年目になります。本日の平成25年度の定時総会は、笹川寛元国務大臣、日高憲三明治大学理事長をはじめ、多くの皆さん方をお迎えしてこのように盛大に開催される運びとなり、幹事一同厚く御礼申し上げる次第でございます。

いま、私たち雄弁部OB会は、学校法人明治大学のトップに日高憲三理事長をいただき、歴史上この上なく燦然と輝く、誇り高き時代にあります。

さて、私たちは、学生時代に雄弁部活動に励んだ者として、会社や地域社会その他の

明治大学

雄辯部OB会報

平成26年9月
第23号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成26年度

定時総会のご案内

11月22日(土)午後4時から、紫紺館3階にて、雄弁部OB会・定時総会を開催致します。

かつての「雄弁部時代」に想いを馳せ、

日高理事長を囲んで、旧交を温めましょう。

いま、私たちの母校明治大学は、毎年の入学志願者が10万名超のハイステータスを誇る大学となり、早・慶を照準におき、着々と「前へ」進んでおります。

また、雄弁部の現役部員も40名近くを擁し、かつての「雄弁部魂」は脈々と受け継がれています。

この機会に、雄弁部OB会の「老・壮・青」が一同に会し、盃を傾けようではありませんか。皆さんの定時総会へのご出席を、心よりお待ちしております。

明治大学雄弁部OB会会長 山上 雅隆

日時 平成26年11月22日(土) 受付開始 午後3時30分

定時総会・講演 午後4時~5時10分
懇親会 午後5時20分~7時

会場 明治大学紫紺館 3F・4F
講演(対談)

「われらの雄弁部時代を顧みて」

昭利 顧問
昭和26年政経学部卒 藤沢 邦利 顧問
昭和28年政経学部卒 斎藤 直 顧問

会費 七千円
出欠ペ切 10月31日まで

(尚、準備の都合上、出席同窓のキャンセルは、11月17日迄にご連絡下さい)

顧問・相談役会を開催



「深緑のつどい」に先立ち、顧問・相談役会が開催されました。OB会の活動報告と日高理事長から大学経営に関する諸問題の、貴重な話を伺えました。

事務局から

OB会名簿を更新します。

OB会名簿を更新するため、今年5月に、各年度別幹事宛てに情報提供・異動の確認をお願いしました。

今回から「勤務先」欄を削除しました。またM.E.D.の連絡欄を新設しましたので、皆さま各自登録下さい。尚、会員の皆様から直接事務局宛にメールを送信頂くと

「深緑のつどい」を開催

6月7日(土)午後4時30分から、「明治大学発祥の地」記念碑がある有楽町のニュートキョー1本店の9F「ラ・ステラ」で、開催された。

実行委員長中村浩二氏の司会により、スタートした。山上会長から開会の言葉があり、「昔は大勢の明大雄弁部出身の国会議員がいたが、現在は赤池誠章氏と今日講演を頂く高橋克法氏の二人しかいない」と指摘があった。次に日高理事長から、「明治大学の現況」について挨拶を頂いた。昨日は高知県にいた。夜遅くまでかかったが楽しかった。先般、山の上ホテルの一部を買取った。お茶の水駅から駿河台下

へぬける道が「明大通り」となったのは、親近感も増し実に喜ばしい。在学4年間、学

生活でどの位の知識を身につけるかが問題である。おかげさまで生田の農学部、理工学部も大変評価が高い。やれることは、なるべく手を打っていく。出来るだけ努力する、どうか変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

次に、S56年法卒の参議院議員高橋克法氏の講演が始

きは、「雄弁部」の表記を必ずお願い致します。
uchimura@bh.wakwak.com
宛て

「駿台政経塾」立上げの件

常任幹事会の中から委員5名を選任、社会連携機構事務局との打合わせを行ないましたが、継続検討中です。

「深緑のつどい」参加者

S25 政経	戸田 久雄	S49 文	水野 清治憲
S25 政経	岡田 文宏	S49 政経	小原 卓正
S26 政経	藤澤 邦利	S49 法	浅野 孝
S26 法	鈴木 俊光	S51 法	富水 流
S28 政経	斎藤 常夫	S51 政経	内村 星
S31 法	片倉 直	S53 政経	西村 小
S33 法	眞田 英幸	S55 政経	高橋 中
S33 法	山下 幸三	S56 法	伊板 垣
S35 政経	日高 憲一	S60 王	中村 浩二
S39 政経	新田 貞章	S61 政経	伊板 昌
S39 政経	熊澤 雄造	S61 法	板垣 昌
S40 政経	有賀 隆治	S61 法	小池 徹
S40 政経	丹羽 純一	S61 法	山本 徹
S40 法	上岡 一雄	S61 法	山本 徹
S43 政経	工藤 多	S61 政経	宮本 徹
S43 政経	飯田 安江	S61 政経	宮本 徹
S43 法	飯田 雅一	S61 政経	宮本 徹
S43 法	石川 和永	S61 政経	宮本 徹
S44 政経	松並 正幸	S61 政経	宮本 徹
S47 法	岩崎 博	S61 政経	宮本 徹
S49 政経	高橋 幸男	S61 政経	宮本 徹

(2014.6.7 於 有楽町「ニュートキョー」9F)

(1) 平成27年5月発行(第24号)

明治大学

雄辯部OB会報

平成27年5月
第24号発行
明治大学雄辯部
OB会2015年6月6日(土)
「創立125周年記念講演会」にご参集を!!

木々の緑がまぶしい季節となりましたが、皆さんご健勝でお過ごしのことと
思います。

さて、このたび、恒例の「深緑のつどい」を「明大雄辯部創立125周年記念講演会」として、左記の通り開催する運びとなりました。会場は、なじみの明大紫紺館です。

今回は、特別講師として元外務大臣で13年11月から明治大学国際総合研究所の特任教授をされている川口順子先生をお迎えして、貴重なお話を伺いたいと思います。多くの皆さん方のご出席を、お願い申し上げます。

○日時 平成27年6月6日(土)

受付開始 午後2時
講演・懇親会

午後2時30分～5時

○場所 明大紫紺館4階

TEL 〇三—三三九六—四七三九

(椿山荘)

○講演 「外交の最前線で見えること」
元外務大臣 川口 順子 先生

○講師 明治大学特任教授

○会費 七千円

顧問・相談役会の開催について

「創立一二五周年記念講演会」の当日、六月六日(土)

午後二時より、明大紫紺館五階の「レストランフォレスト」において、顧問・相談役会を開催いたします。

「議題」

一、雄弁部OB会の会務報告
二、明治大学の現況について



平成26年度

定時総会開催される

平成26年度の雄弁部OB会定時総会は、昨年11月22日(土)に、明大校友会館(紫紺館)で開催された。各議案の審議・採択のあとに、講演(特別対談)として「われらの雄弁部時代を顧みて」と題し、藤澤邦利、斎藤直両氏の対談が行なわれ、続いて懇親会へと移行し、盛会の内に幕を閉じた。

第一部の総会は飯田雅一常任幹事(S43法卒)の司会により16時から始まり、開会の

「26年度の雄弁部OB会

定時総会に、大勢の皆さんがご出席くださりましてありがとうございます。来年度で125周年になりますが、現在大学に理事長日高憲三氏が在任され、こんなに誇らしい時代はないと考えております。在任中、ますますOB会を活性化させ、次の時代につなげてゆきたいと思っています。閲覧されている雑誌「財界」に、明治大学の紹介記事が写真入りで出ています。講演の部では、顧問の藤澤邦利さん、斎藤直さんに対談をして頂き、昔の学生時代はどうであったかは是非聞いてみたいと思います。私達が追求してきた雄弁術は、公衆の前で明確かつ論理的に自分の意見を開陳して、意図する方向へ皆をかり立てる技術だと言えます。学生時代雄弁道を志した者として、これから各人が異なった環境の下で、世の中の様々な事象について、客観的な批判精神を持ち続けてゆきたいと思っています。先輩後輩相つとって、このあと懇親会もあるので旧交を温めて頂きたいと思っています。

次に、物故会員への黙祷のあと、大学理事長日高憲三氏のご挨拶がありました。

(1) 平成28年4月発行 (第26号)

2016年6月4日(土)

「深緑のつどい」にご参集を!!

明治大学

雄辯部OB会報

平成28年4月
第26号発行
明治大学雄辯部
OB会

木々の緑がまばゆい季節となりましたが、皆さんご健勝で過ごしのことと思います。

さて、このたび恒例の「深緑のつどい」を左記の通り開催する運びとなりました。会場は、明治大学和泉内の和泉食堂です。

かつての「雄弁部魂」を思い起こし、日高理事長を囲んで旧交を温めましょう。

○日時 平成28年6月4日(土)

受付開始 午後1時30分

○見学

和泉キャンパスの施設見学
和泉図書館前 13時受付

講演・懇親会

午後2時～6時

○会場

和泉食堂

○講演

「これからの教育に求められるもの」

参議院議員

前文部科学政務官

赤池 誠章(S61政経卒)

○会費

五千円



和泉キャンパス

平成27年度

定時総会開催される

平成27年度の雄弁部OB会定時総会は、昨年11月23日(祝)に、明大校友会館(紫紺館)で開催された。各議案の審議・採択のあとに講演として「市議2代連続13回当選の秘話」と題し、片倉常夫顧問が出席され、懇親会へと移行し、盛会の内に幕を閉じた。

第一部の総会では富水流孝 開会の辞がOB会会長山上一二常任幹事(S49法卒)の 雅隆氏より次の通りあった。司会により14時から始まり、(27年度の雄弁部OB会

顧問・相談役会の

開催について

「深緑のつどい」の当日、六月四日(土)午後一時より、明大和泉校舎「図書館カフェ」において、顧問・相談役会を開催いたします。

(議題)

一、雄辯部OB会の会務報告

二、明治大学の現況について(日高理事長から)

の定時総会に大勢の皆さんがご出席くださいましてありがとうございます。学生時代雄弁部の活動に携わった者として、卒業後も政治の世界に出かけた方もありますし、又陸上部で頑張ってこられた方々もさまざまなのですが、私達が学んだ雄弁術というものはどの世界に行っても本質的には変わらないのではないかと考えております。とかく雄弁部を卒業した人達は抗弁の徒である口先だけだと思われておりますが、私達は公衆の面前で論理的に自分の意見を述べ、人の心をとらえて自らの意図した方向にかりたてる技術だということができます。

皆さまに感動を与えると共にその後何らかの行動にかり立てるものがないと本当の雄弁にならないのではないかと。

次に物故会員への黙祷のあと、理事長日高憲三氏の挨拶あり。

明治大学

雄辯部OB会報

平成28年9月
第27号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成28年度

定時総会のご案内

11月12日(土)午後2時から、紫紺館3階にて雄弁部OB会・定時総会を開催いたします。

遠い「雄弁部時代」に想いを馳せ、仲間を囲み、旧交を温めましょう。

永遠の都ローマ（「公共広場」・「ロマーノ」）があります。ここに
紀元前1世紀頃、古代ロー
マの力エサルやキケロが公衆
に向かつて雄弁を展開した
増があります。

かつて、私はこの演壇に立
つた時の深い感動を、忘れら
れません。私たちは、どのよ
うな局面に立たされても、こ
の雄弁術の原点に立ち返り前
途を切り拓いていきたいと思
いだっています。

明治大学雄弁部OB会会長 山上 雅隆

日時 平成28年11月12日(土) 受付開始 13時30分～

懇親会	定時総会・講演
15時～17時	14時～15時

会場 明治大学紫紺館 3F・4F
講演 「私の雄弁部と法曹人生」

日本弁護士連合会 元常務理事
昭和33年法学部卒 山下 英幸 顧問

会費 七千円
出欠〆切 10月31日まで

(会計処理上、無断欠帳は費用請求します)



「深緑のつどい」参加者

S28 法	高野 敬一	S54 政経	赤池 誠章
S28 政経	藤澤 邦利	S54 法	力也
S28 政経	斎藤 直弘	S54 法	板垣 昌
S31 法	笹川 真	S54 法	小池 徹
S33 法	山下 英幸	S54 政経	小林 和正
S35 法	山前 一郎	S54 政経	舟橋 貴之
S35 政経	渡邊 嘉道	S57 文	山川かおる
S43 政経	佐久間 新二	1402 政経	宮崎雄一郎
S48 法	岩本 健悟	1402 政経	安田 庄一
S49 政経	熊澤 雄造	1408 政経	寺崎 雄介
S49 経済	有賀 純治	1407 法	森山 浩行
S49 経済	丹羽 隆一	1411 政経	宮本 朋和
S49 経済	水野 源吾	1411 政経	島津 秀隆
S51 法	三枝 秀之	1413 政経	田中耕太郎
S52 経済	橋本 隆一	1411 法	本庄 智恵
S53 法	山上 雅隆	1426 法	倉林 正弥
S53 政経	飯田 雅一	1426 政経	櫻井 大智
S53 法	石川 唯和	現役法3	戸田幸一郎
S53 法	方子 勝治	現役法3	岩田 弘弘
S53 商	嶋本 勝治	現役法3	上野 弘真
S53 経済	飯田 安江	現役法3	小泉 真弘
S53 法	工藤多幸子	現役文3	勝田 悠輝
S54 経済	松並 正幸	現役法3	釜田みのり
S54 法	千熊 正憲	現役法3	下川 貴史
S54 法	高木流孝二	現役法3	前原 玄気
S54 政経	富樫 幸男	現役法2	桐山 弘
S52 政経	山本 敏幸	現役政経2	美上 駿
S53 政経	小西 勝	現役法3	村上 大希
S58 政経	金子 徳勝		

「和泉校舎で深緑のつどい」を開催

6月4日(土)午後2時から、「明治大
学雄弁部平成28年深緑のつどい」が和泉校
舎キャンパス学生食堂にて開催された。講
演会もゲストに参院議員赤池誠章氏を迎え
て行なわれた。

平成26法卒の倉林正弥氏の司会で開会の辞を山上雅隆会長からあつた。私たちが日々研鑽に励んでいる雄弁術は、「公衆の前で、明確かつ論理的に自分の意見を開陳して人々の心をとら

え、意圖する方向に驅り立てる技術」ということとがでるでしょう。雄弁術発祥の起源を古く遡れば、紀元前五世紀の古代ギリシヤにおけるプロタゴラスやゴルギアス等の「ソフィスト」と呼ばれる弁論教師の団にたどりつくことが出来ます。私たちが追求してやまない雄弁術はこのように偉大なものであり、これからもこの道を精進していきたいと思います」と挨拶があった。



顧問・相談役会を開催 大学の役員変更と現役活動

「酒緑のつどい」に先立ち和泉校舎図書館力フエで顧問・相談役会が開催された。山上会長から大学の役員変更の案内があり、日高理事長の退任と商卒の64才野村証券副社長だった柳谷氏の就任、学長が福宮氏から法

学部であった土屋恵一郎氏の就任。本日の会合はＯＢ４７名、現役１１名計５８名参加見込み。講演は参院議員赤池誠章氏にお願い。中野キャンパスで６月２９日紫紺杯弁論大会が開催された。

(1) 平成29年4月発行(第28号)

2017年6月3日(土)

「深緑のつどい」にご参集を!!

明治大学

雄辯部OB会報

平成29年4月
第28号発行
明治大学雄辯部
OB会

若葉かおる清々しい季節となりました。皆様方には、ご健勝で過ごしのことと思います。

さて、このたび恒例の「深緑のつどい」を、今回は「OBと現役部員の交流会」として、昨年と同じく和泉キャンパスで開催する運びとなりました。かつての「雄弁部魂」を思い起こし、変容著しく学術の香り高いキャンパスと洗練たる現役学生の息吹を肴に、旧交を温めましょう。

○日時 平成29年6月3日(土)

○会場 和泉キャンパス食堂

○講演 「雄弁部こそ、わが原点」

宇都宮市議会議員(11期)

鎌倉三郎氏(S41法卒)

(市議会議員2回、藍綬褒章受章)

○会費 五千円



和泉キャンパス

平成28年度

定時総会開催される

平成28年度の雄弁部OB会定時総会は、去年11月12日(土)に、明大校友会館(紫紺館)で開催された。各議案の審議・採決のあとに講演として「私の雄辯部と法曹人生」と題し、山下英幸顧問が出席され、懇親会へと移行し盛大の内に幕を閉じた。

午後1時から顧問・相談役の柳谷隆氏前野村証券副社長が主催され、席上山上雅隆会長より次の通り、会務報告があった。大学法人で任期満了により日高憲三理事長が退任され新しくS50年商学部卒

顧問・相談役会の開催について

「深緑のつどい」の当日、6月3日(土)午後1時より、明大和泉校舎「図書館カフェ」において、顧問・相談役会を開催いたします。

議題 一、雄辯部OB会の会務報告

二、部創立一三〇周年記念行事について

雄辯部長である小西徳應氏が政経学部長に就任されました。第一部の総会は、倉林正弥常任幹事(S49年法卒)の司会により14時から始まり、開会の辞がOB会会長山上雅隆氏により次の通りあった。

「昨年は寒かったが、本日は晴天に恵まれ暖かい。遠路はるばるありがとうございます。今日は全国校友取大会と重なり申し訳ありません。日高理事長と有賀大学監事の退任、小西部長の政経学部長への就任報告。

次に物故会員への黙祷のあと、会則により議長を山上雅隆会長に指名し議案審議に入りました。①平成28年度活動報告および決算報告②平成29年度活動計画案および予算案の件③会計監査報告の件が、各々審議され原案通りに可決承認された。

明治大学

雄辯部OB会報

平成29年9月
第29号発行
明治大学雄辯部
OB会

平成29年度

定時総会のご案内

11月11日(土)午後3時から、紫紺館3階にて、
雄弁部OB会・定時総会を開催いたします。

「駿台雄弁」に想いを馳せ、
仲間を囲み、旧交を温めましょう。

「駿台雄弁」の理想に心血を注ぎ、かつてこの上ない自由
な学生生活を謳歌することができたわが学び舎は、益々隆盛
をきわめております。
そして、私たち明大雄弁部の現役部員も、毎年多数を擁し
ており、「駿台雄弁」は不滅です。

明治大学雄弁部OB会会長 山上 雅隆

日時 平成29年11月11日(土)受付開始 14時30分

定時総会・講演 15時~16時30分

懇親会 16時30分~18時30分

会場 明治大学紫紺館 3F・4F

講演 「人生に彩をくれた雄弁」

香川県綾川町議会議員(10期)

議会議長2回

昭和40法卒 宮本 勝利氏

会費 七千円

出欠〆切 10月31日

(会費は別紙に、無断欠席は費用請求します)



「深緑のつどい」参加者

S20 法	高野 敬一	I101 経営	山本 留巳
S28 政経	斎藤 直	I107 法	山本 朋和
S33 法	山下 英幸	I111 政経	山本 正弥
S39 政経	熊澤 雄造	I126 法	山本 啓司
S39 法	新田 真章	I126 法	山本 樹
S39 法	岩本 健二	I126 法	山本 大智
S40 法	上岡 一雄	I127 政経	山本 英剛
S40 経営	有賀 隆治	I128 政経	山本 健人
S40 法	宮本 勝利	I128 政経	山本 健一
S40 経営	水野 源吾	I129 法	山本 幸一郎
S41 法	三枝 秀之	法 19年	山本 真美
S41 法	後藤 源	政経 19年	山本 美のり
S41 法	鎌倉 三郎	法 19年	山本 実子
S43 新	嶋本 勝治	文 19年	山本 佑樹
S43 法	山上 雅隆	法 39年	山本 雅大
S43 法	飯田 雅一	政経 39年	山本 大行
S49 法	富水 孝二	政経 39年	山本 晴
S52 政経	星 善徳	法 39年	山本 勝気
S55 政経	小西 徳應	法 39年	山本 洋
S61 法	小池 徹	法 39年	山本 玄
S61 法	板垣 昌之	法 39年	山本 駿
S61 法	国松 誠	法 39年	山本 大希
S63 文	山川 かのる	法 39年	
I101 商	萩田 真己		

「和泉校舎で深緑のつどい」を開催

6月3日(土)午後2時から、「明治大学雄弁部
平成29年深緑のつどい」が和泉校舎キャンパス学生
食堂にて開催された。講演会のゲストに宇都宮市議
会議員鎌倉三郎氏を迎え行われた。

平成1商卒の萩田真己氏の
司会で開会の辞を山上雅隆会
中心の政治のあり方は疑問に

長からあった。いまの自民党
少出ても抑切つてしまふ。



顧問・相談役会を開催 一三〇周年記念委員会を検討

「深緑のつどい」に先立ち和
泉校舎図書館カフェで顧問・相
談役会が開催された。山上会長
からOB会の活動報告があり、
二〇一〇年創部一三〇周年から
まもなく一〇年を経過するので
改めて一三〇周年記念実行委員
会を設置して諸政策を実施したい。

ついでには皆さまのご意見をお伺
いしたいと提案。

参加者は高野敬一、斎藤直、
山下英幸、新田真章、岩本健二、
熊澤雄造、有賀隆治、上岡一雄、
宮本勝利、三枝秀之、後藤源、
山上会長、富水流孝二、小西徳
應全氏の14名。

(1)平成30年度3月発行(第30号)

平成29年度 定時総会開催



平成29年度の明治大学雄弁部定時総会は、去る11月11日(土)に明治大学校友会館「紫紺館」で開催された(詳細は2面の通り)。

山上会長から平成29年度活動報告・決算報告が終了した後、創立130周年を迎えるにあたり、新しい体制でやることが好ましいと考え、退任することを決意し、先月の常任幹事会にて承認された。

平成29年度の報告があった。有賀副会長(選考委員会会長)から経過報告の上で、後任の会長に、現事務局長の熊澤雄造氏が選出され総会にて承認された。副会長には平成13年法学部卒の南上清一郎君が選出され、新たな体制にて130周年にむけて動き出すこととなった。

新OB会長に 熊澤雄造さんご就任

明治大学

雄辯部OB会報

平成30年3月
第30号発行
明治大学雄弁部
OB会

明大雄辯部OB会主管。各校、若手も多数参加

法政大学、立教大学の弁論部の卒業生とともに、諸先輩方から期待されていた若い卒業生も多数参加する「明法立新緑弁論同窓交歓会」を、例年の「深緑の集い」を発展させる形で開催いたしました。

実行委員長は、先の総会でOB会副会長を拝命しました平成13年法学部卒業の南上清一郎が務めます。微力ながら、30代の特権を活かして、各校の同世代と連絡を取り合い、本番に向けて鋭意進行しております。

主管校として明大雄辯部の名に恥じぬ交歓会にするために、実行委員会にて、鳩首協議しております。

諸先輩方におかれましては、何卒「あしけん」指導を仰ぎたく、お願い申し上げます。

明法立新緑弁論同窓交歓会

平成30年5月19日(土)15時

駿河台校舎リバーティータワーで

また、若い世代の卒業生の皆さまも、希望もんだんに盛り込んでおりますので、気兼ねなくお越しくださいませう、お願いいたします。

実行委員長 南上清一郎(平13法卒)
副実行委員長 佐野友章(平18法卒)

時間	内容
15:00	熊澤 雄造OB会長(S39 政経卒) 式辞
15:05	法政大学、立教大学挨拶
15:15	小池 徹(S61 法卒) 講演
15:40	宮本 朋和(H11 政経卒) 弁論
16:00	有賀 隆治OB会副会長(S40 経営卒) 乾杯
16:40	各校挨拶(立大→法大→明大)
17:40	校歌(スクラム)・エール
17:55	富水流 孝二OB会副会長(S49 法卒) 挨拶

明治大学

雄辯部OB会報

平成30年9月
第31号発行
明治大学雄弁部
OB会

平成30年度

定時総会の「案内」

11月10日(土)午後3時から、リバイタワー10階
1065教室にて雄弁部OB会・定時総会を開催致します。

「駿台雄弁」に想いを起こし、
仲間と共に旧交を温めましょう。

「駿台雄弁」の理想に燃え、学生時代の素晴らしい仲間と
有意義な学生生活を満喫することが出来た我が母校は、益
々隆盛をきわめております。
そして、私たち明大雄弁部の現役部員も、毎年多数を擁
しており、「駿台雄弁」は不滅です。

明治大学雄弁部OB会会長 熊澤雄造

日時 平成30年11月10日(土)受付開始14時30分

定時総会議演 15時 16時30分

懇親会 16時30分 18時30分

会場 明治大学リバイタワー

定時総会・講演 1065教室

懇親会 17階 師弟食堂

演題 「メディアの今」

時事通信社 前代表取締役社長

1974年 明治大学政経学部卒

会費 7000円

西澤 豊氏

出欠〆切 10月31日

※社報上・無断複製厳禁

西澤 豊氏

※経歴:1950年東京生まれ、1974年(株)時事通信社入社、
1989年ソウル特派員以後政治部次長、世界週報編集長、
横浜総局長、経理局長を経て2008年取締役、2012~2016
年代表取締役社長、2013年(株)電通 取締役、2016年
明治大学評議員(現)、2017年(財)新聞通信調査会
理事長(現)、2018年(社)日本広告審査機構理事長(現)、
時事通信社顧問(現)

※「通信記者として40数年の体験を基に“三木総理から村山
総理まで”と安倍総理3選と今後、トランプ大統領の中間選
挙と世界の動向などについて語って頂きます。」



顧問・相談役会を開催

「新緑の集い」のとき、かないま
せんでした顧問・相談役会がリバ
イタワー23階サロンのために開催
されます。

日には11月10日(土)の時間
は午後2時から30分間の予定です。
2010年創部120周年から
まもなく10年を経過するので
130周年記念実行委員会成功

明法立新緑弁論同窓交歓会を開催

平成30年10月19日(土)午後3時から
法政大学、立教大学の弁論部の卒業生と
ともに、かねてより懸案だった若手OBも
数多く参加した「明法立新緑弁論同窓交
歓会」が開催されました。

今年度、副実行委員長を務めた平
成19年法学部卒の佐野と申します。まず
ご参加いただきましたOB諸兄並びに同
期後輩の皆さま、厚く御礼申し上げます。
また、来年度、さらには皆さまの期待に
応える企画を行うために実行委員長を務
めたいと思ひ、ごあいさつを申し上げます。
例年、「深緑の集い」として行われてきた
企画を、今回は新入生歓迎の意図も込め
て1ヶ月ほど前倒しで開催しました。こ
ちらは、東京大学の弁論大会と日程が重なり、
1、2年生が参加できず、目論見が外
れてしまつたことになり来年度以降の課題で
す。しかしながら、昨年度と比べ、明治大
学雄辯部単体で出席率は140%、平成
卒に至っては80%を数え、一定の成功
をみたのではないかと考えております。

130周年記念委員会を検討

を祈念して打ち合わせを実施し
たいと思います。

つきましては、お忙しい所恐縮
ですが顧問と相談役およびOB
会役員代表の方はご参集お願い
申し上げます。

議題については、①記念誌の発
刊②寄付金の募集方法③活動の
活発化④その他。



(1)平成31年度4月発行(第32号)

平成30年度(128期) 定時総会開催



リハビリタワー10階1065教室にて定時総会を開催



西澤豊氏 講演「メディアの今」

平成30年度(128期)の明治大学雄弁部定時総会・講演・懇親会は、去る11月10日(土)に明治大学リハビリタワー10階1065教室にて開催された。

130周年を迎えるにあたり、熊澤会長新体制一年目の平成30年度活動報告、決算報告が行われた。新たな試みとして行った明法立新緑弁論同窓交歓会についても報告があった。

(2面に続く)

明治大学

雄辯部OB会報

平成31年4月
第32号発行
明治大学雄弁部
OB会

創立130周年にむけて

新体制活動報告

記念事業実行委員会委員長

有賀 隆治(S49)



昨年11月10日の定時総会において承認頂きました雄弁部創立130周年記念事業は、現役学生の一層の活躍とOB・OG会が更なる発展を願って開催するもので、その実行委員会を発足しました。その概略を報告致します。

(1) 記念式典 2018年10月17日(土)予定

式典会場 明治大学 紫紺館

(2) 130周年記念誌の発行(記念誌担当)

責任者 小西雄雄(副会長S55後援)

委員 西村隆弘(S39後)、倉林恭弘(S39後)、まの崎周(適とケ)さん進を行います。

(3) 130周年記念品の検討(財務担当)

責任者 南中清一郎(副会長S43後)

委員 佐野友章(S43後)、佐藤孝典(S43後)、櫻井大貴(S43後)

*版型 B5判 並製本、本文目録(予定)
*部数 800~500部

130周年記念事業と500万円募金

実行委員会進捗報告

*寄稿文の依頼について
+ 学生時代の思い出、雄弁部協力を主として
自由投稿 宇敷 四郎(宇)千実、願望真備用
+ 各世代の方々
+ 120周年記念誌に寄稿されない方々歓迎
+ 2018年3月以降の卒業生
*雄弁部の歴史を振り返り、過去に出版された
冊子や資料の復刻版も掲載予定
*名簿切迫迄予定
*予算は10万円~150万円 予定

(3) 130周年記念品の検討について

総務 企画担当委員で協議 検討する

(4) 記念事業募金のお問い合わせ(財務担当)

責任者 富本憲生(副会長S49後)、
委員 小池徹(S61後)、松田昌(日)恵、
富本朋和(日)校務)

*期間 2018年10月から2年間
*目標額 500万円
(1口1万円として、1口以上の
ご寄付を賜れば有難く存じます。)

以上ですが、この周年事業を成功させるためには、會員様様の支援・協力が不可欠です。何卒、温かいご配慮を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

Since 1882
明治大学

雄辯部OB会報

令和元年8月
第33号発行
明治大学雄辯部
OB会

令和元年度 第129期

定時総会の「案内

11月9日(土)午後3時から、リバティタワー7階
1073教室にて雄弁部OB会・定時総会を開催致します。「駿台雄弁」に想いを起こし、
仲間と共に旧交を温めましょう。「駿台雄弁」の理想に燃え、学生時代の素晴らしい仲間と
有意義な学生生活を満喫することが出来た我が母校は、益
々隆盛をきわめております。
そして、私たち明大雄弁部の現役部員も、毎年多数を擁
しており、「駿台雄弁」は不滅です。

明治大学雄弁部OB会会長 熊澤雄造

日時 令和元年11月9日(土)受付開始14時30分

(定時総会・講演) 15時 ~ 16時30分

(懇親会) 16時30分 ~ 18時30分

会場 明治大学 リバティタワー

(定時総会・講演) 7階1073教室

(懇親会) 17階師弟食堂

演題 「三木武夫先生 没30周年にあたって」

明治大学前理事長

1960年政経卒 日高 憲三氏

会費 5000円 (会計処理上、無断欠席は費用請求します)

出欠〆切 10月10日(木)

*学生時代に雄弁部で三木先生ご夫妻と親しくされ、その後ご遺族の
方、徳島のご親戚の方とも親交され、毎年8月の お盆には徳島へ参
訪されておられました。三木先生の政治に対する姿勢(無信不立)、政
治活動(議会の子)の一端とその思い出も含め先生を語って頂く事
が私達雄弁部関係者にとって大変有意義と考えています。

日高 憲三氏

*経歴:1937年広島県生まれ、1962年三吉電器工業創業社長、
1984年日本リック(株)創業社長、2007年日本リック(株)会長を経て
2012年最高顧問(現)、2008年明治大学 経営企画担当常勤理事
、2012年明治大学理事長、中野学園理事長、2012年大学経営協
会理事(現)、2013年国際大学理事、2016年明治大学顧問(現)、敬
心学園理事(現)

記念式典まであと1年!

若手OBも多数参画し、着々と
記念事業準備は進んでいます。有賀美江委員長のもと、記念誌「記念事業
財務の委員会」に付かれ、本番に向けて活
な議論を行っています。2009年度は、現役の新入部員も21名と
例年に比べると大所帯、130年に向けて現役
も活気を帯びてきています。11月の定時総会にて、130年の進捗を報
告致したいと思っております。OB&OG諸兄お
かれましては是非お越しください。尚、実行
委員会にて協力いただける方を募集中ですの
で、いつしやりました是非二報ください。

「129期定時総会において審議いただく事項」

(1)平成31年度活動報告、平成31年度決算報告

(2)令和元年度活動計画(案)、令和元年度予算案

(3)130周年記念事業(案)について

①記念式典の開催について

・日時:令和2年10月17日(土)

・場所(紫紺館)

・予算:内容・進捗状況についての報告

・記念誌発行について

②記念誌発行について

・予算:内容・進捗状況についての報告

③記念事業の一環としてOB会ホームページ立ち上げについて

・予算:内容・進捗状況についての報告

④記念事業の一環としてOB会名簿2発行について

・予算:内容・進捗状況についての報告

⑤130周年記念事業成功のための寄付金募集について

・予算:進捗状況についての報告

④令和2年度定時総会について

・記念式典開催のため通常の定時総会は、開催しません
・令和2年度の活動報告・決算、令和3年の活動計画・
予算案の取り扱いについても、今回の総会にて審議
いただきます。

常任幹事会にて(OB会幹事と西澤前現役代表)

(1)令和2年度2月発行(第34号)

令和元年度(129期) 定時総会開催



130周年記念事業についての質疑
(有賀実行委員長質問)

その後、日高名誉会長講演、現役弁論が行われた。
第二部の懇親会に移り、現役の紹介、校歌斉唱などを行った。
平成OBも多数出席し、盛大な賑わいを見せた。

令和元年(129期)明治大学雄弁部定時総会・講演・懇親会は、去る11月9日(土)に明治大学リバイタワーにて開催された。
第一部の総会では、平成31年度活動報告・決算報告の説明、会計監査報告を行い全会一致で承認された。また、令和元年度活動計画案・予算案の説明がなされ、全会一致で承認された。
続いて、130周年を迎えるにあたっての方針が有賀記念事業実行委員長より示された。また、予算、記念事業として記念式典の開催(令和2年10月17日)、記念誌の発行、ホームページの立ち上げ、名簿更新などが承認された。

創立130周年にむけて
着々と!

明治大学

雄辯部OB会報

令和2年2月
第34号発行
明治大学雄弁部
OB会



130周年記念式典は、
全員参加で!

明治大学雄弁部は皆様へ承知の通り、明治23年11月の創立よりいよいよ130周年を迎えることとなりました。今日の雄弁部OB会の活動は、明治、大正、昭和、平成、令和と皆様のたゆまぬ協力と努力により脈々と受け継がれております。
節目となる記念事業に是非とも旧友を誘いご参加の程、よろしくお願い致します。

「129期定時総会審議事項」

- (1)令和元年度活動報告、令和元年度決算報告
- (2)令和2年度活動計画案、令和2年度予算案
- (3)130周年記念事業案について
 - ①記念式典の開催について
 - ・日時：令和2年10月17日(土)
 - ・場所：(紫雲館)
 - ②記念講演の講師について
 - ・予算内容・進捗状況についての報告
 - ・記念講演の講師について
 - ③記念事業の一環として
 - ・記念式典(来賓へ招待者について)
 - ・OB会ホームページ立ち上げについて
 - ④記念事業の一環として、OB会名簿発行について
 - ・予算内容・進捗状況についての報告
 - ⑤130周年記念事業成功のための寄付金募集について
 - ・予算内容・進捗状況についての報告
- (4)令和2年度定時総会について
 - ・記念式典開催のため通常の定時総会は、開催しない。
 - ・令和2年度の活動報告・決算、令和3年の活動計画、予算案は、幹事一任、令和3年度総会にて報告する。

129期定時総会アルバム

第129期 明治大学雄辯部OB会定時総会



現役弁論

最後はそろって部歌



第129期 明治大学雄辯部OB会定時総会



聞き入るOB・OG諸兄 日高名誉会長講演

「駿台雄辯」に思いを馳せながら

Since 1877
明治大学

雄辯部OB会報

令和2年8月
第35号発行
明治大学雄辯部
OB会

2021年5月開催に延期！

記念式典のご案内

盛夏の候、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。明治大学雄辯部は、ご承知の通り、本年2年11月11日より130周年を迎えることとなります。今日の雄辯部OB会の活動は、明治、大正、平成、令和と皆様の地まね協力と努力により脈々と受け継がれておりまして、当初から130周年記念式典は10月17日に予定してきまして、新型コロナウイルスの影響で来年に延期することとなりました。

左記のご案内のように、130周年記念式典を実施予定致しますので、是非ともご参加の程、よろしくお願い致します。

明治大学雄辯部OB会会長 熊澤雄造

記念式典のご案内

【開催日時】令和3年5月22日(土)

受付開始 14時00分

式典・講演 15時～16時30分

祝賀会 16時30分～18時分

【会場】式典・講演・祝賀会 紫紺館
【記念講演】

明治大学学長

大六野 耕作氏

1977年法学部卒

【会費】無料

寄付金が皆様から寄せられたため、繰上り支払った通り、130周年式典と同様、無料となります。
※当日の寄付金、年会費支払いは大歓迎致します。

【式典参加者配布品】

当日参加者には、

①130周年記念誌 ②OB会名簿

③130周年記念品を贈呈します。

※尚、寄付金を納入され、当日不参加の方には、郵送いたします。

※コロナの影響で延期となる場合、日によって連絡します。

ホームページ開設！

130周年記念事業の一環として、雄辯部OB会のHPが開設されました。新しい情報を随時配信していきますのでぜひ閲覧して頂ければ幸いです。



<http://meiji-yuben.net/index.php/ob/>

大六野 耕作 学長

※経歴：1954年、福岡県生まれ。1977年明治大学法学部卒業。同大学院政治経済学研究科博士後期課程単位修得退学。

専門：比較政治論。政治経済学部長や副学長(国際交流担当)等、数多くの要職を歴任。2020年4月より現職。また、デューク大学、ノースイースタン大学、ラオス国立行政学院、ラオス国立大学でも教鞭をとると国際的にも活躍。体育会ラグビー部の部長を長年務めた。

主要著書：
「比較政治学とデモクラシーの限界：臨床政治学の展開」
同野加徳留・大六野耕作 編著、2001、東信堂



紫紺館(式典・講演・祝賀会会場)

OB会費納入のお願い

雄弁部OB会の運営費は、OB&OGの皆さんからの会費で賄われています。つきましては、令和2年度年会費(3千円)を、同封の郵便局振込取扱票にて納入いただくか

又は以下の銀行口座にお振込くださいますようお願い致します。

みずほ銀行 九段支店
普通口座 1505041
名義人 明治大学雄辯部OB会

会報原稿ご提供者

- ①丹羽純一氏(昭和40年 商学部卒) : 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9号
②有賀隆治氏(昭和40年 経営学部卒) : 10, 11, 17, 18, 20, 21号
③宮本明和氏(平成11年 政治経済学部卒) : 12, 13, 14, 15, 16, 19, 22～35号

資料編

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
■平成 31 年 ■令和元年（2019）	
2.23	第 22 回紫紺杯争奪学生弁論大会 主催：明治大学雄弁部 弁士 桐山 勝気（法 4） 演題「究極の不自由」優勝 弁士 前原 玄（法 4） 演題「仲直りしよう。」
3.2	第 30 回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉會 弁士 天野 僚（政 1） 演題「1 人多票～死票は議員の持ち票を弄れば無くしうる～」
5.15	第 15 回五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 菅澤 真（政 2） 演題「どんな子どもにも」
6.23	第 41 回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 高野 俊也（政 1） 演題「平等」準優勝
7.6	第 44 回春秋杯争奪全国学生弁論大会 主催：法政大学弁論部 弁士 北爪 伶（政 2） 演題「こいのぼり」 弁士 鈴木 豪太（政 2） 演題「至上命題」
9.21	第 28 回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会 弁士 高橋 直己（政 1） 演題「SYUZEN」 弁士 笠 旭（文 1） 演題「カナリア」
10.5	第 23 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会 主催：日本大学法学部法秋雄弁会 弁士 品川 達哉（政 1） 演題「ナショナリズムの時代」審査員特別賞 弁士 宇留野 隼（政 1） 演題「知らなきゃ損よ！」
10.18	第 10 回全日本学生弁論大会 主催：第 10 回全日本学生弁論大会実行委員会 弁士 日比野 哲也（文 1） 演題「大人の自覚」準優勝 弁士 倉持 太介（政 1） 演題「新日本列島改造論」
11.3	第 43 回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 伊藤 直起（理 1） 演題「変態卒業」
11.23	第 7 回福澤論吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学辯論部藤沢会 弁士 天野 僚（政経 2） 演題「相統制度廃止論」
12.7	第 53 回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部 弁士 笠 旭（文 1） 演題「それって安全ですか」
12.15	第 39 回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 原田 拓実（情 4） 演題「雄弁家であるために」
凡 例	
1. この年表は、明治大学雄弁部及び明治大学、また、全関東学生雄弁連盟、他大学の動きを記載してある。 2. 雄弁部が行ってきた春合宿、1984（昭和 59）年に代表制が導入されてから部内で行われる有志単位の活動については主だったもの以外は記載されていない。 3. 各種大会についてはその名称が変更になっている場合もあるため、各種資料に記載されているものをそのまま転載した。このことにより略称で記されている場合もある。 4. 各事項の出典は、その時々で出されたパンフレット、『駿台雄弁』等のバックナンバー、および本人の自己申告によっている。 5. 月日が記載されていないものは、現時点で、実施されたことは確認されているが詳細がわからないものである。 6. 資料の散逸もあり、近年のできごとであろうとも、年代によってはほとんど実態がわからないところもある。今後この年表に加筆・訂正がなされることを願う。 7. 120 周年記念史以降の記述は明治大学雄弁部の記録によっている。	

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
7.8	第42回春秋杯争奪全国学生弁論大会 主催：法政大学弁論部 弁士 西澤 佑希（法2） 演題「潜むヤミ」
10.17	第29回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉會 弁士 新井 一真（情コミ1） 演題「消えた有権者」第3席
10.28	第26回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会 弁士 森下 和希（理工1） 演題「最高の刺激の裏側」準優勝
11.3	第41回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 中島 渚（法1） 演題「核への抑止力」
12.3	第51回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学講演部 弁士 宇佐 美響（文1） 演題「楽食のススメ」
12.10	第37回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校 東京大学弁論部 弁士 原田 拓実（情コミ1） 演題「私がここにいる理由」
■平成30年（2018）	
2.4	第21回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄弁部 弁士 下川 真史（法4） 演題「『維新の栄』をになふ者」 弁士 上野 真弘（法4） 演題「弁論の信徒への手紙」
2.19	第8回全日本学生弁論大会 弁士 古野 裕理（政1） 演題「wIth, Robot」
5.19	第14回五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士：新井 一真（情2） 演題：「文化の根底」第3席
6.23	第40回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 屋葺 弘（法1） 演題「21世紀の石油」
7.7	第43回春秋杯争奪全国学生弁論大会 主催：法政大学弁論部 弁士 古野 裕理（政2） 演題「やさしさに包まれたなら」
10.6	第22回桜門杯争奪全日本学生弁論大会 主催：日本大学法学部法秋雄弁会 弁士 新井 一真（情2） 演題「新たなコミュニケーション」
10.20	第9回全日本学生弁論大会 主催：第9回全日本学生弁論大会実行委員会 弁士 天野 遼（政1） 演題「見えないところ」
11.4	第42回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 鈴木 豪太（政1） 演題「国防意識の高揚」第3席
11.11	第58回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 黄 信傑（法1） 演題「やってないのに」準優勝
11.24	第27回拓殖大学総長杯争奪全日本雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会 弁士 陣谷 ひかり（商1） 演題「ここは植民地」
12.2	第52回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部 弁士 北爪 伶（政1） 演題「Foreigner」
12.16	第38回東京大学総長杯争奪学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 鈴木 豪太（政1） 演題「包囲せよ」

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
■平成 28 年（2016） 2.27 2.28 5.14 6.18 7.9 10.8 10.15 10.22 11.6 11.12 12.10 12.18	紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄弁部 弁士 桐生 常朗（政経4） 演題「ニュートンは「科学者」か？」 弁士 濱 英剛（政経4） 演題「膨張する民主主義」準優勝 第8回立命館大学清新杯争奪全日本学生弁論大会 主催：立命館大学弁論部 弁士 小泉 学（農2） 演題「理を現す」 弁士 田沼 浩太郎（文1） 演題「心なき罪の行方」準優勝 第12回五月祭記念弁論大会 主催：東京大学・第一高等学校弁論部 弁士 前原 玄（法2） 演題「混血の島」 第38回学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 史キンキン（国日1） 演題「女道」 第41回春秋杯争奪全国学生弁論大会 主催：法政大学弁論部 弁士 宮本幹也（政経2） 演題「長時間労働は正」優勝及び聴衆審査最優秀賞 第40回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 新谷 亮介（情コミ2） 演題「精神医療のあるべき姿」聴衆審査賞 第28回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉會 弁士 松本 啓（文1） 演題「心に寄り添う」第3席 第25回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会 弁士 森田 礼（商1） 演題「車輪の上」 弁士 小川 恭弘（文1） 演題「技能実習制度の転換期」優秀賞 第36回東京大学総長杯争奪全国学生雄弁大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 佐野 航介（法1） 演題「命をつなぐ」 弁士 村田 知亮（文1） 演題「早期発見の徹底」 第56回花井杯争奪全国学生弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 大滝 虎太郎（法1） 演題「保育の未来」 第5回福沢論吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学辯論部藤沢会 弁士 喜多 晴行（法2） 演題「死について考えてみた」（弁士の都合により掲載なし） 第7回全日本学生弁論大会 主催：第7回全日本学生弁論大会委員会 弁士 前田 松祐（理工1） 演題「科学の助言」
■平成 29 年（2017） 2.4 5.21 6.3 6.24	第10回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄弁部 弁士 小野 竜大（法4） 演題「罪の名は。」 五月祭記念弁論大会 主催：東京大学・第一高等学校弁論部 弁士 前田 松祐（理工2） 演題「日本の科学を再生せよ」第3位 弁士 史キンキン（国日2） 演題「貧困の枷鎖」優勝 第10回桜弁会杯争奪学習院大学弁論大会 主催：学習院大学輔仁会弁論部 弁士 田沼 浩太郎（文3） 演題「あなたもまた…」優勝、聴衆特別賞 第39回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 和田 真里那（法1） 演題「箸取らば」

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
11.23	第48回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部 弁士 小泉 学（農1） 演題「MOTTAINAI」 準優勝
11.29	第34回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 下川 真史（法1） 演題「第二の火」
12.7	第5回全日本学生弁論大会 主催：第5回全日本学生弁論大会実行委員会 弁士 勝田 悠暉（文1） 演題「開かれた歴史教育」
12.13	第3回福澤論吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学辯論部 藤沢会 弁士 萩原 将来（政経2） 演題「個を強くする」 弁士 五十嵐 潤（文3） 演題「僕たちはきっとまだ優しくなれる」
12.21	第8回桜会杯争奪学習院大学弁論大会 主催：学習院大学輔仁会弁論部 弁士 楊 建（経営2） 演題「ワーク・ライフ・バランス」 審査員特別賞
■平成27年（2015）	
5.16	五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 副田 将至（法2） 演題「医療のあり方」 第3席
6.7	第37回学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 飯村 大介（政経1） 演題「明るい労働」
7.11	第40回春秋杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：法政大学弁論部 弁士 岩田 弘雪（法2） 演題「桜舞う季節」 聴衆審査・最優秀賞・第3席
10.10	第27回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉会 弁士 高島 洋和（法1） 演題「最大格差」 弁士 加藤 和大（政経1） 演題「社会の子育て」
10.17	第24回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会 弁士 石毛 季実子（文1） 演題「ひとりぼっち」
11.7	第55回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 宮本 幹也（政経1） 演題「自由のための楔をうて」 特別賞 弁士 喜多 晴行（法1） 演題「醜い人間たち」 第3席
11.14	第6回全日本学生弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉会 弁士 上野 佑樹（法1） 演題「新たな希望」
11.21	第39回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 桐山 勝気（法1） 演題「不条理」 弁士 村上 大希（法1） 演題「心安らぐ」 第3席
11.28	第35回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：東京大学・第一高等学校弁論部 弁士 美上 駿（政経1） 演題「水面下の恐怖」
12.19	第4回福澤論吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学辯論部 藤沢会 弁士 釜田 みのり（法2） 演題「優先順位」
12.20	第9回桜弁会杯争奪学習院大学弁論大会 主催：学習院大学輔仁会弁論部 弁士 海野 雅大（政経1） 演題「誰が為の政治」
	第49回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部 弁士 前原 玄（法1） 演題「のぞみを繋ぐ」

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
7.6	弁士 寺田 翔一（法1） 演題「国よ、将来を救え！」 第17回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部
	弁士 木佐貫 彩夏（政経4） 演題「橋をかける」
	弁士 佐藤 柊平（農4） 演題「ふるさとほ」 優勝
10.12	第25回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学弁論部日吉會
	弁士 高田 匠唯（文1） 演題「意義なき保護」 準優勝
10.26	第22回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会
	弁士 橋本 修平（情コミ1） 演題「『無料』という名の誘惑」
	金親弁士…名無し掲載 演題「心臓都市」
11.16	第53回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会
	弁士 吉野 貴司（農1） 演題「残雪」
	弁士 梁 セン（商1） 演題「イノベーション」 3位
11.23	第37回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会
	弁士 小野 竜大（法1） 演題「被害者なき犯罪」
	弁士 清水 正大（政経1） 演題「新たな刺客」 準優勝
11.30	第4回全日本学生弁論大会 主催：第4回全日本学生弁論大会実行委員会
	弁士 田中 雅子（文1） 演題「みんな同じ人間なのに……」
12.7	第33回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部
	弁士 萩原 将来（政経1） 演題「働く」
	弁士 田端 将大（政経1） 演題「今日も」 準優勝
12.15	第2回福澤論吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学辯論部 藤沢会
	弁士 桐生 常朗（政経2） 演題「文化の潮」 3位
12.22	第47回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部
	弁士 嶋田 奎介（政経2） 演題「金の卵」
■平成26年（2014）	
5.18	五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部
	弁士 吉野 貴司（農2） 演題「瑞穂の朝」
7.6	第36回学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会
	弁士 戸田 幸一郎（法1） 演題「丘の上の誓い」 最優秀賞
	弁士 相田 真美（政経1） 演題「継承、そして発信」
7.12	第18回紫紺杯争奪全国学生雄辯大会 主催：明治大学雄辯部
	弁士 高岡 瞭（経営4） 演題「経世済民」
	弁士 峯森 徹（政経4） 演題「消滅、自治、『 』」
10.18	第26回日吉杯争奪弁論大会 主催：慶應義塾大学辯論部日吉會
	弁士 上野 真弘（法1） 演題「Politics/Politeness」
11.19	第38回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会
	弁士 副田 将至（法1） 演題「影に潜むもの」
11.16	第54回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会
	弁士 岩田 弘雪（法1） 演題「新たなる翼」
	弁士 釜田 みのり（法1） 演題「後ろに気を付けて」 第3席

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
10.15	弁士 高岡 瞭（経営1） 演題「借金大国日本」 第51回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会
10.28	弁士 齋藤 海（文1） 演題「大海の中に在り」第3位 第20回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会 主催：拓殖大学雄弁会
11.26	弁士 金子 知温（政1） 演題「これからの“性義”の話をしよう」第3位 弁士 峯森 徹（政1） 演題「雲に光を与えるもの」 第35回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会
12.10	弁士 和田 祐樹（理1） 演題「ドリンクーズ・オブ・ジャパン 呪われた酒飲みたち」 弁士 内田 尚希（政1） 演題「Fight against reality」 全日本学生弁論大会
12.17	弁士 紙屋宏志（法1） 演題「昼の上の安全」 第31回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部
12.18	弁士 高岡 瞭（営1） 演題「日本経済改造論」 第45回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会 主催：東京農業大学農友会講演部 弁士 岩村弥莉（農1） 演題「新しい日本農業」
■平成24年（2012）	
4月	雄弁部 OB 日高憲三が理事長に、有賀隆治が監事に就任する
5.19	五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 峯森 徹（政2） 演題「復旧の、その先へ」第3位
6.2	第16回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部 弁士 飯倉一樹（政2） 演題「ねがい」第3位 弁士 齋藤 海（文2） 演題「理想のまち」
6.16	第34回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 櫻井大智（政1） 演題「『愛の制度』を考える」最優秀賞 弁士 白木晴夏（法1） 演題「都市の命、地方の命」優秀賞
11.10	第52回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 大澤裕理（法1） 演題「夢の超特急」
11.17	第36回大隈杯争奪雄弁大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 大澤裕理（法1） 演題「大学の在り方を問う」 弁士 櫻井大智（政1） 演題「父よ、母よ」
12.9	第3回全日本学生弁論大会 弁士 濱 英剛（政1） 演題「再稼働論」 第1回福澤諭吉杯争奪全国学生辯論大会 主催：慶應義塾大学藤沢会
12.15	弁士 峯森 徹（政2） 演題「普通“被”選挙を請願す」準優勝 第32回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 桐生常朗（政1） 演題「道」
■平成25年（2013）	
5.18	五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 濱 英剛（政経2） 演題「『電力地図』を描く」優勝
6.29	第35回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 澁井 健人（法1） 演題「正義の秤を担うもの」

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
5.30	第5回五月祭記念弁論大会、出場：真崎博瑛「創造的な世界へ」
6.7	第31回新人弁論大会、出場：早川賢太「日本女性と労働」、吉田昌弘「麻薬対策に新たな手」
6.27	第13回紫紺杯争奪全国学生弁論大会（和泉キャンパス）、出場：後藤和也「人々は古来より」、高崎由布子「最期の善意」（優勝）
9.7	夏合宿（八王子セミナーハウス）
10.4	第5回全関東大学弁論大会（八王子市民会館）、出場：林三紀也「光の対価、科学の影」優勝、野田悠輔「架橋」（準優勝）
10.11	食料自給率討論会（東京農業大学）、出場：杉本篤彦「食料自給率から見えるもの」
11.7	第33回雄叫杯争奪安全保障弁論大会、出場：福田直人「防人のその手には」（準優勝）、西村真紀「あなた＝消費者」
11.15	第49回花井杯争奪全日本雄弁大会、出場：会田良明「親と学校と子供と教育」（最優秀賞、特別賞）、水谷庸恵「宝物」
11.28	第33回大隈杯争奪雄弁大会、出場：梶田晴之「朗々介護」（準優勝）、淵上敦之「百年前の誓い」
12.6	第29回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：吉田昌弘「寒暖の地」（準優勝）、小野厚隆「生活の鍵を握る舵」
12.19	第43回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会、出場：斎藤康裕「光満ちる森林」、林田豪太「豊富な海へ」（第3席）
■平成22年（2010）	
2.8	街頭遊説（東京都内）
4.8	新入生歓迎講演会、講師：鳩山邦夫（自由民主党衆議院議員）
5.30	五月祭記念弁論大会（東京大学）、出場：吉田昌弘「七転び八起の市場主義」（優勝）、小野厚隆「未来ノ設計図ー諸刃の剣から草薙の剣へー」（観衆賞）
6.19	第14回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会（明治大学）、梶田晴之「日本の技術を担う者」（第3位）、斎藤康裕「救いの手」（準優勝）
7.3	第32回学生新人弁論大会（中央大学）、出場：佐藤柊平「農民の命」（優勝）、石塚啓「縫合せよ、法の綻び」
9.6	夏合宿（～9日、八王子セミナーハウス）
9.20	食料・農業・環境サミット（東京農業大学）、出場：林田豪太「越境環境問題」（パワーポイントにて発表）
11.20	創立120周年記念式典開催、記念史『和而不同ー明治大学雄弁部120年の歩み』発刊
■平成23年（2011）	
5.28	五月祭記念弁論大会 主催：第一高等学校・東京大学弁論部 弁士 佐藤 柊平（農2） 演題「志願兵」第3位
6.12	早稲田学生文化・芸術祭記念弁論大会 主催：早稲田大学雄弁会 弁士 森谷 司（農2） 演題「貧困の克服」第3位
6.18	第15回紫紺杯争奪全国学生雄弁大会 主催：明治大学雄辯部 弁士 木佐貫 彩夏（政2） 演題「還流」準優勝 弁士 浅沼 駿孝（法2） 演題「悲しみをなくす」
6.25	第33回全国学生新人弁論大会 主催：中央大学辞達学会 弁士 飯倉 一樹（経1） 演題「安らぎのあさ」最優秀賞

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
11.16	第18回拓殖大学総長杯争奪全日本学生弁論大会、出場：野口貴博「地方に光を」、成田嵩憲「生活オンブズマン」（優勝）
11.23	第31回大隈杯争奪学生雄弁大会、出場：小野順也「売買春の合法化」（優勝）
12.8	第6回清新杯争奪学生弁論大会、出場：三橋和史「大和心の清新論」、小野翔平「新人教師」（第3席）
12.9	第27回東京大学総長杯争奪弁論大会、出場：渡邊拓弥「平和を欲するなら、戦争に備えよ」
12.14	第29回柴田杯争奪全日本学生優勝言動大会（国土舘大学）、出場：平田聡「マニフェストの自己分析」（第3席）、矢野佳祐「交通問題の再検討」
12.22	第40回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会、出場：後藤祐太郎「日本の農業」、播磨匠「食卓の花」、田仲信康「環境問題問題」（第3席）
■平成20年（2008）	
2.4	街頭遊説（東京・千葉）
4月	（大）和泉地区に国際日本学部が開設される
4月	雄弁部OB日高憲三が担当常勤理事に就任する
4.14	新入生歓迎講演会、講師：谷垣禎一（自由民主党国会議員）
4.19	新入生歓迎講演会、講師：岡田克也（民主党衆議院議員）
5.17	第12回紫紺杯争奪学生弁論大会（和泉キャンパス）、出場：小野翔平「公教育とバウチャー制度」（第3席）、成田嵩憲「快晴の空」（準優勝）
5.24	第4回五月杯記念弁論大会、出場：野口貴博「渚にて」、田仲信康「裁判員制度」（優勝）
6.21	第30回新人弁論大会、出場：高崎由布子「見放された人々」（優秀賞）
9.16	夏合宿（八王子セミナーハウス）
10.5	第4回全関東学生弁論大会、出場：後藤祐太郎「終末期」（第3席）、矢野佳祐「いかで省庁、協調せざらむや」
10.28	第48回花井杯争奪全日本弁論大会、出場：真崎博瑛「白と黒」、後藤和也「再出発」
11.8	第32回雄叫杯争奪安全保障弁論大会、出場：内田賢吾「情報の戦い」（第3席）
11.23	第53回文部科学大臣杯全国青年弁論大会（金沢）、出場：成田嵩憲「Are you happy?」
11.23	弁論大会慶應杯、出場：杉山慧志「こんな参議院はいらない」（特別賞）
11.24	第32回大隈杯争奪雄弁大会、出場：野口貴博「明日をつくる方法」
11.26	丸山和也氏講演会（リバティールホール）
11.29	第19回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：高崎由布子「産声」（優勝）
12.6	第28回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会（曳舟文化センター）、出場：田仲信康「人の身体の7割は…」（優勝）
12.21	第41回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会、出場：山崎いづみ「確かな未来」（特別賞）、杉本篤彦「亡骸」
■平成21年（2009）	
2.6	街頭遊説（東京都内）
4.9	新入生歓迎講演会、講師：佐藤優（元外交官、文筆家）

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
12.12	らの地域再生シナリオ」 第 39 回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会（東京農業大学）、 出場：森川雄介「森と生きる」
12.17	大隈杯争奪学生雄弁大会（早稲田大学）、出場：芦沢拓「だまされに くい世の中へ」
12.18	東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：中田裕「掌握の未来へ」
■平成 18 年（2006）	
4.10	新入生歓迎講演会、講師：森田実（政治評論）
5.20	六大学弁論大会（早稲田大学）、出場：羽鳥智喜「亡国の秋、覚醒の詩」 （第 3 席）
5.28	五月祭記念弁論大会（東京大学）、出場：森川雄介「狂った宴のその 前に」
6.24	新人弁論大会（中央大学）、出場：木下高志「本と話をしませんか」、 渡邊拓弥「災害と行政～問われる危機管理」（優秀賞）
7.1	紫紺杯争奪全国学生弁論大会、出場：村松美穂「煙草について」
9.16	夏合宿（誉田寮）
10.28	第 46 回花井杯争奪全日本雄弁大会、出場：新保貴史「誰がために鐘 は鳴る」
11.11	第 30 回雄叫杯争奪安全保障弁論大会、出場：渡邊拓弥「うたわれる もの」（準優勝）
11.12	第 51 回文部科学大臣杯（島根県）、出場：羽鳥智喜「吉継と三成」、 佐藤尚孝「続・神」
11.17	第 17 回拓殖大学総長杯争奪全日本学生弁論大会、出場：橋本勇樹「有 限の空の下、無限の宇宙の上」
12.2	第 5 回清新杯学生弁論大会（立命館大学） 出場：草野有紀「国語に『文 学』を」
12.9	大隈杯争奪学生雄弁大会（早稲田大学）、出場：田高直也「富国から 富民へ～坂の上を登った後に」（準優勝）
12.10	第 40 回農林水産大臣杯争奪全日本弁論大会、出場：芦沢拓「悪貨が 良貨を駆逐する」、渡邊拓弥「命紡ぐもの」（第 3 席）
12.16	第 3 回全関東弁論大会（帝京大学）、出場：木下高志「ふるさと院の 創設を」佐藤尚孝「続・神」
12.17	第 26 回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：森川雄介「静 かな戦争の終結を」
■平成 19 年（2007）	
5.14	新入生歓迎討論会、講師：中川昭一（自民党衆院議員）、前原誠司（民 主党衆院議員）、小西徳應（司会：明大教授）
5.19	六大学弁論大会（法政大学）、出場：渡邊拓弥「雫」
6.30	第 29 回新人弁論大会（中央大学）、出場：成田嵩憲「危機から救う には」、渡邊拓弥が質問賞を受賞
9.8	夏合宿（八王子セミナーハウス）
10.8	第 47 回花井杯争奪全国学生雄弁大会、出場：田仲信康「パープルヘ イズ～紫のケムリ」
11.10	第 31 回雄叫杯争奪安全保障弁論大会、出場：綾部正太郎「資源の安 全保障」（優勝）

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
12.7	第2回清新杯学生弁論大会（立命館大学）、出場：堀之内毅「56年分の想い」（優勝）
12.13	第23回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：川村裕美「白い壁を打ち崩せ！」（優勝）
■平成16年（2004）	
3月	（大）＜アカデミーコモン＞の竣工記念式典を挙げる
4月	（大）情報コミュニケーション学部を新設する
4月	（大）法・商・政経・文学部の各二部（夜間部）学生の募集を停止する
4月	（大）短期大学の学生募集を停止する
4.9	新入生歓迎講演会（本願寺）、講師：塩川正十郎「学生だからできること」
4月	『駿台雄弁』2000（平成12）－2003（平成15）年版発行
この頃	新人弁論大会（中央大学）、出場：田中裕、関陽輔
7.3	東京六大学弁論大会（慶応大学）、出場：佐野友章「救われぬ人」
8.28	夏合宿（～30日、菅田寮）
10.10	桜井杯争奪ディベート大会（東京農業大学）、出場：木村太一（優秀賞）、村松美穂（優秀賞、優秀ディベーター賞）
11.3	第44回花井杯争奪全日本学生雄弁大会（中央大学）、三宅寿「救国の一灯」準優勝
11.13	第28回雄叫杯争奪安全保障弁論大会（防衛大学）、出場：三宅寿「問い直すは自身にあり」優勝
11.19	第15回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：田中裕「国際関係の壁－その先にあるもの－」
11.20	第24回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：清水健「市民のための報道を－ペンは剣より強いから－」
11.21	文部科学大臣杯（熊本県）、出場：小野雄太
11.28	第3回清新杯（立命館大学）、鈴木隆弘「結婚と幸せと私の苗字」（準優勝）
12.4	2004年度大隈杯争奪雄弁大会（早稲田大学）、出場：佐野友章「裁く人」
	第2回全関東弁論大会（帝京大学）、出場：木村太一「もう我慢できない」
12.12	第38回農林水産大臣杯争奪全国学生弁論大会（東京農業大学）、出場：清水健「いのちの水」、村松美穂「Save the Whale」（第3席）
■平成17年（2005）	
4.13	新入生歓迎講演会、講師：田原総一郎「学生だからできること」
5.29	東京六大学弁論大会（東京大学）、出場：佐野友章「白い悪魔への三行半」
6月	新人弁論大会（中央大学）、出場：田幸瑛輔「何もしないというリスク」
9.9	夏合宿（八王子セミナーハウス）
10.29	第45回花井杯争奪全国学生弁論大会、出場：羽鳥智喜「国土を作る方法」
11.12	第29回雄叫杯争奪安全保障弁論大会（防衛大学）、出場：田高直也「今そこにある危機」
11.18	第16回拓殖大学総長杯争奪全日本雄弁大会、出場：田幸瑛輔「未来の創り手」
12.4	第4回清新杯学生弁論大会（立命館大学） 出場：阿部千恵子「これか

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史）出来事
6.29	第15回東京六大学弁論大会（法政大学）、出場：山下真史「『働け！』－if衆議院議員山下真史本会議法案趣旨説明－」
7.6	第24回学生新人弁論大会（日本大学）、出場：山橋りさ「ヒトヲツクル」
8.30	2002夏遊説（～9月3日、東京－新宿間の中央線沿線駅前）
9.13	夏合宿（～15日、菅田寮）
10.6	中央大学、立教大学とともに「ディベート登竜門」（明治大学）開催 テーマ：「日本国政府は消費税を15パーセントにすべし」、小林慶史、 梶沢友視が優秀ディベーターに
11.1	（大）駿台祭が中止に
11.2	第1回神山杯争奪全日本学生雄弁大会（京都産業大学）、出場：上村 英彰「守れ！ぼくらの街を」、千種大輔「支柱の確立」
11.3	第42回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会（中央大学）、出場：高橋典 子「未来ある原石を救え！！」、堀之内毅「刹那－里親制度が補完す る人の尊厳－」
11.15	第13回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：山橋りさ「女 性がきめる未来」（優勝）
11.16	第26回雄叫杯争奪安全保障弁論大会（防衛大学）、出場：高橋大「個 別的自衛権の再考」、村野史雄「日本かく援助せり」（準優勝）
11.23	（大）第2回生明祭
11.23	第22回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：上村英彰「怒 れ！そして生きた言葉で語れ！」
11.30	2002年度大隈杯争奪雄弁大会（早稲田大学）、出場：小野雄太「身近 な戦争の終結を」優勝、仙田晃宏「『住』の安全確立」
12.8	第36回農林水産大臣杯争奪全国学生弁論大会、出場：梶沢友視「モ リをまもりましょう」、小林慶史「身近の考えること」
12.15	第10回紫紺杯全国学生弁論大会、出場：鈴木大介
12.15	第1回全関東学生弁論大会（帝京大学）、出場：篠宮一幸「家裁」、仙 田晃宏「過労死－遊休と遊休－」
12月	ラグビー早明戦後に新宿コマ劇場前で一般学生を扇動して騒ぎを拡大 させたとして、大学から6ヵ月間の活動停止処分を受ける。次年度の 新歓活動が不能に。退部者多数
■平成15年（2003）	
6.1	雄弁部の活動停止処分解除される
6.5	第16回東京六大学弁論大会（青少年総合センター）、出場：小野雄 太「大量消費・廃棄の是正を」優勝、堀之内毅「責任－これからの高 齢者介護をどうするのか－」
9.8	夏合宿（～10日、山中湖セミナーハウス）
11.1	（大）学園祭を4年ぶりに「明大祭」として和泉校舎で開催する（～ 3日、119回）
11.3	第43回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会（中央大学）、出場：陸名瑞 穂「かけがえない命」
11.14	第14回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：清水健「君 は選んだんだ、君自身を」
11.29	2003年度大隈杯争奪雄弁大会（早稲田大学）、出場：堀之内毅「公明 党をどうしましょうか」

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■平成 13 年（2001）	
1 月	（大）3 キャンパスで部室が入っている建物を封鎖（～3 月末）、学生会・学苑会の公認停止
1.13	第 17 回土光杯全日本学生弁論大会（サンケイホール）、出場：南上清一郎「選り下げから選り上げへ」
1.27	全関加盟校、早稲田大学 1 年生による「言論界一年会」開催
2.18	全関ディベート合宿（～20 日、代々木オリンピックセンター）
2.20	南上杯争奪ディベート大会、出場：小林剛士、小林宏樹、テーマ：日本政府は首都機能を移転すべし
3.18	全関、合宿（～20 日、府中青年の家）、全関中執が総辞職し、活動停止に
6.10	各大学雄弁部の交流を目標に「水無月交流会」（拓殖大学）開催
6.15	全日本学生ディベート連盟主催「新人ディベート大会」（慶応大学） 出場：川村裕美、山田悠ら
6.22	（大）和泉祭中止
6.30	東京六大学弁論大会（立教大学）、出場：山下真史「『if』—山下真史国土交通大臣就任会見—」
9.16	夏合宿（～18 日、菅田寮）
10.20	第 36 回春秋杯争奪全日本学生雄弁大会（法政大学）、出場：千種大輔「過去への回帰」、松沼亮「『よい』政治を目指して」
11 月	（大）創立 120 周年・創立者生誕 150 周年記念式典・祝賀会を挙行する
11.1	（大）駿台祭中止
11.3	第 41 回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会（中央大学）、出場：川村裕美「通勤改革」
11.16	第 12 回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：堀之内毅「希望を取り戻す学校、ノイエ・シュレーを創ろう」優勝
11.17	第 25 回雄叫杯争奪安全保障弁論大会（防衛大学）、出場：羽田野祥一「涙」
11.23	（大）第 1 回生明祭を生田祭に代えて開催
11.24	2001 年度大隈杯争奪雄弁大会（早稲田大学）、出場：武田正人「Face to Face」、布浦隆司「カブ上がれ！」
11.25	第 21 回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：太田原崇宏「置き忘れたもの」、小野雄太「国会新生計画」準優勝
12.1	第 20 回校門杯争奪全国学生弁論大会（日本大学）、出場：上村英彰「法と医—触法精神障害者について思うこと」
12.2	第 1 回清新杯学生弁論大会（立命館大学）、出場：伊藤秀敏
12.8	第 35 回農林水産大臣杯争奪全国学生弁論大会、出場：岩波孝祥「勝者の義務」
12.15	第 9 回紫紺杯全国学生弁論大会、出場：菱沼靖裕「人がいいんじゃない—少年裁判を考える」
■平成 14 年（2002）	
1.27	「言論界一年会」開催
4.11	新入生歓迎講演会、講師：早坂茂三「学生にできること」
6.16	全日本学生新人ディベート大会（慶応大学）、出場：仙田晃宏、高田雄太ら
6.28	（大）和泉祭中止

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
5 月	東京六大学学生弁論大会
11.3	紫紺杯争奪全国雄弁大会（明治大学）
11 月	第 39 回花井卓蔵杯争奪全日本学生雄弁大会
■平成 12 年（2000）	
4 月	『駿台雄弁』（平成 11 年度版）発行
4.10	新歓講演会「21 世紀－学生に求められること」講師：ペマ・ギャルポ（チベット文化研究所所長）
4.16	新歓講演会「同上テーマ」、講師：明石康（元国連事務次長） 弁論エキシビション 2000（東洋大学）、出場：伊藤慎一郎「農といえる日本で」
6.4	第 13 回東京六大学弁論大会（早稲田大学）、出場：本庄智忠「Good
6.10	Old Days よもう一度一人材輸出のすすめ」（準優勝）
6 月	（大）和泉祭開催中止
6.17	全関、総会（駒沢大学）
6.24	第 2 回西南学院大学学長杯争奪雄弁大会、出場：小林宏樹「メディアコミュニケーション」
6.25	全関、新人ディベート大会（中央大学）テーマ「日本国政府はエネルギー供給の為に原子力発電所をすべて廃止すべし」出場：飯塚智規、上村英彰、鈴木大介、ほか
7.1	第 22 回全関新人弁論大会（駒沢大学）、出場：菱沼靖裕「人権派で何が悪い」（優勝）
8.18	全関、全国遊説（～ 26 日）、関東、関西、日本横断の 3 コースで実施
9.4	夏合宿（～ 6 日、菅田寮）
10.15	第 45 回文部大臣杯全国青年弁論大会（佐倉市）、出場：小林剛士「幸せになるために」、小林宏樹「これから・・・」
10.22	学生討論会 2000（駒沢大学）、出場：上村英彰、押条征一郎、鈴木大介、松沼亮
11 月	（大）駿台祭中止
11.3	第 40 回花井卓蔵杯争奪全日本弁論大会、出場：太田原崇宏「心」（優勝）
11.4	第 24 回雄叫杯争奪安全保障弁論大会（防衛大学校）、出場：千種大輔「プライド」（準優勝）、小林宏樹「不死鳥、ふたたび」
11.5	花井ディベート（中央大学）、テーマ「日本国政府は死刑制度を廃止すべし」出場：上村英彰・小林庸平
11.17	第 11 回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：鈴木大介「お前だってなにか与えられている」（優勝）
11.25	2000 年度大隈杯争奪雄弁大会、出場：押条征一郎「人間の森－教師のフィールドワーカー」
12.2	第 19 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会、出場：小池陽一「主導権を奪る！－捕鯨新体制に向けて－」、本庄智忠「これが私の生きる道－21 世紀の日本の社会福祉政策への提言－」
12.3	第 34 回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会、出場：山下真史「大東亜共農圏－私の A A A 宣言－」
12.16	第 20 回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会、出場：本庄智忠「目覚めよ！日本！－真の独立・共生・共存のための提言－」
12.17	全関、総会（駒沢大学）、南上清一郎前委員長「ありがとう全関」の最終弁論、太田原崇宏が次年度副委員長に選出される

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
11.3	第36回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会、出場：川神光生「国家はあなたを守らない」（準優勝）
12.13	講演会、講師：テリー伊藤
■平成9年（1997）	
3.22	シンポジウム「行政改革を断行せよ！」（駿河台）、パネリスト：下村博文（自民）、西田猛（新進）、石井紘基（民主）、中邨章（司会：明大教授）
3.26	『駿台雄弁』（平成8年度版）発行
4.6	「雄弁ジャーナル」第1号発行
4.10	新歓講演会「大学生活をいかに送るか」（和泉校舎2番教室）、講師：石川好
6.1	全関弁論エキシビション（駿河台校舎140番教室）
6.1	「雄弁ジャーナル」第2号発行
6.8	全関第2回ディベートリーグ（拓殖大学）
6.15	東京六大学弁論大会（駿河台校舎150番教室）
6.21	全九州弁論大会（西南学院大学）、出場：古本武司「『あぐら』より『正座』を」
6.28	東大新人ディベート大会（駒場キャンパス）
8.3	「雄弁ジャーナル」第4号発行
8.20	全関全国遊説（～24日、西コース：福岡、広島、神戸、大阪）
8.21	全関全国遊説（～24日、北コース：札幌、函館、盛岡、仙台）
8.23	全関全国遊説（～26日、中央コース：長野、松本、甲府）
8.26	全関各コース合同遊説（新宿西口）
9.14	夏合宿（～16日、富津寮）
10.5	「雄弁ジャーナル」第5号発行
10.10	全関ディベートリーグ（中央大学）
10.18	春秋杯争奪弁論大会（法政大学）
10.19	全関学生討論会（代々木野外ステージ）
10.26	全関『雄弁の研鑽』（亜細亜大学）
11.2	第37回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会
12.6	第2回K・Gディベート大会（関西学院大学）、テーマ「日本国政府は、再販制を廃止すべし」出場：南上清一郎（優勝）
12.7	「雄弁ジャーナル」第6号発行
12.13	創部110周年記念行事、「雄弁を語る会」（駿河台521教室）、懇親会（水道橋グランドホテル）
12.14	紫紺杯争奪全国学生雄弁大会（駿河台10号館）
12.20	東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会
■平成10年（1998）	
3月	『駿台雄弁』百十周年記念号発行
9月	（大）創立120周年記念館＜リパティ・タワー＞の竣工式をおこなう
11.3	第38回花井卓蔵杯争奪全日本雄弁大会
12.19	紫紺杯争奪全国学生雄弁大会（明治大学）
■平成11年（1999）	
4月	（大）山田雄一、学長に就任する

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
12.18	友愛杯日本語弁論大会（日本友愛青年協会）、出場：大淵健（優勝）
■平成6年（1994）	
2.4	パネルディスカッション「もう1つの談合～コンタクトレンズ問題を考える～」（明治大学）、出席：丸山嘉浩（平成維新の会）、大六野耕作（明大教授）、大淵健（21世紀政治フォーラム代表）、大谷博愛（司会：拓殖大学教授）
6.18	第16回全関東学生新人弁論大会、出場：川内宣良「パレスチナのあるべき姿」（優秀賞）
8.2	全関全国遊説（～11日）、東コース：東京～弘前、西コース：東京～福岡
10.8	第32回学長杯争奪全日本学生雄弁大会（福岡大学）、出場：大岸史佳
10.15	第30回春秋杯争奪学生弁論大会（法政大学）
10.22	立命館大学弁論大会、出場：向山勝浩
11.3	かえで杯弁論大会（東洋英和女学院大学）、出場：高橋健二
11.4	第3回紫紺杯争奪全日本学生雄弁大会（明治大学）、出場：中村和彦「町内会からの行政改革」（優勝）
11.5	第34回花井杯争奪全日本弁論大会、出場：東俊一郎「戦争責任とこれからのアジア外交」
11.11	第5回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：川内宣良
11.12	第18回雄叫杯争奪安全保障問題弁論大会（防衛大学校）、出場：久高誠
11.14	柴田杯弁論大会（国士館大学）、出場：本澤好貞「仏作って魂入れず」（準優勝）
11.26	第28回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会（東京農業大学）、出場：安部幹洋
12月	シンポジウム「戦後改革とはなんだったのかー戦後民主主義を問うー」（国立オリンピック記念センター）、出席：石川真澄（朝日新聞編集委員）、西部邁（評論家）、小西徳應（司会：明大専任講師）
12月	シンポジウム「新たな政党の理念を求めてー日本のビジョンを考える」（国立オリンピック記念センター）、出席：上田哲（新党あかつき）、山口敏夫（新進党）、渡瀬憲明（自民党）
■平成7年（1995）	
4月	（大）戸沢充則、学長に就任する
11月	（大）「記念館さよならDAY」開催（記念館解体へ）
11月	第4回紫紺杯争奪全国雄弁大会（明治大学）、出場：高橋健二「情報公開制度の確立を」（優勝）
12.23	パネルディスカッション「国民に信頼される政治を目指して」（駿河台）、パネリスト：細川律夫（衆議院議員）、宇佐見登（同）、武見敬三（参議院議員）
■平成8年（1996）	
5.11	六大学弁論大会、出場：伊神健雄「『地方の時代』への道」（優勝） 講演会「情報公開待ったなし！」（明治大学）、講師：堀部政男（一橋大学教授） 防衛大学雄叫杯争奪弁論大会、出場：前田匡「真の戦争教育を大学に求める」（優勝）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
10.10	第30回学長杯弁論大会（福岡大学）、出場：寺崎雄介
10.11	紫峰杯（筑波大学）、出場：中村和彦「断行せよ！地方分権」（優勝）
10.17	春秋杯弁論大会（法政大学）、出場：大塚康弘
10.24	世耕杯弁論大会（近畿大学）、出場：大岸史佳
11.1	愛知学院大学学長杯弁論大会（愛知学院大学）、出場：森山浩行
11.3	第32回花井杯弁論大会（中央大学）、出場：本澤好貞「核兵器廃絶を目指して」（理論賞）
11.4	かえで杯弁論大会（東洋英和女学院大学）、出場：須藤公博
11.8	"第1回紫紺杯争奪全国雄弁大会（明治大学）、出場：中村和彦「地方分権を実現するために」"
11.8	"第1回紫紺杯争奪全国雄弁大会（明治大学）、出場：中村和彦「地方分権を実現するために」"
11.28	桜門杯弁論大会（日本大学）、出場：本澤好貞「信頼される政治を目指して」
12.5	農林水産大臣杯弁論大会（東京農業大学）、出場：大淵 健
■平成5年（1993）	
1.15	第9回土光杯全日本学生弁論大会、出場：中村和彦「『地方分権』の国家を目指して」（ニッポン放送杯）
4月	講演会「いかなる大学生活を送るか」（和泉校舎）、講師：猪瀬直樹（作家）
6.12	東京六大学弁論大会、出場：中村和彦
6.19	第15回全関東学生雄弁連盟新人弁論大会、出場：中村一也「過労死のない社会の実現を」（優秀賞）
8.2	全関全国遊説（～11日）、東コース：東京～弘前、西コース：東京～福岡など
9月	（大）和泉新第一学生会館（新学生食堂）竣工
10.9	第31回学長杯争奪全日本学生雄弁大会（福岡大学）、出場：大西英之「『北方領土』返還運動を盛り上げよう」
10.15	第33回花井杯争奪全日本雄弁大会（中央大学）、出場：大岸史佳「お年寄りに愛の手を」
10.16	第29回春秋杯争奪学生弁論大会（法政大学）、出場：中村和彦「地方再建—地方分権の前に何をなすべきか」（準優勝）
11.3	かえで杯弁論大会（東洋英和女学院大学）、出場：植木 淳
11.5	第2回紫紺杯争奪全国雄弁大会（明治大学）、出場：須藤公博「新しい民主『主義』の誕生」
11.12	第4回拓殖大学総長杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：豊吉広英「情報公開法を求めて」
11.13	第17回雄叫杯争奪安全保障問題弁論大会（防衛大学校）、出場：美野聡史「日本の将来の自衛体制」
11.20	第12回桜門杯争奪全日本学生弁論大会（日本大学）、出場：中村一也「現代の日本における労働者階級の状態」（第3席）
11.27	第27回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会（東京農業大学）、出場：松本誠二「魅力ある農業を」
12.10	シンポジウム「カネに左右されない政治をめざして」（明治大学）、出席：築瀬進（自民党衆院議員）、筒井信隆（社会党衆院議員）、森山浩行（明治大学）、福岡政行（司会：白鷗大学教授）
12.11	第13回東京大学総長杯争奪全国学生弁論大会（東京大学）、出場：角倉貴之「税制再考」

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■昭和 63 年（1988）	
1 月	国家秘密法に反対する遊説（渋谷）
3 月	雄弁部OBの永野徳光が大学理事に就任する
11.3	「雄弁部通信」第 11 号発行（「百周年を迎えて」）
11 月	駿台祭、「教育をわたしたちの手に！ー今、なぜ中野区準公選制教育委員会かー」、パネリスト：神田修（九州大学教授）、藤原登美子（中野区教育委員）、吉田善明（司会：明大教授）
11 月	第 28 回花井卓蔵記念全日本学生雄弁大会
12.3	第 22 回農林大臣杯争奪全日本学生弁論大会（東京農大）、出場：中山 潔「危うし農業 救え女性の力と美しさで」
12 月	（大）和泉第一校舎の竣工式を挙げる
■平成元年（1989）	
11 月	第 29 回花井杯争奪全日本学生雄弁大会
■平成 2 年（1990）	
11.3	第 2 回関東学生対抗弁論大会（東海大学）、出場：保岡直樹「これでいいのか日本の農業」（優勝）
■平成 3 年（1991）	
3.9	（大）二部商学部の不正入学試験（代人受験）の事実が同学部教授会に報告される（以後、学内問題に発展）
6.9	第 4 回東京六大学弁論大会（明治大学）、出場：寺崎雄介「橋本龍太郎を総理に！」
8 月	世耕杯弁論大会（近畿大学）、出場：森山浩行（第 3 位）
10.13	春秋杯争奪学生弁論大会（法政大学）、出場：森山浩行「日の丸を掲揚せよ」
11.4	第 31 回花井杯争奪全日本学生雄弁大会（中央大学）、保岡直樹「外国人労働者問題を問う」（準優勝）
11.17	第 36 回文部大臣杯全国青年弁論大会（中京大学）、出場：保岡直樹「外国人労働者問題を問う」（優秀賞）
この頃	PKO に反対する遊説（御茶ノ水、東京、新宿、渋谷）
11.30	大隈杯争奪弁論大会（早稲田大学）、出場：保岡直樹「高齢化社会への私の提言」（優勝）
12.7	" 第 25 回農林水産大臣杯全日本学生弁論大会（東京農業大学）、出場：保岡直樹「時代に対応した農業を」 "
■平成 4 年（1992）	
2 月	シンポジウム「あの日、あの時、あの場所で、国際貢献ができたなら…」（日仏会館）、出席：石原伸晃（自民党）、上田哲（社会党）、山田英介（公明党）、小西徳應（司会：明大専任講師）
3.31	雄弁部OB岡野加穂留が学長に、同鈴木俊光が学務担当常勤理事に就任
4 月	講演会「言論の自由と責任」（和泉校舎）、講師：鳥越俊太郎（ジャーナリスト）
6.13	" 第 14 回全関東学生新人弁論大会（代々木公園）、出場：中村和彦「地方からの日本再建」（優秀賞） "
9 月	東京都暴騒音条例に反対する遊説（新宿、池袋、上野、東京、御茶ノ水）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
11 月	東京大学総長杯弁論大会
12.6	第 20 回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会（東京農業大学）、 出場：堀内博文『『農協改革』への提言』
12 月	近畿大学 部弁論大会
■昭和 62 年（1987）	
2 月	国家秘密法に反対する遊説（都内各所）、応援弁士：木村晋介（弁護士）、 小中陽太郎（評論家）、菅直人（社民連）
3 月	ミズノ・サンケイ杯ディベート大会（大阪）
3 月	（大）和泉部室センター工事完了
4 月	新歓映画上映会「風の谷のナウシカ」
4 月	（大）木村礎、学長に就任する
4 月	新歓講演会、講師：小中陽太郎
5 月	国家秘密法講演会、講師：奥津茂樹（市民ネットワーク）
5 月	国家秘密法に反対する遊説「がんばれ表現の自由」（国道 16 号線）
6 月	東京六大学弁論大会（慶応大学）
6 月	全関新人学生弁論大会（代々木公園野外ステージ）
6 月	和泉祭、「憲法四十周年を迎えて」弁論大会および討論会
6 月	東大新人ディベート大会
7 月	政治への信頼回復を求める遊説（都内各所）
9.1	「雄弁部通信」第 10 号発行
9 月	夏合宿（富津寮）
10 月	第 10 回明立交歓討論大会（明治大学）、テーマ：「教科書問題を考える」 （出場：早福一男）、テーマ：「税制改革を考える」（出場：吉田元彦）
10.10	全日本学生シンポジウム：ディベート大会（日本大）、討論会（11 日、 本学記念館）ディベートテーマ「三宅島に官民共用空港を建設すべし」 （出場：渡辺朝香、高橋郁子、西中浩太郎、鈴木洋明）
10.11	全関全日本学生総合シンポジウム'87（明治大学）、分科会発表：「ア ジア NICs 問題について」、壇上討論会（司会：大井哲也）
11.3	駿台祭、「経済大国の歪みー地価高騰の現状と課題」パネリスト：田 中啓一（司会：日大教授）、長谷川徳之輔（建設経済研究所）、岡部喜 重郎（アクセス）、菅直人（衆院議員）、「家庭と仕事のやさしい関係 ー性別役割分担を考える」パネリスト：足立喜美子（労働省）、木村 愛子（早大講師）、「理想の選挙制度を考えるー日本の政治風土への挑 戦」パネリスト：小杉隆（自民）、阪上順夫（学芸大教授）、山田英介 （公明）
11.28	第 6 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会（日本大学）、出場：竹内尚美「ガ ン宣告と日本の医療」
11 月	東京大学総長杯弁論大会
11 月	愛知学院大学弁論大会
11 月	防衛大学校雄叫杯弁論大会
11 月	法政大学多摩祭ディベート大会
12.1	第 20 回柴田杯争奪全日本学生優勝言道大会（国士舘大学）、出場： 中山潔「政治と精神と」
12 月	ミズノ・ディベート大会（電通映画社）

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
6.23	"和泉祭、明治大学 vs 日本大学親善壇上弁論大会、出場、野副基信、佐藤
6.29	耕志、高山展保、中山勝則、加瀬澤正義"
7.12	亜細亜大学弁論大会、出場：石川徹也
9.17	(大) 大学会館が竣工する
10.5	夏合宿（本学菅田寮、～19）
10.10	明立交歓討論会「安楽死について」、出場：佐藤耕志、清田圭一、西連寺成子
10.10	「雄弁部通信」第9号発行
11.2	全日本学生シンポジウム「技術革新について」、出場：小沢義則、玉木達也、滝田欽輝、加藤貴敏（駒澤大学、13日は立教大学で） 駿台祭、「今、定数は正のあるべき姿を考える」パネリスト：石川真澄（朝日新聞）、江田五月（衆院議員）、河野洋平（衆院議員）、越山康（弁護士）、富田信男（明大教授）
11.23	生田祭、「シンポジウム'85 先端技術と人間」
■昭和61年（1986）	
4.4	第3回東西学生ディベートコンテスト、「海外からの選手の補強は、日本のアマチュアスポーツの発展にとって是か非か」、出場：玉木達也、小沢義則、西連寺成子、疋田隆治（優勝）
4月	新歓映画上映会「風の谷のナウシカ」
4月	新歓講演会、講師：加藤諦三
5月	東京6大学弁論大会（東京大学）
6月	亜細亜大学弁論大会
6月	和泉祭参加「日本国家と沖縄社会」：映画「戦場ぬ童」他上映と講演（講師：菅孝行、太田武二）
6月	第4回関東学生ディベート大会
6月	全関新人学生弁論大会（代々木公園野外ステージ）
7月	定数は正を求める遊説（都内および近県各所）
9月	夏合宿（明大富津寮）
9月	明立交歓ディベート大会
10月	福岡大学弁論大会
10月	春秋杯弁論大会（法政大学）
10月	全関ディベート大会（学習院大）、弁論大会（記念館）
11月	駿台祭、「内需主導型経済への転換」パネリスト：石田定夫（明大教授）、武藤博道（日本経済研究センター）、永田晃（電通）、「若者の政治参加を考える」パネリスト：新堀俊明（TBS）、菅直人（社民連）、鈴木恒夫（自民）、福岡政行（駒大教授）、宮川淑（独協大教授）、「アジアNICSを考える」講師：深川由起子（JETRO）およびNICSからの留学生によるパネルディスカッション
11月	中央大学ディベート大会
11月	防衛大学校雄叫杯弁論大会
11月	近畿大学。部弁論大会
11月	「戦後政治の総決算を斬る」講師：前田哲男（軍事評論家）、鎌倉孝夫（埼玉大教授）、菅孝行（評論家）
11月	生田祭、「食糧制度を考える」講師：長谷川熙（朝日新聞）
11月	日本大学桜門杯弁論大会

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
12 月	第 3 回明立交歓雄弁大会（本学記念館）
■昭和 57 年（1982）	
5.1	O B 会（水道橋グランドホテル）世話人木下健・渡辺他
6.12	「雄弁部通信」第 7 号発行
7.27	全関学生新人弁論大会（中央大学）、出場：小林和正「対外援助日本の道」
10.25	政治倫理の確立を求め街頭演説
12.4	（大）生田地区の学生部室センター・学生食堂を竣工する
■昭和 58 年（1983）	
6.18	第 5 回明立交歓雄弁大会（駿河台 1 5 0 番教室）、出場：荒深久明臣「私的感情原発論」、高橋宏彰「財政再建への提言」、宮崎美樹「脳研究への期待」
7.27	第 5 回全関学生新人弁論大会（拓大）、出場：小沢浩明「日本経済 21 世紀への挑戦」 政治倫理の確立を求め街頭演説
	第 2 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会、出場：小暮太郎（優勝）
■昭和 59 年（1984）	
3 月	東西学生ディベートコンテスト「オリンピックにプロ選手を出場させるべき」、出場：赤池誠章、徳増信哉、久保田正廣、浜野和宏、村上勝、梅津慎吾、鈴木茂美、鈴木かおる（優勝）
4.28	（大）創立 100 周年記念図書館、駿河台研究棟が竣工する
6 月	全関東学生雄弁連盟新人弁論大会（本学記念館）、出場：金田竜生
6 月	明立交歓討論会、テーマ：プライバシー保護法制定
6 月	和泉祭、講演会「平和とは何か」講師：山川暁夫（軍事評論家）
6 月	第 2 回関東学生ディベート大会、「健康保険法を改正すべし」、出場：渡辺久利、加藤貴敏、玉木達也、小沢義則（対東大勝利）、「労働基準法における女子保護規定を撤廃すべし」、出場：野村かおる他
	政治倫理の確立を求め街頭演説（数寄屋橋公園前、池袋、新宿、渋谷）
7.27	政治倫理の確立を求め遊説（～ 17 日）
9.10	全関主催ディベート大会、テーマ「共通一次試験廃止」
10 月	福岡大学学長杯争奪弁論大会、出場：川内尋嗣（西日本新聞社賞） 愛知学院大学小出杯争奪弁論大会、出場：堀内博文（中日新聞社賞） 近畿大学「部弁論大会、出場：小川直史（大阪府知事杯）
■昭和 60 年（1985）	
11 月	生田祭、講演会「日本農業の選択」講師：安達生恒（社会農学研究所）
3 月	第 3 回関東学生ディベート大会（テーマ：食糧問題）
4.12	第 2 回東西学生ディベートコンテスト「大学スポーツ選手の目的は勝つことではない……是か非か」、出場：久保田正廣、鈴木かおる他（準決勝敗退）
5.16	新歓映画上映会「灰とダイヤモンド」
6.15	新歓講演会、「現代政治を斬るー今、政治倫理とは？」講師：野坂昭如
6.21	全関新人学生弁論大会（代々木公園野外音楽堂）、出場：杉山雅之 （大）和泉校舎創設 50 周年記念式典を行う

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■昭和52年（1977）	
3.20	「雄弁部通信」第4号
6.6	（大）創立100周年記念事業委員会設置要綱および創立100周年記念事業募金委員会設置要綱を制定する
7.2	和泉祭企画「雄弁なつかしのあの瞬間」（名場面再現集）
■昭和53年（1978）	
5.27	和泉祭、講演会「差別と闘うー女性解放に向けて」講師：中山千夏・矢崎泰久
7.27	夏合宿（～30、静岡県伊豆）
11.3	駿台祭、講演討論会「安保問題を考える」講師：吉田善明（本学教授）、第2部として他大学生を交えた討論会
11.12	防衛大学弁論大会、出場：佐藤浩之「防衛論議・・・その周辺」
■昭和54年（1979）	
5月	新歓企画、社会党との討論会（衆議院第二議員会館）
6.23	全関東新人交歓弁論大会（中央大学）、出場：金子勝
6.26	亜細亜大学学長杯弁論大会、出場：宇尾野隆
6.30	和泉祭、「天皇制と元号を考えるシンポジウム」講師：松岡英夫（本学教授）、松島栄一（歴史学者）、第2部として他大の弁論部所属学生を交えて討論会
7.30	夏合宿（～8月2日 長野県白馬）
11月	駿台祭、「80年代の総合安全保障」講師：伊藤重行と他大学生による討論会
11.11	防衛大学校雄叫杯弁論大会、出場：湊谷晃
11.30	第23回花井卓蔵記念全日本学生雄弁大会、出場：宇尾野隆
12.1	東京農業大学農林水産大臣杯弁論大会、出場：長谷部与一
■昭和55年（1980）	
4月	雄弁部顧問で、元学長の小島憲が総長に就任する
5月	（大）山本進一、学長に就任する
5.26	（大）創立100周年記念式典講演会で元駐日アメリカ大使ライシャワー、元首相三木武夫が講演する（帝国ホテル）
10月	（大）駿河台地区の学生会館新館が開館する
11月	第24回花井卓蔵記念全日本学生雄弁大会
11.4	（大）明治大学創立100周年記念式典を日本武道館で挙げる
■昭和56年（1981）	
4月	新歓企画、自由民主党との討論会（自由民主党本部）
6月	全関東新人交歓弁論大会（記念館講堂）
8.7	全関東学生雄弁連盟三十年史編集委員会編『明日への模索 今・学生弁論は何処へ……』発行
8月	夏合宿（長野県戸隠）
11月	駿台祭、岡野加穂留部長講演会「北欧からのレポートー米ソ超大国と非核武装地帯」
11.26	緊急討論会「軍縮と日米安保を考える」、講師：宇都宮徳馬参議院議員（参院議員会館）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
10.5	全関時局討論会（大東文化大学）
10.19	全関新人弁論大会（早大）、出場：西村
10.24	松前杯争奪全日本大学雄弁大会（東海大）、出場：内村浅雄
11.3	大学交歓弁論大会（大東文化大学）、出場：渡辺利彦、高力護
11.9	和泉有志が遊説（渋谷駅）
11.12	全関立会演説会（駒沢大学）
11.15	第17回柴田杯争奪言道大会（国士舘大学）、出場：白石孝一
11.23	第16回学長杯争奪全日本大学雄弁大会（駿河台95番教室）、出場：福岡英明「クルマ公害追放のために」（第3位）、高橋孝栄「企業責任の望まれる姿」
11.25	第14回小出杯争奪雄弁大会（愛知学院大学）、出場：斎藤郁夫
11.28	学長杯争奪雄弁大会（福岡大学）、出場：高橋孝栄「残された民主への道－住民運動」（優勝）
11.30	全関東雄弁連盟委員長に内村浅雄選出
12.5	第25回全日本大学弁論大会（近畿大学「部」）、出場：福岡英明「大手私鉄経営への提言」（第3位）
12.11	農林大臣杯争奪弁論大会（東京農大）、出場：高橋孝栄
■昭和50年（1975）	
4月	『駿台雄弁』発行
7.6	第2回学生模擬国会（滝野川区民会館）、全関東学生雄弁連盟主催、出場：渡辺利彦（外務大臣）、大久保康雄（厚生大臣）、引田茂（経済企画庁長官）、松村能成（代表質問）
10.18	（大）校友の三木武夫首相に名誉博士号を授与する
■昭和51年（1976）	
4月下旬	「雄弁通信」第3号発行
5.18	全日本弁論選手権大会（和歌山）、出場：富永雅夫、笹井肇、鳥井隆男、古沢有一
6.11	参院議員源田実氏を囲む「防衛問題シンポジウム」（参院議員会館）
6.12	全関東弁論大会（東京経済大学）、出場：富永雅夫（優勝）
6.15	「雄弁部通信」第3号発行
6.19	和泉祭、講演会、講師：円谷真護、新人交歓弁論大会、出場：古沢有一、池田、徳永、箱岩、園部桂子、倉沢、富永雅夫
6.25	雄弁部OB会（市ヶ谷私学会館）
6.26	国労・永井法対部長を囲む「スト権ストを考えるシンポジウム」（国労会館）
6.28	中京大学弁論大会、出場：宮沢清明
7.24	夏合宿（～27日、長野県木島平高原）
10.21	6名の衆議院議員候補者の選挙応援（～11月5日）
10.22	外務大臣杯争奪弁論大会（拓殖大学）、出場：宮沢清明（反論賞）
11.13	明立討論会、テーマ：弁論のゆくえ
11.15	近畿大学弁論大会、出場：阪根憲司
11.23	駿台祭、全日本学生弁論大会（駿河台95番教室）、特別講師：山本七平、出場：阪根憲司（準優勝）
12.5	農林大臣杯争奪弁論大会（東京農大）、出場：西村公秀（第3位）

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■昭和 47 年（1972）	
5 月	（大）小牧正道、学長に就任する
5.27	第 1 回明東新人交歓弁論大会（和泉 2 番教室）、出場：紀伊英作「民主教育について」、望月金雄「公害都市富士を斬る」、石川滋彦「ある友人」、川長光男「現代社会とマスコミ」、鈴木紀代子「ぼくの友達」、幸山学「ウソ」、土屋誠「我々にとって現代とは何か」
6.18	和泉祭企画、全明治新人雄弁大会（和泉 2 番教室）、10 名出場
6.24	八大学新人交歓弁論大会（学習院大学）、出場：土屋誠、内村浅雄
7.1	全関東学生新人弁論大会（国士舘大学）出場：望月金雄
7.4	戦後 O B の集い（主婦の友社）
8.1	夏合宿（～ 8 日、愛知県伊良湖岬）
10.14	佐藤 4 選阻止を掲げて自民党総裁選に立候補した三木武夫の出馬表明講演会（共立講堂）を有志が応援
10.26	全日本学生優勝言道大会（国士舘大学）、出場：高橋孝栄「家庭教育の充実を願う」（準優勝）
10.30	全日本学生雄弁大会（愛知学院大学）、出場：千熊正憲
11.3	駿台祭企画、第 14 回全日本大学部門別雄弁大会（駿河台 95 番教室）、統一テーマ：公害を考える、講演：小山長規環境庁長官、出場：富水流孝二「住民運動と労働運動」（準優勝）
11.4	東京六大学「公害問題討論会」（駿河台 95 番教室）、出場：小池洋二、野口雅史、小原卓治（司会） O B との交流会開催（笹塚・常盤）、O B 34 名参加。
11.18	東日本学生交歓弁論大会（立正大学）、出場：高橋孝栄
11.21	全日本学生弁論大会（西南学院大学）、出場：千熊正憲「呼び返せ！北方領土」（準優勝）
11.24	世耕杯 20 回記念全日本学生討論大会（近畿大学。部）、出場：小池洋二
11.30	全日本学生弁論大会（近畿大学「部」）、出場：小池洋二
11 月	（大）学費値上げ問題で紛争発生（年内休校措置がとられる）
12.9	農林大臣杯争奪「農業問題」弁論大会（東京農業大学）、出場：小林康雄
■昭和 48 年（1973）	
4 月	『駿台雄弁』第 5 号発行
10.19	全関東学生新人弁論大会（慶応大学）
■昭和 49 年（1974）	
5.18	部内弁論大会（和泉）
5.18	全関時局討論会（駒沢大学）、テーマ：大学問題について
6.1	第 6 回八大学新人雄弁大会（和泉 2 番教室）、出場：山田英夫
6.9	全関学生模擬国会（日本橋公会堂）
6.9	全日本青年弁論大会（和歌山）、出場：高橋孝栄「残された民主への道一住民運動」（優勝）
6.21	今田杯争奪雄弁大会（亜細亜大学）、出場：福岡
6.22	和泉祭参加全明治雄弁大会（国学院大学弁論部招待）
7.25	夏合宿（～ 8 月 3 日、三重県熊野市）
8.1	遊説（三重県熊野市）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
11.30	記念祝賀パーティー
12.7	第18回和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）、弁士14名参加
12.9	（大）新寮闘争委員会結成
■昭和44年（1969）	
1.18	（大）駿河台の明大通りに解放区「神田カルチェ・ラタン」が出現する
2.8	「駿台雄弁」創立八十周年記念特別号発行
2月	（大）新寮闘争委員会が自主募集・自主選考を学生部長に通告する
4.14	（大）大学当局が機動隊の学館侵入・不当逮捕に抗議し、全学休講に
4.28	（大）沖縄デーの統一行動として学生総決起集会が開催される（終了後、明大前をデモし機動隊と衝突）
5.13	（大）立法に対し、学長名で反対声明を出す
5.20	第19回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）
5.23	（大）学生が記念館で、和泉地区教職員が和泉教室で、大学立法反対集会を開催する
5月	（大）大学が学生寮生に条件付きで入寮選考権を認める
5.31	第19回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）、基準弁論：奥田茂、弁士10名参加
6.21	（大）明大全共闘結成大会が記念館で開かれ、神田の全校舎を封鎖する（以後四ヶ月間、バリケード封鎖が続き、大学の諸機能を臨時的に避難させる）
7.11	（大）全二部共闘会議の結成大会が開かれる
10.9	（大）駿河台・和泉・生田全校舎がロックアウトされるが、機動隊が導入され、全額封鎖のバリケードが撤去される
■昭和45年（1970）	
5月	（大）大学が「大学の現況と当面の課題」を学生に配布する
5.30	第20回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）、模範弁論：三髯邦義、弁士9名参加
6.1	第1回若きOBとの懇談会（大学院会議室）、現役20名、OB5名参加
8.1	夏期合宿（～8日、伊豆伊浜）
10.17	夏期合宿成果発表会（和泉校舎）
10.24	五大学新人雄弁大会（慶応大学日吉校舎）
11.24	世耕杯争奪全日本学生優勝雄弁大会（近畿大学）、出場：榊原完治「東ア援助と日本の安定」
12.2	東京六大学「大学問題」討論会（駿河台校舎）、出場：古金三良・山本外美夫
12.11	第12回全日本大学部門別雄弁大会（駿河台校舎）、テーマ：70年代の日本を考える、出場：奥田茂「朔北の島に咲かせはまなすの花」
■昭和46年（1971）	
3月	「駿台雄弁」創刊号発刊第5号発行
7.1	全関東新人弁論大会（国士舘大学）、出場：望月金雄
8月	（大）和泉部室センターの改修工事が始まる

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
12.3	第 53 臨時国会開会式、社会・共産両党欠席
12.15	全関東雄弁連盟結成 20 年祭（幹事長招待弁論大会などを実施） (大) 理事会がホテルで記者会見し、学費値上げを発表する（全大学機関を一時的に校外に移転させる）
■昭和 42 年（1967）	
1.14	(大) 体育会が学園封鎖抗議集会を開く
1.20	全関総会、委員長不信任案可決
1.20	(大) 理事会と全学闘との話し合いが教職員・学生多数の参加で行われる（25 日に再度実施）
1.29	(大) 理事会が学生側と話し合うが、理事が軟禁状態となったため機動隊を導入する（30 日まで）
1.29	(大) 体育会系学生と教職員が駿河台校舎のバリケードを撤去する（同日に有志学生が和泉・生田校舎も）
1.30	(大) 学長が全学闘争委員会・全二部共闘会議の解散命令を告示する
2.2	(大) 理事会と学生会が学費問題について合意の声明を発表し、覚書を締結する
2.20	全関臨時総会
2 月	(大) 大学の全機関が学内に戻る
4 月	(大) 和泉地区の第二学生会館を竣工する（生田地区学生会館も同時期に竣工）
4.15	(大)「学内諸問題に関する根本的な改善方針」を発表する
5 月か	第 17 回全明治新人雄弁大会（和泉）
6.1	(大) 学生会館の管理運営に関し、学生部と学館特別委員会とで暫定取り決めの覚書を交す
10 月	(大) 中川富弥、学長に就任する
11 月	第 10 回明治大学学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（記念館）、 出場：鈴木雄作「憲法八十一条の現代的課題を論ず」、山上雅隆「平和を望むならその代償を一国際政治における力の意義」、茶谷恒忠「国連強化への一提言」（基調弁論）
12.2	第 22 回花井杯争奪全日本学生雄弁大会開催
■昭和 43 年（1968）	
4 月	雄弁部 OB の春日井薫が総長、筒井政行が理事に就任する
6.1	第 18 回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）、弁士 18 名参加
10.21	(大) 国際反戦デーに呼応して全学バリケードストライキが行われる
11.9	第 8 回嘉悦孝杯争奪全日本新人学生雄弁大会（日本女子経済短期大学）、 出場：榊原完治「東南アジア経済発展への道」、高橋昇「性教育は家庭から」
11.25	創立 80 周年記念行事開催（～ 26、28 ～ 30 日）記念講演会：飛鳥田一雄横浜市長「新しい日本と青年の役割」（和泉校舎）
11.26	第 11 回明治大学学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（記念館講堂）、 出場：空閑康弘「沖縄問題の解決の為に」、安藤泰三「自主外交の確立こそ平和への道」
11.28	記念講演会：小島憲元学長「議会政治の危機」（記念館講堂）
11.29	政党と学生による政治討論会（駿河台）、テーマ：新しい日本ビジョンを求めて、講師：海部俊樹（自民）、阿部昭吾（社会）、末長英一（民社）、黒柳明（公明）、6 大学学生代表（明治：戸井田健一）、司会：岡野加穂留

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
10.29	小出杯雄弁大会（愛知学院大学）、出場：石川和永
10.30	尾崎杯雄弁大会（尾崎記念館）、出場：松岡寛治
10.31	第3回東京六大学学生討論大会（駿河台9号館）、テーマ：日韓条約の本質をとらえて
11.3	大木杯雄弁大会（青山学院大学）、出場：山上雅隆「自主防衛体制の確立を願って」
11.6	東京都大学交換雄弁大会（立正大学）、出場：松原輝夫
11.6	総理杯討論大会（千葉商科大）、出場：分家静男
11.12	世耕杯雄弁大会（近畿大学）、出場：松原輝男「法による世界平和の確立を」
11.15	大阪工大杯雄弁大会、出場：大貫紀信
11.17	わだつみ杯雄弁大会（立命館大学）、出場：松岡寛治「世界連邦制の確立を」
11.18	桜門杯雄弁大会（日本大学）、出場：鹿野英雄「教育の自主性確立を願って」（優勝）
11.18	谷岡杯雄弁大会（大阪商大）、出場：蛭崎正徳
11.24	茨城大杯雄弁大会、出場：藤沢慎介
11.25	第8回明治大学学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（和泉校舎6番教室）、出場：鹿野英雄「教育の自主性確立を願って一勤務評定評定にみられる文教政策から」、松岡寛治「世界連邦制の確立を」、樋口恒雄「墮胎防止は優勢法改正から」
11.26	関西、中央、明治三大学交歓雄弁大会（記念館講堂）
11.27	第13回全日本学生討論大会（中大）
11.30	川島杯雄弁大会（専修大学）、出場：松岡寛治、笹島明夫
12.1	井上杯雄弁大会（東洋大学）、出場：鹿野英雄
12.3	第20回花井杯争奪全日本学生雄弁大会
12.5	近大「部雄弁大会（近畿大学）、出場：松岡寛治「世界連邦制の確立を」（優勝）
12.8	第16回和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）
12.11	春秋杯雄弁大会（法政大学）、出場：松原輝夫
■昭和41年（1966）	
1.25	OB総会（山の上ホテル）
3.31	『駿台雄弁』第4号発行 - 特集：1970年一日米安保条約をどうするか -
4.28	（大）駿河台学生会館が竣工する（5月開館）
5月	第16回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）
9月	（大）一部三寮共闘会議が結成される
10.25	（大）学生会が学費問題の白紙撤回を要求し、闘争宣言を発表する
11.23	（大）学費値上げ阻止全学闘争委員会が結成され、和泉校舎占拠のバリケード闘争を始める（26日に生田、30日には駿河台に拡大）
11.25	第14回全日本学生討論会（尾崎記念館）
11.26	第9回明治大学学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（記念館）、統一テーマ：日中関係への展望、講演：宇都宮徳馬衆院議員、明治優勝
12.3	第21回花井杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：米田東一「憲法第九条の空文化を阻止しよう」
12.3	全関東学生雄弁連盟編『戦後学生弁論の歩み－全関東学生雄弁連盟20年史－』発行

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■昭和 39 年（1964）	
2.21	卒業生サヨナラ雄弁大会（記念館講堂）、新旧部長祝賀慰労会（三福会館）
3.5	「駿台雄弁」創刊号発刊
3 月	雄弁部OBの筒井政行が大学監事に就任する
4 月	（大）武田孟、総長に就任
5.23	尾崎杯弁論大会（尾崎記念会館）、出場：土井由三「日本国憲法改正は是か非か」（優勝）
5.30	第 14 回全明治新人雄弁大会（和泉校舎新館 4 番教室）、特別講演：三木武夫「明日の世界」
5.30	（大）生田学生寮で水道光熱費不払い運動が始まる
8 月	夏合宿（千葉県銚子市）
9.1	（大）駿河台学生会館が開館する（八号館を転用）
11 月	（大）農学部大量入学反対で学園紛争が起る
11.2	東京六大学討論大会（9 号館）、テーマ：小選挙区制は是か非か、出場：坪川礼己
11.16	わだつみ杯雄弁大会（立命館大学）、出場：上岡一雄「新しい国際秩序の確立のために」（優勝）
11.18	第 7 回学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（和泉校舎 6 番教室）、出場：（基準弁論）山上雅隆「自主防衛体制の確立を願って」、上岡一雄「新しい国際秩序の確立のために」（政治部門優勝）
11.19	第 4 回全日本学生雄弁大会（日本大学）、出場：土井由三「日本国憲法改正に反対する」（優勝）
12.5	第 19 回花井杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：伊藤幸雄「新しい国際秩序の確立のために―国連常設軍に対する日本の立場」
12.19	全関東学生討論大会決勝戦（読売ホール）、テーマ：憲法第九条は改定すべきでない、出場：米田東逸、松原輝夫、坪川禮己
12.21	第 11 回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）、テーマ：世界平和と日本外交
■昭和 40 年（1965）	
3.31	第 12 回全日本学生討論大会（法大）
5.11	関西大学「部招待弁論大会、出場：鹿野英雄
5.25	第 12 回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
5.28	第 15 回全明治新人雄弁大会（和泉校舎）、20 数名出場、優勝：高橋誠一
5.30	東北学院杯雄弁大会、出場：鹿野英雄「教育の自立性確立を願って」
6.4	北村杯雄弁大会（関西大学）、出場：坪川禮己
6.5	全関リーダーキャンプ（～6 日、原町田）
6.9	五大学新人弁論大会（法政大学）、出場：土門、空閑、高橋（準優勝）
6.17	堀杯雄弁大会（東京経済大学）、出場：山上雅隆
6.19	国際問題討論弁論大会（拓殖大学）、出場：須田孝
7.5	夏期合宿（～13 日、笠岡市日石島）
7.14	全国地方遊説（～21 日、香川県・徳島県）
10.5	大隈杯雄弁大会（早稲田大学）、出場：藤沢慎介
10.23	嘉悦杯新人弁論大会（日本女子経済短大）、出場：松並正幸
10.24	京都女子大学長杯雄弁大会（京都女子大学）、出場：根岸誠一
10.28	五大学新人雄弁大会（国学院大学）、出場：戸井田、安藤、原口（準優勝）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
6.1	「死刑シンポジウム」（新潟大学）、出場：正木欽一郎
6.14	北村杯争奪雄弁大会（関西大学）、出場：宮本勝利
6.15	合同討論会「公政連について」
6.17	堀杯争奪雄弁大会（東京経済大学）、出場：有賀隆治
6.22	第1回雄弁部OB総会（本学校友会会議室）
7.3	夏合宿（～11、岡山県笠岡市白石島）
7.12	全国地方遊説（～22、中国地方）
10.17	大隈杯、出場：正木欽一郎（優勝）
10.17	愛知学院大小出杯争奪弁論大会、出場：伊藤幸雄（優勝）
10.24	(大) 八号館を学生会館とし、運営を学生会・学苑会に委ねることを確認する
10.28	第6回学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（和泉校舎6番教室）、 出場：(歓迎弁論) 鎌倉三郎:政治に於ける学生の地位」、伊藤幸雄「北方領土問題解決への道—法理論から外交政策へ」（政治部門および総合優勝）
11.1	第4回大木杯争奪全日本学生弁論大会（青山学院）、出場：上岡一雄「緊張緩和への日本の役割」
11.2	都内大学弁論大会（大東文化大学）、出場：後藤源
11.2	"東京六大学討論演説会（9号館）、テーマ：「首相公選論」是非について、出場：小川正位、特別講演：高橋武彦毎日新聞論説委員、吉村正早大教授 ※この大会は例年の模擬国会に代え開催された
11.7	第10回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）、出場：小川正位「選挙に対する制度以前の国民意識」
11.9	東北大杯、出場：吉原孝夫
11.9	防衛大杯、出場：町田昭三
11.11	都内大学弁論大会（立正大学）、出場：松原輝夫
11.14	谷岡杯（大阪商業大学）、出場：丹羽純一
11.15	世耕杯（近畿大学）、出場：伊藤幸雄（優勝）
11.15	五大学新人大会（東洋大学）、出場：坪川、松原、米田（優勝）
11.16	東大交歓大会、出場：小瀬川昭寛
11.18	日本大学校門杯弁論大会、出場：正木欽一郎（優勝）
11.22	関西学院交歓大会、出場：町田昭三
11.26	宗教問題討論会（駒澤大学）、出場：北原賢郎
11.27	茨城大学杯、出場：正木欽一郎
11.30	第3回嘉悦孝杯争奪全日本新人学生弁論大会（日本女子経済短大）、 出場：水野源吾
12.3	全関東雄弁連盟第21代委員長に丹羽純一選出
12.4	第14回和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎6番教室）、坪川礼己（優勝）
12.6	井上杯（東洋大学）、出場：正木欽一郎
12.7	春秋杯弁論大会（法政大学）、出場：上岡一雄
12.8	近畿大学「部弁論大会、出場：上岡一雄
12.10	"明中関交歓大会（関西大学）、出場：吉原孝夫、小川正位、松岡貫治、坪川礼己"
12.14	第18回花井杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：伊藤幸雄（準優勝）

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
6.23	健二「原水協の体質改善を願って」
7.5	第3回大木杯争奪全日本学生弁論大会（青山学院）、出場：吉原孝夫
7.12	夏合宿（～11、群馬県甘楽郡妙義山麓）
10.12	遊説（～24、群馬、栃木、茨城、埼玉）
10.17	明中関交歓雄弁大会、出場：正木欽一郎、宮本勝利、ほか3名出場
10.23	全関東教養部交歓雄弁大会（和泉校舎）、出場：武井宏平、小幡正雄
10.25	立教大学招待交歓雄弁大会、出場：正木欽一郎
10.27	愛知学院大小出杯争奪弁論大会、出場：有賀隆治「学生商品論に思う」（準優勝）
11.4	全東京交歓雄弁大会、出場：福島啓氏
11.7	五大学交歓雄弁大会（法政大学）、出場：松岡貫治ほか2名
11.8	同志社大学招待交歓雄弁大会、出場：土井由三
11.10	谷岡杯（大阪商業大学）、出場：後藤充広
11.11	全関機関紙「全関ジャーナル」第1号発行
11.11	東北大杯、出場：伊藤隆二
11.11	防衛大杯、出場：伊藤幸雄（優勝）
11.17	茨城大杯、出場：鈴木恵美子
11.20	第8回全日本学生国会（～24日、都議会議場）＝これを最後に廃止される
11.23	東西六大学雄弁大会（京都大学）、出場：五十嵐邦男
11.28	世耕杯（近畿大学）、出場：有賀隆治
11月30日	第5回学長杯争奪全日本大学部門別雄弁大会（明大記念館講堂）、出場：（歓迎弁論）正木欣一郎「死刑制度を批判する」、特別講演：安井郁原水協理事長「原水禁運動の歴史と理論」
12.1	第2回嘉悦孝杯争奪全日本新人学生弁論大会（日本女子経済短大）、出場：町田昭三「下請工場の体質改善を願って」
12.3	春秋杯弁論大会（法政大学）、出場：伊藤幸雄（準優勝）
12.5	和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）、有賀隆治優勝
12.6	第4回『わだつみ杯』争奪全日本学生雄弁大会（立命館大学）、出場：丹羽純一「平和憲法を守るものは」（準優勝）
12.7	関西学院大学招待交歓雄弁大会、出場：島田基
12.8	第17回花井杯争奪全日本学生雄弁大会（中央大学）、出場：岩本健二
12.10	井上杯（東洋大学）、出場：島田基
12.14	鮎川杯（日本中小企業政治連盟）、出場：有賀隆治「中小企業基本法の理念と現実」（準優勝）
12.15	第2回桜門杯総長杯争奪全日本学生雄弁大会（日本大学）、出場：伊藤幸雄「北方領土問題への一考察」（準優勝）
12.16	近畿大学「部弁論大会、出場：武井宏平
■昭和38年（1963）	
4.25	明治大学雄弁部名鑑『白雲去来』発行
5.25	学生討論大会（尾崎記念館）、出場：伊藤隆二
5.25	雄弁部OB会結成準備会（尾崎記念館）
5.27	五大学新人弁論大会（国学院大学）、出場：大橋敏男、伊藤、小林多門（準優勝）
6.1	全明治新人大大会（和泉校舎）、出場：新入生25名
6.1	総理大臣杯討論大会（日本大学）、出場：橘田雄造、鎌倉三郎、田中晴夫

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■昭和 36 年（1961）	
1.9	(大) 学費値上げに関する声明書を発表する
4 月	(大) 和泉学生課を設置し、和泉地区担当副学生部長を置く
4 月	(大) 文学部 1、2 年次を和泉校舎に移転
6.3	東北学院大杯全日本雄弁大会、出場：木村征義「我国農村の桎梏を捉えて」
6.11	堀杯争奪雄弁大会（東京経済大学）、出場：江頭功「国家権力の階級性と政暴法」（優勝）
6.12	第 7 回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
6.13	五大学新人弁論大会（東洋大学）、出場：伊藤幸雄「自動車交通マヒ状態の解決策」、丹羽純一「道徳教育復活の新気運に処して」、鈴木恵美子「公正な裁判を願う」（優勝）
6 月	北村杯争奪雄弁大会（関西大学）、出場：安田正幸「我国の海運産業の動向をとらえて」（準優勝）
6.29	第 9 回全日本大学討論大会（拓大）
7.3	夏合宿（～ 10 日、福島県二本松市）
7.10	夏期遊説（～ 2 1 日、福島・山形・宮城）
10.28	五大学新人弁論大会（慶応大学）、出場：久住秀司「学生の政治批判」、土井由三「原子爆禁止運動への一考察」
10.31	第 8 回関東大学教養部交歓雄弁大会（和泉支部主催）、出場：市野沢寿之、有賀隆治
11 月	駿台祭「現代思想講演会」、講師：金子武蔵（哲学者）、務台理作（哲学者）、中村元（仏教学者）
11.16	第 7 回全国学生国会（～ 2 0 日、大阪市議会議事堂）、出場：中島幸夫（文部大臣）、永田一麿（文部政務次官）、大竹誠之助（外務委員）、伊藤潔（農林委員）
11.30	第 4 回全日本大学部門別雄弁大会（記念館講堂）、出場：（歓迎弁論）伊藤幸雄「激増する青少年犯罪に処して」、安田正幸「我国海運産業の方向を求めつつ」
12.8	第 15 回花井杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：中島幸夫「苦悩する我国平和運動をとらえて」（第 3 位）
12.9	第 8 回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
12.25	機関紙「明大雄弁」第 4 号発行
■昭和 37 年（1962）	
5.12	総理大臣杯討論会（明治大学） 出場：土井由三、伊藤幸雄、丹羽純一
5.16	全明治新人大会、出場：新入生 2 5 名
5.18	(大) 学苑会の学生処分撤回を求める職員監禁に対して、大学が戦後初の警察官導入を行う
5.31	第 9 回全関東大学学生街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）、出場：五十嵐邦男「腐敗選挙の底流を直視する」
6.1	国際ニュース杯（拓殖大学）、出場：丹羽純一
6.2	五大学新人大会、出場：三枝秀之、ほか 2 名（準優勝）
6.2	東北学院大杯全日本雄弁大会、出場：島田基
6.15	学生寮規程を制定する（4 月 1 日にさかのぼり施行）
6.17	新潟日報杯、出場：島田基（準優勝）
6.17	第 9 回堀杯争奪全日本大学雄弁大会（千代田区公会堂）、出場：岩本

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
11.20	第5回全日本学生国会（～23日、大阪府議会議事堂） 出場：岡田（日高）憲三（外務大臣）、渡辺嘉道（野党委員長）
11.22	第15回秋期五大学新人雄弁大会、出場：岡田（日高）憲三（外務大臣）、 渡辺嘉道（野党委員長）
12.3	（大）維持費問題につき大学と学生会が協定事項を共同声明する
12.6	第13回花井杯争奪全日本学生雄弁大会（中央大学）、出場：渡辺嘉道 産経杯争奪全関東雄弁大会（上智大学）、出場：木村枉義「農政私見」
12.9	「保守政党の歴史的使命を求めて」（準優勝）
12.14	対中央大学討論大会
12月	（大）安保改定阻止第8次統一行動に明大生多数が参加する
12月	第10回和泉杯争奪雄弁大会（和泉講堂）
■昭和35年（1960）	
3月	（大）和泉学生会館完成
4月	（大）小出廉二、学長に就任
4月	（大）経営学部1・2年生の教養課程を和泉地区へ移転する
5.15	和泉祭参加全明治新人雄弁大会（和泉講堂）
5.17	第5回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
5.20	（大）安保反対で学生会が全学ストを決定して国会デモをする
6.4	全日本学生雄弁大会（東北学院大）
6.8	第8回全関東大学討論大会（早大）
6.9	時局批判政党立会演説会（記念館講堂）、自民：船田中、民主社会： 今澄勇、社会：成田知巳、無所属：辻正信
6.16	（大）教員・学生多数が安保改定反対の全明治抗議集会を開く（続いて国会にデモ）、全学が休講に（～22日）
6.19	（大）連合教授会・総長・学長が安保改定への反対行動での警官の職 権濫用に抗議する
6.26	第6回全日本大学討論大会（～27日、名古屋市文化会館ホール）
7月	合宿（青森）
10.16	（大）明治大学創立80周年記念体育祭を国立競技場で開催する
10.18	第6回全関東大学新人弁論大会（立大）
10.20	第7回全関東大学教養部交歓弁大会（和泉校舎新館6番教室）、出場： 軽込孝一「新聞のあり方について」、菊地満男「トカルチョに反対する」
10.28	第6回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
11.1	（大）明治大学創立80周年記念式典と記念大学祭が挙行される（～5日）
11.18	学生政治討論会（尾崎記念会館ホール）、テーマ「近代政党はどうあ るべきか」、出場：森島茂
12.2	第6回全日本学生国会（～5日、東京都議会議事堂）
12.6	第14回花井杯争奪全日本雄弁大会、出場：篠原弘志
12.7	第14回花井杯争奪全日本雄弁大会、出場：渡辺嘉道「ネオ・ファシ ズムの動向を求めて」（優勝）
12.2	第6回全日本学生国会（～5日、東京都議会議事堂）、出場：中島幸 夫（各新党政策審議会副会長）、木下憲一郎（保守党総務会長）、木村 枉義（事務局員）
12.15	第3回全日本大学部門別雄弁大会（記念館講堂）、出場：白藤治「我 国政治の精神構造を捉えて」

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
7.1	合宿（佐渡ヶ島）
7.8	遊説（～13日、新潟・富山）
9.15	（大）勤務評定反対の全明治学生集会を開く
10.10	鮎川杯争奪第1回全日本青年学生中小企業問題弁論大会（中政連ホール）、出場：伊藤潔子「ライオンを負かしたアリの如く団結を」、実盛克海「中小企業の危機打開のために」
10.22	第5回全関東大学教養部交歓雄弁大会（和泉校舎講堂）、出場：花田嘉夫「勤務評定実施の動きから」、（歓迎弁論）篠原弘志「マルクス主義の理論と現実をとらえて」
10.24	五大学雄弁大会（東洋大学）、出場：村田要治「日中関係正常化への道」、亀井圭一「勤評闘争が教えるもの」、白藤治「二十世紀に向けて」
10.24	（大）教員・学生らが「警察官職務執行法改正案」に反対して抗議集会・国会抗議等を行う
10.27	全関新人大会（中央大学）、出場：中嶋幸夫「核実験禁止へ導くもの」（第2位）
11.1	第1回全日本大学部門別雄弁大会（記念館講堂）、出場：原田清雄「現代政治を支える青年の意識」
11.13	世耕杯（近畿大学）、出場：渡辺嘉道「試練に立つ保守政治の役割」
11.21	第4回全日本学生国会（～23日、東京都議会議事堂）、出場：野村英治（各新党委員長）、原田清雄（通産大臣）、金谷哲（保守党外交調査会長）
11.29	第8回春秋杯争奪全日本大学雄弁大会（法政大学）、出場：金谷哲「日中貿易促進の現実的解決策」（優勝）
12.2	全関東雄弁連盟第15代委員長に日高一郎選出
12.5	第9回和泉杯争奪雄弁大会
12.6	第12回神田5大学定期弁論大会、出場：猪俣孝雄「警職法と啓蒙運動」、山下義昭「青少年不良化防止運動の前提」、伊藤尊久「教育の中立性を願って」、猪口彰久「矛盾への反発」
12.14	
12.16	第12回花井杯争奪全日本雄弁大会、出場：金谷哲「現代思潮の動向を求めて」（優勝）
■昭和34年（1959）	
1.17	（大）学生大会にて明治大学生活協同組合が設立される（4月11日開業）
3月	（大）35年度から文・経営学部 of 教養課程を和泉校舎で実施することを決定
5.4	第4回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
6.22	堀杯争奪第6回全日本大学雄弁大会（千代田区公会堂）、出場：江頭功「世界平和達成への道」
6.23	第6回全日本大学国際問題討論弁論大会（拓殖大学）、出場：渡辺嘉道「日中関係打開の方策を提言す」
6.27	第5回全日本大学討論大会（～28日、名古屋・近畿ホール）
8月	合宿（銚子）
10.28	第7回全関東大学討論大会（中央大）
11.1	第2回全日本大学部門別雄弁大会（記念館講堂）、出場：伊藤幹男「現代社会の桎梏をとらえて」
11.14	全日本学生雄弁大会（東北大学）

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
7.1	新潟日報・ラジオ新潟杯争奪第5回全日本大学雄弁大会（日報ホール）、出場：山口みつ子「国際連盟加盟に於ける日本の義務と限界」（準優勝） 合宿（～7日、那須） 遊説（～8月2日、杓岐、対馬、福岡）
7.22	雄弁部歌の発表と遊説報告会（記念館講堂）
9.7	和泉祭参加、第4回全関東大学教養部交歓雄弁大会（和泉講堂）、出場：
10.19	松原邦造「アジアに於ける日本の役割」、篠原弘志「道德教育復活に思う」
10.23	第2回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）、出場：金谷哲「ネルー外交の基調と日本の立場」
11.1	第8回討論付東日本高校雄弁大会（記念館講堂）
11.5	第3回尾崎罌堂杯平和問題学生弁論大会（国際電々会社講堂）、出場：鈴木浩平、第3位
11月	第7回全関東大学招待討論付弁論大会（立教大学）、出場：前川一郎「謳歌する民族主義」
11.16	全日本大学弁論大会（青山学院大学）、出場：小山宏「日本労働問題の盲点をつく」
11.23	第4回全関東大学教養部交歓弁論大会
11.23	第3回全日本学生国会（～25日、大阪府議会議事堂）、出場：山口みつ子（外務政務次官）、石山政治（政務調査会長）
11.26	第5回明中関交歓弁論大会（関西大学）、出場：津田賀一郎「中小企業の子として」、渡辺嘉道「官僚機構の強化を憂う」、日高一郎「中小企業団体法の成立と今後の問題」、岡田憲三「経済自立への道標」、山野敏子「夫人の職場への一考察」
11.30	第5回全関東女子学生意見交換会（中央大学）、出場：向山栄子、山野敏子
12.7	第7回春秋杯争奪全日本大学雄弁大会（法政大学）、出場：実森克己「日本経済の健全化方策」
12.8	第11回花井杯全日本学生雄弁大会、出場：原田清雄「日本民族の歴史的課題」（準優勝）
■昭和33年（1958）	
4月	（大）武田孟、学長に就任する
4.14	『明大雄辨』創刊
4.29	第3回全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）
5月	全明治新人弁論大会
5.18	日報・ラジオ新潟杯争奪第6回全日本大学雄弁大会（日報ホール）、出場：日高一郎「第三国家緩衝地帯と日本の繁栄」
5.28	（大）全明治臨時学生大会で明治大学学生会規約を制定する
5.29	第4回東北関東地区大学弁論大会（東北学院大学）、出場：日高一郎「経済開発問題について」（優勝）雄弁部創立50周年記念講演会（講師：三木武夫、岡田宗司、浅沼稲二郎、植原悦二郎、飛鳥田一雄、古川久衛、山口喜久一郎）
6.15	第5回全日本大学国際問題討論弁論大会（拓殖大学）、出場：原田清雄「自由主義陣営の活路を求めて」（優勝）
6.16	第5回堀杯争奪全日本大学雄弁大会（千代田区公会堂）、出場：篠原弘志「現代主義発展への礎」
6.18	第4回全日本大学討論大会（～21日、立命館大学）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
5.26	第2回全関東大学新人雄弁大会（立大）
6.9	新潟日報・ラジオ新潟杯争奪第4回全日本大学雄弁大会（新潟市公会堂）、「自殺問題を考える」（優勝）
6.11	五大学教養部新人交歓雄弁大会
6.12	第1回公明選挙推進・時局批判全関東大学街頭演説会（新橋駅前野外ステージ）、出場：高橋孝一「政界に直言する」
6.20	北村杯（関西大学）
6.21	第4回世耕杯（近畿大学）
6.23	第3回全関東大学雄弁大会 国際ニュース杯（拓殖大学）
6.24	日大教養部大会（三島）
7.2	掘杯（東京経済大学）
7.9	合宿（～14日、伊豆大島本町）
8.2	遊説（～15日、四国、大分）
9.15	日ソ交渉時局講演会開催（記念館講堂）
10月	（大）砂川闘争に教員・学生が参加する
10.24	第8回秋期5大学新人交歓弁論大会（慶応大学）、出場：岡田憲三「言論統制の問題点」、日高一郎「1+1=2ではない」、実盛克海「同胞の血を無駄にするな」
11.1	明治大学杯争奪第7回東日本高等学校雄弁大会（記念館講堂）
11.10	第2回尾崎罌堂杯平和問題学生弁論大会（国際電々会社講堂）、出場：辰尾幸佑「原・水爆禁止の具体的方策如何」
11.20	関西、中央、明治の三大学交歓雄弁大会（記念館講堂）
11.21	第2回全日本大学討論大会（～22日、拓大）、出場：遠藤康彦、石山政治
11.23	第2回生田杯争奪雄弁大会
12.1	第6回春秋杯争奪全日本大学雄弁大会（法政大学）、出場：石山政治
12.8	花井杯争奪全日本学生雄弁大会
12.12	和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）
12.15	対中央大学交歓討論会（中央大学）、テーマ：明大提出「（砂川問題を通して）学生の政治活動を強化すべきである」、中大提出「現状において1万円札の発行は妥当である」
12.19	雄弁部主催ハンガリー救済講演会（記念館講堂）、講師：エルリン・ハーゲン上智大教授、芦田均、西尾末広
■昭和32年（1957）	
2.11	（卒業生17名による）サヨナラ雄弁大会（記念館講堂）
5.23	第5回学内新人雄弁大会（和泉大講堂）、出場23名
5.29	雄弁部主催の政治討論会 自民党・小坂善太郎、社会党・細迫兼光、藤原弘達教授
5.30	第9回春期五大学新人交歓弁論大会（和泉大講堂）、出場：三枝和之「最近の広告から」、末松恒雄「我等大学生の態度」、四谷欽司「体験を通しての農村の民主化」
6.1	第3回全日本大学討論大会（～2日、愛知県商工館ホール）、出場：石山政治
6.5	「雄弁部名鑑」の発行
6.11	第4回堀杯争奪全日本大学雄弁大会（千代田区公会堂）、出場：野村英治「国際外交今後の指針を提言す」

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
	等の民主化が決議される（学内浄化実行委員会を組織）。また、全学連への加盟が可決される（正式加入は10月5日）
6.27	第6回討論付全関東大学雄弁大会（中大）
7.1	（大）学生会が学内浄化のために本学初の全学ストライキを行う
8月	（大）学内諸問題をめぐり役員総辞職し、改選劇再燃
9月	雄弁部顧問の小島憲が学長、岡本昌智が理事に就任する
11.17	第6回全日本学生討論付雄弁大会（早大）、出場：高野千代喜「今日に生きる」
11.21	第1回朝日新聞社杯争奪全関東大学討論大会（朝日講堂）
12.12	花井杯争奪全日本学生雄弁大会、出場：高浦格（準優勝）
■昭和29年（1954）	
2.1	（大）学生団体から有志団体が脱退し、「校友会」を結成する
5.29	第2回関東学生討論会（専大）、テーマ：現在の労働運動は妥当性を欠くものである（対戦校：東経大）
7月	（大）学生運動が活発化する
7.6	夏合宿（～7月12日、佐渡市河原田）
8月	奄美大島遊説
10.30	全日本学生雄弁連盟主催第1回学生国会開催（～11月1日、大阪市議会議事堂）、出場：小林悌次郎（右社）
11.5	東日本高校雄弁大会（記念館講堂）
11.10	第1回全関東大学教養学部雄弁大会（和泉校舎）
12.5	全国夜学連総決起大会が明大で開催される
12.15	和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）
■昭和30年（1955）	
6.8	（大）全明治学生大会が開催され、暴力学生追放、教授陣強化などを討議する
6.10	新人弁論大会
6.26	第3回全関東大学討論会（朝日講堂）
6.26	夏合宿（～7月3日、長野県飯山市）
7月	国連協会主催川崎弁論大会、出場：山口みつ子（優勝）
7.16	（大）専教連が評議員会の寄附行為改正を批判する決議を行う
9.3	（大）専教連総会でわが国初の大学教授のスト宣言を行う
10月	（大）明治大学短期大学部を明治大学短期大学と改称する
11.7	東日本高校雄弁大会（本学記念館講堂）
11.18	第2回全関東大学教養学部交歓雄弁大会（和泉校舎大講堂）、出場：安部純正（生田）「吾々学生の自覚と使命」、辰尾幸佑（和泉）「平和と愛国心」
11.24	生田支部主催、第1回生田杯争奪生田学内雄弁大会（生田校舎大講堂）
11.29	第2回全日本学生国会（～12月2日、中労委会館、衆議院第2議員会館）
12.16	和泉杯争奪雄弁大会（和泉校舎）
■昭和31年（1956）	
3月	サヨナラ雄弁大会
4月	（大）松岡熊三郎、学長に就任する
4月	（大）経営学部が駿河台地区に移転する

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
11.26	第4回朝日討論会全国大会（～27日、本学記念館講堂ほか）
■昭和25年（1950）	
3.15	（大）短期大学部の設置が認可される
5.2	（大）生田校舎開設
6.10	全関副委員長校に中央大学とともに選出される（委員長校は慶大）
7.3	第2回全関東大学雄弁大会（法政大学）、出場：内藤功「憲法を擁護せよ」
11月	東日本雄弁大会開催
11.8	全日本学生雄弁大会関東予選大会（国学院大学）
11.17	（大）明治大学創立70周年記念式典を挙行（～19日）、式典に天皇臨席、デトロイト銀行頭取のJ・ドッジ講演
11.20	第3回全日本学生雄弁大会（大阪大手前会館）
■昭和26年（1951）	
3.7	（大）学校法人への組織変更が認可される（「学校法人明治大学」となる）
3月	（大）鶴沢総明総長が初代理事長を兼務する
3月	雄弁部OBの筒井政行が大学理事に就任する
4月	（大）農学部を生田地区に移転する
11.28	第4回全日本学生雄弁大会（中央大学）、出場：渡部哲寛「人口対策を直視せよ」
12.3	雄弁部OBの春日井薫が学長に、岡本昌智が理事に就任する
12.19	第6回花井杯並に千代田区長杯争奪全関東大学学生雄弁大会
■昭和27年（1952）	
3.31	（大）新制大学院設置が認可される
4月	（大）法・商・政経各学部1・2年生を和泉校舎に移す
4.26	全関副委員長校に慶応大学とともに選出される（委員長校は中大）
5月	（大）学生自治会が結成される
6.7	（大）商学部3年7組クラス会が「破防法反対」、「学園の民主化」を叫びストを決議する（10日に政経四年生が呼応）
6.21	第5回全日本学生雄弁大会（国学院大学）
6.23	（大）統一学生大会を開き、自治会・学友会が「明治大学学生会」として新発足
6月	（大）「明治大学寄附行為」問題で紛糾、理事会は総辞職し役員改選
11月	（大）鶴沢総明、短期大学長に就任する
11.20	全日本学生雄弁大会関東予選大会（明治大学）
11.26	第5回全国学生雄弁大会（同志社大学）
12.10	花井杯千代田区長杯争奪全関東大学学生雄弁大会
■昭和28年（1953）	
4月	（大）私立大学ではじめて経営学部を創設する（生田校舎を使用）
4月	（大）学生大会で学園浄化をめぐり「全学スト」の指令を出すが紛糾する
4月	雄弁部顧問の小島憲が学長に就任する
6.2	第1回全関東大学新人弁論大会（法大）
6.16	（大）第1回学生大会が開かれ、暴力学生の追放、大量不正入学反対

▶年表▶

年 月 日	雄 弁 部 関 係（大学史・全関他）出来事
9.29	関東大水害被害者救済資金募集バザーを4日間開催（共済部と共同開催）
11.1	神田五大学雄弁連盟を中央大学、法政大学、日本大学、専修大学の各夜間部弁論部と結成
11.4	第2回花井杯争奪都下大学高専雄弁大会
11.22	朝日討論会参加（～23日、中大講堂）
12月	予科雄弁部、第1回大演説会開催（和泉講堂）
12.26	全関東中高雄弁大会復活第1回を開催（計64校参加）優勝校に明治大学杯
■昭和23年（1948）	
3月	（大）法・商・政経・文・工・農学部の学生募集を開始する
3月	（大）新制明治大学の法・商・政経・文の四学部（夜間部）設置が認可される
4月	（大）暴力学生追放学生大会を開催する
5.15	（大）学生ギャング団が検挙され、明大生多数がかかわる（21日に批判弁論大会開催）
5.25	中央大学とともに全関副委員長校に選出される（委員長校は早大）
6.21	全関東大学高専雄弁連盟大会（早稲田大学）
7.10	『明治大学学生新聞』が発刊される
8.17	地方遊説復活第1回を広島県で実施する
8.20	長野県で地方遊説実施
秋	全関東学生雄弁連盟に対する総理大臣杯下附式挙行（早大）
11.4	朝日討論会東京大会で予科雄弁部（内藤功、金谷栄一、高橋）優勝
11.24	第3回花井杯争奪都下大学高専雄弁大会
11月	明治大学主催全関東男女高等学校雄弁大会
12.10	（大）学内における学生の政治活動の禁止を告示する 総理大臣杯下附全関東大学高専雄弁大会（早大講堂）
■昭和24年（1949）	
2.21	（大）「学校教育法」による新制明治大学の設置が認可される（法学部、商学部、政治経済学部、文学部、工学部、農学部の六学部を置く）
2月	（大）予科の解散式を挙行する
3月	（大）文科系四学部の第二部（夜間部）の設置が認可される
5月	（大）鶴沢総明、総長に任命される
5月	（大）和泉校舎で学生自治会結成
5.27	関東大学高専雄弁連盟、全関東学生雄弁連盟と改称
6.1	（大）学生大会で学苑会の全学連加盟を決定する
6.10	（大）全明治自治会が結成される（大学は非公認。学友会を公認）
6.22	第1回総理大臣杯争奪全関東学生雄弁大会（中大）
7.1	全関東・全関西合同雄弁大会開催（同志社大学）、本大会を第1回全日本学生雄弁大会とする
10.1	全関副委員長校に中央大学とともに選出される（委員長校は早大）
10月	（大）武田孟、明治女子専門学校校長に就任する
11.7	第4回花井杯、出場：藤沢邦利（準優勝）
11.7	千代田区長杯争奪都下大学高専雄弁大会
11.17	全日本学生雄弁大会関東予選大会（本学）

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
5 月	(大) 和泉校舎が陸軍省陸地測量部に徴用され予科は駿河台に移転する
6 月	(大) 駿河台校舎が東部第三部隊に徴用される
■昭和 20 年 (1945)	
1 月	(大) 戦時下最後の入学試験を行う
4.13	(大) 神田猿樂町校舎が罹災する
4.25	(大) 和泉の予科校舎や寄宿舎などが罹災する
9.12	(大) 興亜科を産業経済科と改称する件が認可される
9.17	(大) 始業式を行う
9.29	(大) 復学者の卒業式が挙行される
この頃	雄弁部活動活発化し、部員数が 30 名程度になる
12 月	(大) 食糧事情等により翌年 2 月 2 日まで冬季休業
■昭和 21 年 (1946)	
2 月	(大) 学内刷新の動きが高まる
2 月	(大) 学生有志により『駿台論潮』が創刊される
2.15	(大) 一部所属の学生らが学友会を再建する
3 月	(大) 専任教授団が学園革新に関する建議書を大学に提出する
3 月	(大) 大学予科の学生定員を 200 名から 560 名に変更する
5 月	(大) 予科の在学学生数は 1373 名を数える
5 月	(大) 経営科を商科と改称する
5.20	(大) 学生大会を開催し、新学友会規則を制定。なお学友会傘下の文化部連絡会議の構成団体として、雄弁部も 21 部に名を連ねる（部名復活）
6 月	(大) 明治農業専門学校の設置が認可され、農・畜産・農業土木の三科を置く（千葉県千葉郡誉田村に校舎開設）
10.19	(大) 二部学生団体が学苑会を再建する
11.1	(大) 戦後初の大学祭を開催する（5 日まで）
11.5	第 1 回花井杯都下大学雄弁大会
11.6	全日本学生雄弁連盟創立準備会（明治大学師弟食堂）
12.3	全関東大学高専雄弁連盟設立総会（本学記念館講堂）大金武彦が初代委員長
12.7	朝日新聞社主催第 1 回朝日討論会全国大会開催（～ 8 日、中大講堂、本学記念館講堂）
12.13	全関役員改正、本学は中央大学とともに副委員長校に。委員長校早大
■昭和 22 年 (1947)	
1.28	2.1 ゼネスト批判雄弁大会開催（本学記念館講堂）
2 月	(大) 明治大学学則改正の認可申請をする（法・商・政経・文・工・農の 6 学部）
この年	(大) 学生自治のための学部会が結成される（23 年に学苑会と合併）
4 月	国会議員選挙のため、東京都ほか 9 県に学生弁士派遣
4.2	(大) 大明治建設実行委員会結成
4.30	(大) 大学令による学部夜間学部（法・商・政経）の設置が認可される
5 月	O B 名簿作成（7 月発刊）
6.16	全関東大学高専雄弁連盟委員長校として時局批判大雄弁大会開催

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
7.6 11 月	夏期遊説（長野、北陸、関西方面）へ出発 東北飢饉義捐金募集街頭演説を銀座、渋谷、新宿で実施
■昭和 11 年（1936） 4.1	雄弁部規則を施行する
■昭和 12 年（1937） 4.24 10 月 10.25	(大) 女子部予科廃止が認可される (大) 国民精神総動員運動で学生の皇居前行進がおこなわれる (大) 「御真影」および教育勅語謄本を受領する
■昭和 13 年（1938） 6 月 6.23	春季校内雄弁大会 第 23 回全国大学高専弁論大会（記念館講堂）
■昭和 14 年（1939）	(大) 専門部興亜科と「報国団」の設立が認可され、学則を改正する（専門部興亜科は経営、貿易、農政、厚生 の 4 科を設置し、学生数は各科 280 名）
■昭和 15 年（1940） 3.30 11.18 12 月	(大) 女高師・女専本科卒業生の学部入学を認めた学則改正が認可される (大) 創立 60 周年記念式典を挙げる（21 日まで）、『六十年史』の発行 (大) 学生の智・徳・体の三位一体による人格形成の名の下に「報国団」を結成
■昭和 16 年（1941） 5 月 5 月 10 月 11 月	(大) 第 1 回予科文化祭が開催される (大) 『明治大学駿台新報』を『明治大学新聞』と改題する (大) 当該年度卒業生は修業年限を 3 ヶ月繰り上げ、12 月卒業とする (大) 次年度の予科修業年限を 6 ヶ月短縮を決定
■昭和 17 年（1942） 6.13 9.5 8.1	(大) 女子部が正課としての国防訓練を開始する (大) 女子部専用校舎が完成する (大) はじめて女子部学生が動員される（陸軍第一兵器廠に 10 日まで）
■昭和 18 年（1943） この頃 10.8	雄弁部は講演部と改称、学生による各種行事中止（1945 年 8 月まで） (大) 学徒出陣壮行式を記念館で挙げる
■昭和 19 年（1944） 3 月 3 月 4 月 4 月	(大) 和泉校舎が東京師団経理部に徴用される (大) 女子部が独立して明治女子専門学校へと改組される (大) 専門部商科を経営科と改称する (大) 興亜科 4 科を廃止し、興亜経済科とし、工業経済科専攻、農業経済専攻を置く

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
7.11	夏期遊説（東北、北海道、樺太）へ出発
11.6	都下各大学連合雄弁大会 全日本大学専門学生雄弁大会（拓殖大学主催）
■昭和3年（1928）	
4月	（大）記念館講堂・校舎を復興し復興記念式典を盛大に挙行される
4.7	（大）専門部女子法科新設の学則改正を認可（4月28日開校式）
5.17	雄弁部部則決定
5.18	春季校内雄弁大会
夏	夏期遊説（九州、台湾）実施
11.18	都下各大学連合演説会
■昭和4年（1929）	
1.6	冬季遊説（朝鮮）へ出発
4月	（大）専門部に「女子部（法科・商科）」を新設する
4.28	女子雄弁部創設
7月	（大）予科自治会に内部対立が生じたため、小林予科科长が解散を命ずる
夏	8か月にわたる中国大陸での遊説を実施
9.27	長尾新九郎、三木武夫約1年半にわたりアメリカ遊説、欧州視察に出発
■昭和5年（1930）	
11.8	（大）授業料・自治問題などで同盟休校事件発生（～12月18日）
11.29	全日本学生専門学校雄弁大会
■昭和6年（1931）	
3月	（大）予科自治会の再建問題・総長制導入反対で学内が混乱する
4.13	文部省が女子部卒業生の学部入学を認可（7年の第一回卒業生から適用）
6月	（大）横田学長反対騒動で学内が混乱する
10月	（大）予科生相互の親睦と学生生活向上を期して予科会規約が制定される
10月	校内雄弁大会
11月	（大）明治大学創立50周年記念式典を挙行する
11.15	（大）『明治大学五十年史』を刊行する
12.1	（大）内務省により『駿台新報』が発禁とされる
12.16	（大）専門部経済科（二部）の名称を政治経済科に改正する
■昭和7年（1932）	
2月	（大）『駿台新報』が復刊される
3月	（大）明治大学予科会が結成される
4月	（大）専門部文科（文芸科・史学科）の復活が実現する
■昭和8年（1933）	
4月	（大）学生・生徒懲戒規則、学友会規程、学苑会規程などが制定される
11.15	（大）授業料・自治問題などで同盟休校事件発生（～1月）
■昭和9年（1934）	
3.24	（大）予科和泉校舎を竣工する（4月予科を和泉校舎に移転）
6.16	全国大学専門学校雄弁大会（参加校38校）記念館講堂

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
	商学部に分属)
4 月	(大) 木下友三郎、初代学長に就任
4 月	(大) 笹川種郎（臨風）、予科科长に就任
11.30	(大) 校風刷新を叫ぶ学生が記念館に集まり、学生大会を開く（植原・笹川事件の端緒）
12 月	(大) 講座問題などから学生大会が開催され、6 日～11 日まで臨時休業となる
12.10	(大) 講師植原悦二郎・予科長笹川臨風を免職とする（以後、復職要求運動が起る）
■大正 10 年（1921）	
2 月	(大) 予科校舎竣工
4.18	(大) 専門部法科夜間部開講
10.8	全国学生雄弁大会
12.11	都下大学及び専門学校連合大雄弁大会
■大正 11 年（1922）	
1.19	都下大学及び専門学校連合大雄弁大会
4.1	雄弁会から雄弁部へ改称
10 月	(大) 明治大学新聞学会を設立する
10.14	全日本学生雄弁大会
11.19	全国各大学専門学校雄弁大会（30 大学出場）
■大正 12 年（1923）	
9.1	(大) 関東大震災により講堂・大学・予科校舎など 24 棟を焼失
9.15	(大) 有志が震災復興のために明大学生救護団を結成し、復興の歌を自作唱和して大学の焼跡の整理にあたる
10 月	(大) 予科、学部、専門部は淡路町東京商工学校校舎を借り授業で再開
10.12	明治大学復興審議会を設置する
11.2	
■大正 13 年（1924）	
11.2	全国大学専門学校雄弁大会（参加校 42 校）
■大正 14 年（1925）	
11 月	(大) 横田秀雄、学長に就任
7.28	(大) 政治経済学部設置が認可される（9 月開講）
8 月	(大) 予科、学部、専門部に毎週 2 時間の軍事教育授業が配置される
11.8	全国学生雄弁大会
この年	(大) 明治大学、女性の聴講を認める
■大正 15 年	
・ ■昭和元年（1926）	
この年	全国遊説を組織的に始める（中京、近畿、四国 4 県）
■昭和 2 年（1927）	
2.26	学生大会において記念館建設のために 30 万円を寄付することを決議する

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■明治 44 年（1911） 4.30 10 月 10.25 12.2	雄弁会静岡大会を開催（静岡市物産陳列場楼上） （大）建設中の校舎・記念館を落成し、創立 30 周年記念式典を挙行する （大）『明治学報』発行（『学叢』改題） 両毛地方巡回雄弁会（～3 日）、室伏高信、笹川臨風、小林丑三郎ら、高崎、前橋、小山、宇都宮で雄弁会を開催する
■明治 45 年・ ■大正元年（1912） 1.28 3.17 4.4 7 月	都下大学並び専門学校連合大演説会（中央大学） 都下私立大学・専門学校連合演説会を開催、出場：笹口忍「祖先崇拜と時代思想」 （大）岸本辰雄校長が死去し、木下友三郎が後任に （大）政学部を政治経済科と改称する
■大正 2 年（1913） 2.11 11.29	（大）『国家及国家学』発刊 都下大学及び専門学校生徒連合大演説会
■大正 3 年（1914） 12.6	都下各大学専門学校学生連合演説会を開催
■大正 4 年（1915） 2.10 10.9 11.6	（大）明治大学「木堂会」発会式（記念館講堂）、東京で初めての結成、以降、大会、例会を開催 明治大学公開大演説会（大講堂） 明治大学連合演説会
■大正 5 年（1916） 11.3 11.9	明治大学演説会 都下各大学専門学校雄弁連盟創設発起人会
■大正 6 年（1917） 11.5 11.18 11.29	日本大学学生大会、出場：浦田亀雄「政治家と国民の政治思想」 都下学生演説大会（第一高等学校）、出場：岩崎英祐「破壊より統一へ」（岩崎はこの後、高野山大学東西学生大会で「追放者の夕の回顧」、同志社大学東西学生演説大会で「生物進歩の段級と大人格の光輝」、京都木堂会、愛知医学専門学校でも演説を行う） 雄弁会秋季大会
■大正 8 年（1919） 11.23	都下雄弁連盟発会式
■大正 9 年（1920） 4 月	（大）大学令により明治大学への昇格が認可される（法学部・商学部の二学部および大学院・予科・専門部を設置、政治経済科は法学部と

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
この年	英吉利法律学校（のち中央大学）練弁会創設
■明治 36 年（1903） 8.25	（大）「専門学校令」により「私立明治大学」へ改称
この頃	雄弁会（第 2 次）結成される
9.17	（大）予科の授業開始
10.18	第 1 回明治大学雄弁会開催
11.15	第 2 回明治大学雄弁会開催
■明治 37 年（1904） 3.20	第 5 回雄弁会（第 1 講堂）、出場：原秀吉「咄人道の賊を斬れ」、生津松次郎「戦後の経営」など
4.5	（大）法学部、政学部、文学部、商学部の 4 学部設置
9.8	（大）『明治法学』を『明治学報』と改題
■明治 39 年（1906） 2 月	（大）「明治大学学友会」設立（学芸・陸上運動・水上運動・庶務の各部を設置）
■明治 40 年（1907） 秋 10.28	（大）学芸部大会開催（青年会館） 雄弁会創立協議会開催（第 2 講堂）
■明治 41 年（1908） 11.5 11.7 11.8 11.22	雄弁会会則を発起人 34 名が発表（第 1 講堂） 各科から選挙で幹事を選出する 幹事会を開催し、会長や委員を決定する 勃興雄弁会第 1 回例会開催（第 1 講堂）（第 3 次雄弁会結成）
■明治 42 年（1909） 1.1 2.11 4.18	（大）『明治学報』を『明治評論』と改題 初の擬国会開催（すでに過去に行われたことがあるとして、第 2 期と称した） 中央大学の練弁会は「辞達学会」と改称
■明治 43 年（1910） 1 月 2.5 10 月 11.23 12.11 12.12	（大）明治大学学友会雑誌『学叢』創刊（『明治評論』改題） 雄弁会を埼玉校友会支部・青年会の支援の下で開催（浦和町玉蔵院） （大）中国留学生雄弁会設立 雄弁会勃興 3 周年記念競演会（第 11 講堂） 初の各大学連合演説会・中大講堂で開かれる、参加 7 大学 雄弁会が中心となって明治大学政治学会（会長：長谷場純孝）発会式開催（錦町分校第一講堂）、大岡育造、関一、上杉慎吉らの講演

▶年表▶

年 月 日	雄弁部関係（大学史・全関他）出来事
■明治 14 年（1881） 1 月	（大）明治法律学校開校（麹町区有楽町 3 丁目 1 番地、数寄屋内旧島原藩邸内）
■明治 16 年（1883）	（大）五大法律学校法律討論会参加
■明治 18 年（1885） 2 月	（大）『明法雑誌』を創刊
■明治 19 年（1886） 1 月 12 月	（大）法律学部と行政学部を設置 （大）新校舎落成し移転開校式を挙行する（神田区駿河台南甲賀町 11 番地）
■明治 21 年（1888） 3.11 8 月	（大）帝国大学監督五大法律学校討論会参加 （大）法律学部・政治学部認可（行政学部廃止）
■明治 22 年（1889） 2.11	（大）講師・校友・生徒約 2 千人が日比谷練兵所内外務省門前で憲法発布の祝賀を行う
■明治 23 年（1890） 10.17 11.26 11.30 12 月	五大法律学校・帝国大学ら、擬国会開催（一ツ橋外大学講義室） 明治法律学校雄弁会学術演説会の広告が『読売新聞』に掲載される（第 1 次雄弁会） 帝国議会開会を祝して雄弁会学術大演説会を浅草鷗遊館で開催 （大）『明法雑誌』を『法政誌叢』と改題
■明治 25 年（1892） 3.21	（大）『法政誌叢』を『明法雑誌』と改題
■明治 29 年（1896） 11.8	都下法律学校連合大討論会開催
■明治 31 年（1898） 9.15	（大）『法政誌叢』を『明治法学』と改題
■明治 33 年（1900） 8 月	（大）駿河台校舎の講堂を新築落成する
■明治 34 年（1901） 7 月 12.30	（大）創立満 20 年記念式を挙行する 大亦楠太郎、足尾鉾毒問題で学生の路傍演説会実施を提起し、翌年より開始

戦後雄弁部関係主要役職者一覧

活動年度		代表者名	和泉支部長名	生田支部長	全関担当者	部長名	OB 会長	備 考
S19～20・ 1944～5	幹	大金武彦				小島憲 (17年～)		
S21・1946	〃	永野徳光			大金武彦(委)	赤倉武		H22.12.10 予科雄弁部設立
S22・1947	〃	戸田久雄	(予科)内藤功			〃		
S23・1948	〃	戸田久雄	(予科)内藤功			〃		
S24・1949	〃	戸田久雄				〃		
S25・1950	〃	山室国雄				〃		
S26・1951	〃	金谷栄一				〃		
S27・1952	〃	渡部哲寛				〃		雄弁部顧問に小島憲教授
S28・1953		奥園克己				〃		
S29・1955	〃	菊地寛	小林悌次郎	内広健	山口みつ子	〃		
S30・1955	〃	手塚崇	山下英幸	渡辺正		〃		この頃、幹事長の交代がしばしばあったが、 記録が存在せず詳細は不明
S31・1956	〃	池田辰美	野村英治			〃		
S32・1957	〃	石山政治	岡田 ^(奥田) 憲三			〃		
S33・1958	〃	野村英治				〃		学長に小島憲顧問就任
S34・1959	〃	岡田 ^(奥田) 憲三		小林一光	日高一郎(委)	〃		
S35・1960	〃	木下憲一郎	永田一磨	—		〃		
S36・1961	〃	永田一磨	岩本建二	—	軽込孝一	〃		
S37・1962	〃	杉田一典	土井由三	—	吉原孝夫	高橋義臣	一松定吉	36～37年の関係不明
S38・1963	〃	土井由三	松岡貫治	—	丹羽純一(委)	〃		駿台雄弁創刊号発行(名簿有り)
S39・1964	〃	松岡貫治	坪川礼己	—	小瀬川明寛	〃	真鍋儀十	
S40・1965	〃	松原輝夫	山上雅隆	—		岡野加穂留		
S41・1966	〃	山上雅隆	松並正幸	—		〃		
S42・1967	〃	分家静男		—		〃		
S43・1968	〃	松本和彦		—		〃		
S44・1969	〃	市川秀治	古金三良	—		〃		
S45・1970	〃	古金三良	阿部頼孝	—	神津悦生	〃		
S46・1971	〃	阿部頼孝	水野清	—		〃		
S47・1972	〃	千熊正憲	高橋孝栄	—	水野清	〃		戦後OBの集い開催 (S47.7.4)
S48・1973	委	高橋孝栄	望月金雄	—		〃		「幹事会」制ではなく「委員会」制を採用
S49・1974	幹	望月金雄	斉藤郁夫	—	内村浅雄	〃		岡野部長は在外研究(代行 新田貞章)
S50・1975	〃	斉藤郁夫	高力護	—	内村浅雄(委)	〃		三木武夫OBが総理大臣就任 (S49.1.2)
S51・1976	〃	高力護		—		〃		OB会開催(市ヶ谷私学会館 S51.6.25)
S52・1977	〃	星野輝夫	—	—	—	〃		全幹事会メンバーが1年生
S53・1978	〃	水野寛之	佐藤浩之	—	—	〃		この前後はOB会低調、 世話人 木下健・渡辺他
S54・1979	〃	渡辺博司	宇尾野隆	—	小貫敏彦	〃		
S55・1980	〃	熊谷文博	—	—	豊高末久	〃		和泉支部長を置かず、合同幹事会 小島憲顧問が明治大学総長就任
S56・1981	〃	宇尾野隆		—		〃		
S57・1982	〃	田中良	星祐一	—	板垣昌之	〃		
S58・1983	代	板垣昌之		中村浩二	井坂和志(委) 赤池誠章	〃 〃		部則改正により幹事長は「代表」へ
S59・1984	〃	星祐一	進藤幸治	野中章久	赤池誠章(委)	〃		議長：池田浩、駿台本部長：徳増信哉
S60・1985	〃	梅津慎吾	武田浩一	堀内博文	川内尋嗣(委)	〃		
S61・1986	〃	望月慎介		清田圭一		〃		議長：武田浩一、駿台本部長：金田竜生
S62・1987	〃	清田圭一	永橋克介	野副基信	萩田真己	〃		
S63・1988	〃	吉田慎一	小田中崇仁	増田実喜夫	鈴木洋明	〃		
H1・1989	〃	金子尚之				〃		
	〃	石崎学	篠田秀一		大関衛(委)	〃		

戦後雄弁部関係主要役職者一覧

活動年度		代表者名	和泉支部長名	生田支部長	全関担当者	部長名	OB 会長	備 考
H 2・1990	"	篠田秀一	富田生	松村浩司		"		議長：石井巧、駿台本部長：石井巧
H 3・1991	"	寺崎雄介	須藤公博	山下修	森山浩行	"		議長：高田滋彦、駿台本部長：富田浩生 学長に岡野加穂留OB、学務理事に鈴木俊光 OBが就任
H 4・1992								
H 5・1993	"	松橋一朗	大岸親佳	猿田文章	森山浩行(委) 本澤好貞 中村和彦 大岸史佳	"	金谷栄一	議長：植木淳、駿台本部長：小長谷雅成
H 6・1994	"	大淵健	大西英之	中村健一	本澤好貞	"		議長：尾田一朗、駿台本部長：西尾直也
H 7・1995	"	大西英之	川内宣良		安部幹洋	"		記念館解体
H 8・1996	議	川内宣良	内山佳洋		川神光生	"		
H 9・1997	代	内山佳洋	藤本幹人		川神光生(委) 南角光彦 古本武司 桑原潔	"		議長：本間弘
H10・1998	"	藤本幹人 南上清一郎	田中耕太郎	天坂大介	南角光彦(委) 南上清一郎 荒井正志	"		議長：桑原潔
H11・1999	"	田中耕太郎	釘島良蔵		南上清一郎(委) 荒井正志 釘島良蔵	"	山下英幸	議長：伊藤慎一郎
H12・2000	"	本庄智忠	木村雄大		太田原崇宏 山田真一郎	新田貞章	"	議長：小野田喬
H13・2001	"	小林剛士	上村英彰		太田原崇宏 飯塚智規 松沼亮	"	"	議長：菱沼靖弘 全関解散
H14・2002	"	上村英彰	羽田野祥一			"	"	議長：武田正人
H15・2003	"	川村裕美				"	日高憲三	議長：堀之内毅 6 カ月間の活動停止処分 (H15.1 ～)
H16・2004	"	清水健				小西徳應	"	アカデミーコモン竣工
H17・2005	"	村松美穂				"	"	
H18・2006	"	田高直也				"	"	議長：田幸瑛輔
H19・2007	"	田高直也	佐藤尚孝			"	"	議長：佐藤尚孝
H20・2008	"	渡邊拓弥	小野順也			"	"	議長：三橋和史、駿台本部長：佐藤尚孝 常勤理事に日高憲三OBが就任
H21・2009	"	田仲信康	杉本篤彦			"	"	議長：杉山慧志
H22・2010	"	杉本篤彦 福田直人	福田直人	林田豪太		"	"	議長：齋藤康裕、駿台本部長：内田賢吾
H23・2011	"	倉林正弥	鷺山昂輝	岡宮久規		"	山上雅隆	議長：中村真理江
H24・2012	"	金子知温	齋藤海	和田祐樹		"	"	議長：紙屋宏志 理事長に日高憲三OB、監事に有賀隆治OBが 就任
H25・2013	"	高岡瞭 桐生常朗	桐生常朗 嶋田奎介	吉野貴司		"	"	
H26・2014	"	金親賢生	小野竜大	吉野貴司		"	"	
H27・2015	"	戸田幸一郎	勝田悠暉	小泉学		"	"	
H28・2016	"	桐山勝気	桐山勝気 新谷亮介	小泉学		"	"	
H29・2017	"	西澤佑希	松本啓	前田松祐		"	熊澤雄造	
H30・2018	"	原田拓実	宇佐美響	前田松祐		"	"	
R 1・2019	"	鈴木豪太	天野僚 倉持太介	伊藤直起		"	"	
R 2・2020	"	倉持太介				"	"	コロナ禍により、代表が和泉支部長・生田支 部長を代行

注 1) S：昭和、H：平成、R：令和

注 2) 幹：幹事長、委：委員長、代：代表、議：議長

注 3) 全関担当者 (委)：全関委員長

明治大学雄弁部創立 130 周年記念事業実行委員会

実行委員長 有賀 隆治 (S40)

総務・企画・式典委員会

委員長

小西 徳應 (S55)

委員

萩田 真己 (H01) 五十嵐利恵 (H04) 古本 武司 (H12) 佐野 友章 (H19)

佐藤 尚孝 (H22) 福田 直人 (H25) 倉林 正弥 (H26) 櫻井 大智 (H28)

財務委員会

委員長

富水流孝二 (S49)

委員

宮内 淳平 (S50) 小池 徹 (S61) 萩田 真己 (H01) 宮本 朋和 (H11)

佐野 友章 (H19)

記念誌委員会

委員長

南上清一郎 (H13)

委員

佐藤 尚孝 (H22) 小野 順也 (H23) 福田 直人 (H25) 倉林 正弥 (H26)

明治大学雄弁部創立一三〇周年記念事業寄付金のお礼とご報告

財務委員会 委員長 富水流 孝二

明治大学雄弁部が、令和二年一月二〇日に創立一三〇周年を迎えることとなり、これを記念すべく標記記念事業等を行うに際し、皆様にご寄付をお願い致しました。寄付金状況等におきましては、これまでの明治大学雄弁部OB会報で随時ご報告してまいりました通りでございます。令和二年一〇月末現在で集計させて頂きましたところ、一〇七名、金四五六万五千円になりましたことをご報告し、改めてここに厚く御礼申し上げます。

寄付金は、事業の中心となります記念式典の開催を始め、講演会、記念誌作成、OB会名簿作成、記念品等の財源となりますが、お蔭様で事業計画全てを賄うには、十分であることをご報告申し上げます。

最後に、ご寄付頂きましたOB・OGの皆様のお名前を掲載させて頂き（卒業年次順、振込順）改めてお礼、感謝を申し上げます。最後の次第でございます。

昭和二六年法 卒	鈴木 俊光	農 卒	小林 一光	三九年政経卒	熊澤 雄造
法 卒	高野 敬一	政経卒	森高 良樹	政経卒	森 隆二
二八年政経卒	斎藤 直	政経卒	渡辺 嘉道	農 卒	新田 貞章
三一年法 卒	片倉 常夫	三六年商 卒	八木 精治	経営卒	杉田 一典
三二年政経卒	関口 雅央	三七年政経卒	伊藤 幹男	法 卒	菊池 満雄
政経卒	永田 洋	政経卒	山口 柁義	四〇年経営卒	有賀 隆治
政経卒	藤原 實	政経卒	五十嵐丈正	法 卒	上岡 一雄
商 卒	高橋孝一内	法 卒	中嶋 幸夫	商 卒	丹羽 純一
	ご家族様	法 卒	鈴木 勲	経営卒	水野 源吾
三三年法 卒	山下 英幸	三八年法 卒	永島 富雄	法 卒	室田 文男
三五年政経卒	日高 憲三	法 卒	伊藤 紀昭	法 卒	伊藤 幸雄
法 卒	前川 一郎	商 卒	杉木健太郎	法 卒	宮本 勝利

法卒	土井 由三	政経卒	小原 卓治	平成一年商卒	萩田 真己
四一年法卒	後藤 源	政経卒	前田 敏夫	経営卒	山本閉留巳
法卒	田中 晴男	政経卒	西澤 豊	政経卒	佐藤 耕志
法卒	鎌倉 三郎	五〇年文卒	宮内 淳平	二年文卒	永橋 克介
法卒	三枝 秀之	五五年政経卒	小西 徳應	農卒	中山 潔
法卒	福島 啓氏	五七年法卒	森 義久	政経卒	長屋 明
四二年商卒	蛭崎 正徳	商卒	宇尾野 隆	三年政経卒	塩谷 健二
商卒	松原 輝夫	五八年商卒	岩崎 芳和	政経卒	安田 庄一
政経卒	小川 忠彦	政経卒	保田 良平	四年政経卒	古川 直季
法卒	米田 東逸	五九年政経卒	田中 良	法卒	五十嵐利恵
経営卒	橋本 徹雄	六〇年政経卒	徳増 信哉	七法卒	森山 浩行
商卒	大橋 敏男	政経卒	佐々木 毅	政経卒	武藤 立樹
四三年商卒	嶋本 勝治	法卒	小暮 太郎	八年農卒	大渕 健
法卒	石川 和永	工卒	中村 浩二	一一年政経卒	宮本 朋和
四四年経営卒	松並 正幸	六一年法卒	國松 誠	政経卒	島津 秀隆
政経卒	空閑 康弘	法卒	荒深久明臣	政経卒	内山 佳洋
政経卒	分家 静男	法卒	小池 徹	一二年政経卒	古本 武司
四五年法卒	柴田 俊子	政経卒	小林 和正	政経卒	半田 宏史
四七年経営卒	榊原 完治	政経卒	伊東 猛彦	一三年文卒	伊藤慎一郎
法卒	岩崎 博	法卒	板垣 昌之	一五年政経卒	太田原崇宏
四八年政経卒	五十嵐敏之	六二年政経卒	小澤 浩明	一九年法卒	佐野 友章
政経卒	阿部 頼孝	六三年農卒	渡辺 久利	二六年法卒	石塚 啓
四九年法卒	富水流孝二	商卒	加藤 貴敏	法卒	倉林 正弥
法卒	千熊 正憲	文卒	山川かおる	二八年政経卒	桐生 常朗

明治大学校歌

児玉 花外 作詩
山田 耕筰 作曲

Tempo di marcia ben marcato (♩ = 112)

しー らくもなびくーすーるーがだ い まー
ゆひいでたるーわーこーうど がつくやじだ
いのあーけーのーかね ぶんかのうし
おーみーちーびきて とげしいしんのはー
えーになうーめいじ そのなぞわれうーがぼこ
うーめいじ そのなぞわれうーがぼこ

一、白雲なびく駿河台 眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘 文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ 明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二、權利自由の揺籃の 歴史は古く今もなほ

強き光りに輝けり 独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く 我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三、霊峰不二を仰ぎつゝ 刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり いでや東亜の一角に

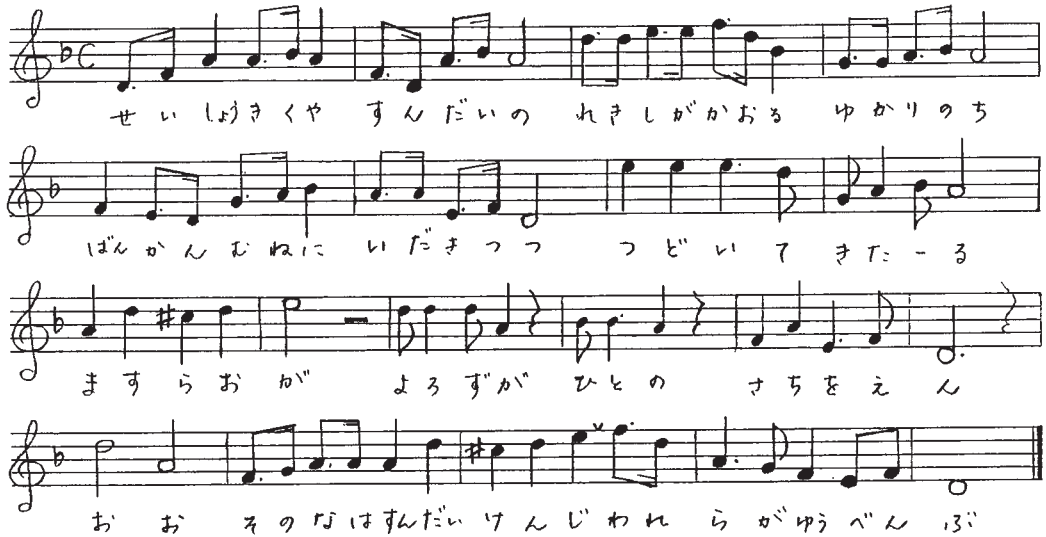
時代の夢を破るべく 正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

明治大学雄弁部部歌

伊藤 龍太 作詞

伊藤栄依子 作曲



一、

聖鐘聴くや駿台の地
 歴史が薫る縁の地
 万感胸臆に抱きつつ
 万が人の倅を得ん益荒男が
 吾等が雄弁部の名は駿台健児

二、

不二の峻嶺まで青雲を
 心の幅は海に似て
 一度起てば鮮血が
 飛剣となつて闘わん
 真理に生きる恵の人
 吾等が雄弁部の名は駿台健児

三、

日輪仰ぎ希望在り
 実に博愛は月魄に在り
 吾等は日頃慈しみ
 進取の気質培養わん
 自由の庇護者吾此処に
 おゝその名は駿台健児

編集後記

明治大学雄弁部創立一三〇周年記念誌委員会委員長

南 上 清一郎

明治大学雄辯部が一三〇周年を迎えるにあたり、有賀隆治記念事業実行委員長から記念誌の編集を仰せつかりました。

栄えある歴史を纏めた一二〇周年記念史から十年。本誌は、一四〇周年、そして、次の節目となる一五〇周年への布石となります。

編集にあたり目標に掲げたことが大きく二点あります。

一点目は、一二〇周年記念史編纂のとき、未来の仲間だったOB・OGに切れ目なく原稿を書いてもらうことです。二点目は、年表の閲覧性を高めることにより現役時代を想起していただきやすくするとともに記録として活用してもらうことです。

とりわけ重視したのは一点目です。雄辯部の活動は社会を反映しているため、時代により様相を異にすることが少なくありません。弁論しかり、遊説しかり、演題や手法も変わってきます。これは、部の運営についても言えます。私のころは全会一致が原則でしたが、現在では多数決を採用しているとのことです。それらの現実を前にして、彼ら彼女らが、どう向き合ってきたのか、あ

るいは振り返って何を思うかを雄辯部の歴史に刻むことは極めて重要だと考えたからです。

二点目の年表については、まず、雄辯部の歴史と全関東学生雄弁連盟（全関）の歴史を統一して、一二〇周年記念史のときにご要望の多かった閲覧性を高めました。また、雄辯部と全関の歴史の統一は、現役時代の諸活動を同じ時系列で確認していただける副次的な効果も期待しています。記念館講堂で産声をあげた全関は、ひと度、平成一三年に役目を終えました。しかし今なお、全日本学生弁論大会として息吹は受け継がれているようです。弁論大会だけにとどまらず、記録を活用してもらえればと思います。

本誌の完成を見るに際して、佐藤、小野、福田、倉林の各委員の尽力に謝意を表しますとともに、明治大学関連の資料提供に關して積極的に協力してくださった広報課の戸谷佳那子様、また、最後まで原稿が出揃わないなか快く対応してくださった宮崎印刷所の齋藤敦様に記して御礼申し上げます。

明治大学雄辯部一三〇周年、誠におめでたく、うれしく存じます。

明治大学雄弁部創立一三〇周年記念誌

発行日

二〇二〇年一月二〇日

発行

明治大学雄弁部OB会

会長 熊澤 雄造

編集

明治大学雄弁部

創立一三〇周年記念誌委員会

印刷

株式会社 宮崎印刷所